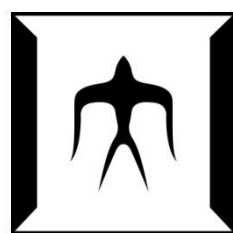


学生の『声』を
『形』へ



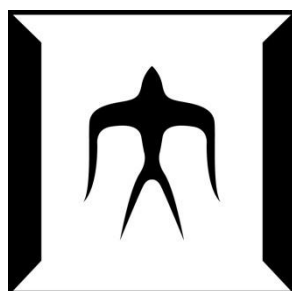
学勢調査 2008 提言書

2009年3月
学勢調査スタッフ一同

学勢調査 2008 提言書

2009年3月

東京工業大学
学勢調査 2008 スタッフ一同



ごあいさつ

昨年の10月末、準備期間も含めると約半年前から始まったこの学勢調査も、このような提言書という形にまとめることができ、大変嬉しく思っております。それも調査に回答頂いた学生の方々、キャンパス・ミーティング等の調査にご協力頂いた教職員の方々、そして誰よりこの提言書作成に直接関わった学生スタッフのおかげであり、大変有り難く感じております。

今回の調査では東工大生全体の約2割である、1947名もの回答を得ることが出来ました。その学生からの『声』のひとつひとつを元に、同じ東工大生である学生スタッフが分析を行い、大学の現状を調査し、何度も改善案を議論しました。調査作業は長期休みや試験期間も間わず続けられ、話し合いはときに4時間を超えることもありました。そこからも学生スタッフの熱意を感じ取って頂けるかと思えます。

学生からの声を提言書へとまとめていく過程で、最も重要なのは学生と大学との『コミュニケーション』であるという結論に至りました。「東工大から学生へと情報伝達」と「学生の意見を東工大に伝えるルート」という、学生・大学間の双方向のコミュニケーションが十分に機能していないことが、全学的に共通の問題であり、学生・大学間の様々なギャップを生んでいると見受けられます。学生の意見が大学側に伝わり、大学の意図・見解が学生側に伝われば、それに沿って大学が進んで行けば、双方にとってより過ごしやすい環境へと大学全体が少しずつ変化していくはずで

学生スタッフが一丸となって作成したこの学生の『声』が、少しでも多く大学へと届き、実現という『形』になってくれればと、強く願っております。

学勢調査2008 学生スタッフ代表
工学部 制御システム工学科 3年
五十嵐 暁仁

目次

1. 学勢調査概要	1
2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言 学生・大学間のコミュニケーション	5
3. 規模が大きい・重要性が高い提言	
3.1 弁当・食堂関係	22
3.2 新図書館関係	30
4. 項目別提言	
4.1 学習関係	39
4.2 附属図書館関係	53
4.3 大学施設関係	69
4.4 大学サービス関係	82
4.5 生協関係	89
4.6 学生のモラル・マナー関係	93
5. 調査資料集	
5.0 基本情報	100
5.1 生活基盤について	106
5.2 学習状況について	115
5.3 キャンパスライフについて	125
5.4 2008年度学勢調査設問一覧	136
6. 次回調査に向けて	146

1. 学勢調査概要

調査目的及び沿革

学勢調査は、本学における教育改善や施設建設・整備、学内サービス向上といった大学の事業に学生の意見を取り入れ、本学をより魅力ある大学とすることを目的とした全学的アンケート調査です。学勢調査は過去3回行われ、いずれも学生の意見を大学側に伝える大きな架け橋となっています。

今回行われた学勢調査(以下「本学勢調査」と記します)は、2005年に行われた学勢調査と比べ、大幅に回答学生数を伸ばしました。2005年の学勢調査では学部503名、修士442名、博士136名、計1081名であったのに対し、本学勢調査は学部1032名、修士697名、博士218名、計1947名となっています。

また、一般的な学生生活調査は、学生の生活・意見の調査・報告後、以後の大学事業の改善へのつながりが希薄なきらいがありますが、本学の学勢調査は調査データをもとに問題点の原因分析から最終的な改善策提案まで学生を中心としたスタッフの手により行われます。過去の調査結果を受けて、講義室改修、電子掲示板設置、リフレッシュ・ルーム拡充、コンビニエンス・ストア出店、そして教職員の意識改革と少しずつですが学生の要望が実現しつつあるという実績も存在します。

学勢調査における、学生・大学・スタッフの役割関係を図1-1に示します。

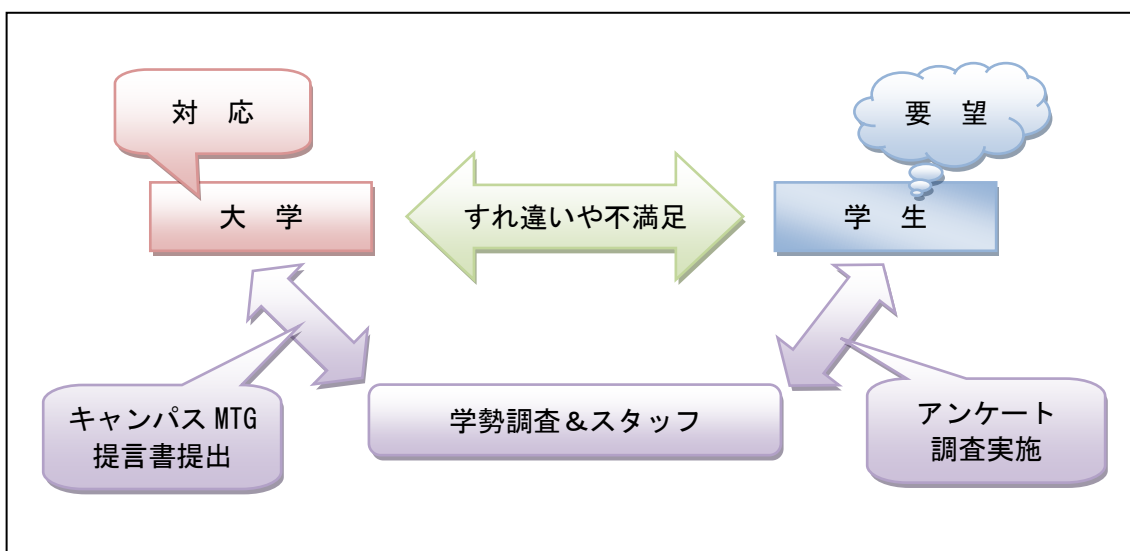


図 1-1 学勢調査関係図

調査実施母体

教育推進室教育企画会議の学勢調査 WG (主査: 山室恭子教授) が学務部学生支援課の協力を得て実施しました。

調査時期

本学勢調査は2008年10月27日～同年11月21日(以下「調査時」と記します)に行われました。

1. 学勢調査概要

調査対象

本学勢調査は本学に在籍している学部・修士・博士学生を対象としました。

調査事項

「5. 調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照下さい。また、今回の調査では本学学生のみ生の声を取り入れるために、自由記述欄を多く設定しております。

調査方法

本学勢調査はオンライン上に設置した専用調査ページを通じて実施しました。その際、回答者が本学学生であることの確認として、学外からのアクセスに対しては本学学生でない場合は知り得ないと考えられる質問を行い、正解者のみ調査への回答を可能としました。

分析方法

アンケートによる調査データは項目ごとに分類され、調査と同時に募集されたスタッフにより問題発見・原因分析・改善策議論を行いました。学勢調査スタッフの各班とその担当範囲は以下の通りです。

・データ班	……	定量データ分析ツールの開発
・生活班	……	本学学生の生活基盤について
・学習班	……	本学学生の学習状況について
・図書館班	……	本学附属図書館について
・施設班	……	本学の各種施設について
・サービス班	……	本学の各種サービスについて
・生協班	……	本学生協について
・その他班	……	上記班の担当以外の意見、および学勢調査について

また、途中経過をインターネット上の専用サイトにて随時報告し、スタッフ以外の学生からの意見を求めました。

会議の記録

第 1 回	2008 年 11 月 27 日 (木)	スタッフ顔合わせ・班分担
第 2 回	2008 年 12 月 3 日 (水)	スケジュールの決定・意見分類方針・情報取扱基準
第 3 回	2008 年 12 月 17 日 (水)	途中経過公開方針・キャンパス・ミーティング計画
第 4 回	2009 年 1 月 7 日 (水)	提言素案議論方針
第 5 回	2009 年 1 月 14 日 (水)	提言素案議論・提言書構成方針
第 6 回	2009 年 1 月 22 日 (木)	提言素案議論・キャンパス・ミーティング準備方針 ・提言書構成方針
第 7 回	2009 年 1 月 29 日 (木)	提言素案議論・提言書構成・編集方針詳細
第 8 回	2009 年 2 月 19 日 (木)	提言詳細議論
第 9 回	2009 年 3 月 2 日 (月)	提言決定
第 10 回	2009 年 3 月 9 日 (月)	最終編集方針決定



教職員の方の意見の取り入れ

本調査の提言作成において、キャンパス・ミーティングというヒアリング活動を実施しました。キャンパス・ミーティングは学生スタッフにより作成された提言素案、および質問事項を大学各部署に提出し、それを元に教職員の方にヒアリングを行うというものです。このキャンパス・ミーティングは教職員の方の意見を取り入れ、より洗練された、かつ現実的な提言を作成することを目的としています。今回ご協力頂いた部署は以下の通りです。

・教務課	……	本学教務サービスについて
・学生支援課	……	本学厚生施設・サービスについて
・評価・広報課	……	本学広報活動について
・外国語研究教育センター	……	本学外国語教育について
・附属図書館	……	本学附属図書館について
・生活協同組合	……	本学生協購買・食堂について

公表および報告

本報告書は本学学長に 2009 年 3 月 27 日（金）に提出後、調査結果をインターネットの専用サイト、および本報告書において公表されます。

学勢調査作成プロセス

次頁の図 1-2 に、今回の学勢調査の活動のプロセス図を示します。



1. 学勢調査概要

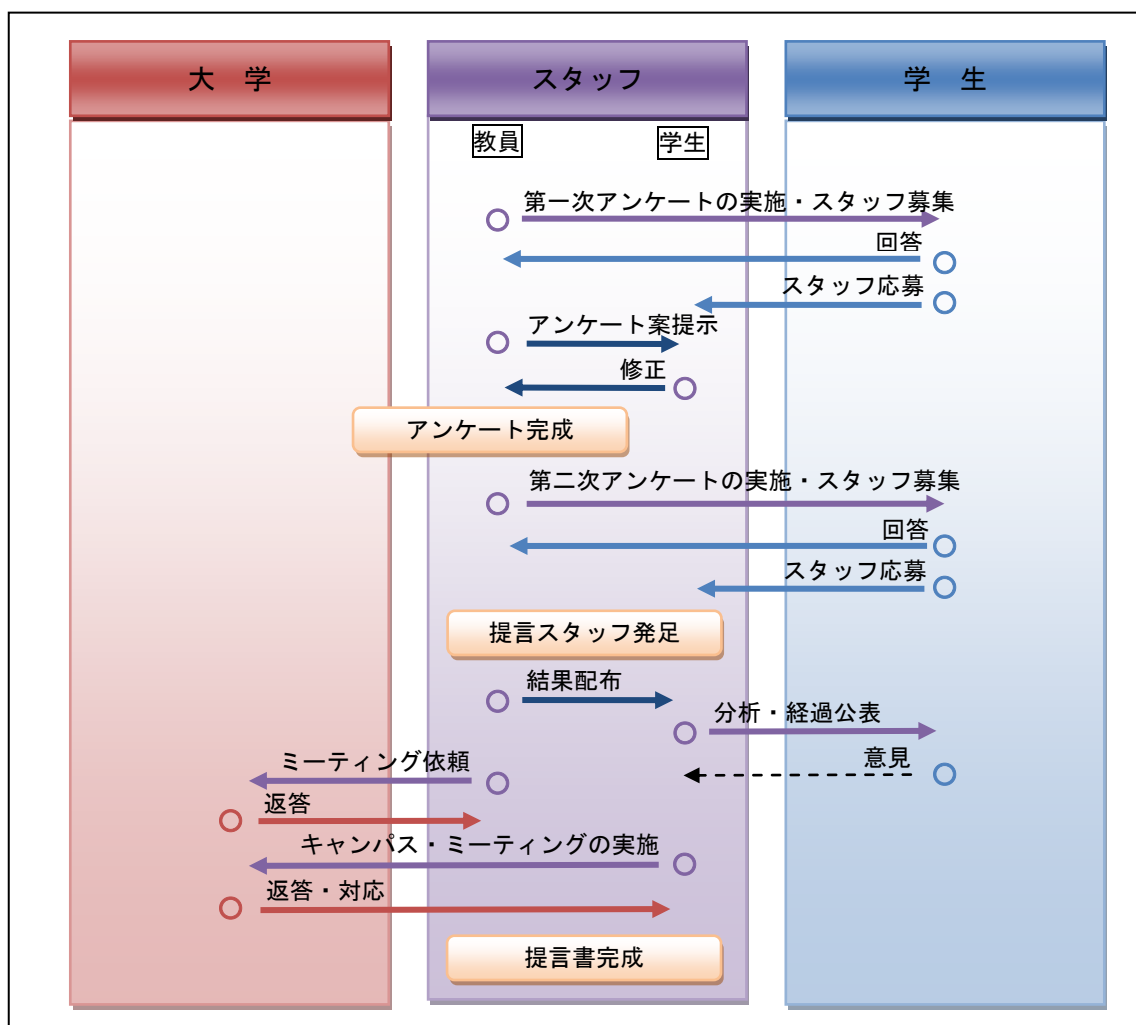


図 1-2 学勢調査提言書作成プロセス



2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言

本章においては、部署などに関係なく本学全学的に共通して見受けられ、かつ重要性が今回の提言書の中で最も高いと考えられる提言について述べていきます。

学生・大学間のコミュニケーション

提言概要

今回の調査において寄せられた意見を全体的に捉えたところ、大学・学生間のコミュニケーション不足により生じている問題が多く見受けられました。このコミュニケーションを活性化させることにより、学生・大学間の認識のギャップや、学生の持つ不満を少なくし、よりよい環境整備が可能になると考えられます。本提言では、具体的に以下の提言を述べていきます。

大学からの情報伝達

- ・メール活用による学生への直接情報伝達
- ・学生視点のWEBサイトの設置

学生からの情報取込み

- ・問い合わせサービスによる混乱の解消
- ・学生サポーターによる大学事業への学生意見の取り入れ
- ・学生による大学へのフィードバックの仕組み

問題点

現在、本学の学生・大学間のコミュニケーション不足が原因と考えられる問題を具体的に述べていきます。

■大学情報の間接的伝達

図 2-1 に「大学からの情報源の学年別充実度」を示します。縦棒全体がその情報源を利用している割合、更にもその情報源の充実度を色分けして示しています。

まず、「学生用掲示板・電子掲示板」「学科・専攻等の掲示板」と「友人」との学部1～3年を見てみると、同程度の割合の方が利用していると分かりますが、充実度を比べてみると「友人」の方が明らかに高いことが分かります。次に、学部4年以降では「学生用掲示板・電子掲示板」の利用度は大幅に減少し、代わりに「教員等からのメール」が増加し、その充実度も高い割合を示しています。また、「大学の関連ホームページ」「学務部の窓口」については、学年に関係なく利用度も充実度も低いことが分かります。このことから、**大学からの情報の直接的な伝達経路は充実度が低く、学生は友人・指導教員を介して間接的に情報を入手していることが分かります。**

間接的な情報伝達には、以下の様な問題が挙げられます。

- ・伝達途中で情報がストップし、学生に情報が伝わらない
- ・伝達に時間がかかり、締切等でトラブルが生じやすくなる
- ・伝達途中で内容が変わり、正確な情報が伝わらない



2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言

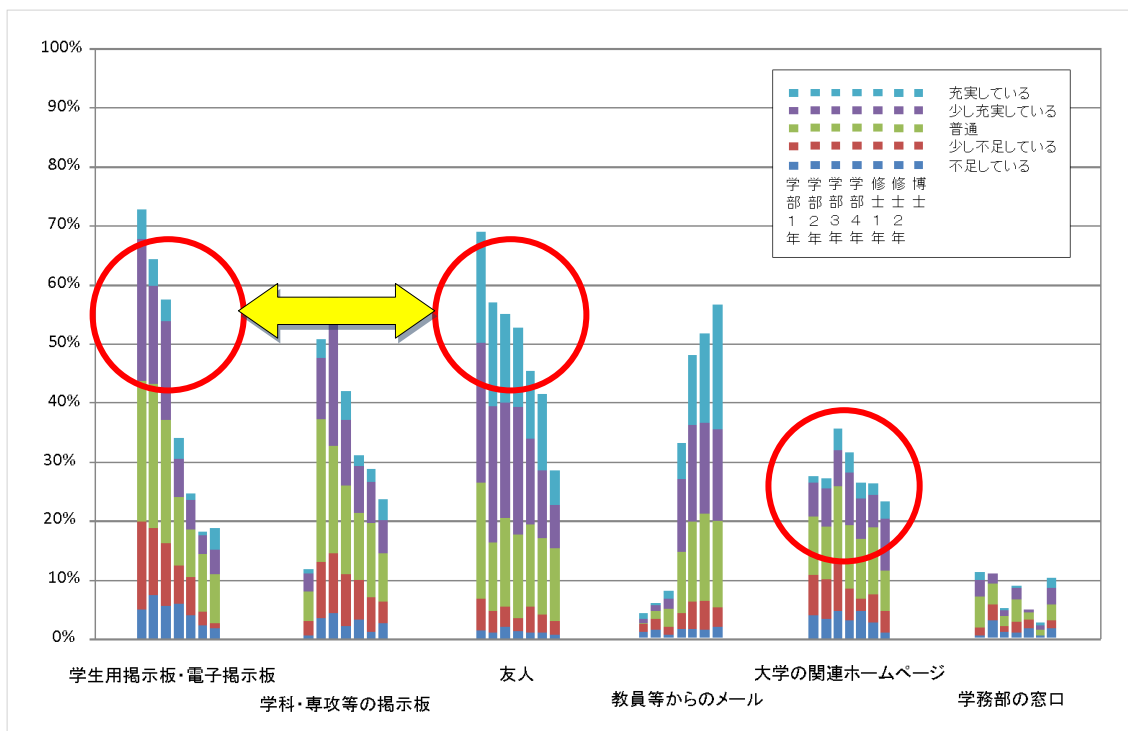


図 2-1 大学からの情報源の充実度

例えば、研究室所属後は指導教員に送られた全学的な告知内容を含むメールが学生に転送され、学生は情報を取得する現状になっています。しかし、中にはメールの転送を怠る教員もいて、情報が伝わってこないという意見が寄せられており、研究室毎に情報の差が生じています。その他、履修申告・奨学金といった手続きの締切や、進学に必要な単位数の誤った認識などの問題は、間接的な情報伝達のために生じていると考えられます。

以上を踏まえて、現在の東工大の情報伝達を表したのが図 2-2 です。

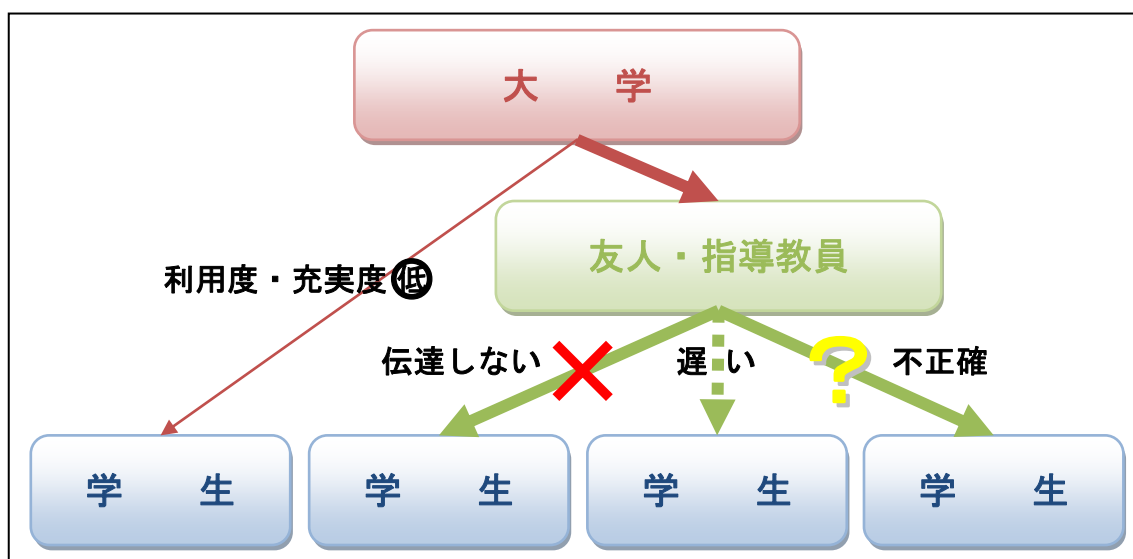


図 2-2 本学の情報伝達経路の現状



■学生と大学サービス間の認識のギャップ

図 2-3 に「OCW の学年別利用頻度」を示します。「OCW を知らない」方が学年によっては3割を超えてあり、これは**既存サービスの認知度が低い**という問題の一例です。

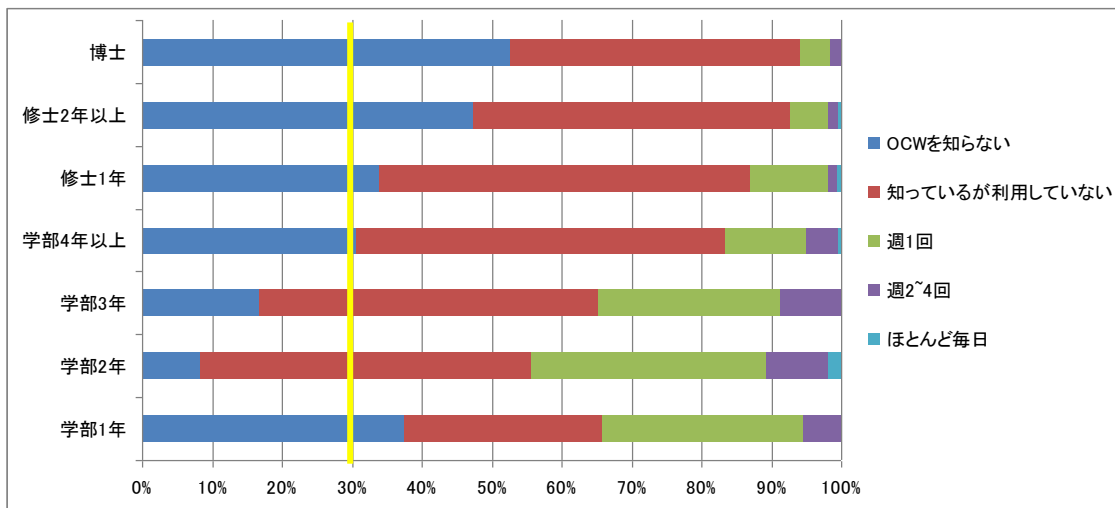


図 2-3 OCW の学年別利用頻度

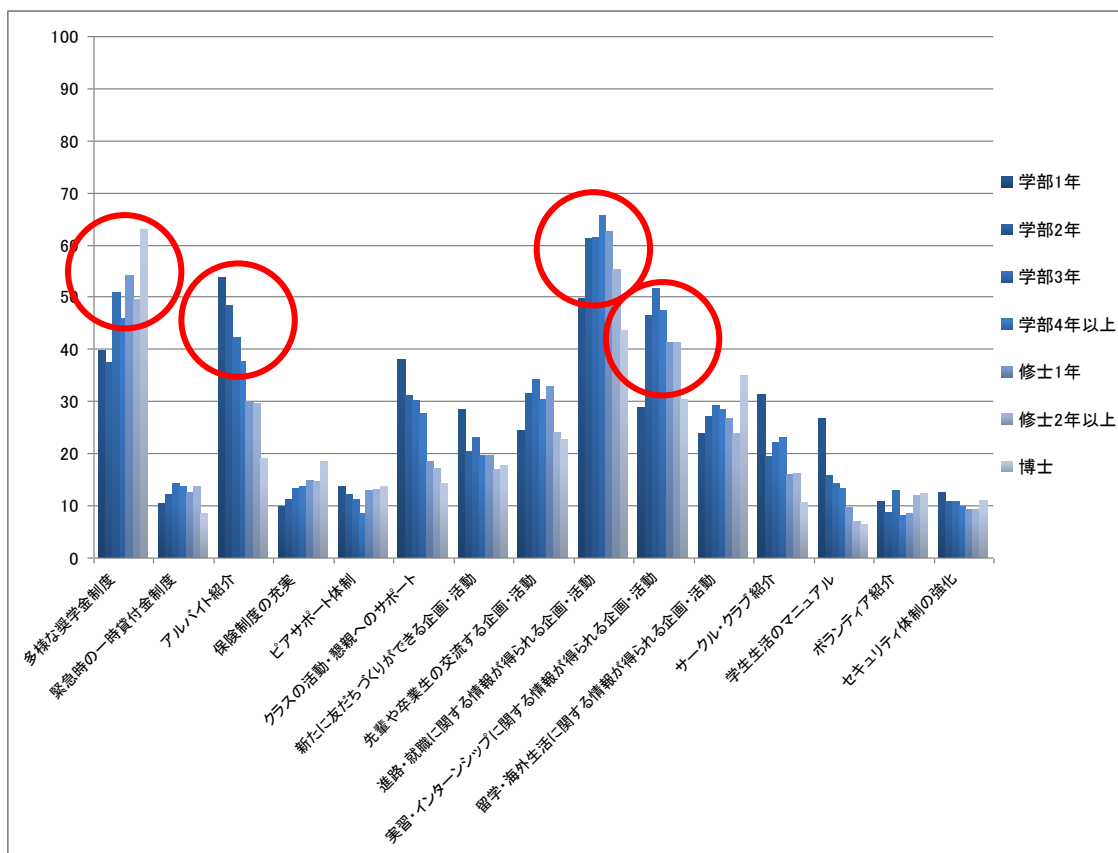


図 2-4 充実してほしいサービスの学年別割合



2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言

図 2-4 に「充実して欲しいサービスの学年別割合」を示します。ここからは「多様な奨学金」や「アルバイト紹介」、「進路・就職に関する情報が得られる企画・活動」「実習・インターンシップに関する情報が得られる企画・活動」などのキャリア相談といったサービスに関する要望が高くなっていますが、これらは学生支援課やその他の部署において既に実施されています。このことから図 2-5 の様に、**既存サービスの内容が学生の求めているものとずれている、または求めるサービスが存在していても学生が認知していない**と考えられます。

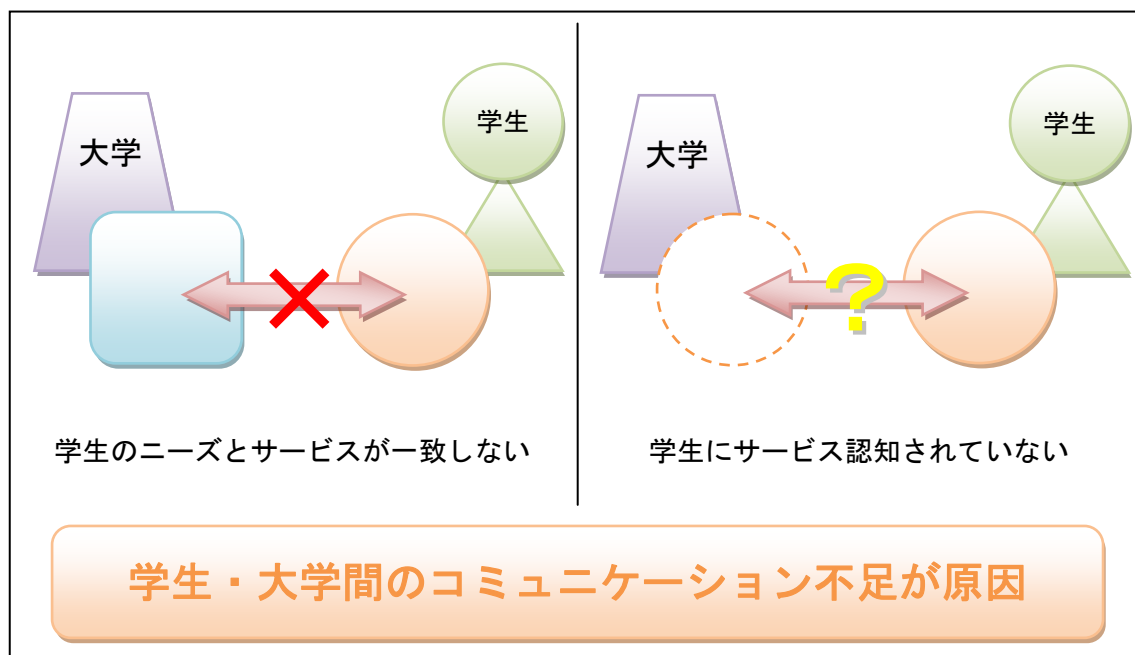


図 2-5 学内サービスとコミュニケーション

■大学関連の WEB サイト

現在東工大の WEB サイトは部門（専攻、課など）ごとに独自に製作・更新している状況であるため、階層構造が統一されておらず、利用者である学生の視点からすると目的の情報に辿り着き難い構成になっています。

例えば、図 2-6, 7 の様に、東工大 WEB サイトのトップページから学生支援課で行っているアルバイト紹介サービスのページへ辿り着くためには、

- [東工大 WEB サイトのトップページ]
- [学生/教職員向け]
- [学生支援センター]
- [アルバイト/家庭教師]
- [東京工業大学アルバイト情報ネットワーク（学生アルバイト情報ネットワーク）]

に行った上でメンバー登録する必要があります。このように、東工大サイト内の階層が深く、目的ページに辿り着くまでに様々なページを経由しなければなりません。また、「学生支援センター」を経由する必要がありますが、学生側は「学生支援センター」がどういった業務を担当する部署なのかをあまり認識していません。そのため、「アルバイト」と「学生支援センター」を繋ぎ合わせられず、目的ページに到達しにくいという問題があります。

その他、図 2-8, 9 に示すように、閲覧者に分かりにくい構成のページも存在します。



The screenshot shows the Tokyo Tech website's 'Student/Faculty' page. At the top, there is the 'TOKYO TECH Pursuing Excellence' logo and the text '国立大学法人 東京工業大学'. Navigation links include 'お問い合わせ', '交通案内', 'サイトマップ', and 'English'. A main menu contains '大学案内', '入試・教育', '研究', '国際交流', 'イベント', '採用・公募', and '組織構成'. Below this is a search bar and a 'HOME >' breadcrumb.

The main content area is titled '学生/教職員向け' and includes a search bar with 'Google - 東工大' and a 'Go' button. A list of links is provided for various user groups: '高校生/受験生の方へ', '一般/社会人の方へ', '企業/研究者の方へ', '卒業生の方へ', and '学生/教職員向け'. Under '学生/教職員向け', there are sub-sections: '学生・教職員共通' (with links for '東工大ポータルページ', 'e-learning ポータルページ', '授業評価', '研究活動に係る不正行為に関するガイドライン', 'ハラスメントのない大学にするために', '情報セキュリティ関係', and '環境報告書'), '学生向け' (with '教務関係' and '学生支援関係' sub-sections), and '教職員向け' (with '事務手続き関係' and '研究, 授業, 設備関係' sub-sections).

Callouts are present:

- An orange cloud on the left asks: 「教務課」と「学生支援課」と「学生支援センター」の違いって？
- A red dashed box highlights the '学生支援関係' section, with a red callout asking: 「アルバイト」はあったけど、スグには飛べない…
- Another orange cloud at the bottom left asks: そもそも、「オープンコースウェア」とか、「四大学連合」って何？

図 2-6 東工大 WEB サイト「学生/教職員向け」ページ



2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言

The screenshot shows the Tokyo Tech Student Services Center website. At the top, there is a navigation bar with the university logo and name, and several utility links like 'サイトマップ' and 'お問い合わせ一覧'. Below this is a horizontal menu with categories: 'キャンパスライフ支援部門', '学習支援部門', 'キャリア支援部門', and '健康支援部門'. A banner image with the text 'キャンパスライフに関わるあらゆる支援を行っています' is displayed. The main content area is divided into '新着情報' (Latest News) and 'お知らせ' (Announcements), each with a list of recent posts. At the bottom, there are two columns of navigation links. The left column is for '運営部門' (Administration) and the right column is for 'キャンパスライフ支援部門' (Campus Life Support). In the right column, the link '留學生向け情報' is highlighted with a red dashed box. A speech bubble points to this link, saying 'やっとあったけど、まだ続く...'.

図 2-7 東工大 WEB サイト「学生支援センター」ページ



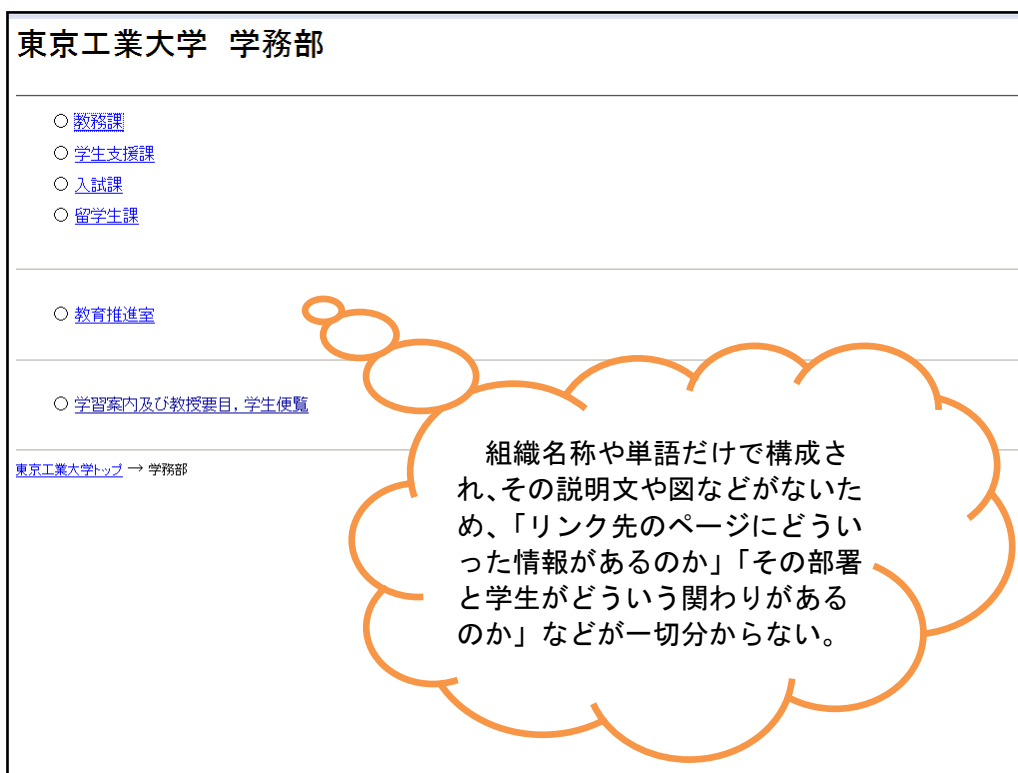


図 2-8 学務部ホームページ



図 2-9 教務課ホームページ



2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言

■周知不十分による影響

しっかりとした理由があるにも関わらず、それが周知されていないために生じている問題があります。例えば、図 2-10 の南一号館横にある大学外への通路は私道であり、大学と地域住民との協定により、学生の通行は禁止されています。しかし、今回の調査における自由記述欄に、「なぜ通行禁止にするのか」という意見が寄せられています。これは通行禁止には協定という理由があることの、大学から学生への告知が不十分であるために生じている問題と考えられ、理由を認知していない分、更に不満が高まっていると考えられます。



図 2-10 南 1 号館横の学外への通路

■告知と学生意見の取り入れの不十分

図 2-11 の Tokyo Tech Front を始めとして、新図書館、図 2-12 の南 4 号館、南 4 号館内に出店するコンビニ、大岡山ー石川台間の通用門、石川台地区の駐輪場、生協に導入された電子掲示板など様々な施設が現在建設中または最近できましたが、これらに関する情報はインターネット上や大学内においてほとんど公開されていません。研究室や講義室の移動といった直接的に関係する場合以外にも、大学内の通行や工事車両の増加など、施設拡充による学生に対する影響は多く見られると考えられます。

またこれらの建設や設置に際して実際利用をする学生の意見を聞き取り組みはなされて



おらず、新図書館に対する自由記述にはデザインに不満を持つ声も寄せられています。図 2-13 の石川台地区に最近新たに設置された駐輪場は各講義棟から距離があるため、学生は従来通り講義棟前に駐輪し、駐輪場の利用度は低く、駐輪問題もあまり改善されていません。これに対しては、設置前に事前に学生に対してヒアリングを行えば防ぐことができた問題と考えられます。

学生が利用する施設の場合、計画前に学生の意見を取り入れる仕組みを作ることで、学生の必要とする設備を整備でき、無駄のない施設拡充が出来ると考えられます。



図 2-11 建設中の Tokyo Tech Front



図 2-12 建設中の南4号館



図 2-13 石川台地区駐輪場



具体的提言

■大学からの情報伝達に関して

大学からの情報伝達に関して以下の2つの提言を行います。これらを実現することで、従来は手に入れにくかった情報を学生は容易に入手することができ、大学側は学生への重要な情報を確実かつ迅速に伝達することを可能とします。

○メール活用により情報を学生に直接伝達する

既存の主な大学からの情報伝達手段は掲示板とWEBサイトですが、掲示板がうまく機能していないことは図2-1から分かります。これらは、大学側が用意した情報を学生から自らの意思で取得しに行くPULL型の情報伝達手段と言えます。掲示板の場合、その設置場所まで足を運ばなければいけないこと、WEBサイトの場合、先述の様に階層構造やページ構成が複雑であるという問題点があります。WEBサイトは今春大幅にリニューアルされ、RSSも設置され改善が見込めますが、それでも講義や奨学金などの学生が個別に必要とする情報の更新は分かりにくいと考えられます。

以上の様な現状を踏まえて、今回は**大学から情報を学生に直接送り出すPUSH型の情報源であるメールの活用を新たな情報伝達手段として提案します。**

現在東工大の全ての学生が、東工大ポータルよりMドメイン(@m.titech.ac.jp)のメールアドレスを取得可能です。**Mドメインのメールアドレス宛に学生に必要な情報を教職員から情報を配信出来るようにするのが、最も有効で確実かつ迅速な情報伝達手段**と考えます。1度の情報量が多くなる場合は、メールに内容の概要のみを記載し、内容を詳細に記載したホームページへのリンクを貼ることで対応可能かと考えられます。

また、学科や専攻、学務部の各部署、講義の担当教員などが、そのグループごとにMドメインのメーリングリストを作成出来るようにします。これにより、教員の都合により急に休講となった際に、従来は当日大学に来て初めて知るといったトラブルがありましたが、それを未然に防ぐことが可能です。本学は首都圏の大学ということもあり、1時間以上かけて通学する学生も多く見受けられます。また、学生支援センターがホームページ上で提供している奨学金や家庭教師の募集といった情報も、希望者参加型のメーリングリストを作成することにより、情報を必要としている学生に、毎回ホームページをチェックすることなく迅速に情報提供が可能となります。以上のように、**メーリングリストを作成することで、情報を必要としている人に迅速かつ確実な情報提供が可能となります。**

これらのメールの活用による情報伝達をまとめたのが、図2-14です。

以上の様なシステムを有効利用する上で、学生がメールをチェックするかという問題が予想されますが、これに対しては2つの対策が考えられます。

まず、重要な情報をメールにより得ることが出来る状態を作り出すことで、学生は必然的にメールをチェックすることになります。

また、学部1年時の情報リテラシ関係の講義においてMドメインのアドレス取得を行っていますが、その際に携帯電話やその他のメールアドレスといった各学生が頻繁にチェックするアドレスへの転送設定のほか、メールソフトでのMドメインのアドレスからのメールの受信方法を必ず講義します。これにより、学生が大学からのメールを頻繁にチェック出来る環境を整備します。教員によっては1年生にメールの転送設定を教えている方もいらっしゃるようです。



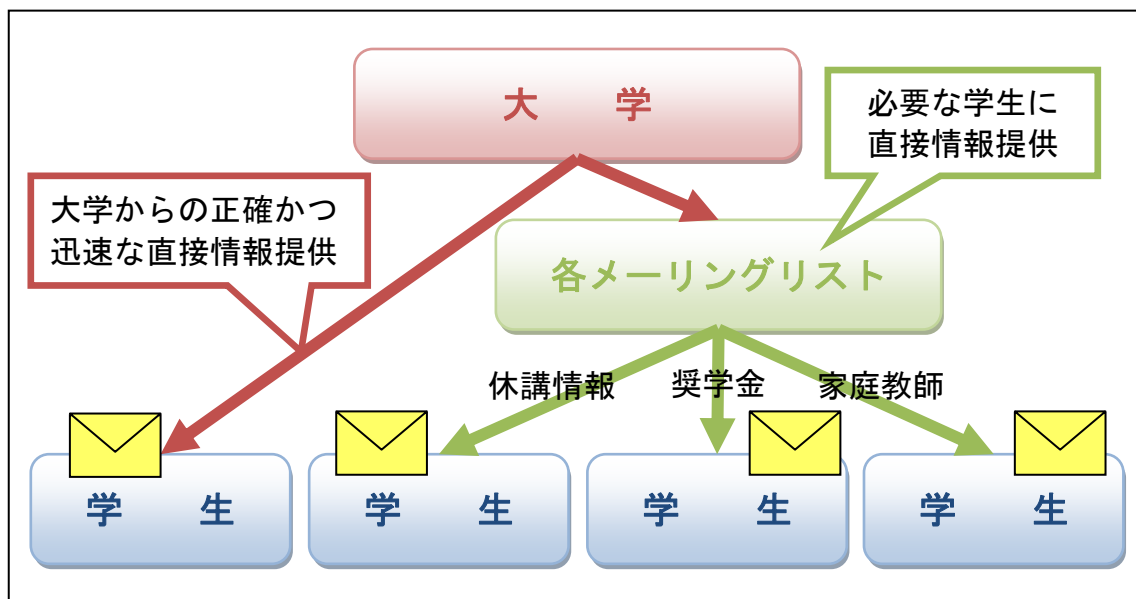


図 2-14 メール活用による大学から学生への情報提供

○学生視点のWEBサイトの設置

先述のように、東工大WEBサイトに関しては今春にリニューアル予定となっています。評価・広報課にお話を伺ったところ、広報サポーターから東工大のサイトに対して意見を取り入れることで、学生用のタブを設けて既存サービスへの直接リンクの設置、RSS 導入により更新情報を入手しやすくしていくなど、利便性の向上を図っているということです。

このリニューアルにより、情報入手が著しく困難な現状はある程度の改善が見込めます。しかし、評価・広報課の担当以外の範囲では、各部門が独自にサイトを作成・情報発信している状態では、サイトの階層構造やページのレイアウトの不一致、情報量・更新頻度などに差異が生じます。**学生が利用しやすいサイトの制作のためには、東工大のサイトを総合的に統一した形式で、かつ各部署のページに点在した情報を利用者視点で管理することが有効**であると考えられます。例えば、現在ピアサポーターや理科支援員といった学生サポーターの募集は各担当部署で行っていますが、図 2-15 のように各サポーター募集の告知は1カ所に集約した方が学生としては見つけやすくなります。同時に、集約することで募集ページへのアクセス数が上がり、応募者数も増えることが予想されます。

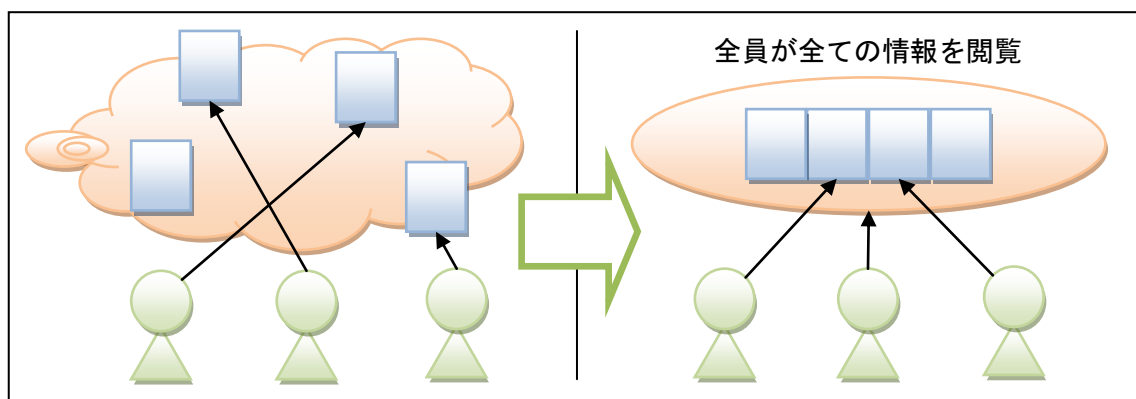


図 2-15 ホームページ上に点在した情報の集約による効果



2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言

また東工大のサイトの中には、東工大ポータルサイトのWEBメールやOCW、講義支援システムであるOCW-i、附属図書館のTDLオンライン・サービスなど、学生向けのオンライン・サービスが存在していますが、各サービスは点在していて扱いにくい状態になっています。これに対し、将来的には**東工大のオンライン・サービスを統合し、学生が必要とする情報にも簡単にアクセス出来る学生専用のポータルサイト**が今後の展望としてであると、利便性が高まり良いのではないのでしょうか。現在の東工大トップページには学生と関係が薄い情報も多く、学生のアクセス数はあまり高くありません。ですが、ポータルサイトのように、学生が必要とする様々なサービス・情報を集約したページを作れば、先述のように多種多様な学生が閲覧し、アクセス数が上がります。そのポータルページに履修申告や入構規制などの重要情報を広告バナーのような形で掲載すれば、多くの学生の目に触れることになり、情報伝達の効果的な経路の一つとなりえます。

既存の一般的なポータルサイトの例として、図2-16,17にYahoo! JAPANとGoogleのiGoogleを示します。



図 2-16 ポータルサイト「Yahoo! JAPAN」トップページ





図 2-17 様々なサービスを統合出来る「iGoogle」トップページ



■学生からの情報取り込み

学生からの情報の取り込みとして以下の3つの提言を行います。これにより、学生から大学へのフィードバックを円滑、かつ確実なものにし、より東工大に適した大学の事業の推進を促進します。

○問い合わせサービスによる混乱の解消

学生生活を送る上でトラブルが起こったり、疑問に思ったことがあったりした際に、大学事務局の各部署にメールや窓口で直接問い合わせると丁寧に対応して頂けます。しかし、学生からの視点では、教務課や学生支援課といった名称だけではどんな業務を扱っているのか判断が難しく、どの部署に問い合わせればいいのか分からないといったことが起こります。これは入学したばかりの学部1年生に特に顕著に現れ、結果として問題を放置したり、いくつもの部署をたらい回しにされたりしたという声も寄せられています。

この様な問題に対し、図 2-18 のような**窓口を1カ所に集約した問い合わせサービスによる混乱解消**を提言します。これには窓口受付とオンライン受付との2つが考えられます。

まず窓口受付について。何かトラブルが起こった際にその窓口にお問い合わせに行けば、担当部署に問い合わせ・案内して頂ける窓口サービスです。特に問い合わせ数が多い事項については、その場で対応することを可能にするとういことと考えられます。

次にオンライン受付について。専用メールアドレスや東工大サイト上にメールフォームなどを1カ所に集約して設置し、事務手続きや履修規定を含めた各種質問および要望等を受け付け、事務局各部署で回答・対応するサービスです。既存のもので例えば Ask サービス (<http://www.kg.jim.titech.ac.jp/ask/index.html>) がありますが、学生の認知度・活用度は低いようです。学生が気軽に質問・要望出来る場所が必要と考えられます。

またこのオンライン問い合わせサービスを通じて寄せられた質問・要望とそれに対する回答をまとめた FAQ 集などを整備することも有効と考えられます。東工大 WEB サイトの利便性向上にもつながることや、学務部の窓口に行かなければわからなかったことも容易に情報を入手可能になると考えられます。

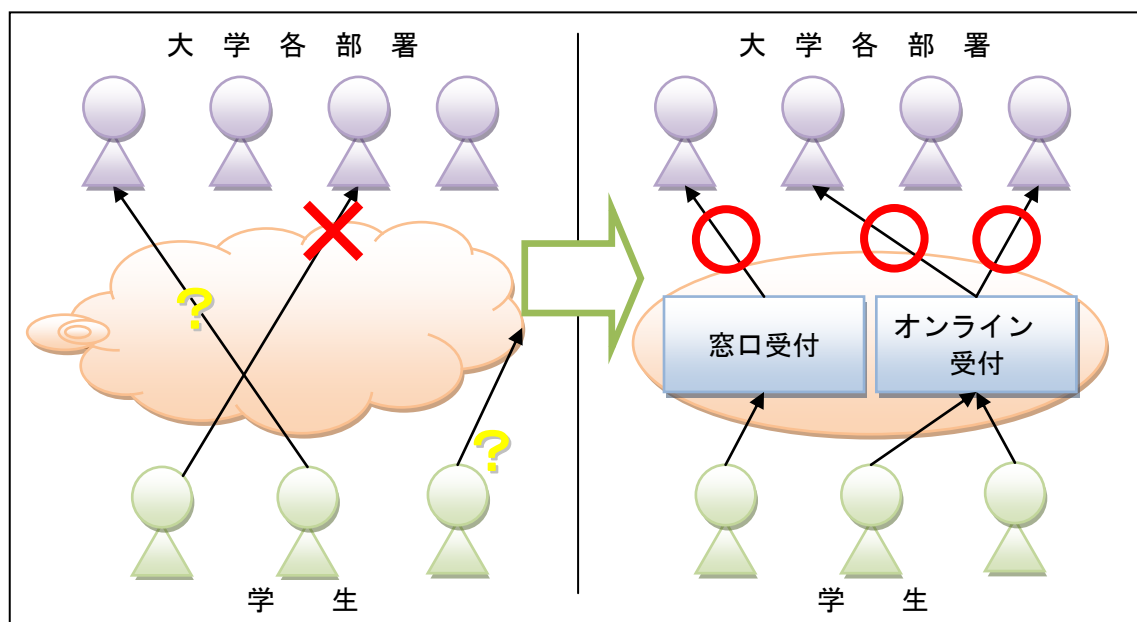


図 2-18 受付の集約による混乱の解消



○学生サポーターによる大学事業への学生意見の取り入れ

先述のように、学内の各種サービスや施設拡充の際に、学生側のニーズとの間にずれが生じることがあり、これは学生と大学間のコミュニケーションの不足により起こっています。これに対し、**学生サポーターの拡充により大学事業への学生意見の取り入れを行い、学生のニーズに合った事業を推進する**ことを提言します。現在、学生サポーターにはキャンパスガイド、広報サポーター、理科支援員、ピアサポートなどが実施されています。キャンパスガイドや広報サポーターによる「Tech Tech」などは、受験生が求めている情報を、元受験生の学生視点で提供することが出来ています。広報サポーターによる今春の東工大WEBサイトリニューアルへのアドバイスや、ピアサポーターの先輩からのアドバイスにより、利用者である学生視点での大学事業推進が出来ています。この他にも現在は実施されていませんが、例えば以下のようなサポーターが考えられます。

○教務課

- ・単位互換制度のサポート（東工大と他大の科目のバランスの取れた履修や、他大科目の履修難易度などに関するアドバイス）
- ・教務課ホームページの改善点
- ・よりよいサービスのための学生視点での意見

○学生支援課

- ・エコチャリ・プロジェクトのサポーター
（詳しくは、「4.6 学生のモラル・マナー関係」を参照下さい）
- ・学生支援課ホームページの改善点
- ・よりよいサービスのための学生視点での意見

○附属図書館（詳しくは、「4.2 附属図書館関係」を参照下さい）

- ・附属図書館ホームページへの改善点
- ・よりよい図書館内設備・サービスへのための学生視点での意見

図 2-19「本学・学生のために出来ること、そのような気持ちを持つもの」を見てみると、理科支援員などを始めとして**非常に多くの学生が大学のために活動してもよいと考えています**。現に本調査のスタッフを募集した際には、最終的に33名もの方に参加していただけました。しかし、「実際どういったことをするのか、どこで募集しているのかわからない」、といったようなことが大学から学生に伝わっていきなく、実際の志望者数が低いことがあるという、これもまたコミュニケーションの問題があると考えられます。意識の高い学生を生かすためには、そういった学生サポーターに関する情報を伝達するために、募集の情報を1カ所にまとめ、より多くの方により詳しい情報を閲覧してもらうことが効果的と考えられます。

以上の様に、広く学生の意見を聞き入れた上で大学事業を推進していくために、サポーター活動の拡充や学生への周知を行うことが重要ではないでしょうか。



2. 全学的に共通・重要性が大変高い提言

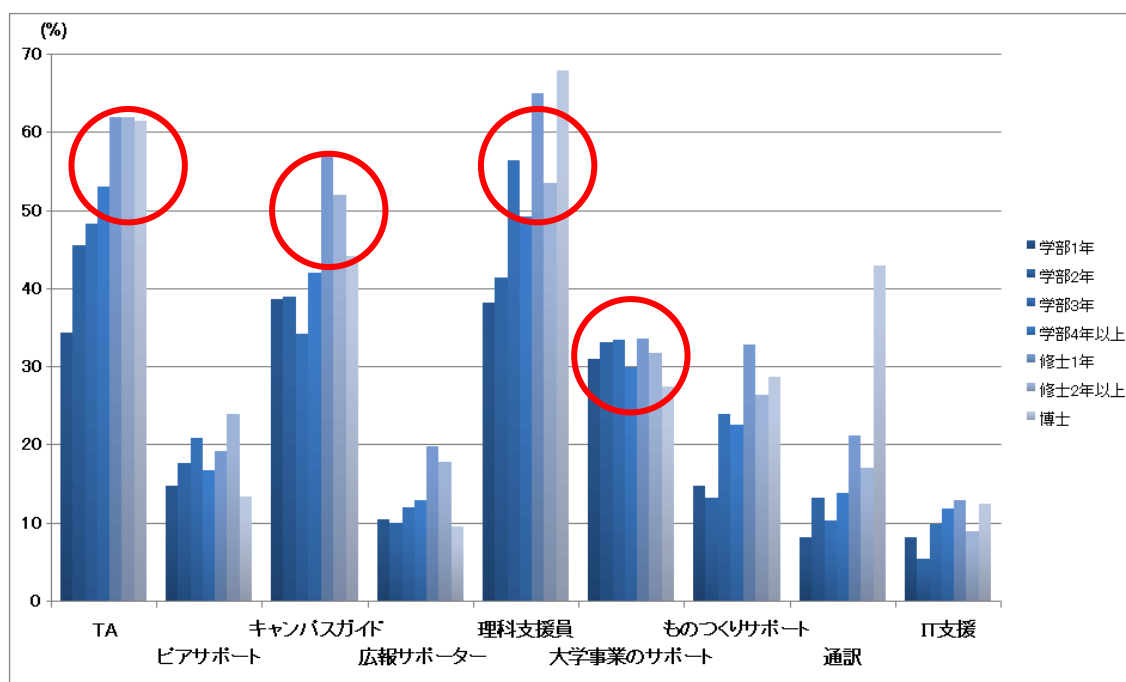


図 2-19 本学・学生のために出来ること、そのような気持ちを持つもの

○学生による大学へのフィードバックの仕組み

今回調査を行った中で、数年に一度行う学勢調査だけでは学生の意見をカバーできない問題が浮かんできました。

- ・ 大学内の各組織に対する細かい要望に関しては、学勢調査ではカバーしきれない
例：図書館 24 時間開放の必要性・生協食堂のメニューへの意見
- ・ 施設拡充の際に学生の意見が取り入れられず、ニーズとのギャップが起こる
例：石川台地区駐輪場の低利用度
- ・ 学勢調査を受けての対策が単発で終わったり、対策に対する再評価が行われず、具体的な改善効果が見られない
例：教務課接遇研修への評価
- ・ 既存のサービスが適切に評価・改善されず縮小化・形骸化しているものがある
例：証明書自動発行機の 24 時間稼働・教務情報システムの停滞

これらに対する 1 つの対策として、先述のサポーター制度により大学の日常的な事業に関して適宜学生の意見・評価を取り入れる仕組みが考えられます。

その他、新たに施設を拡充する際などに、新図書館に対する今回の学勢調査のように、広く学生の意見を募る機会が必要ではないでしょうか。そういった調査を中心となって行う学勢調査室、またはそれに準ずる機構を学生と大学の間で常設することも、1 つの有効な手段と考えられます。

今後大学と学生のコミュニケーションがうまく機能しているのか、今回の調査・提言を受けて大学がどのように変わっていくのかを知るためにも、継続的に意見収集・評価を行い学内外へ発信していくことが重要であると考えます。



以上から、図 2-20 のように学生・大学間の情報伝達と情報取込を円滑化させ、コミュニケーションを活性化させることで、「学生の求める大学の事業」と「大学の施設・サービス」を一致させることが可能となり、本学のよりよい環境整備が実現されると考えます。

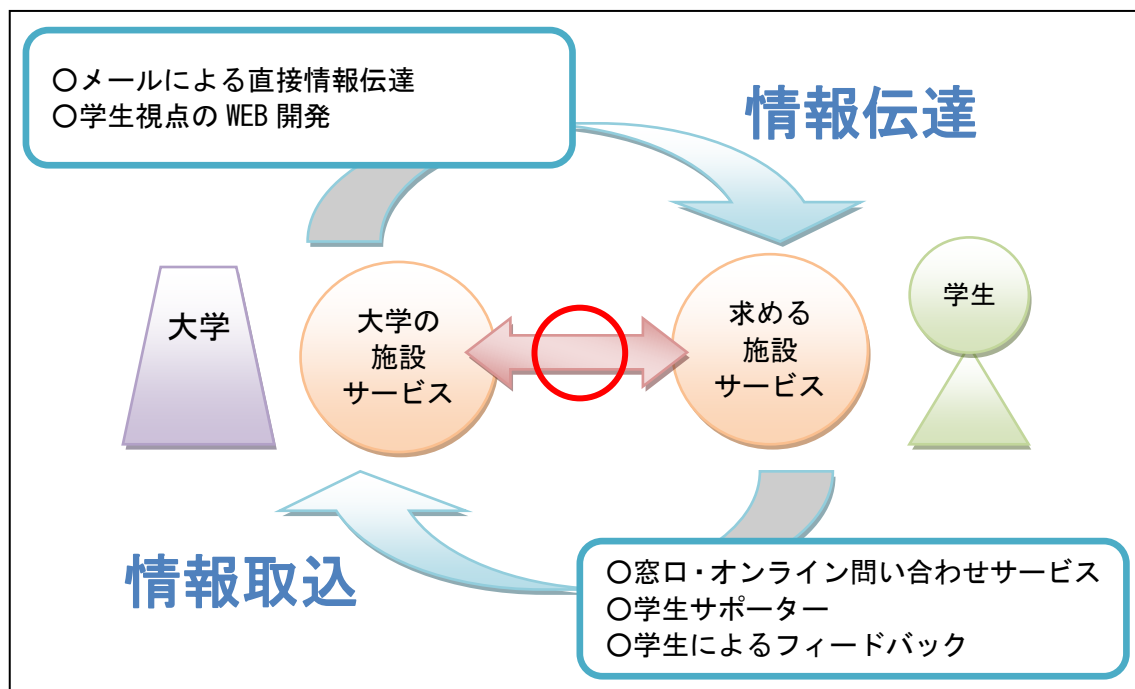


図 2-20 学生・大学間のコミュニケーション

3. 規模が大きい・重要性が高い提言

本章では、今回の調査の中で特に寄せられた数が多かったものや、提言のスケールが大きいものに関して述べていきます。

3.1 弁当・食堂関係

本節では弁当・食堂関係として東工大の主に昼食のための環境の充実に関して、以下の2項目に分けて提言を述べていきます。

- ・料理関係 …… 料理の味や値段などについて
- ・施設関係 …… 学内の飲食関連施設について

提言概要

今回の学勢調査では東工大の食事環境に関して、次のような事情があることが明らかになりました。

- ・昼食時の食堂の混雑
- ・石川台・緑が丘での飲食施設の不足
- ・生協弁当の供給力の限界
- ・学生に対する食堂の席数の不足

今回の調査による学生の食事環境に対する不満は無視できない結果が得られ、何か対策を取るべきと考えられます。そこで、学勢調査としては短期的な対策として**石川台・緑が丘地区への弁当販売所の設置と、外部または地域の弁当屋の誘致**を提言致します。また、長期的には食堂施設の新規設営も視野に入れて頂きたいと考えています。



3.1.1 料理関係

学生の意見と現状分析

今回の調査において、東工大の食事環境に対して、表 3.1.1-1,2,3,4 の様な意見を自由記述欄に寄せられました。また、飲食施設に関する定量的データを、図 3.1.1-1,2 に示します。

表 3.1.1-1 値段に関する自由記述

学生の意見	値段が高い
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・パンと飲み物の値段も 30 円ぐらい高いです。 ・食堂の米が高い。米持参も多く見かける。 ・すずかけ台キャンパスの生協食堂の値段が高すぎます。他大学の安い食堂と比べ、1 食当たりの値段は 100 円～200 円は高いと思います。(同様の意見が 29 件寄せられました。)

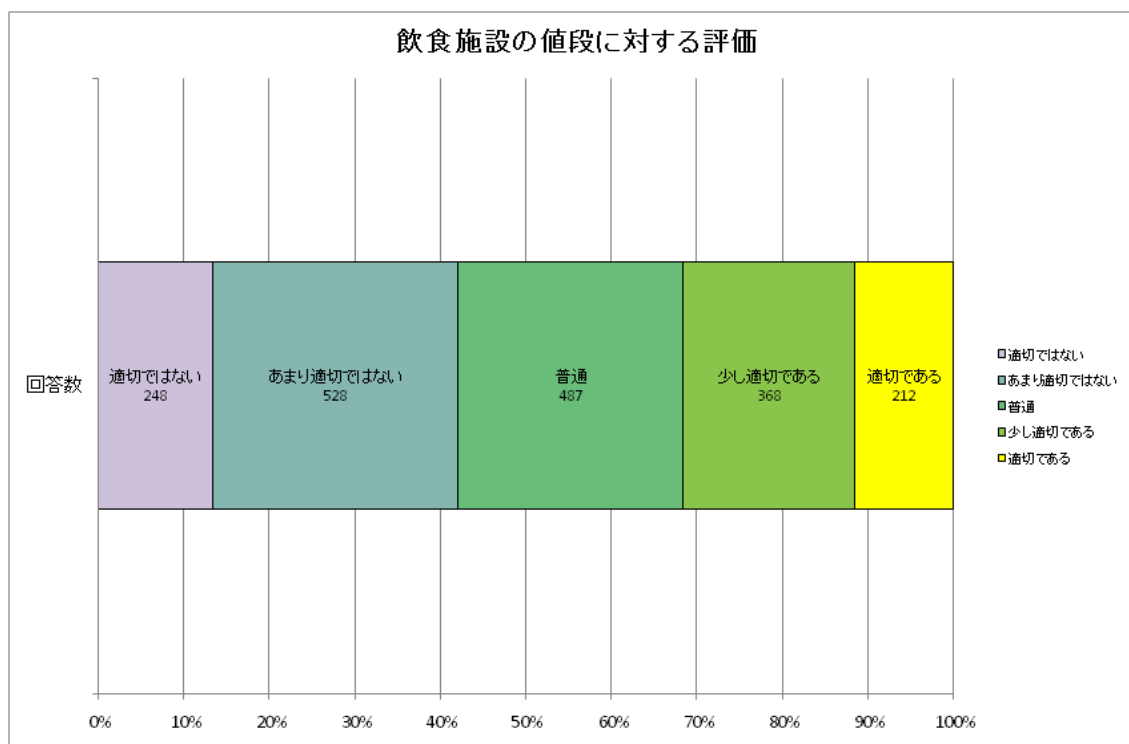


図 3.1.1-1 飲食施設の値段に対する評価



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

表 3.1.1-2 味に関する自由記述

学生の意見	味が気に入らない
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂の味を良くしてほしいです。 ・生協食堂が高く、美味しくないなので業者を変えてください。 ・食堂のごはんは量が多く質が悪い男の子向けで女の子向けのごはんが少ないと思います。 (同様の意見が 14 件寄せられました。)

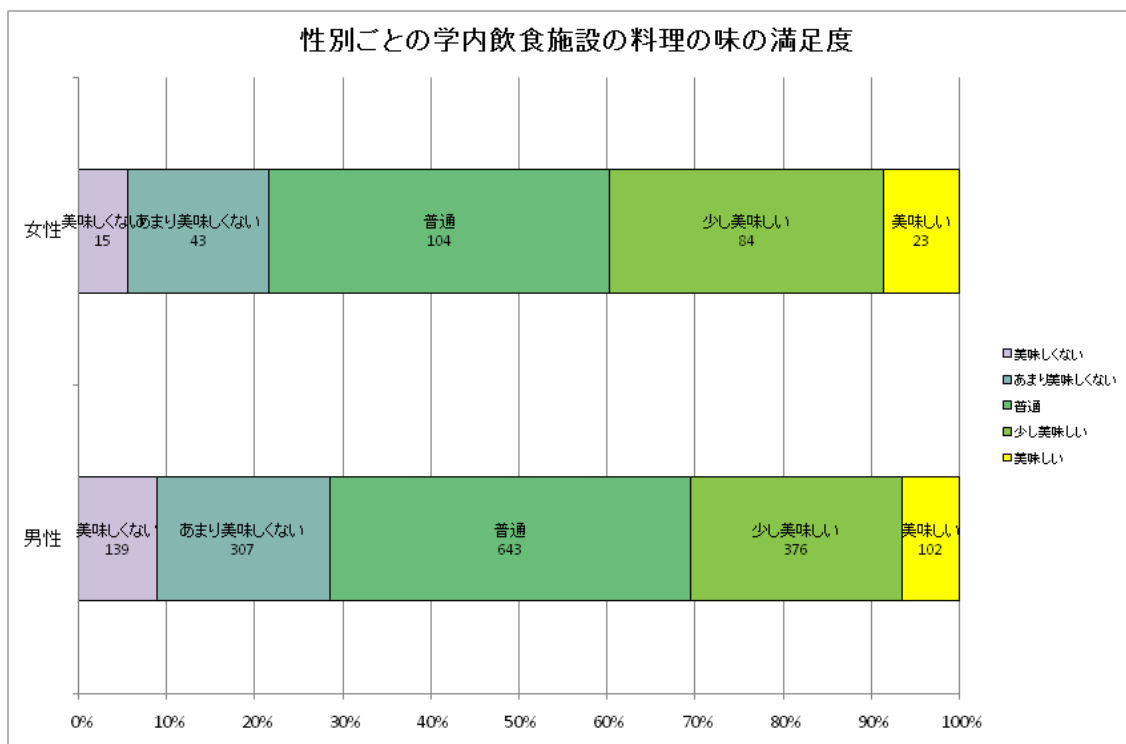


図 3.1.1-2 飲食施設の味に対する男女別評価

表 3.1.1-3 量に関する自由記述

学生の意見	量が少ない
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・そして生協の 2 食はスモールライスの量はちょっと少ないと思います。 ・生協の食堂・弁当は美味しくないし、少ないし、安くもない。 (同様の意見が 8 件寄せられました。)

表 3.1.1-4 メニューの多様化に関する自由記述

学生の意見	メニューの多様化
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学食だけではいつも同じメニューで飽きてしまいます。 ・また、学食も脂っこいメニューが多いので、ヘルシーなメニューをもっと増やしてほしいです。 ・日替わり定食を実施して欲しい (同様の意見が 13 件寄せられました。)



現状分析

○価格と量の関係

図 3.1.1-1 を見ると、40%以上の学生が値段に対して『あまり適切ではない』と考えており、不満を持つ学生が多いことが分かります。しかし、生協の価格設定の基本は全国単位で決まっており、商品価格を下げるように交渉することは困難とのこと。しかし、生協側も東工大生に適した価格設定を下さっています。男子学生が約9割を占める東工大は、他大学に比べ生協食堂のメニューの価格を若干高く設定している分、配膳量も多くしているということです。今回の調査結果からは提言は出来ませんが、学生の要望が多ければ他大学と同じ価格・量に設定することも可能ということです。

○料理の味について

学食メニューの味に対しては、自由記述欄においてかなり厳しい意見が寄せられました。しかし、図 3.1.1-2 を見ると、味に関して「美味しくない」「あまり美味しくない」と答えたのは、2～3割程度に留まっています。また、男性に比べ女性の方が味に関して満足度が高いというデータが取れました。このことから、生協食堂の料理に関しては満足度が低くはないことが分かります。

○メニューの多様化

メニューの多様化についても意見が寄せられましたが、これについても困難と考えられます。日替わり定食については、生協の施設面から一度に扱える食品数はある程度限られており、日替わり定食を導入する場合には扱える商品数を減らさざるを得ないということです。生協側としては、学生が自主的にメインやサイドメニューを選ぶことで、日替わりに近い状態を実現させようとしているということです。また、メニューの多様化は料理提供までのステップの多様化にもつながり、現状よりも提供までの時間がかかり、結果的に「3.1.2 施設関係」でも述べる食堂の混雑の悪化が予想されます。



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

具体的提言

○価格・量の関係への学生意見の取り入れ

調査の結果として、不満が高めである価格・量について同時に改善することは困難となりました。その一方で、東工大生向けに価格・量設定をしているという生協側の配慮も明らかになりました。

これに対して、

- ・他大学と同じ価格に引き下げ、代わりに量を減らす
- ・現状通り（他大学より量を多くし、価格を若干高め）に設定する

のどちらが現在の東工大生に合っているのか、と言ったことを中心に、**生協食堂の料理や生協弁当についてどういったものが東工大生に最適なのか、全学的に追加調査を行う**ことを提言とします。

○品質の一定化

「料理を美味しくしてほしい」という意見について、先述のように味に対する満足度がそれほど低くなく、改善するとなると値段や量にも影響が出ると考えられます。一方で、料理の味や量に関して一定化し切れていないことに対して不満があります。そこで、今回の学勢調査では**生協食堂料理の品質の一定化**をお願いします。

現在、生協には「声のカード」により、学生の意見を取り入れています。ただ、あくまでこれは投稿者の個人的意見ですので、声のカードをもとに生協食堂全体を変えるということはできませんが、例えば、個々の料理の品質が極端に変わった際に、学生からのフィードバック機能として声のカード利用することを提言します。



3.1.2 施設関係

学生の意見

今回の調査で、東工大の飲食施設に対する自由記述に寄せられた意見を、表 3.1.2-1,2,3,4 に示します。同様に、飲食施設の設備に関する定量的データを、図 3.1.2-1 に示します。

表 3.1.2-1 食堂の混雑に関する自由記述

学生の意見	食堂の混雑
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂も席数が生徒数に比べて少なすぎると思います。 ・ 学食の注文がもう少しスムーズに進むよう人を増やすなどしてほしい。 ・ 昼時は食堂が混雑していて使ったことがない。 (同様の意見が 50 件寄せられました。)

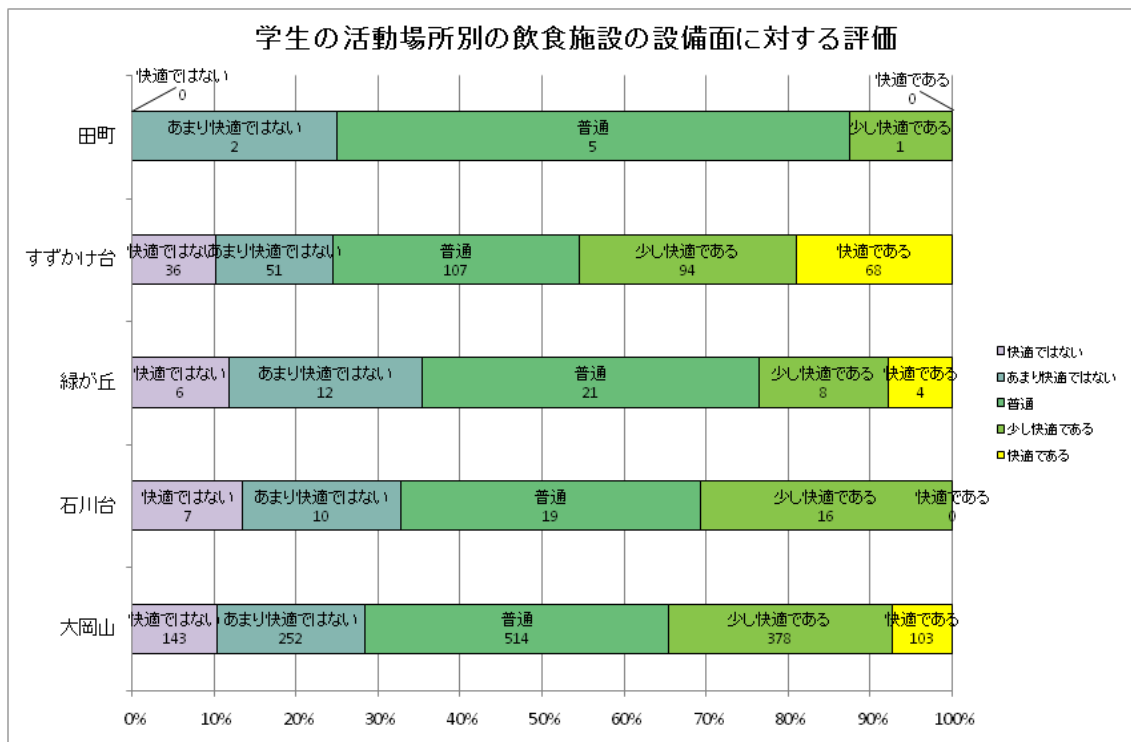


図 3.1.2-1 学生の活動場所別の飲食施設の設備面に対する評価

表 3.1.2-2 営業時間に関する自由記述

学生の意見	営業時間の延長
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に朝食の時間帯 6 時～10 時くらいに学食が利用できないことが痛い。 ・ 8 時にしまっていますが、すすかけ台の場合、遅くまで残っている人がほとんどです。 (同様の意見が 28 件寄せられました。)



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

表 3.1.2-3 食堂新設に関する自由記述

学生の意見	石川台・緑ヶ丘への食堂新設について
具体的内容	・石川台地区に学食を作って欲しい。 ・石川台地区に小さな食堂かコンビニみたいなものがほしい。 (石川台地区において同様の意見が 23 件、緑ヶ丘地区において同様の意見が 9 件寄せられました。)

表 3.1.2-4 弁当の外部参入に関する自由記述

学生の意見	弁当の外部参入について
具体的内容	・緑が丘地区で食事に困る。生協の弁当がまずく、量が少なく高い。生協のカツカレー弁当のカレールーにプラスチックの臭いが移っていません。山賊丼は胡椒がきつ過ぎて食べられない。是非、一般のお弁当屋（ホカホカ弁当、オリジン弁当など）を生協の変わりに出店させて欲しい ・緑が丘地区に食事出来る場所がないのが困る。生協の弁当も昼休みには既に売り切れているのが現状で、改善して欲しいと思っている。 (同様の意見が 7 件寄せられました。)

現状分析

○生協食堂の混雑

生協の混雑に対する自由記述は 50 件にも昇りました。これはかなり要望のある意見であり、また生協自身も頭を抱えている問題ということです。これに対する解決方針としては以下の 4 つが考えられ、これらについて考察を行います。

1. 料理提供の迅速化

生協側では現状でかなり限界に近い程度まで対応して下さっています。少なくとも第一食堂においては、提供を迅速化しても席の確保等が難しく問題解決へは繋がりにくいと考えられます。

2. 飲食エリアの拡大

現状の食堂を増改築することはスペース的に困難と考えられます。

3. 学生の回転率の向上

学生に対し素早く昼食を食べ、すぐに席を空けることを促すことで実現可能ですが、かえってフラストレーションがたまり、不満解消にはならないと考えられます。

4. 飲食利用以外の生徒の分散

リフレッシュ・ルームや一般開放の教室、新図書館などの施設に生徒を移動させ、分散させるという解決策は考えられます。

○営業時間の延長

「4.5.1 学生食堂」にて言及します。



○石川台・緑が丘地区への飲食施設設置

過去に石川台・緑が丘地区にも外部飲食店の誘致を大学側でも考えた経緯があるということです。しかし、コンビニ一軒での見込顧客数が 3000 人程度必要なのに対して、石川台 1300 人、緑が丘 500 人程度しか望めないため、採算が取れないという理由で、出店に対し手を挙げた企業はなかったということです。

○生協弁当売り切れと南 1 号館横の通路問題

石川台・緑が丘・大岡山南地区などは、昼休み開始後すぐに生協の弁当が売り切れ、食堂や他の弁当販売所に行くにも距離が遠く、購入が難しいと感じている学生がいます。加えて、2 コマ目の講義途中に抜け出して先に購入するという悪循環も起こっています。また、弁当を外に買いに行かざるを得なく、その際に南 1 号館横の通路を利用するという問題に発展していると考えられます。これは南商店街の弁当屋付近が学生や自転車で溢れ、交通や近隣住民の迷惑にもなっていると考えられます。

これに対し、生協は前年度に比べ弁当の生産を伸ばす努力をされていますが、それでも学生の需要に追いついていません。賞味期限時間の制約を考えると弁当制作を現在より早めることは難しく、第 1 食堂のみの生産ではこれ以上の弁当供給は困難なようです。

具体的提言

○学食以外の飲食施設の周知

昼食時の食堂混雑緩和のために、生協食堂以外の飲食施設の利用を促します。例えば、リフレッシュ・ルームや一般開放の教室、百年記念館や新図書館などが飲食をするためのスペースとして挙げられますが、リフレッシュ・ルームは各学科の管轄になっており、広くは知られていないほか、百年記念館などは学生からは学生同士のコミュニティ・スペースとしての認識度が低いようです。これに対し、生協食堂のポップや電子掲示板によりスペースの周知を行うほか、各スペース近くで弁当の販売を行い、スペースの有効利用を促します。

○外部または地域の弁当屋の誘致

現状分析にて示しましたように、生協食堂や生協弁当だけでは東工大の昼食の需要を賄いきれていない状況にあり、石川台・緑が丘地区からは学生から不満の声も挙がっています。そこで、学勢調査からは**石川台・緑が丘地区に弁当販売所の設置とともに、外部または地域の弁当屋の誘致**を提案致します。

これに対し、学生支援課からも、「学生からの要望次第では外部または地域の弁当屋の誘致も実現可能」と伺いました。また、この問題に付随して生じている先述のような地域に対しての迷惑問題を解消出来る他、**地域の弁当屋を構内に出店させることは大学の地域貢献にもつながります。**

以上の様なことから、東工大の昼食環境の向上と地域貢献のために、外部または地域の弁当屋の誘致を提言します。



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

3.2 新図書館関係

来年 2010 年より、本学では新図書館が開館されます。それに伴い今回の調査の大きなトピックとして、附属図書館に関する学生からの意見・要望を募りました。

提言概要

今回の学勢調査では図書館に対して、書籍の貸し出しに加え、次のような役割への要求が学生の中にあることが明らかになり、それを新図書館への提言と致します

- ・学生の普段の居場所（コミュニティ・ユーティリティースペース）としての役割
- ・学習スペースとしての役割
- ・レストスペースとしての役割
- ・情報ネットワーク演習棟のようなパソコン利用スペースを提供する役割

学生の意見

最初に、新図書館に関係すると思われるグラフ、図書館に向けた要望の自由記述における具体的回答を列記します。

まず、現在の図書館の学年別の利用目的を図 3.2-1 示します。（回答は複数選択可）

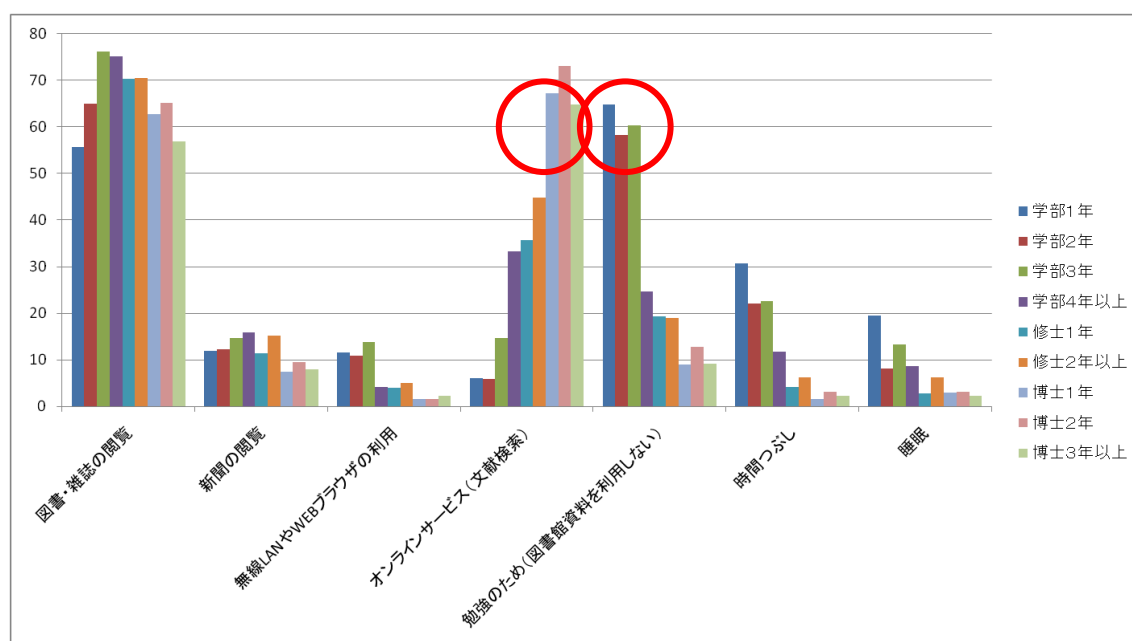


図 3.2-1 学年別図書館利用目的

学部4年生以上では研究のための「文献の検索・閲覧」、学部3年生以下では「レポート・試験等の学習」が利用目的として多くなっています。

「図書・雑誌の閲覧」は学年に関係なく多くの方が選択していますが、「オンライン・サービス（文献検索）」を見てみると、学部4年以降で利用者が増加しています。これには4年時から研究が始まり、論文雑誌等を利用し始めることが深く関係していると思われます。



逆に研究室所属前の学部1～3年で高い選択率を示すのは「勉強のため（図書館資料を利用しない）」で、学習スペースとして附属図書館が利用されていることがわかります。
次に、現在学生が求めている施設を図 3.2-2 に示します。

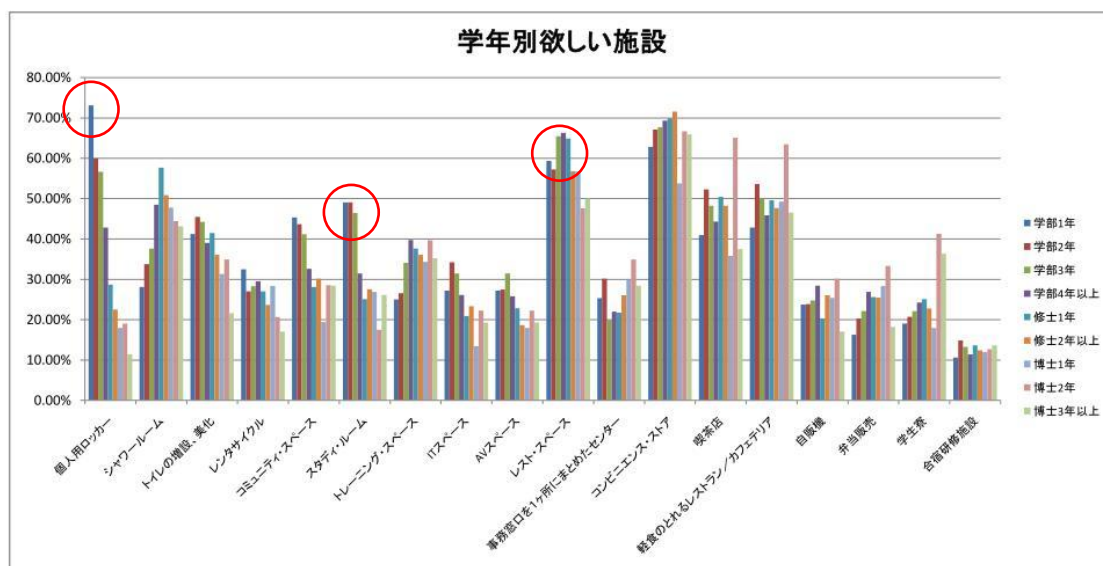


図 3.2-2 学年別大学に求めている施設

「スタディ・ルーム」の項目を見ると、**学部1～3年生から学習スペースの要望が大きい**ことがわかります。
次に、現在の学生の居場所となっている施設を図 3.2-3 に示します。

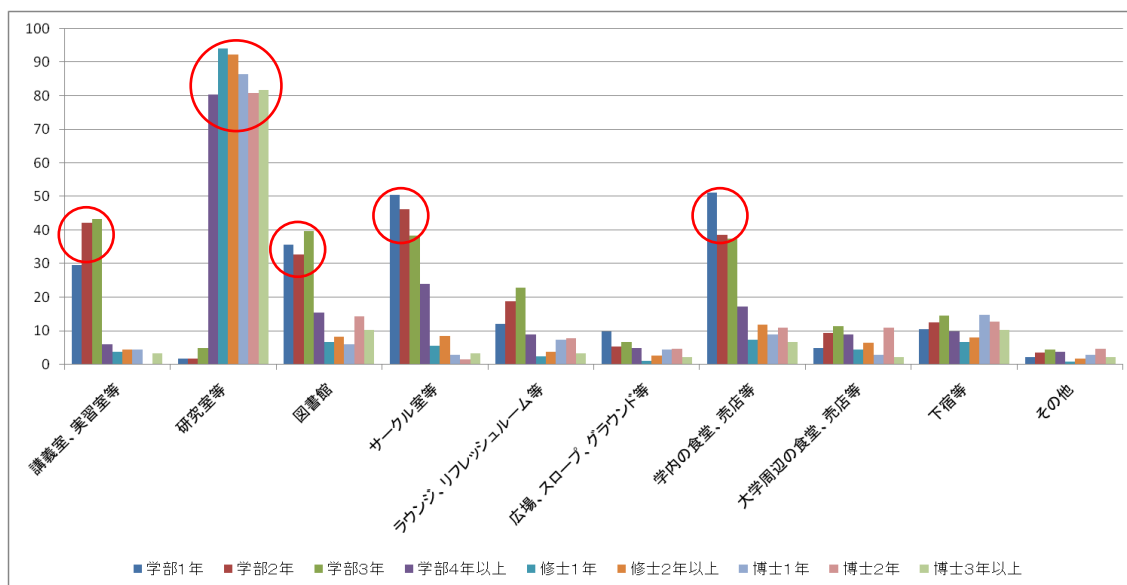


図 3.2-3 学年別学生の居場所



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

学部4年以上は授業時間外を研究室で過ごすのに対し、学部3年以下は各施設に点在していることがわかります。最後に、学年別の図書館利用頻度を図3.2-4に示します。

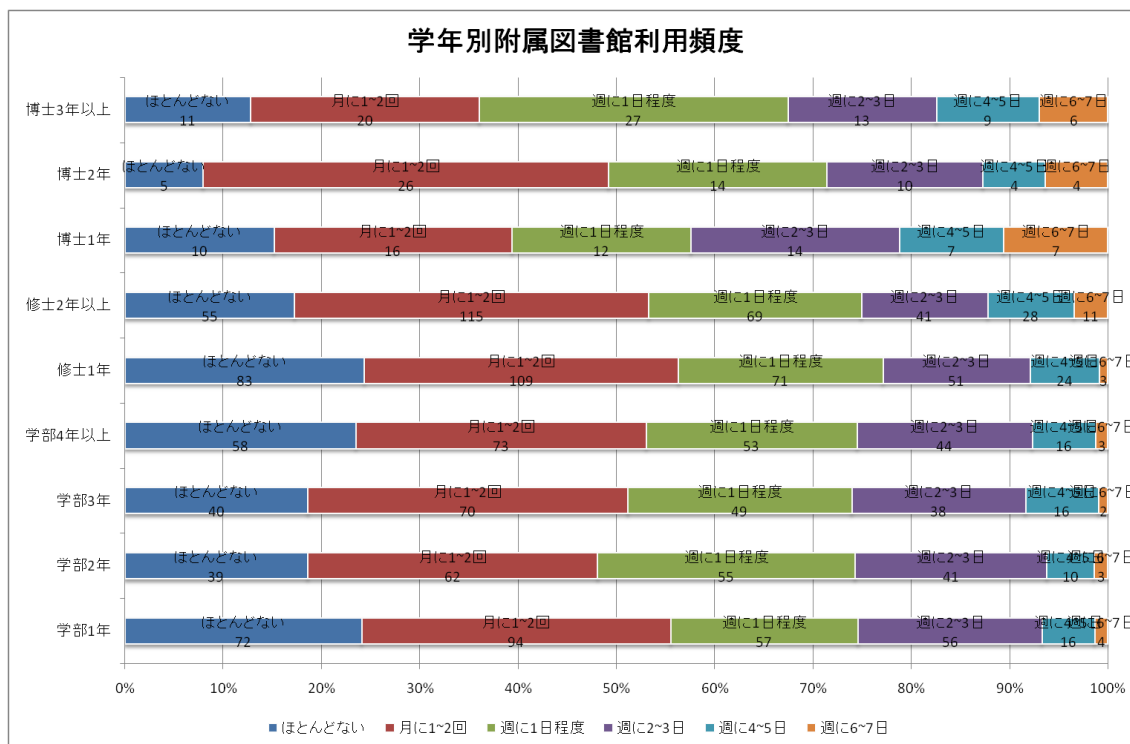


図 3.2-4 学年別附属図書館利用頻度

今回の学勢調査で、図書館に関する自由記述において学生から挙げた要望を、ほぼそのまの表現で表3.2-1,2,3に箇条書きに示します。(※同様の意見については、代表的な表現を掲載。特に意見数が多い意見については、その件数も表示しています。)

表 3.2-1 附属図書館学習スペースに関する自由記述

学生の意見	自習・グループ学習スペース関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・適度に集中出来る環境を整備・増設してほしい。 ・研究学生と学部生の席を分離するか、別のフロアにして欲しい。 (騒がしい学部生がいて、集中できない。) (上記2つには、29件の同様の意見が寄せられました。) ・区切りがある机を増やしてほしい。勉強がはかどるため。 ・自習机が足りない。 ・4人机でもPC電源の確保を。(レポートの際に書籍とネットを並行するときや、グループで行うときに不便。) ・机に1つずつライトがほしい。 ・グループで利用出来る環境を増やしてほしい。 ・グループ学習室の設備を充実させてほしい。 (プロジェクタ、音声プレーヤ・レコーダー、エアコンなど) ・1回の利用時間を延長してほしい。



表 3.2-2 附属図書館施設利用に関する自由記述

学生の意見	施設利用関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平日・休祝日ともに開館時間の延長、または24時間開館を。 ・自習スペースだけでもいいので開館時間を長くしてほしい。 (上記2つには、55件の同様の意見が寄せられました。) ・飲み物はOKにしてほしい。出来れば、食べ物も。 ・外国人利用者のために、英語の表記・対応を充実させてほしい。

表 3.2-3 附属図書館施設・設備に関する自由記述

学生の意見	施設・設備関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽系サークルの音に対する防音などの措置を取ってほしい。 ・飲食・文房具などの自動販売機・売店の設置。 ・トイレをもう少し明るくきれいな感じにしてほしい。 ・もう少しきれいに。1F女子トイレにはゴキブリが出ます。 ・女子トイレの窓ガラスを曇りガラスにしてほしい。 ・トイレの便器をウォシュレットにしてほしい。 ・現在のブラインドよりも、縦に稼働するブラインドの方が良いのでは。 ブラインドを引くときに、付近の人を気にしなければいけない。 ・リフレッシュ・ルームを多くの人が使えるように、大きくするか室数を増やしてほしい。 ・リフレッシュ・ルームは飲食が出来るので、新図書館にも残してほしい。 ・リフレッシュ・ルームに自販機を設置してほしい。 (上記3つには、16件の同様の意見が寄せられました。) ・小説・新書など机が必要ない本を読む用に、椅子・ソファーだけのスペースを設置してほしい。 ・本を自動でめくってコピーしてくれるコピー機がほしい。 ・各階に私費・公費ともに使えるコピー機が欲しい。 ・駐輪場のスペースを大きくしてほしい。 ・コンピューターの台数を増やしてほしい。40台以上。 (休日は情報ネットワーク棟が閉館のため、席が全て埋まっている) ・オンラインのログインに学生証の認証がなくてもパスワードだけで入れるようにしてほしい。(Macではなく情報検用のWindows) ・印刷用のプリンターを設置してほしい。 ・WindowsOSのパソコンがほしい。



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

現状分析

自由記述に挙げた意見に向けた図書館の回答を示します。

○【表 3.2-1】への回答

学習スペースの分離について

図書館内(地下 2,3 階)に個人の学習用スペースを、ガラスハウス 2 階にコミュニティ・スペースを 3 階にグループ学習スペースを主に配置しています。

席数について

詳しい席数については計画段階ですが、<http://www.libra.titech.ac.jp/INSIDE/pubttl/>を参照ください。コンセントはすべての席に設置される予定です。

グループ学習室について

プロジェクター・スクリーンなどの貸し出しは行っています。その他にも整備してほしい設備があれば、リクエストをお願いします。またグループ学習室の部屋数についても上記 URL をご参照ください。

○【表 3.2-2】への回答

開館時間の延長について

開館時間の問題については運用の問題であり、意見が多く、本当に必要であるということになれば、それも可能です。ただし、今はその必要性が具体的に示されていないので、費用の問題などもあり実施する予定はありません。

なお、新図書館は、ガラスハウスのみの 24 時間開放など、開放するスペースをある程度自由に設定可能な計画になっています。

図書館内の飲食への対応について

これも運用の問題であり、意見が多ければ対応できます。ただし、グループ学習室などの学習のためのスペースでは飲食は控えて頂きたいと考えています。



○【表 3.2-3】への回答

防音について

現在は特に具体的対策は考えていません。

リフレッシュ・ルーム・自動販売機について

現在の図書館にあるものと同程度のものを地下2階か地下3階に設置予定です。それに加え、現在はガラスハウス2階に自動販売機を設置する予定です。

本を読むスペースについて

席がそれほど遠いとは認識していないことと、書架のスペースの問題もあり、現在は設置していません。重い本の運搬には、台車のようなものを貸し出しています。

コピー機の設置について

現在は資料のコピーのためのコピー機しか設置していませんが、これも要望が多ければ設置も考えられます。

パソコンの設置について

図書館はあくまで、本を読んだり学習をしたりするスペースであると認識しているので、新図書館では書籍の検索端末以外のパソコンは設置しない予定です。しかし、これも要望が多ければ対応の可能性はあります。



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

具体的提言

以上のデータから、以下のような提言を図書館班では考えました。内容は、「図書館」に関するもの、「ガラスハウス」に関するもの、「両方」に関わるもの、の3つに分けて記述します。

【図書館】

○文献検索・閲覧機能

主に学部4年生以上が研究上必要な、文献の検索・閲覧の機能の充実が必要と考えられます。図書館では書籍の取り寄せ・リクエストなどのサービスを行っていますが、その認知度が低く(図 3.2-5)、その改善を求めます。具体的にはホームページで行っているアナウンスへのアクセシビリティの改善などを提案します。

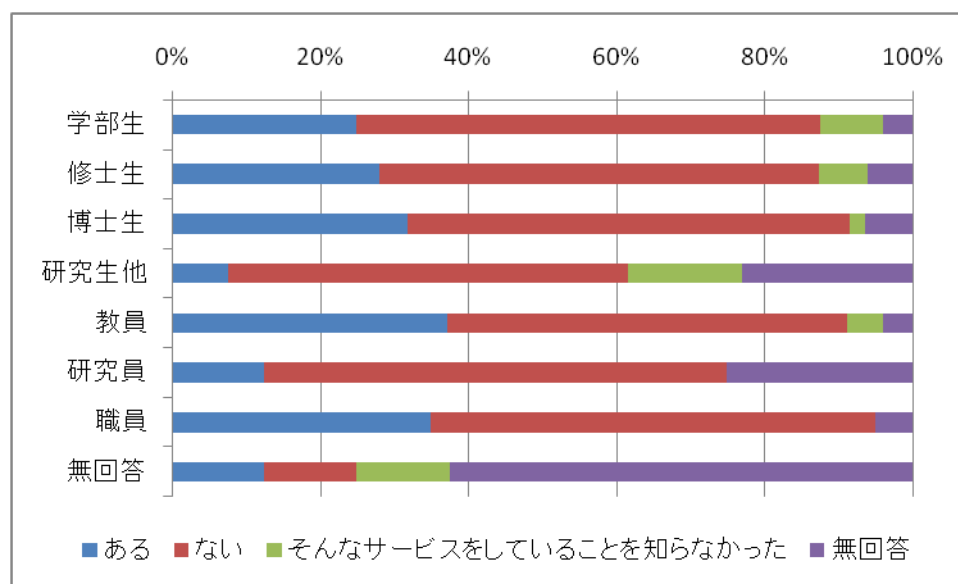


図 3.2-5 図書館では、図書予約、他機関からの図書取寄せ、他機関への文献複写依頼、希望図書リクエストなどのサービスをご提供していますが、利用されたことはありますか? 『出典：図書館利用者アンケート集計結果(2007年12月10日～2008年1月31日実施) 附属図書館』

○個人席の整備・充実

学習スペースでは**机を個人席、または仕切りの有無を学生が自由に変更出来るような複数席の机を中心に設置する**ことを提案します。

現図書館では仕切りのない4人席を一人で使うことも多く、席数に比べスペースが十分に活用されていません。また、付近の複数席での会話が学習の妨げになるという声もあり、それを未然に防ぐという目的もあります。

現図書館では無線LANが座席の位置により使えたり使えなかったりすることが問題となっています。可能であれば、すべての場所で整備されることが望ましいですが、すべてに整備することが難しいのであれば、利用目的に合わせて、スペースを(表示などで)分けることで、利便性の改善を期待します。現在の無線LANの有効範囲はホームページのみのアナウンスで認知度が低く、結局、無線LANを使わない人が使える場所に座り、使いたい人が使えない場所に座る、というようなことが起こっていると考えられます。



○静粛で集中出来る環境の整備

新図書館では目的に合わせたスペース分けがなされるということですが、特に個人の学習スペースでは、私語・騒音等をたてないようにルールを作り、職員の方からも注意を行ってほしいと考えています。また、新図書館の建設予定地から現在よりも電車・道路などの騒音が大きくなることが予想され、『ガラスハウスのガラスを二重にする』などの措置が必要だと考えられます。

○長時間・24時間開放

学習スペースの利用時間の延長、可能であれば24時間開放をお願いします。これに関しては先述のように、大変多くの方から要望があります。特に、学部3年生以下では、居場所となるサークル室やリフレッシュ・ルーム、食堂などが夜間解放されておらず、席数は限られ、静粛な環境が整備されているとは言い難いため、学習環境が十分に整備されていないと考えられます。また、夜間でも開放している一部のリフレッシュ・ルームを夜間は完全閉鎖し、1カ所のみ開放した方が学生の安全面も高いと考えられます。

その他、論文雑誌などの貸出禁止の資料は、図書館開館の限られた時間でしか利用できないという問題点も現図書館にはあり、長時間開放されればこの問題も解消されます。

○書庫へのソファ・椅子の設置

蔵書が置かれている書庫に、一人掛けの椅子の設置を提案します。学生が休むためのものではなく、文献を探す時などに利用するものであり、そこで寝る人が出ることへの対策の意味も含め、長いものやしっきりとしたものは必要ありません。

○私費コピー機の設置

レジュメ、プリントなどのコピー用に、私費で自由に使えるコピー機の設置を提案します。先述したように、図書館は学部3年生以下において学習スペースとしての利用率が高くなっています。現在コピー機を自由におけないのは著作権に問題があるからだと理解していますが、新図書館ではエリア分けの自由度の高さを利用して、貸出スペースのエリアの外で図書館内にコピー機を置くことはできないでしょうか。(現図書館でいうと、新聞閲覧スペースに私費のコピー機を置くようなイメージになります。)

○グループ学習室の予約制の確立

グループ学習室は時期によってほとんど使われていないのではないのでしょうか。グループ学習室を完全に事前予約制とし、普段は個人の学習スペースと同様に扱うことを提案します。



3. 規模が大きい・重要性が高い提言

【ガラスハウス】

○学部1年生用のロッカールームの設置

学生が集まると予想される施設であることと、建設予定地が正門から近いことから、学部1年生用のロッカールームの設置を提案します。図3.2-2の「個人用ロッカー」の項目では、学部1年生の選択率が7割を超えています。その背景には学科所属しておらずロッカーを持ち合わせていない不便さがあると考えられます。特に、学部1年生は「健康・スポーツ科目」が必修であり、運動道具の保管用ロッカーの需要はかなりあると考えられます。

○レスト・ルームの設置

学生からの希望の高いレスト・ルーム（休憩室・仮眠室）の設置を提案します。現存のリフレッシュ・ルームが学生同士のコミュニティ的要素が強いのにに対し、レスト・ルームは学生が休息をとる場となります。夜間の実験の間の待ち時間や、徹夜の実験明けに利用したいという声が上がっているためです。管理上の問題が考えられるため、利用可能者や開放時間の制限が必要かと思いますが、時間を区切って試験的にでも導入することはできないでしょうか。

【両方に関わるもの】

○グループ単位での活動に適した設備

スペースを有効活用するために、キャスター付きの二人掛け机を中心に設置を提案します。これは学習スペースのときと同様に、席数に対する利用者数の比率を高めるためと、グループの人数に応じて机の数を換えられるようにするためです。



4. 項目別提言

本章では先述の重要性が高い提言以外のものを、以下の項目別に述べていきます。

- | | | |
|------------------|----|-------------------|
| 4.1 学習関係 | …… | 本学の学習カリキュラムに関して |
| 4.2 附属図書館関係 | …… | 本学の附属図書館に関して |
| 4.3 大学施設関係 | …… | 本学の学習・研究・厚生施設に関して |
| 4.4 大学サービス関係 | …… | 本学の教務・厚生サービスに関して |
| 4.5 生協関係 | …… | 本学の生協食堂・購買に関して |
| 4.6 学生のモラル・マナー関係 | …… | 本学学生のモラル・マナーに関して |

4.1 学習関係

本節では、本学の学習カリキュラムについての提言を、以下の2項目に分けて述べていきます。

- ・学部 …… 学士課程のカリキュラムに関して
- ・大学院 …… 修士・博士課程のカリキュラムに関して

4.1.1 学部

4.1.1.1 特定の科目および科目群に関して

学生の意見	文系・文明科目の充実（12名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文系科目で興味深い講義が少なく、内容が偏り気味だと思います。（同様の意見が多数あります） ・文系科目や文明科目が多く用意されているのがとても嬉しいです。
現状分析	文系・文明科目について、その内容に興味がない学生がかなり見られます。その一方で、文系・文明科目の存在そのものは評価されているようで、なくす必要はないと考えられます。
提言	文系・文明科目について、どのような内容がよいか学生にアンケート等をとってみてはどうでしょうか。

学生の意見	理工系基礎科目の充実（9名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一年次の物理、二年次の専門科目を学ぶにあたり、微分方程式の解法など数学的基礎が不十分に感じます。早期に数学的素養を修得出来る様にした方が良くと思います。 ・1類1年の授業で、物理学AとBが面白くありません。講義では分かりやすさより、知的好奇心をかき立てるような話をして欲しいです。
現状分析	理工系基礎科目について、必要性は感じているものの、その理解度は決して高くないことが分かります。この対策として、講義方法の研修や基礎教育専門の講師を設置し、担当してもらうといった改善策が考えられます。



4. 項目別提言

学生の意見	教職カリキュラムの見直し（7名）
具体的内容	教員免許を取る上でハンディが多すぎます。集中講義などではなく、カリキュラム上でなにか工夫が出来るのではないかと思います。6類だと工業の教員免許しか取れないなど、制約が多く道が狭まっています。また、学芸員の資格が取れるようにしてほしいです。
現状分析	本学は教師育成の大学ではないためか、教職を目指す学生にとってはカリキュラム上の障害が多いと感じるほか、取得出来る免許の種類が少ないと感じている学生もいるようです。本学は修士進学率が大変高いこともあり、6年間で免許取得のためのカリキュラムも可能ではないでしょうか。

4.1.1.2 語学教育に関して

今回、語学教育に関しては外国語教育研究センターにキャンパス・ミーティングにご協力いただきましたので、その回答の内容を現状分析として掲載します。

学生の意見	語学教育の強化（23名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1, 2年の英語の授業をもう少し身のあるものにして欲しい。高校の授業のほうが難しかったように感じます。 ・ 英語の授業が多く、専門的な分野で理解するのが困難になる。 ・ 英語教育が貧弱すぎる。先生と生徒10人くらいでテーブルを囲むゼミスタイルの授業があってもいいと思う。（留学先では実際にそういった授業が存在した。）

【キャンパス・ミーティング前での提言】

まず本学で統一的な学習目標を定め、その後、それに向けて最良の方法を議論するという手順で改革を進めることが望ましいと考えています。

現在でも語学集中講座（出典 <http://www.flc.titech.ac.jp/intensive.html>）などを開講されたりしているとのことですが、必修の講義についても目標別の講義やレベル別の講義にすることを検討してはどうでしょうか。

これに対して、外国語教育センターから、以下のような回答を得ました。

【語学教育カリキュラムについて】

- ・ 現在英語の授業は英語1から英語7まであり、学期ごとにレベルアップするように組まれている。
- ・ 使用している教材は *intermediate* と *advance* の間であり、決して低くはない。
- ・ 英語1～4では、「十分な英語運用能力」「将来的にアカデミックな英語を学ぶ素養」「英文科とは違う、エンジニア、サイエンティストを目指す学生」という観点から教育を行っている。
- ・ 英語5～7の基準設定点は各専門（学科）の先生と要望の確認をしている。

【選択科目について】

- ・ 必修に比べ優先度が低いため、時として開講できないこともある。

【学生への要望】

- ・ あきらめないでほしい（授業に出てほしい）。
- ・ 相談に来てほしい（一人抱え込んで、学習方法等で悩まないでほしい）。



【英語での講義について】

- ・専門の教員と外国語科教員の協力は必要と考えている。
- ・語学と科学技術両方の専門性を兼ねそろえた人材の確保は難しい。

【広報について】

- ・発展講座などの広報は、駐輪場の掲示板と西3号館3階の掲示板くらいしかなく、十分に広報できていない。

【その他】

- ・学習室の教材を充実させる、などは検討している。
- ・電子化に合わせて選択授業の情報の提供。
- ・設備の改善は随時行っている。

キャンパス・ミーティングでは、大学はすでに高いレベルで語学教育を行う努力をしていることが明らかとなりました。一方で、学生側からの意見を受け入れる用意もされているとのことでした。

大学側には引き続き語学教育強化の対策をお願いします。また、学生側も教員に積極的に意見をぶつけるように心がけることが必要であると考えられます。

学生の意見	TOEIC について (4名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・普段からレポート等の課題が多いのにTOEIC650は高すぎると思う ・TOEIC対策の英語の授業を作してほしい。

【キャンパス・ミーティング前での提言】

必修としてTOEIC対策の講義を行うことを提案します。あるいは、先に述べた目標別の講義のひとつとしてTOEIC対策の講義を設ける、ということも検討してはどうでしょうか。

外国語教育センターからの回答：

- ・特化した授業は多く用意してはいるが、英語の授業全般に TOEIC 等意識している。
- ・TOEIC が全てではない（高い基準を課す学科の先生とは見解異なる）。

語学の教員の立場からも、TOEIC650点はかなり高い目標であると認識しているとのことでした。しかしながら、教員の指導するように勉強していれば決して達成できない目標ではない、との回答も寄せられました。

学生の意見	第二外国語について (5名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の第二外国語の必修は全くもって不必要極まりない。 ・もっと第二外国語の種類を増やしてほしい。

第二外国語に関する意見は複数ありましたが「不必要だ」との意見も「種類を増やしてほしい」との意見が見られたことから、今回は具体的な提言をまとめることができませんでした。



4. 項目別提言

外国語教育研究センターからの回答：

【第二外国語の位置づけ】

- ・世界的に見て、大学で第二外国語を学ぶのは常識。
- ・第二外国語の授業は、気軽に受けられる授業として行っている。もっと学びたい学生向けの講座も用意している。

【検討中の事項など】

- ・選択出来る言語については広げたいとは考えている（予算・講師の問題）。
- ・留学生に語学の講座を開いてもらう、World Language Club という構想がある。
- ・第二外国語フェアの開催を検討している。

4.1.1.3 カリキュラム全般に関して

学生の意見	世界に通用するカリキュラム作りについて（10名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・もっと国際化を目指し、英語による授業を増やした方がよいと思います。そうして留学生を増やすべきです。・The curriculum is good since it accommodates either international students and Japanese students. However, the English taught classes should be more. I found many interesting classes from at least the class title, but unfortunately, I could not join the classes since those are not in English. If Titech really concerns to become internationally well-known university, the English classes should be increased.
現状分析	<p>今回、英語で回答された学生の回答文のほぼ全てに、英語で実施される授業が少ないという記述が見られ、またカリキュラムそしてサービス共に早急な国際化を求める声が多数ありました。</p> <p>実際、本学は「世界の中の東工大」を目差すスローガンを掲げていますが、現状ではカリキュラム等に関しての特別な対策が実行されているのか、また数値で表現される具体的な進歩はあるのか疑問が残ります。</p>
提言	インターナショナルな学生を対象とした、国際性に関する継続的な満足度調査を提案します。これは、長期的な国際化戦略にとっては必要不可欠であると考えられます。



学生の意見	研究と教育の結びつき強化 (14名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室と学部1～3年生との距離が遠いです。興味ある研究をしている研究室に新入生でも飛び込んでいける雰囲気があると活気付くのではないのでしょうか。 ・情報工学科は暇すぎます。研究室所属は3年後期からでもいいです。もしくは集積系と計算系をコース分けなどして、もっと学部のうちに深く教えるといいと思います。 ・3年次までの学生生活と、研究室(4年生、修士課程)での生活の温度差がありすぎます。研究室で使う器具・装置などの基本原理や操作方法などを3年次まで履修できていれば、もう少し4年生以降が楽なのではと思います。
現状分析	早期の研究室所属や、卒業研究に直接関連する知識・技術の講義などが学部教育での学生のモチベーションを高め、学習効果を上げると多くの人が考えています。2005年の調査でも同様の傾向を示しており、早期に何らかの取り組みを開始することが望ましいと思われれます。
提言	本格的な研究室所属には予算的、人間的な制約があると考えられます。現実的な方法として、関連講義の実施や研究室への仮所属、期間限定所属などの形態で、早期研究室所属を段階的に導入することが考えられます。

学生の意見	学部教育カリキュラムの上位目標の欠如 (5名)
具体的内容	授業と関連付けられた、学科・専攻の位置づけや、学生の到達目標があるとよりよいと思います。
現状分析	学部3年間の教育カリキュラムにおける高次目標の不在と、それに伴う体系的指導の欠如が起きていると考えられます。 しかし、大学教育にそうした教育指導揚力的なものが必要なのか、学生の自主的勉学とのつりあいという面で、こうした取り組みに対して懐疑的な見方を持つ人も少なくないかもしれません。
提言	本学は学科・専攻ごとに独自にカリキュラムを作るため、学習の忙しさなどはそれぞれ異なります。学生の様子や意見を取り入れつつ、学習目標を定め、その中で各授業を位置づけ、学生側への提示に力を入れる必要があると考えられ、そうすることで学生側も学びやすくなると思われれます。

学生の意見	理論から実践へ、座学から実技へ (16名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・More discussion or seminars/symposiums that can provide information and brainstorming to students or teachers on the real problems of the world. Not just text book oriented, but also real life problems oriented. ・ディベートやディスカッションのような、自分の意見を授業中に発信してそこで相手の評価を受けるような授業をもっと増やすべきでは。そうすることでその授業の知識に対する理解が深まるだけでなく、社会人としてのコミュニケーションスキルが深まると思います。 ・実技に関する実習を増やしてほしいです。
現状分析	座学から演習・実験等の時間数・単位数の重点化を求める声は非常に大きく、カリキュラム内容の全般的な見直しが必要になると考えられます。 しかし、こうした座学から演習などへの変更は大学の単独の判断で可能なのかどうかの疑問が残るとともに、基礎研究や理論研究をすることも大学が担う大きな役割です。その他、演習や実験に必要なスタッフや予算等の不足をどう補うかは非常に問題となると思われれます。



4. 項目別提言

学生の意見	早期の専門教育への要望 (7名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次にも少しは専門科目を入れていいと思います。私が1年生の時は有意義な一年と思えませんでした。 ・ 学生は自分が入った分野の勉強をしたいと思い、その学部に入学したのだから、学部生(1～2年次)までの間により多くの専門的な講義を聴けると学習意欲がわくのではないのでしょうか？
現状分析	<p>1年生の内からの専門科目の履修を望む声が多数寄せられています。</p> <p>図 4.1-1 の選択式アンケートの結果でも、「早期からの類に応じた専門科目履修の推奨が学習のモチベーションを高める」と多くの人と考えています。前回の調査と同様の傾向が引き続き示されており、検討されることが望ましいと思われます。</p>
提言	<p>本学では、理工系基礎、理工系広域、基礎専門という形で、理系科目のすみわけを行い、それぞれ卒業に必要な単位が課せられています。</p> <p>早期専門教育を実現するために、これらのカテゴリーの統廃合や、それぞれの卒業に必要な単位数の変更などが考えられます。</p>

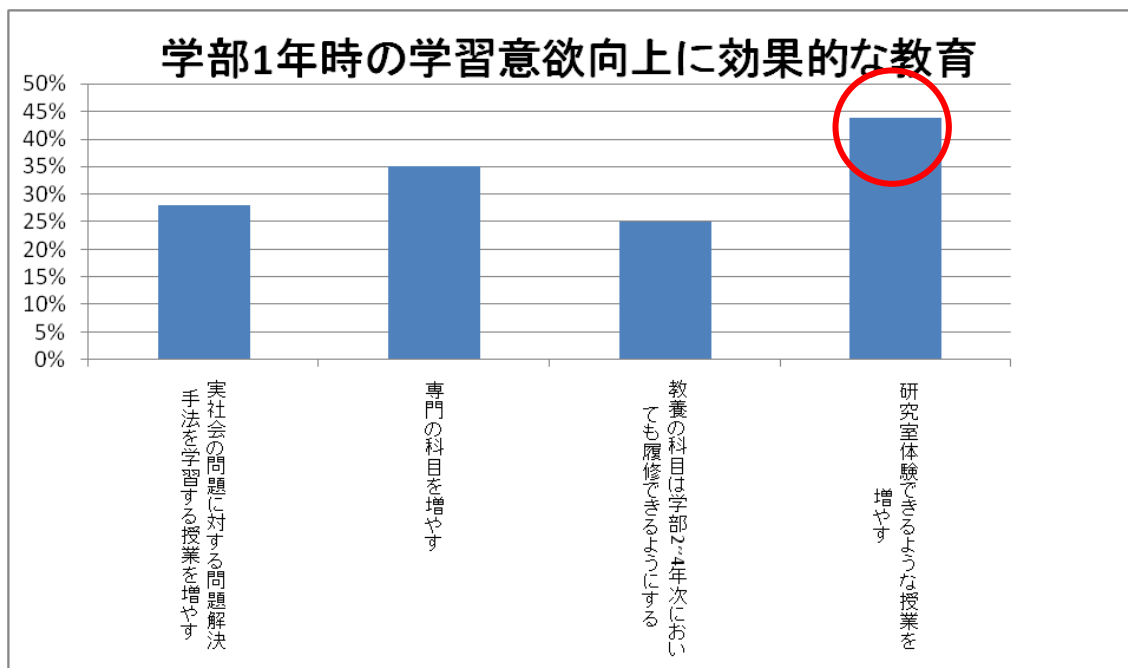


図 4.1-1 学部1年時の学習意欲向上に効果的な教育



学生の意見	専門教育と幅広い視野 (17名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科制を緩和するべきだと思います。自分が所属する学科の単位にしばられることで、幅広い専門性を身につけられない状況であるように思われます。 ・ 他学科授業や四大学連合協定校の授業にカリキュラム的にもっと参加しやすくしてほしいです。もちろん個人の努力も必要ですが。
現状分析	<p>多くの学生が、自身の所属する学科の専門科目の履修に手一杯になり、興味のあるほかの学科の授業、あるいは四大学連合のコース履修がしにくい状況であると感じています。</p> <p>しかし、現在の必修と定められている科目はある学科の専門性を養う上で、重要度の高い科目が指定されていると考えられ、専門性を身に着ける教育カリキュラムの脆弱化を招く恐れがあり、自身の専門とのバランスに配慮しなければならないと考えられます。</p>
提言	こうした問題に対処するには、学科の必修を撤廃する、多学科の専門科目を一定単位数取得することを卒業案件に入れる、などの手段が考えられますが、前述のように自身の専門とのバランスに配慮する必要があります。

学生の意見	必修科目と自由選択科目 (12名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目がほとんど固定されていないから、自由で良いです。理工系基礎科目の、卒業資格に使える単位が決まっているので、1年生で単位を多くとっておくことができないのも良いと思います。楽はできないが自分達の為になります。 ・ もう少し履修の幅が存在すると良いと思います。現在のカリキュラムは制限が大きいです。 ・ 1年次から講義の選択範囲がもっと広い方がいいです。専門科目を増やしてほしいです。
現状分析	<p>一部の学生は自由選択の幅が十分にあると考えていましたが、大多数の人が、現在のカリキュラムにはあまり選択の余地がないと考えています。</p> <p>理工系大学である以上、専門知識を蓄える必修科目と、実験・実習科目とにより、時間割の多くは埋められてしまいます。自由選択の余地を広げるとなると、必修科目の縮小や、準必修への格下げといった学科ごとの改編のほかに、自由選択の枠としての他学科・文系科目などと時間割の互換性を持たせる必要があります。全学的なカリキュラム構成の大規模な見直しが必要となります。当然ながら、偏った履修による卒業を防ぐために、専門科目と教養科目のバランスを考慮する必要もあります。</p> <p>カリキュラムを見直す場合、大規模かつ慎重に検討する必要があります。</p>



4. 項目別提言

4.1.1.4 授業の実態と実施に関して

学生の意見	授業間の連携の欠如（15名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・必修の科目の中で重複する内容に長い時間を割いたり、逆に「これは別の講義で習っているだろう」と思いこんで重要な事項を省略したりされる場合があります、問題だと思います。・理工系基礎の内容と専門科目の初歩で内容がかなり被ることがあるので（特に数学系）このあたりをなんとかするべきです。・同一科目を別教員が担当している場合に内容、評価の格差が大きかったり、シラバスの内容と実際の授業の内容に差があったりする場合があります。・一年時の物理学の講義で、講義と演習の授業の内容が全くリンクしておらずTAの方もそのことを把握していなかったように見えました。演習科目などは授業内容に沿う形で行うべきだと思うのでそういう部分は改善してほしいです。
現状分析	<p>授業実施者同士の連携不足による、内容の重複、あるいは欠落が起きている。また同一科目の講師の違いによる、学生の理解度や成績の差などが指摘されています。</p> <p>他にも、実験と講義の内容のリンクが行われていない、行われているとしても、学生の理解度や学習進度への配慮が足りておらず、教える順番が逆などの意見も寄せられています。</p> <p>大学の法人化以降、研究室の経済的・人事的マネジメントに多くの時間を費やしている先生方も多いという話が聞かれます。先生方の意識の中でも、学部教育の優先順位の低くなっているのかもしれない。</p> <p>こうした問題への対策として、教員間でミーティング等を行う他、授業用の台本（いわゆる授業案）の共有などがあり、仮に問題が起こったとしても、各講義後にアンケートを取るなどして学生からのフィードバックを行えば防げる問題と考えられます。</p> <p>また類所属時の理工系基礎科目も含めて、学士課程時の講義内容が前後・重複することのない、1つの流れになったカリキュラムになるよう、学科ごとに全講義内容の見直しをすることも効果的と考えられます。</p>



学生の意見	教員の指導力、やる気、授業の質に対する批判的意見（24名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ I feel that most of the classes taught in English are not fully prepared. ・ 授業をやる気のない教官がいて、こっちのモチベーションまで下がってしまう事が問題と思います。今年からこの学校に入学しましたが、以前いた学校では、そんな教官は皆無であったので、この事態は異常です。また、その事を当たり前と考えている学生ばかりで驚きました。授業がこれでは、とてもではないが世界の10指の大学になれるとは思えません。教官の授業への意識改革が必要だと切に感じます。 ・ TAの指導する授業の質が低いです。また魅力的な授業をする教授が少なく、生徒のフォローが少ない。学習アドバイスなどの質も低いです。
現状分析	<p>講師の教育者としての指導力に疑問を呈する声は多数ありました。こうした問題に対処すべく、授業アンケートが実施され、教育工学開発センターで集計と教員向けのフィードバックがされていると考えられます。ですが、こうした声が多数あるところを見ると、フィードバックが次年度の授業に活かされていないのではないかと考えられます。</p> <p>実際に数値データに基づいた報酬アップや業務改善命令を出すことは論理的には可能と考えられますが、学内の教員に対してこうした待遇の差を出すことが非常に難しいと考えられるとともに、そうした成果主義的システムが教育の向上につながるかどうかとも疑問が残ります。</p> <p>ですが、こうした学生からのフィードバックが授業の改善へと明確に生かされるシステムが必要なことには変わりありません。</p> <p>(参考 http://hyoka.cradle.titech.ac.jp/)</p>

4.1.1.5 カリキュラムと教務の諸制度に関して

学生の意見	キャンパスの地理的な要因の関わる問題（7名）
具体的内容	<p>授業間隔がもう少しあってもいいかも知れません。大岡山キャンパスだと緑ヶ丘地区や石川台地区を往復するのは10分では大変です。南6号館と西9号館を行き来するだけでもぎりぎりです（同意見多数）</p> <p>3年になったらすずかけキャンパスでも英語と文系が受けられるようにしてほしい。</p>
現状分析	<p>授業の取り方によって、キャンパス内の移動が大変になることがあるようです。特に7類は大岡山とすずかけ台を往復する必要があるため、このような意見はとくに顕著です。</p> <p>他学年や他学科の授業や再履修となると、これは個人の責任になると考えられます。しかしながら、少なくとも大学が推奨する時間割の範囲内では移動が大変になるようなことのないように、時間割と講義室の編成、あるいは授業間隔をもう少しとるようにする等の改善が必要ではないでしょうか。</p>
提言	<p>5学期以降の英語の授業は、すずかけ台でも開講をお願いします。</p> <p>また5学期以降の文系科目については、衛星システムを利用して、いくつかずかけ台でも受講出来るような体制が可能ではないでしょうか。</p>



4. 項目別提言

学生の意見	時間割の見直し (18名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ授業を週に2コマ(違う時間帯)設置し、好きなほうを選んで出席出来ると多くの人が時間を有効に使えたいと思います。 ・語学などの必須科目を、月曜日の早朝などに持ってくると(本人の責任ではあるのだが)それが原因で取りこぼす人が出てくるのを憂慮する。カリキュラムについての説明が足りないことがある。たとえば、語学の履修制度が変更になり、入学年度によって従うべき制度が異なることなど。進学可否に関わるような注意点は、特に声を大にして忠告して頂ければ幸い。
現状分析	<p>「1コマ目の授業がづらい」という意見と、「取りこぼしがないように2,3コマ目や水曜午後に持ってきてはどうか」という意見が見られました。時間割については、さまざまな要因を考慮して決められていることと思います。「本人の責任だ」と言ってしまうのは簡単ですが、それでも出来るだけ取りこぼしを少なくする時間割の引き続きの考慮をお願いします。</p>

学生の意見	単位の考慮 (21名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実験科目が労力の割に単位が少ない。 ・申告単位数が60単位だと、取りたい授業が取れない。せめて65くらいにしてもらいたいです。
現状分析	<p>主に「実験系の単位数が少ない」という意見と、「単位の申告上限を増やしてほしい」という意見が見られました。実験の単位数がどのように決められているのかによりますが、学科によらず実験の単位は時間がかかる割に少ないと感じる学生は多いようです。</p> <p>単位数の申告上限についても、やはりどのような根拠に基づくのかによりますが、もっと授業を取りたいという意欲的な学生もおり、それを阻害していることが分かります。</p>

学生の意見	成績評価・単位認定の基準の明確化 (17名)
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学部時代、一部では試験のみで成績をつける講義があったが、試験のときのみ詰め込み勉強をし、結局学習内容が身になっていないことがあったので、どの講義も毎回出席をつけて成績をつけるようにすればいいと思う。 ・もっと厳しくすべき。最近、単位認定が甘すぎ。 ・成績の付け方試験結果等をなるべく公表してくれるとありがたい。
現状分析	<p>成績評価や単位の認定に不満を持つ学生が多いようです。とはいえ、大学側も出来るだけ成績評価を平等にしようと努力されていると思います。</p> <p>来年度から単位申告と成績閲覧が電子化されることなので、この要望には比較的すぐに対応できそうだと考えられます。しかしながら、学生が満足と感じるような制度になるには、ある程度の時間がかかることも考えられるので、引き続き成績評価や単位認定の情報公開について検討していくことを提言します。</p>



学生の意見	進級・学科所属の基準の明確化（12名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コース分けで、「単位取得全科目の平均点」の順位で決めるのはおかしい。多く科目をとると分母が多くなり平均点が下がるから。また、楽な授業にばかり効率よく履修したり、少ない単位でも平均点が高ければ好きな学科に行けるのは不公平。「単位取得科目の中から上位何科目の平均」などとするほうが良い。 ・学科所属の時の単位基準はもう少し厳しくても良い気はします。 ・学部二年から三年への進級時にもハードルを設けてはどうか。 ・学部一年から二年と三年から四年はハードルがあるが、二年から三年はハードルが無く、その間単位を取らずに、三年で慌てて単位を取るが間に合わず四年になれない知り合いが多い。
現状分析	<p>進級や学科所属について不満を持つ学生が見られます。関連して、先述のように同一科目でも講師により成績付けに差があるという問題もあります。これに対しては学生の意見を取り入れ、納得のいく制度を作る必要があるかと思えます。</p> <p>また、2年時から3年時への進級の際にもハードルを設けるかどうか、学生の意見に耳を傾ける必要もあるかもしれません。</p>

学生の意見	情報公開の明確化（77名）
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初回講義受講前に掲示板に張り紙がしてあることがあるが、他専攻科目だとそもそもその掲示板のある場所にほとんど行かないため全く気づけない。ネットにアップという方法も講師のやる気しだいなので、何か他のいい手があるといいのですが・・・。 ・成績管理システムが電子化されているので、単位数を数えたり、学生に警告する仕組みが欲しい。 ・学務部ホームページに時間割が掲載されていない！学務部と教務課のホームページの表示がとても単調で、どこに何の情報があるのか分かりません。「シラバス」と「学生便覧」とだけ表示されて、その違いがすぐに分かる人はなかなかいないと思います。特に「この情報が今すぐほしい」というニーズに対しては案内の情報がないので、さらに不親切で使いにくく思います。教務課のトップページの項目は、時間割、試験日程などは一番上に強調表示とし、履修登録他専攻の授業が受けやすく、単位として認められることはいいと思う。録関係、申請関係、大学院関係と、書類の枠組みに限定されることなく、テーマ別に分類してほしいです。
現状分析	<p>これに関しては「2. 学生・大学間のコミュニケーション」にて詳しく述べてありますが、「学生への迅速かつ確実な情報伝達」と「学生からの意見の取り込み」が不十分であるという結果です。コミュニケーションを活性化させ、改善を求めます。</p>



4. 項目別提言

4.1.2 大学院

この節では、大学院に関する意見と、現状分析を掲載します。

4.1.2.1 大学院における授業の意義と実施に関して

学生の意見	大学院授業の廃止論・強化論
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・修士1年の必修科目が多すぎる。研究するための時間がなくなるから、減らしてほしい。先生（開講年次）によって必修科目の課題の量が違うのはいかがなものか。10月入学の人のことを考えていないカリキュラムだと思う。（就職活動と必修授業の板挟みになる）・大学院の講義はあまりにも意味のない講義が多すぎる。先生の趣味でしゃべっていたり、内容が無く、卒業後全く意味がないものが多い。その結果、学生も卒業要件以上の単位を取得するインセンティブをもてない。アメリカの大学院のように、もっと演習などを行い、専門的であるが後のキャリアで有用に使える内容を講義すべきだと思う。他専攻の講義もかなり受講したが、機械系ほどこの傾向が強いように思いうける。研究中心という姿勢もわかるが、教師陣の講義に対するやる気のなさは改善すべきだと思う。・自分の学科では修論に関係の無い必修過程（授業）があること、更にその授業内容が学部又は過去のプリントの全くの使いまわしで教育者によっては教えるつもりさえ無い態度に不満を感じる。
現状分析	<p>大学院の卒業のために法律上の要件を満たすために、一定の単位認定をしなくてはならないと考えられますが、授業の存在自体が研究に支障をきたしている、との意見が寄せられた中では多数を占めました。</p> <p>専攻により、カリキュラムの忙しさは異なっているようですので、もし研究・就職活動などに影響が出ている場合には、カリキュラムの見直しを検討した方がよいかと思われます。</p> <p>また少数派ではありますが、大学院の授業をより高度なものとしてほしいという意見もあり、現状の授業に対しては、学部授業との内容の重複など、実質的に機能していない授業が多数あるとの指摘もあり、もし大学院教育というものの質の向上を図るのであれば、抜本的な見直しが要求されると考えられます。</p> <p>以上のように、学生と教員間のコミュニケーションを活性化させ、学生のニーズに合ったカリキュラムを模索する必要があるかと思われます。</p>



4.1.2.2 大学院教育の諸制度について

学生の意見	大学院の授業の開講科目、時間割など
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の講義で、奇数年や偶数年にのみ実施する講義があり、受けたいけど実施していないことがある。教員の数など事情はあるかもしれないが、毎年一定の講義を実施して欲しい。 ・専門職学位以外の専攻でも、夕方・夜の講義を増やして頂きたい。当方社会人ですが、積極的に参加したいし、当方の持っているモノ・コトを積極的に他学生の学習に活用していただければと思います。せっかくあるダイバーシティを活用しない手はないと思います。
現状分析	<p>一番多かったのは、奇数年、偶数年開講のシステムに対する不満でした。このシステムは大学院での卒業必要単位数と、それに伴う授業の適正な開講数に連動する問題と考えられ、単独での解決は難しいかもしれませんが、検討する余地があります。</p> <p>大学院に関しては、数名の社会人学生の方からの意見もあり、大学側の事務・教育、両面での受け入れ体制の不備を指摘する声がありました。社会人学生数はまだそれほど多くありませんが、多様化する就学形態や今後の社会における大学の位置づけを考えると、社会人学生のニーズには極力対応していくことが望ましいと考えられます。またその声を常時拾えるようなシステムの構築も不可欠であると考えられます。</p>
学生の意見	成績・進級・卒業について
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文の審査を厳格にすべき。いい加減にやっても卒業出来るので、マジメにやっている人がバカみたい。 ・研究活動(フィールドワークを含む)を単位として認めて欲しい。講義が自分の研究に結びつくわけではないので、時間の無駄を省きたい
現状分析	<p>学部でも同様の意見があったが、単位認定や卒業に関して厳格化すべきとの意見がありました。</p> <p>また一部の非実験系の学生からは、フィールドワークに関する単位認定の要望がありました。単位認定に関してはシビアな問題ですが、柔軟に検討されることが望ましいと考えられます。</p>



4. 項目別提言

4.1.2.3 研究および研究室に関して

学生の意見	研究室の指導者としての教員、職員について
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・教授の言動や行動を、制御して管理して頂きたいです。精神的に多くの学生が病んでいます。企業ならば許されない状態や環境が日常的に続いています。安心して研究出来る環境を整えて頂きたいです。・先生方には研究機関であると同時に、教育機関であるということも自覚して欲しい。
現状分析	教員の資質を問う声が多数寄せられました。早急に対応が必要な問題ですが、非常にデリケートな問題ですので非常に慎重に臨むべきと考えられます。

学生の意見	施設予算など
具体的内容	研究費、研究設備の拡充。
現状分析	一層の施設の拡充を求める声があります。



4.2 附属図書館関係

ここでは附属図書館に寄せられた意見と、関連する定量的データから、以下の6項目に分けて提言を述べていきます

- | | | |
|------------|----|---------------------|
| ・ 図書館サポーター | …… | 学生による附属図書館のサポートに関して |
| ・ 蔵書関係 | …… | 附属図書館内の蔵書面に関して |
| ・ 施設関係 | …… | 附属図書館内の施設・設備面に関して |
| ・ 飲食関係 | …… | 図書館内での飲食について |

なお、新図書館と関連性が高いと考えられる意見は、そちらの方に記載させて頂きました。また、特に明記しない限り、各提言は大岡山本館とすずかけ台分館の両方への提言となっています。ここでは、特に意見が多かったものや、改善案が考えられるものを記載してあります。それ以外の質問に関しては、図書館ホームページの「よくある質問 (FAQ)」(<http://topics.libra.titech.ac.jp/cgi-bin/dep/extra/index.cgi>)にも詳しく説明がされていますので、ご参照ください。

4.2.1 図書館サポーター

提言概要

今回の附属図書館に関する提言の中で、この『図書館サポーターの設置』を特に重要度の高いものとして提言します。図書館サポーターは、学生が附属図書館業務の一部を担当・協力する制度です。担当する業務として、以下の様なものが考えられます。

- ・ 図書の選定への参加
- ・ 附属図書館広報活動への参加
- ・ その他、附属図書館への学生視点での意見取り込み

これにより、附属図書館の業務に学生の意見を取り入れることで、現在生じている学生と附属図書館との間の様々な認識のずれの克服を目指します。



4. 項目別提言

学生の意見

今回の調査で附属図書館に関する自由記述に寄せられた意見として、図書館サポーターに
関係するものを表 4.2.1-1,2 を取り上げます。

表 4.2.1-1 附属図書館蔵書の充実に関する自由記述

学生の意見	蔵書の充実
具体的内容	蔵書関係の自由記述：219 件（※複数回答含む） (内、何らか形で蔵書を増やしてほしいという意見 215 件)
	以下、内訳
	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく蔵書を増やしてほしい 17 件 ・文学作品・実用書をもっと増やしてほしい 83 件 (内、ペリパトス文庫を増やしてほしい 5 件) ・雑誌を増やしてほしい(研究雑誌ではない) 5 件 ・入門書・参考書・教科書を増やしてほしい 8 件 ・文系学科の専門書を増やしてほしい 26 件 (人文学・経済学・社会学・法学・心理学 etc.) ・英語の本を入れてほしい 5 件 ・最新の本を入れてほしい 18 件 ・電子ジャーナル・オンライン図書の充実 14 件 ・論文・研究のための文献・専門書の充実 25 件 ・すずかけ図書館の図書の充実 14 件 ・その他蔵書への意見 4 件
	また、蔵書の充実に関するすべての自由記述は、リクエストの参考意見として附属図書館にお渡ししました。

表 4.2.1-2 附属図書館オンライン・サービス利用に関する自由記述

学生の意見	オンライン・サービス関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学内のみアクセス出来るサービスを学外からも利用可能にしてほしい。 (例：貸出延長・図書予約・オンライン・サービス開始申込) ・不具合が生じることが起こる。 ・利用システムやオンライン・サービスの利用説明を充実させてほしい。

現状分析

「学生の意見」で示した学生から寄せられた意見に関して、附属図書館のホームページと、附属図書館の職員の方々とのキャンパス・ミーティングにより分かった現在の状況について述べていきます。

○蔵書に関して

まず蔵書に関して、表 4.2.1-1 から分かりますように、学生からは際限なく「広く・深く」要望が寄せられていますが、**図書館の物理的空間は有限であり、すべての要望を実現させることは不可能**と考えられます。また、附属図書館ホームページには図書の選定に関して、次の様に説明されています。



図書を購入するための予算には限りがございます。
 理工系の専門大学ということもあり、自然科学・工学系、社会科学系の教科書、専門書を優先して充実を図っております。
 そのため、1000円程度の図書や個人で使うのにふさわしい試験問題集、実用書、また書店や公共図書館で気軽に手に入る小説などはご遠慮いただいております。
 (出典：<http://topics.libra.titech.ac.jp/cgi-bin/dep/extra/index.cgi>)
 (詳細：<http://www.libra.titech.ac.jp/sensyo.html>)

教科書や参考図書といった講義関係の図書については、教員との連携体制が取れており、講義の受講人数により所蔵する冊数も増減させています。また図書選定に関して教員への希望調査を年2回実施しています。ただし、レポートの課題図書など急に需要が高まった図書に関してはすぐに対応することが難しいという現状があります。

学生からの図書の希望の取り入れに関してはリクエスト・サービスが存在しています。(参照：<https://topics.libra.titech.ac.jp/portal/index.php>)ただし、図4.2.1-1からも分かりますように、**図書のリクエスト・サービスの利用度・認知度が低い**ことが分かります。図書のリクエスト・サービスの利用数は年200～300件に限られるということです。また、図書1冊1冊の要望の取り入れに関しては、学生と附属図書館との間にルートが存在していますが、「学生にとって本当に必要としているのは、こういった分野の本なのか」といった、**図書の分野など、大きな分類での要望の取り入れのルートは確立していない**のが現状となっています。

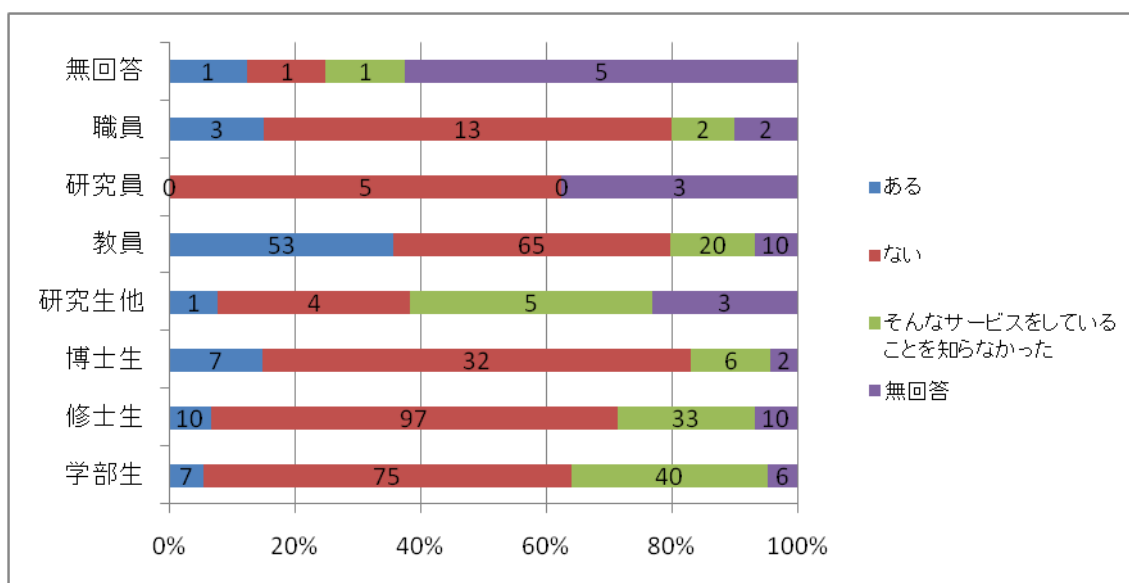


図 4.2.1-1 附属図書館オンライン・リクエスト・サービスの利用度・認知度
 (出典：<http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)



4. 項目別提言

次に、附属図書館のオンライン・サービスについて、要望に出されたオンライン・サービスのうち、いくつかはすでに実現されています。東京工業大学ポータルページ、及び附属図書館ホームページから TDL オンライン・リクエストを利用することで、学外からでも図書の貸出延長（但し1回に限る）・予約、グループ学習室の予約などが可能となっています。（参照：https://topics.libra.titech.ac.jp/portal/user.php?plang=jpn）

これに関して図 4.2.1-1 を見てみますと、TDL オンライン・リクエスト・サービスの利用度・認知度が分かります。これは図書館 HP での PR が不足しているためと考えられます。

この様に、オンラインでのサービスが既に存在しているにも関わらず、利用度・認知度が低いことは、**サービスの周知方法などに原因がある**と考えられます。具体的には、附属図書館ホームページ（参照：図 4.2.1-2）の階層構造やレイアウトが複雑であるため、どこに求める情報があるのか、またオンライン上でどういったサービスが受けられるのかが利用者に伝わりにくいことや、附属図書館内でのオンライン・サービスの広報不足などが挙げられます。

図 4.2.1-2 附属図書館ホームページ

以上の様な現状を踏まえますと、**問題の原因は学生と附属図書館との間のコミュニケーション不足にある**と考えられます。これを円滑化するために、附属図書館の業務に主な利用者である学生の声を取り入れる仕組みを設置してはどうかと考えました。その1つとして、「**図書館サポーターの設置**」を提言致します。



具体的提言

学生により附属図書館業務の補助を行う「図書館サポーター」を設置し、主な利用者である学生視点の意見を附属図書館に取り込む仕組みを設置することを提言します。具体的には以下のようなものが考えられます。

○図書の選定への参加

附属図書館において、具体的にどのような種類・分野の図書を充実させて欲しいか、図書館サポーターを中心に学生の意見をまとめます。その後、附属図書館側とも話し合わせて頂き、以後の図書の選定方針に学生からの意見としての参考にして貰います。

また、今回の調査で小説などの希望数が多かったのを受けて、そういった図書が今後本当に必要かどうか、学勢調査などを通じて再調査を行うことも考えられます。

○附属図書館広報活動への参加

附属図書館ホームページ改善のために、利用者の視点を取り入れる活動を行います。「学生は何の情報を探しているのか」「学生にとってより意味のある情報は何か」といった情報の内容や、「その情報をどのページで伝えるのか」「効果的なレイアウトはどのようなものか」といった情報の伝達方法を利用者ベースに分析し、図書館に提案します。その他、図書館内での各サービスの周知方法を学生視点で提案します。

これにより、図書館全体のサービスの認知度・利用度を高めることにより、学生にとっての実質的なサービス充実度の向上を目指します。

○その他、附属図書館への学生視点での意見の取り込み

後述の学生からの各意見にもありますように、注意喚起など附属図書館から学生への周知が不十分であったり、設置して欲しい設備など学生のニーズを附属図書館が見落とししたりしている点が見受けられます。そういったギャップを小さくするために、学生からの意見を図書館側に伝える役割を担います。



4. 項目別提言

4.2.2 蔵書関係

学生の意見	図書・電子ジャーナルの充実
具体的内容	何らかの形で蔵書を増やしてほしいという意見 215件 (4.2.1 図書館サポーターにて内訳を記載しましたので省略致します。)
現状分析	4.2.1 図書館サポーターにて記載したとおり、選書の方針や予算の関係などからすべての要望を聞き入れることは難しいです。 リクエスト・サービスなど、学生の意見を取り入れるルートは存在していますが、活用度が低いのが現状となっています。 また、電子ジャーナルにてエラーが発生するという意見に対しては、ジャーナルの期限切れやサーバー・エラー等が考えられますので、直接職員の方に報告してもらおうか、附属図書館ホームページの「Ask サービス」(参照： http://topics.libra.titech.ac.jp/cgi-bin/request/ask/ask.cgi) に連絡頂ければ対応して頂けるということです。 すずかけ台分館については、大岡山本館で保有している蔵書は附属図書館ホームページから取り寄せることができ、すぐに対応して頂けるということです。
提言	「図書館サポーター」を設置し、選書に学生の意見を直接取り入れたり、サービスの活用度を上げるために広報活動への学生視点の提案を行ったりします。詳細は「4.2.1 図書館サポーター」を御覧下さい。

学生の意見	蔵書の整理
具体的内容	・古すぎて、傷んでしまった本への補修などの対応をお願いします。 ・図書館側に訴えるべきことではないが、図書への書き込み、汚しが非常に目立つことを憂慮する。
現状分析	図書の買い替え・補修は定期的に行っていますが、大学の予算で購入している図書は安易に破棄できないという理由があります。 図書への書き込み防止は、学生のモラル・マナーの問題と考えられます。
提言	他パートでもいくつか出ていますが、学生のモラル・マナー意識の向上が必要と考えられます。



4.2.3 施設関係

学生の意見	空調関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の中が暑すぎる事が多く、空調機能を充実させてほしい。 (「寒い」という意見よりも、「暑い」という意見が圧倒的に多いです) ・ 空気が乾燥していて、ノドと鼻がカラカラになってつらいです。 ・ 空気がこもっていると感ずることがしばしばあるので改善してほしい。 ・ 節電警報などのときに、図書館だけ空調を切るのはおかしい。 (これらには82件の同様の意見が寄せられました。)
現状分析	<p>附属図書館 HP に以下の様に記載されています。</p> <p>空調に関しては2つ問題点があります。</p> <p>(1) 図書館の建物が築30年を超えており、空調設備も老朽化しています。建物全体をじんわりと冷やすといった仕組みですので、状況にあわせて冷房の強弱を調節し、すぐに室温を調整することが難しい設備になっています。</p> <p>(2) 電力会社と大学との電力契約は年間を通して一定です。夏は大学全体で冷房稼働しますので消費電力がピークを迎えるのですが、ピークにあわせて電力契約を行うことはできないようです。そのため、消費電力が契約電力を超えそうになると、全学的な冷房停止によりそれを抑えるということが行われます。図書館の閲覧室も例外扱いされておりません。</p> <p>皆様に少しでもよい環境でご利用して頂きたく、施設面の対策や冷房停止措置に対する扱い等大学に対する働きかけを行っておるところではありますが、現状としてはこのような状況です。どうぞご了承ください。 (出典：http://topics.libra.titech.ac.jp/cgi-bin/dep/extra/index.cgi)</p> <p>この様に、館内空調設備の老朽化のため、調節が難しいようです。また節電警報についてですが、これはほぼ全学的に警報時は空調の電源を切るというルールになっています。図書館職員の方も空調に関して憂慮されていますが、節電警報時の電源オフが徹底されていない講義室・学生室等がある中で、学生の要望を通すことは難しいと考えられます。</p>
提言	<p>空調に関しては大変憂慮することですが、来年に新図書館完成を控えていることもあり、現図書館での対策は見送ることになります。</p> <p>また、節電警報時の空調電源オフの徹底など、学生のモラル・マナーの向上の必要があると考えられます。</p>



4. 項目別提言

学生の意見	自習スペース
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・適度に集中出来る環境を整備・増設してほしい。 ・研究学生と学部生の席を分離するか、別のフロアにして欲しい。 (騒がしい学部生がいて、集中できないようです。) (これらには29件の同様の意見が寄せられました。)
現状分析	図 4.2.3-1 を見ると分かるように、現在の個人席数に関しては、高い満足度が示されています。
提言	職員の方にも気を払って下さっていますが、どうしても騒がしい学生を見落としてしまうこともあるということです。そのような場合は、職員の方に一言報告して頂ければ、対応頂けるということです。

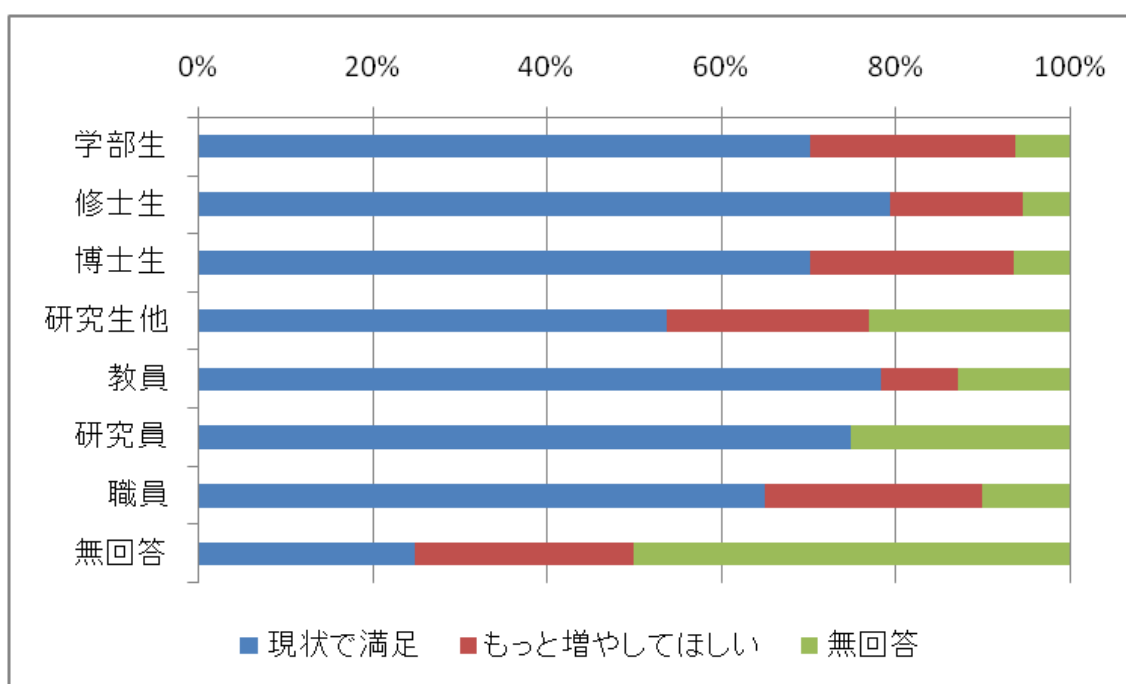


図 4.2.3-1 利用者別一人用座席の満足度

(出典 : <http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)



学生の意見	無線 LAN・電源コンセント関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内の無線 LAN の接続が時々悪くなるので、改善を希望します。 ・百年記念館や1食側の窓際の席では PC から Web アクセスする際に電波が弱すぎるので、無線 LAN の設置場所・数・方向などを改善してほしい。(これには16件の同様の意見が寄せられました。) ・リフレッシュ・ルームのコンセントが少ない。 ・インターネットと文献資料を並行して作業する際に、4人用机に電源コンセントが欲しい。
現状分析	<p>図 4.2.3-2,3 を見ると分かるように、無線 LAN・電源コンセントに関しては比較的高い満足度を示していますが、不満に思っている方もいらっしゃるようです。現在の無線 LAN・電源コンセント利用可能エリアは、図 4.2.3-4 の通りです。</p> <p>現在の無線 LAN・電源コンセントのエリアの割り当てに関する附属図書館側の意図は、騒音対策のために敢えてエリアを限定しているということです。PC のキーボードのタッチ音は、静かな図書館ではときに大きな騒音となるため、静粛な環境を維持するための配慮ということでした。ですが、学生への認知が不十分であったため、今後対応して頂けるということです。</p> <p>なお、新図書館は全席に電源コンセントを設置予定ということです。</p>
提言	無線 LAN エリアを限定している理由の学生への認知と、館内へのエリアの明記をお願いします。

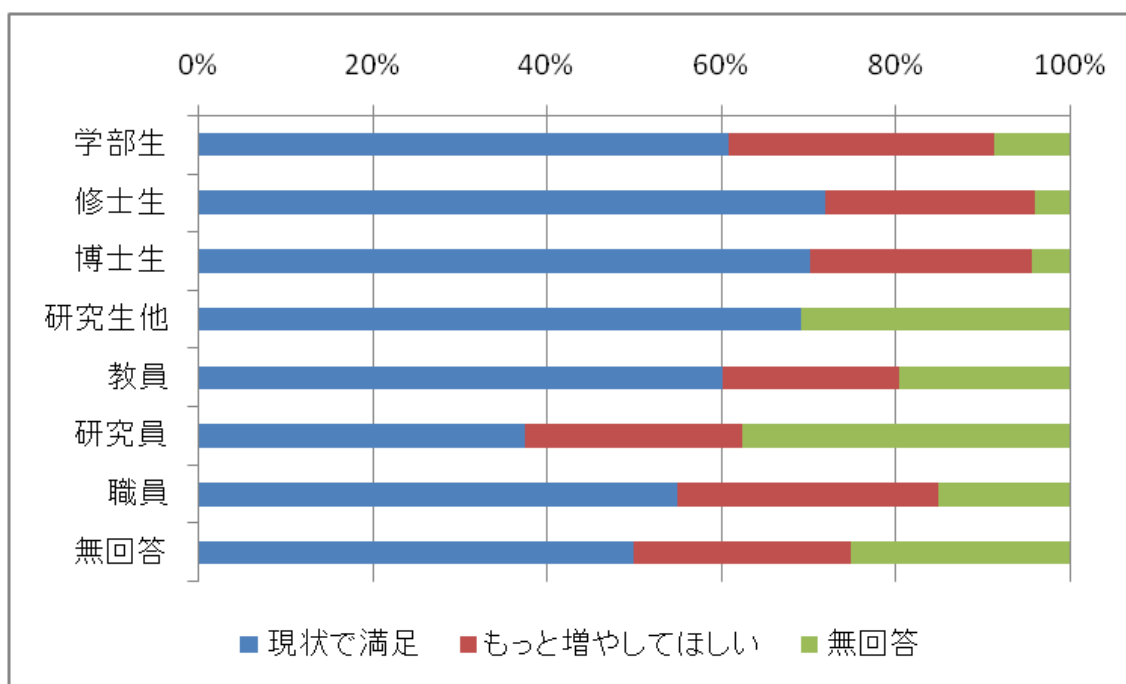


図 4.2.3-2 附属図書館内無線 LAN エリアへの満足度

(出典 : <http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)

4. 項目別提言

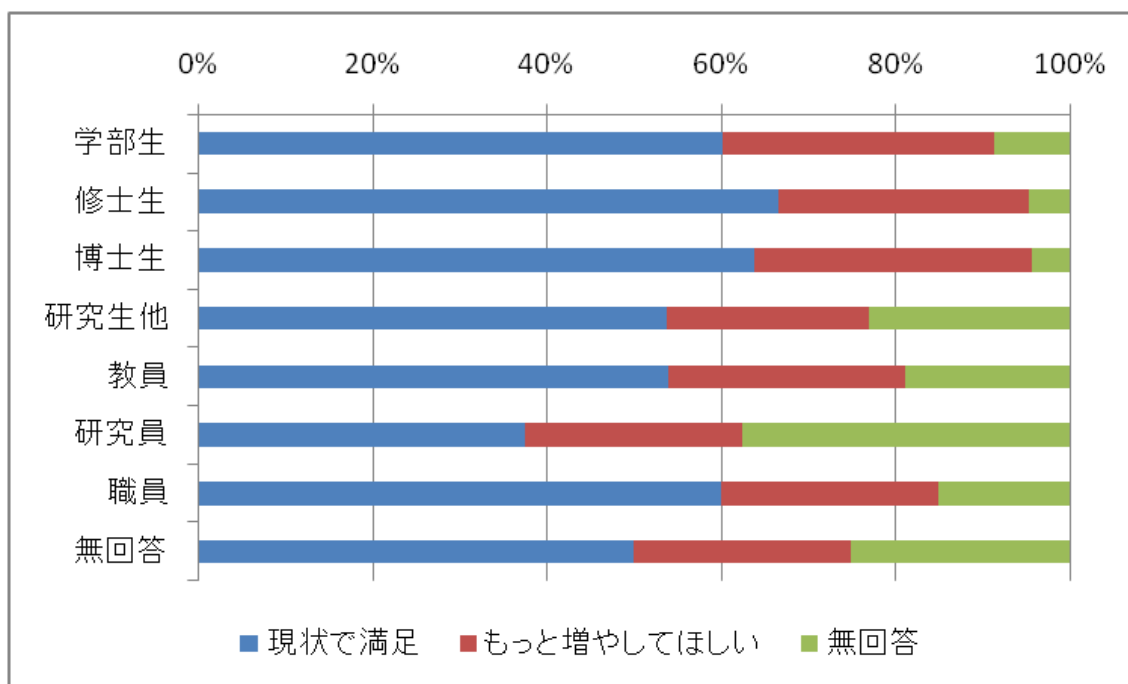


図 4.2.3-3 附属図書館内電源コンセントへの満足度

(出典 : <http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)



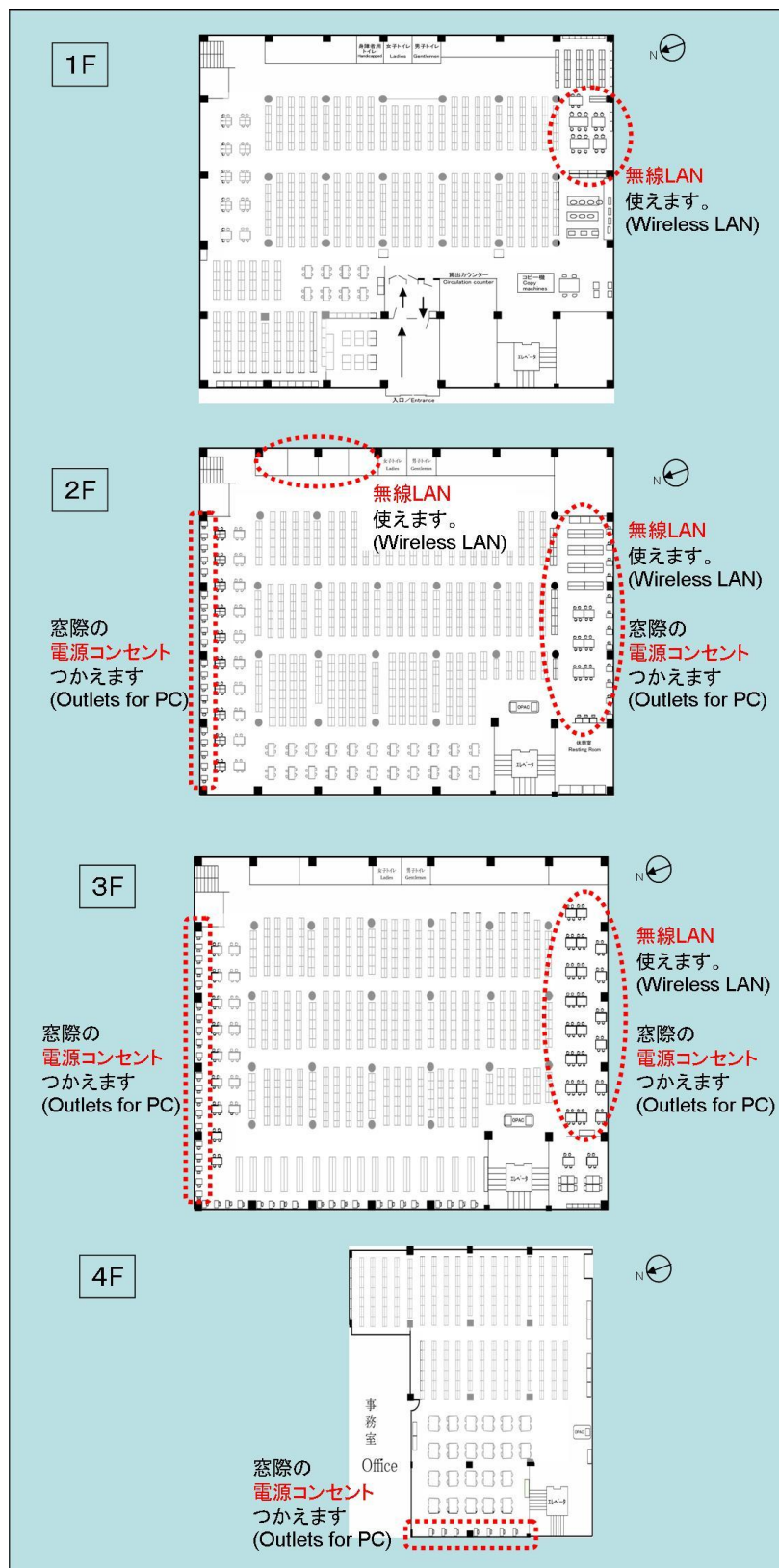


図 4.2.3-4 附属図書館内無線 LAN・電源コンセントエリア
 (出典 : <http://www.libra.titech.ac.jp/jpeg/pcmap.jpg>)



4. 項目別提言

学生の意見	OPAC 関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ OPAC の検索精度が低い。専門外の分野の文献だと見つけにくいいため、分類をもう少し細かくするなどの措置をとってほしい。 ・ 図書の内容で検索が出来るようにしてほしい。 ・ 書籍の場所まで検索結果に表示してほしい。 ・ 学生証を取り出さなくても、検索が出来るようにしてほしい。 ・ OPAC を各階で使えるようにしてほしい。
現状分析	<p>図 4.2.3-5 を見ても分かるように、大変多くの方が OPAC を利用していることが分かります。OPAC は新着図書ごとに随時更新されているということです。OPAC の精度向上には予算的な面もあり、すべての要望を聞き入れることは難しいと考えられます。インターネットと併用して図書検索することも一つの方法に挙げられます。</p> <p>また、認証を必要としない OPAC 用端末は、1階が1台、2・3階が2台、4階に1台に設置されています。1階は情報探索用の Windows 端末で兼用できますが、これには認証が必要です。</p>
提言	OPAC の充実のために、図書館サポーターによる学生視点の提案を行うことが、一つの方法と考えられます。

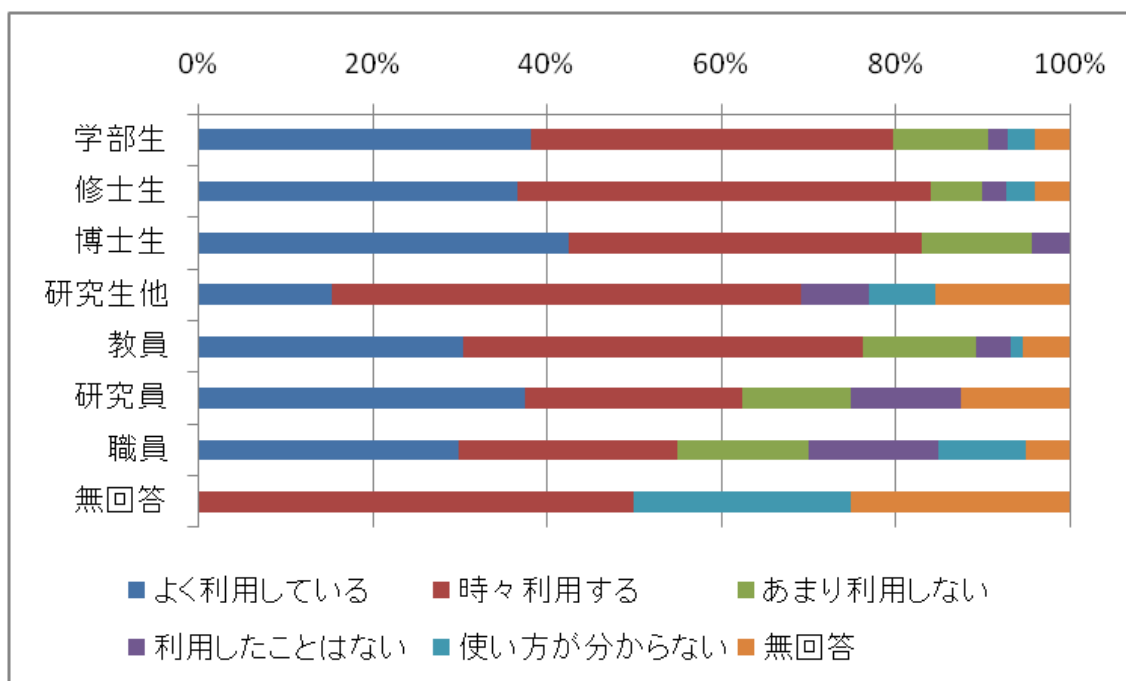


図 4.2.3-5 附属図書館 OPAC の利用度

(出典 : <http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)



学生の意見	入館認証システム
具体的内容	1Fの認証ゲートをスムーズに通過出来るように改善してほしい。
現状分析	財布やかばんなどに学生証を入れたまま、ゲートのカードの接触口にタッチさせても、反応しないことがあります。その場合は、お手数ですが、カードを入れ物から出して、タッチさせてください。 機器の老朽化もあり学生証のICの通信速度が鈍い点もありますが、ドアの開閉速度については、障害者の方も配慮された速度になっております。 (出典： http://topics.libra.titech.ac.jp/cgi-bin/dep/extra/index.cgi) 新図書館においては、機器を新しいものにして頂きたいと考えています。

学生の意見	コピー機
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> 本を自動でめくってコピーしてくれるコピー機がほしい 各階に私費・公費ともに使えるコピー機が欲しい。
現状分析	図4.2.3-6を見ても分かりますように、現在の図書館のコピー機に関して高い満足度を示しています。また、著作権や機器の管理面を考えると、自由にコピーが出来る環境にすることは難しいと考えられます。

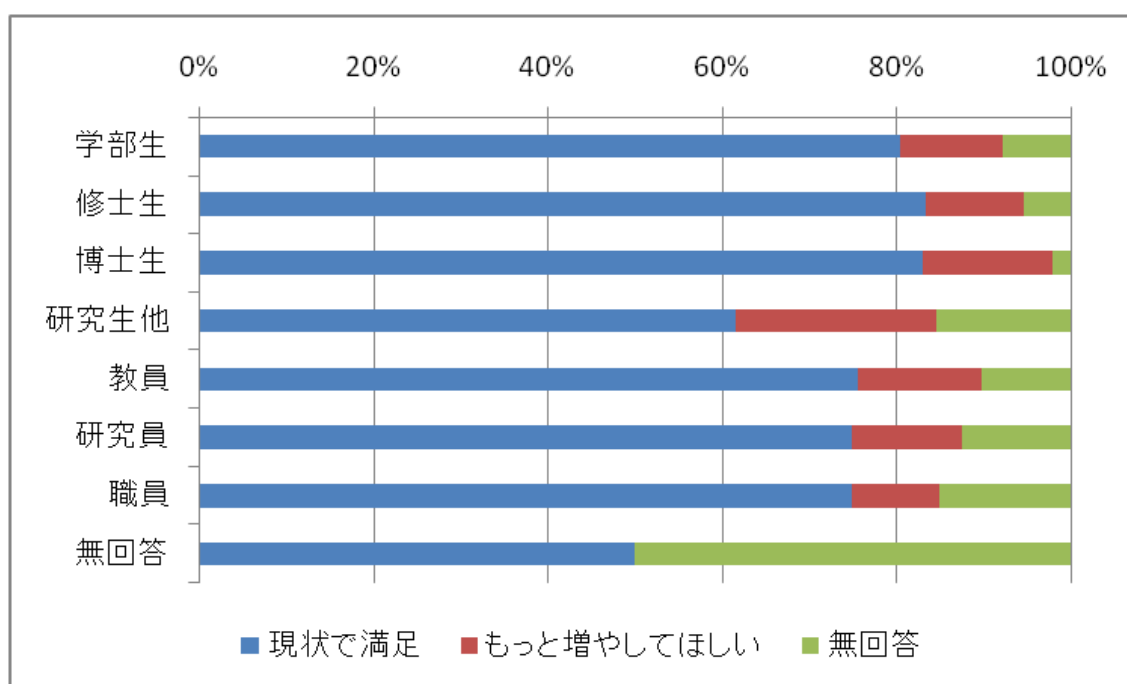


図 4.2.3-6 附属図書館コピー機への満足度

(出典：<http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)

4. 項目別提言

学生の意見	トイレ関係
具体的内容	<p><大岡山本館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し不気味で入りづらく、もう少し明るくきれいな感じにしてほしい。 ・もう少しきれいに。1F女子トイレにはゴキブリが出ます。 ・女子トイレの窓ガラスを曇りガラスにしてほしい。 ・トイレの便器をウォシュレットにしてほしい。 <p><すずかけ台分館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレが遠く、不便です。 ・女子トイレが暗く、温水シャワーが付いてない
提言	新図書館建設予定の大岡山本館は、可能であれば検討して頂きたいと考えています。すずかけ台分館は整備を依頼します。

学生の意見	グループ学習室
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習室の設備を充実させてほしい。 ・1回の利用時間を延長してほしい。
現状分析	<p>図 4.2.3-7 から分かるように、グループ学習室に関しては、高い満足度が示されています。設備については以下のような説明があります。</p> <p>「話の出来る閲覧室」程度の部屋ですので、特にプレゼンテーション用の設備が整っている部屋ではありませんがプロジェクタ、スクリーンの貸出は可能です。(中略)(学内無線 LAN はご利用になれます)</p> <p>(出典：http://topics.libra.titech.ac.jp/cgi-bin/dep/extra/index.cgi)</p> <p>また、現在の最大利用時間は1回につき3時間ですが、同様に現在の満足度と、他利用者への配慮を考えると、現状のままでよいと考えられます。</p>

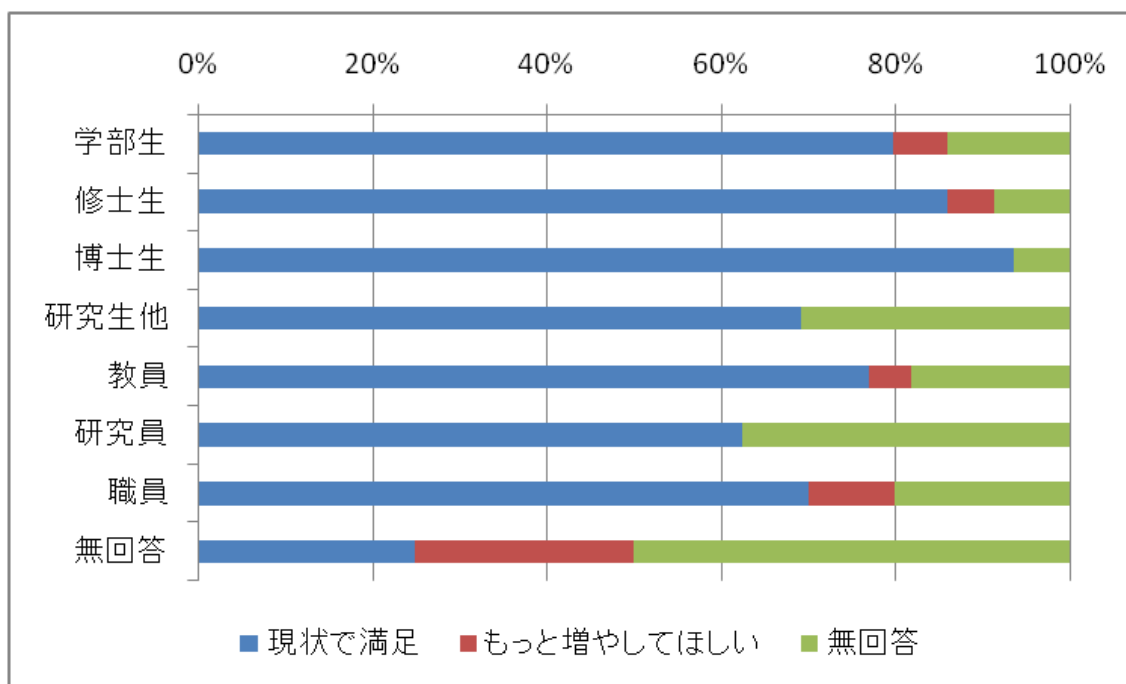


図 4.2.3-7 附属図書館グループ学習室への満足度
(出典：<http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)



学生の意見	ソファの導入
具体的内容	小説・新書など、机が必要ない本を読む用に、椅子・ソファだけのスペースを設置してほしい。
現状分析	附属図書館は「勉学に適した静粛な環境の整備」を基本方針としているということです。ソファを設置した場合、過去の経験からどうしてもその場で睡眠を取る学生が出てきてしまうこともあるそうです。 個人席を利用して読書をするか、百年記念館などに適したスペースがあるので、そこを利用するのがよいと考えられます。

学生の意見	ブックポスト
具体的内容	すずかけ台キャンパスで、返却ボックスのようなものを入口や各棟の1階、あるいはある程度の棟がまとめて使えるような位置に置いてほしい。
現状分析	図書館入口にはブックポストを設置してあるようですが、すずかけ台分館はキャンパス正門から多少距離があり、地区によっては離れた所に立地しています。
提言	利便性を考え、かつ管理が可能であるところとして、人が集まる生協や正門近くの講義等の入口などに設置を検討して頂けると有り難いです。



4. 項目別提言

4.2.4 飲食関係

学生の意見	附属図書館内での飲食関係
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み物はOKにしてほしい。 ・自販機を設置してほしい。
現状分析	<p>図 4.2.4-1 を見ると分かるように、図書館の自習スペースを主に利用する学部・修士生から、「ペットボトルならよい」「飲み物ならよい」といった意見が半数を超えていることが分かります。それに対して、今年の図書館2階のリフレッシュ・ルームを設置し対応して頂きました。</p> <p>ですが、現状はリフレッシュ・ルームだけでなく、ほとんどのフロアで飲み物は持ち込まれ、黙認されているのが現状です。大学図書館は「文献閲覧」のほかに「自習スペース」としての利用が高く、長時間滞在が多いためと考えられます。</p> <p>今回の附属図書館とのキャンパス・ミーティングにて、学生側からの意向を受け入れて頂き、比較的図書館・フロアを汚す恐れが少ないペットボトルのみ可、缶・パック類の持ち込みは不可・注意喚起するという今後の方針に至りました。</p>

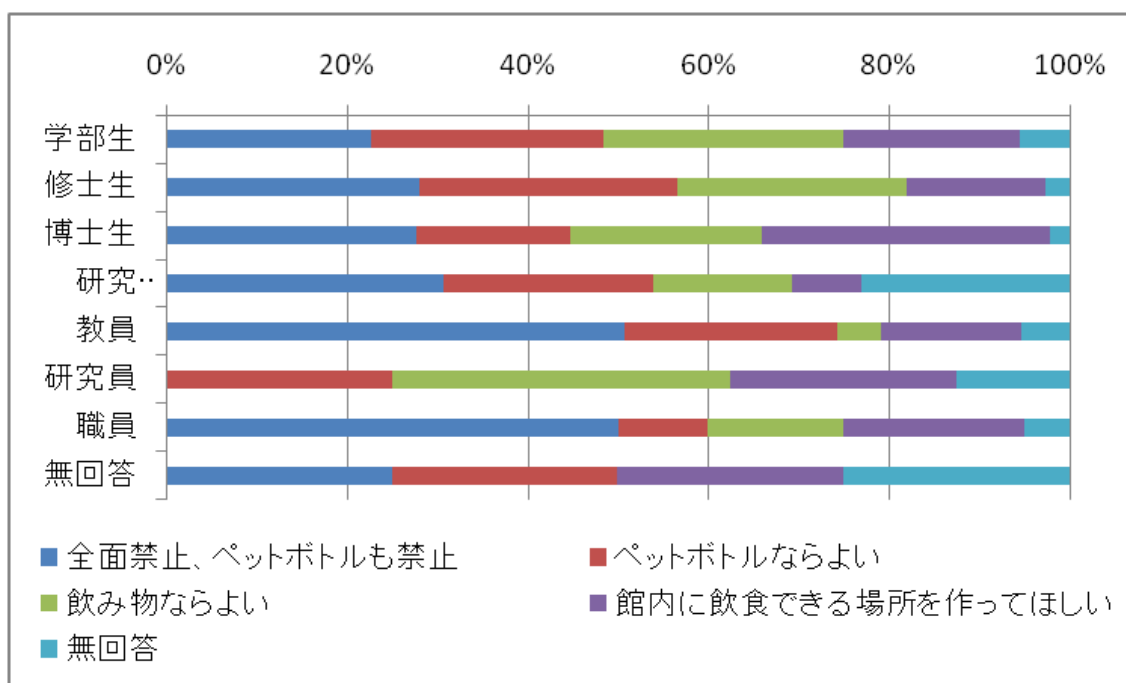


図 4.2.4-1 附属図書館内の飲食に関する意見

(出典：<http://www.libra.titech.ac.jp/aboutus/pdf/2008questionnaire.pdf>)



4.3 大学施設関係

今回の提言書では、以下の3項目に分けて提言を述べていきます

- ・ 食堂、売店へのアクセシビリティの改善
- ・ 個人用ロッカーの設置
- ・ 食堂施設のコミュニティ・スペース機能強化

最後に大学各施設への要望について解析した結果と、自由記述における少数意見も合わせて紹介します。

4.3.1 食堂、売店へのアクセシビリティの改善

提言概要

今回の学勢調査の結果、**石川台や緑が丘地区の学生から食堂や売店を作って欲しい**という要望が多く寄せられました。そこで、これらの地区に在籍する学生にとって食堂や売店へのアクセシビリティの実情や、これらの地区に食堂や売店が誘致される可能性を調べました。その結果、「これらの地区の学生が実際に不便な状況におかれていること」「石川台や緑が丘地区への食堂・売店の誘致は大変難しい」ことがわかりました。それを踏まえ、今後食堂を新しく作る時にどこに食堂を作るべきかを提言します。

学生の意見

今回の調査で食堂・売店に対する寄せられた自由記述を表 4.3.1-1 を取り上げます。

表 4.3.1-1 食堂・売店の要望に関する自由記述

学生の意見	食堂・売店の新設
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石川台地区にコンビニ、レストランを導入して欲しいです。 ・ コンビニでも生協でも何でもよいので何か食料や雑貨を買うことの出来るスペース（わざわざ大岡山まで行くのが面倒だから） ・ 石川台地区にコンビニを作って欲しい。

現状分析

図 4.3.1-1 は大岡山キャンパスの地図の中に大岡山に設置されている2つの食堂（第1食堂、第2食堂）とそれぞれの食堂からの等距離円（約徒歩3分）を示しています。大岡山キャンパスは大岡山地区（中央部）、石川台地区（左側）、緑が丘（右側）の3つの地区からなる細長いキャンパスです。2つの食堂はいずれも大岡山西地区に設置されており、キャンパス全体から見るとほぼ中央に位置しています。食堂からの等距離円の外側に位置する石川台地区や緑が丘地区から最寄りの食堂への距離はおおよそ5分くらいかかります。食堂へのアクセシビリティのある地区のある一方で、大岡山地区では2つの食堂の守備範囲の重なりが多くあり、無駄になっていることがわかります。

私たちは石川台地区や緑が丘地区に食堂や売店を設置することが可能かどうかを調べました。その結果、出店にはそのエリアに潜在的ニーズとして学生3,000人はいることが必要条件だということがわかりました。しかし、石川台地区には800人、緑が丘地区には500人しか学生がいなく、出店はほとんど可能性がないことがわかりました。



4. 項目別提言



図 4.3.1-1 食堂の位置と食堂からの等距離円

具体的提言

○計画的な食堂、売店の配置

東工大の学生数（10,000人）を考えると、新しい食堂を作ることは残念ながら望めません。しかし、将来的なキャンパス整備計画として食堂や売店を設置する際には、石川台・緑が丘地区からもアクセスしやすい場所に設置することが望ましいと考えられます。



4.3.2 個人用ロッカー

提言概要

学勢調査の結果、特に学部生の中で個人用ロッカーの需要が高いことがわかりました。そこで、ロッカー需要の実態をまとめるとともに他大学での取り組みも調べてみました。それをふまえ、ロッカー設置のあり方を提言します。

学生の意見

今回の調査で、個人用ロッカーに対する自由記述に寄せられた意見として、表 4.3.2 を取り上げます。

表 4.3.2-1 個人用ロッカーの設置

学生の意見	個人用ロッカーの設置
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個人用のロッカーは教科書が重過ぎるので切実にほしいです。講義室に近いところに作ってください。 ・1～3年生も土日はずすだけ B2 棟に入りたいです。ロッカーに荷物を取りに行きたいです。

現状分析

図 4.3.2-1 は所属別のロッカー需要を表しています。学年が下がるほどロッカーに対する需要が高く、「類」に属する学生では70%近くの学生がロッカーを欲しいと考えていることがわかりました。学勢調査に寄せられた意見をみると、教科書の置き場としてロッカーを希望しているようです。そういった意見の中にはありませんでしたが、学勢調査メンバーの実体験を聞くと、実習用の道具（製図道具セット）や、健康スポーツ科目の実習用の運動具を置く場所としてもロッカーが必要なようです。

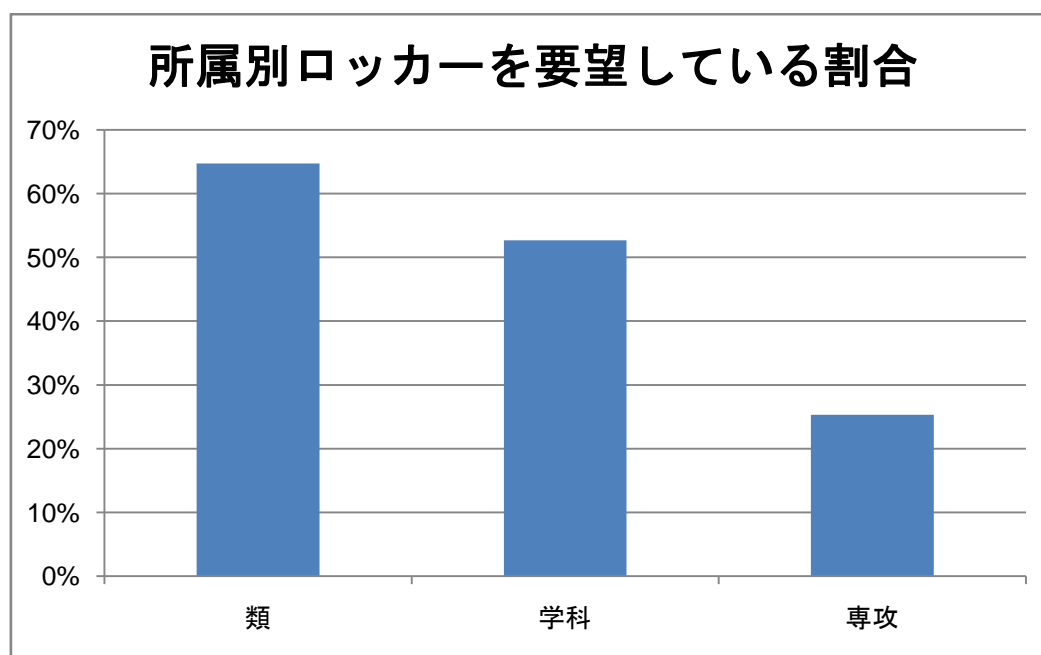


図 4.3.2-1 所属別ロッカーを要望している割合



4. 項目別提言

他大学ではロッカーを設置している例があるのかも調べてみました。いくつかの大学での例を表 4.3.2-2 に示します。学部生向けにロッカーを設置している例はみられました。

表 4.3.2-2 他大学においてロッカーを設置している例

大学	取り組み
横浜市立大学	1, 2年だけが使用可能。無料。
国際基督教大学	希望者のみ。有料（500円）。
相模女子大学	在学生全員。無料。

具体的提言

○ロッカーの設置

学部生の中でロッカー設置の要望が多いです。他大学では導入している例もあるようなので本学でも導入の検討をお願いします。全員分設置できない場合は希望者のみ有料で提供することも考えられると思います。

4.3.3 食堂施設のコミュニティ・スペース機能強化

提言概要

学勢調査を行う中で、「大学の施設の中で学生の憩いの場が不足している」ということに気が付きました。実際に学勢調査では所属によらず学生の多くがレストルームやコミュニティ・スペースの設置を要望していることもわかりました。しかし、このようなまとまった場所を確保することは難しいことも我々は承知しているので、**食堂施設の有効利用を提案**します。

現状分析

図 4.3.3-1 は課程別に授業外の過ごし場所をあらわしたグラフです。大学院生ではほとんどが研究室で授業外の時間を過ごしているのに対して、**学部生ではサークル室、食堂、図書館、講義室と点在して時間を過ごしている**ことがわかります。

今回のアンケートで授業外の過ごし場所として「食堂」を選択した学部生は約 400 名で、これは今回回答して頂いた学部生全体の約 30% に当たります。このように食堂は多くの人にとってコミュニティ・スペースとしても重要な役割を果たしているにもかかわらず、第 2 食堂に関しては席が 200 席ほどしかなく、第 1 食堂に関しては殺伐としていて整備が十分ではありません。



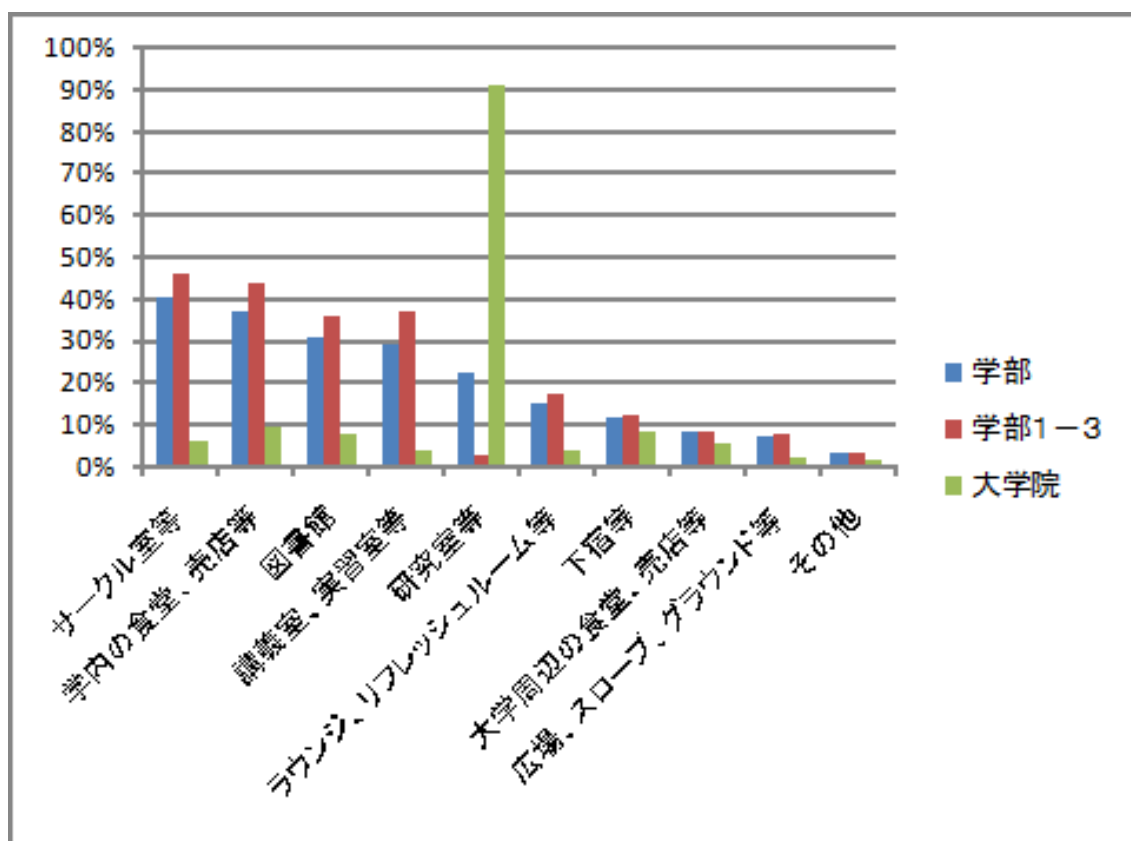


図 4.3.3-1 課程別授業外の過ごし場所の割合。

生協の方にお話を伺ったところ、生協側でもコミュニティ・スペースとしての使われ方をしていることは認識しているということでした。そして、コミュニティ・スペースとしての利便性を高めるためにも、無料でコピーが出来る機械やコーヒーマシンを置いてくださっているそうです。しかし残念ながら、第1食堂に関しては開放しておいてもあまり学生が集まらないということで、現在は午後3時に閉めてしまっているということです。

しかし、現在は需要がある可能性もあるため、第1食堂が実際にどのように利用されているのかを調べました。調査は定期テストが終了した2月18日(水)の午後2時くらいに行いました。残念ながら写真はお見せできませんが、約20名の方が第1食堂をコミュニティ・スペースとして利用している実態が確認できました。

具体的提言

○食堂施設のコミュニティ・スペース機能強化

食堂は学内におけるコミュニティ・スペースとして重要な役割を果たしてきました。しかし、第2食堂はスペースが狭いですし、第1食堂はコミュニティ・スペースとして利用するには殺伐としています。設備の改修によって学生が過ごしやすい空間にしたいだけのようにお願いします。

また第1食堂に関して、新学期直後は新生が入学してコミュニティ・スペースとして利用することが予想されます。その他、定期試験期間中は図書館等のスペースが混雑し、スタディ・スペースが不足されることが予想されます。そういった期間に第一食堂をコミュニティ・スペースとして開放するとニーズがあると考えられるほか、試験期間として利用し、利用度合いによって継続的に開放拡大を視野に入れてみてはどうでしょうか。



4. 項目別提言

4.3.4 欲しい施設についての解析結果

この節では、大学内の各種施設に関する定量的調査のデータに分析を加えていきます。

○スポーツ施設

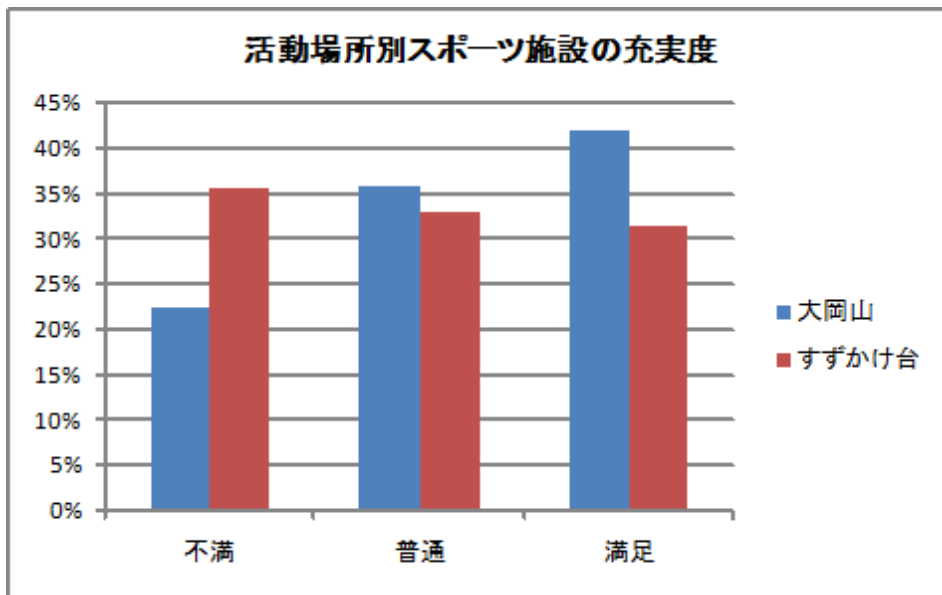


図 4.3.4-1 活動場所別スポーツ施設の充実度

図 4.3.4-1 のように、キャンパス別にスポーツ施設への満足度を調べてみると、大岡山キャンパスでは「満足」と答えた人が多いのに対し、すすかけ台では逆に「不満」と答える人が多くなっています。

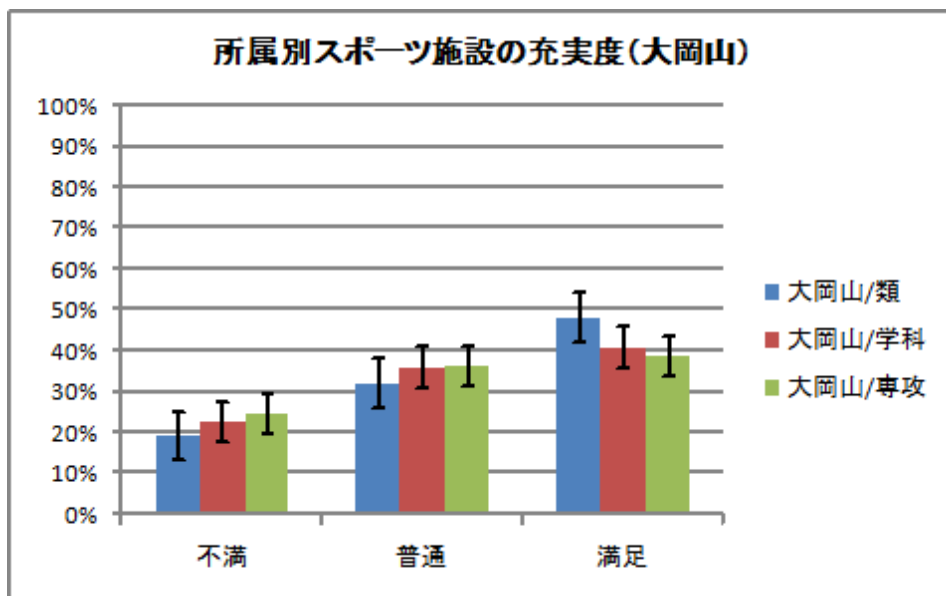


図 4.3.4-2 所属別スポーツ施設の充実度



次に、図 4.3.4-2,3 に各キャンパスの類・科・専攻別にスポーツ施設の充実度を調べてみました。大岡山キャンパスでは類・科・専攻による差はみられず、すべての学生が比較的満足と感じていることが分かります。

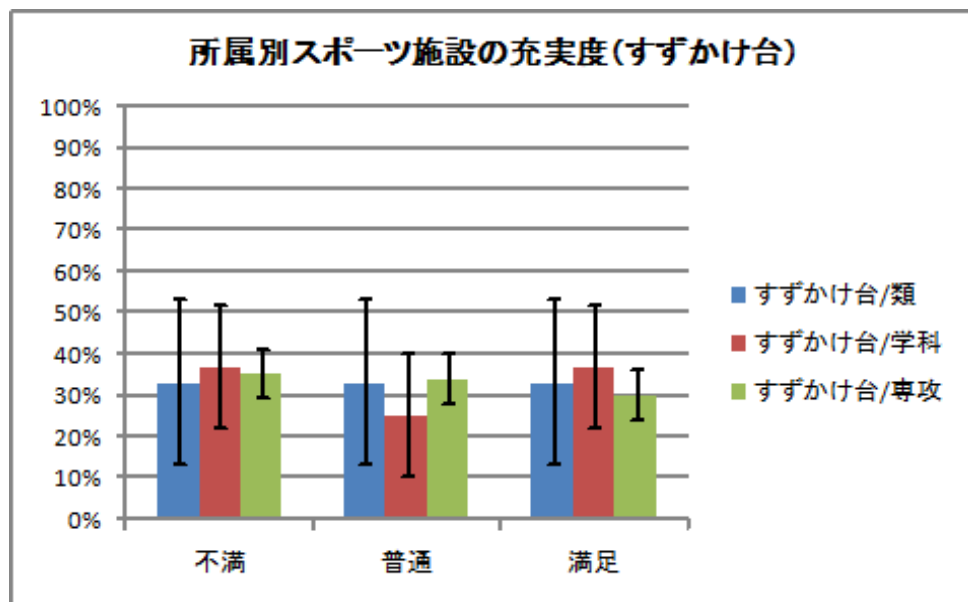


図 4.3.4-3 所属別スポーツ施設充実度 (すずかけ台)

一方で、すずかけ台では専攻に属する学生に注目すると、不満から満足の回答割合がほぼ横ばいとなっています。類・科に関しては今回の調査ではサンプル数が少ないため、明確な動向がつかめませんでした。

○学生寮

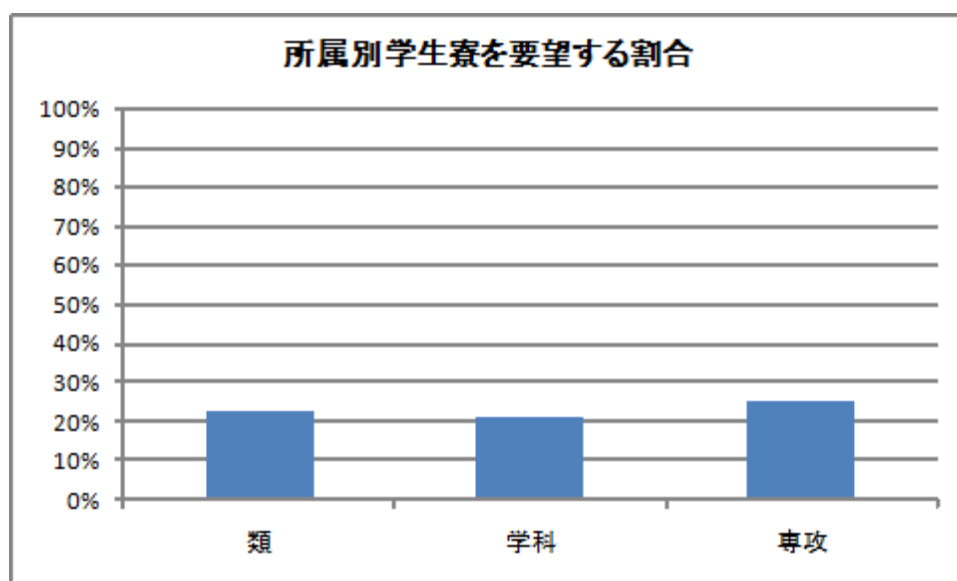


図 4.3.4-4 所属別学生寮を要望する割合



4. 項目別提言

図 4.3.4-4 の様に、学生寮は回答者の所属によらず、おおよそ 20% の学生に要望されていることが分かります。東工大は都心の大岡山キャンパスと郊外のすずかけ台キャンパスに分かれています。この地理的な所在の違いは寮を要望する意見には影響を与えていませんでした。

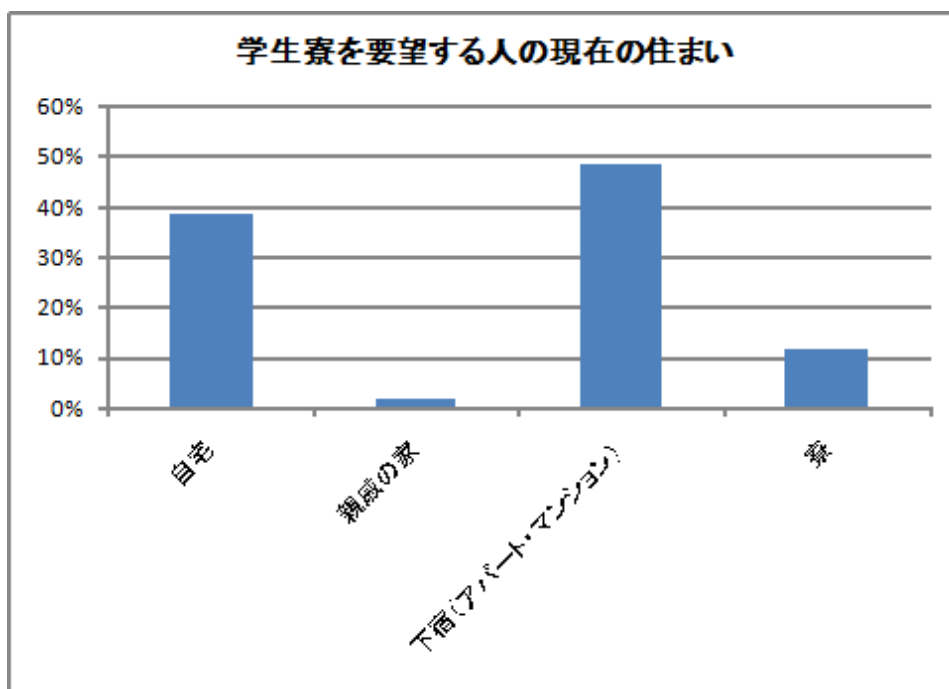


図 4.3.4-5 学生寮を要望する人の現在の住まい

図 4.3.4-5 の様に、寮を要望する人の現在の住まいとしては、「下宿」や「自宅」と選択した人が多い傾向にあります。近くに下宿を借りるよりは無理をして自宅から通学する人が多いためと考えられ、首都圏大学に見られる傾向です。



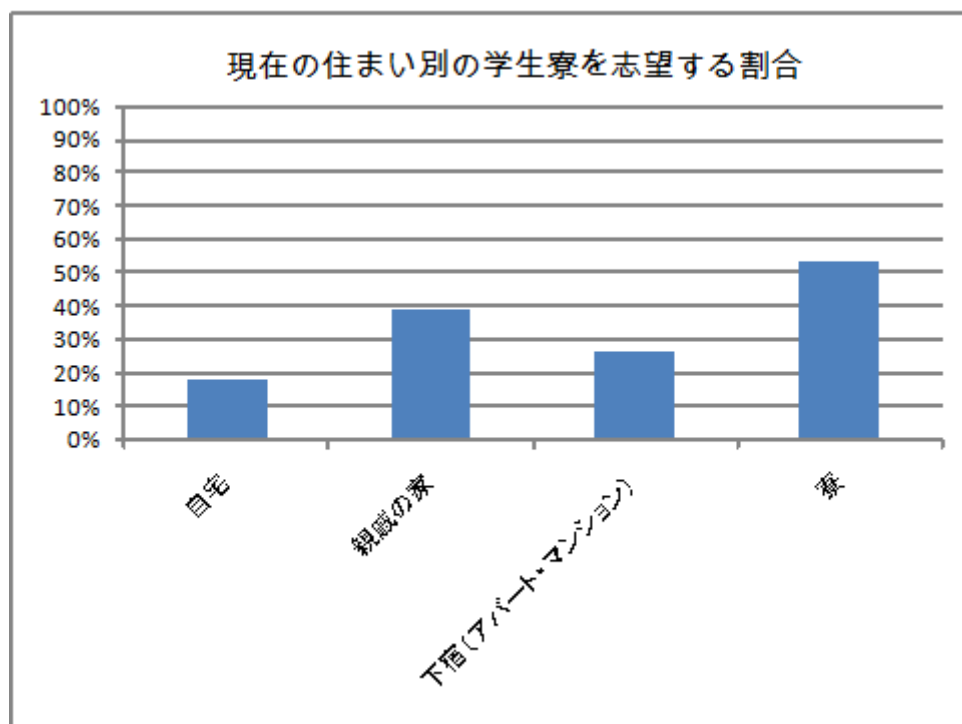


図 4.3.4-6 現在の住まい別の学生寮を志望する割合

現在の住まい（自宅、下宿、親戚の家、寮）を母集団として、それぞれの中で寮を要望する学生の割合を図 4.3.4-6 の様に調べました。寮に住んでいる人の中で寮を要望する人の割合が多いのは、「新しい寮を建設してほしい」といった見解が考えられます。また、「自宅」の項目において割合が低いのは、母集団が大きいためと考えられます

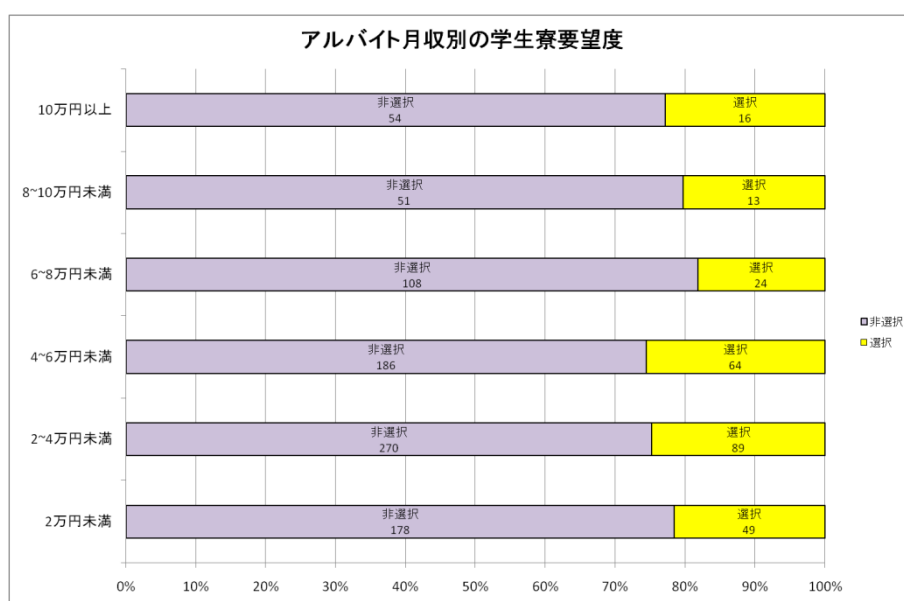


図 4.3.4-7 アルバイト月収別の学生寮要望度



4. 項目別提言

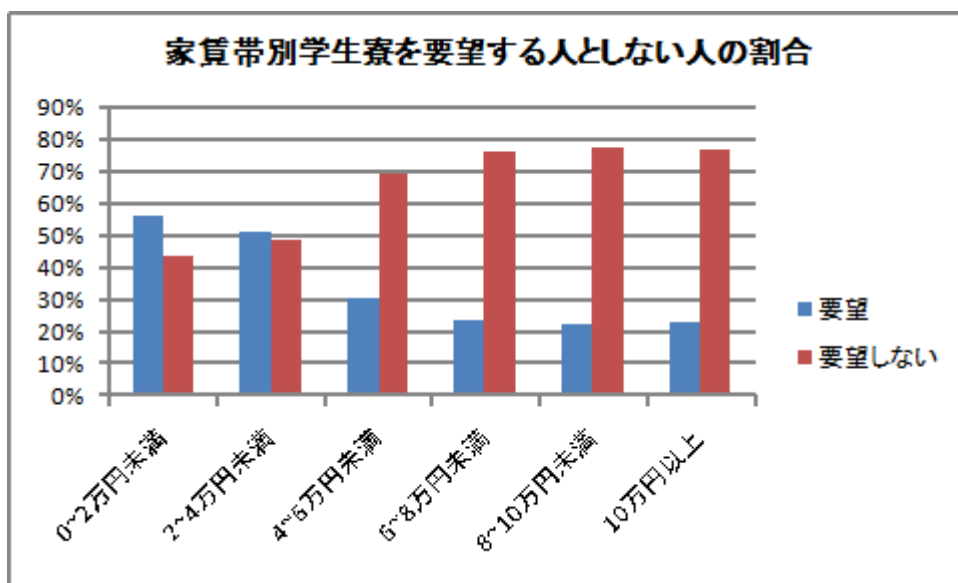


図 4.3.4-8 家賃帯別学生寮を要望する人としらない人の割合

学生寮を要望する人の生活状況を図 4.3.4-7,8 の様に調べてみました。寮を要望する人の割合とアルバイト月収とは相関関係はあまりありません。しかし、家賃は寮を要望しない人に比べ要望する人は安い物件を選択していることがわかります。

○スタディールーム

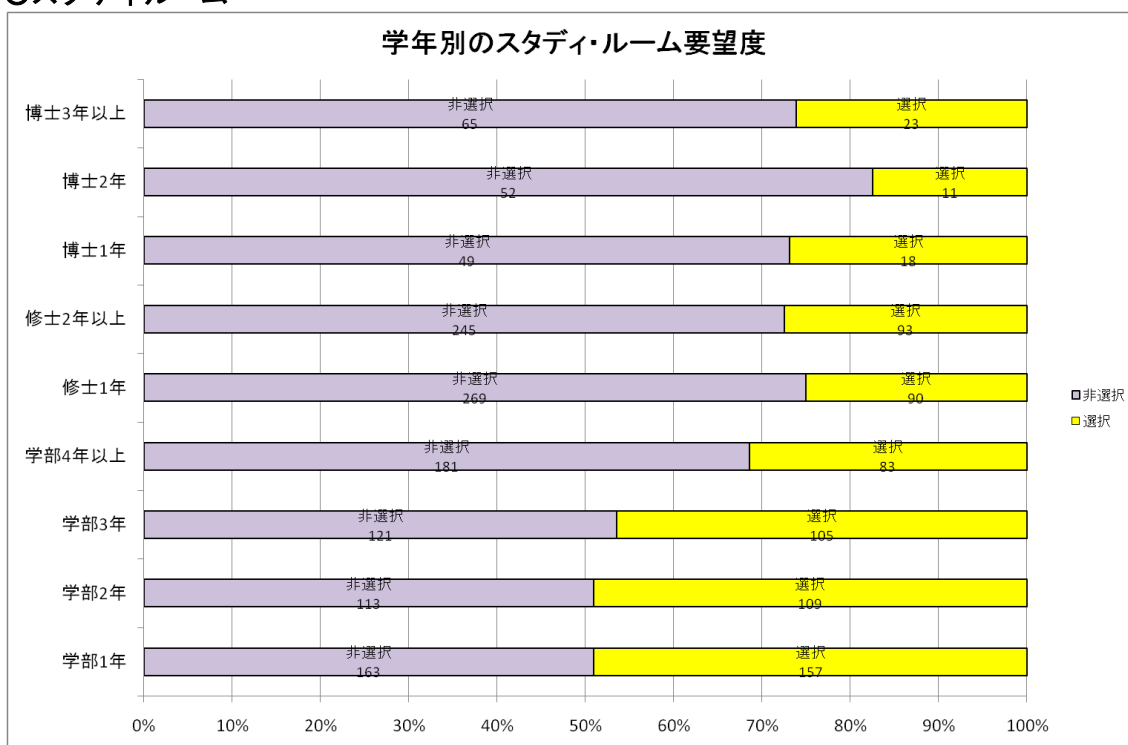


図 4.3.4-9 学年別のスタディールーム要望度



図 4.3.4-9 の様に、スタディ・ルームを希望する人は、学年が下がるほど多いことが分かります。研究室所属後の学部 4 年で割合が急に下がるため、学部 1～3 年用の学習スペースを確保することが必要と考えられます。

○合宿研修施設

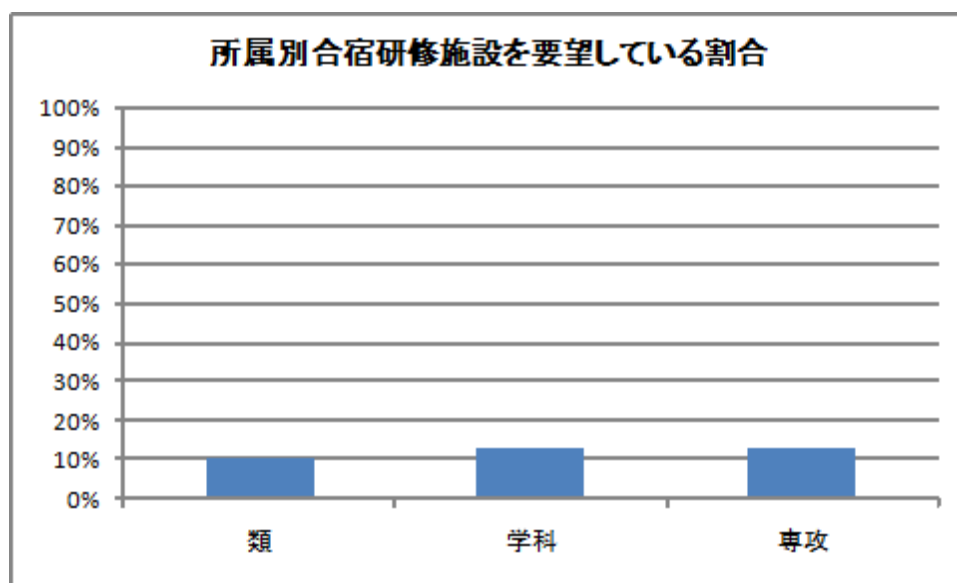


図 4.3.4-10 所属別合宿研修施設を要望している割合

図 4.3.4-10 の様に、研修所を要望する割合は所属によらず低いことが分かります。ただし、自由記述を見てみると、むしろ大学内に学外からの学生や研究者を泊らせるような施設が欲しいという意見がありました。

以下、施設関係で寄せられた自由記述について述べていきます。

体育施設

自由記述の内、体育施設に関するものが約 30% を占めました。統計データでは全体的に満足している傾向が伺えましたが、実際に使用している人が限られているためかと考えられます。

1. グラウンドを芝にして欲しい

実際に行ってみてきたところ、大量の砂塵が俵っていることが図 4.3.4-11 の様に確認できました。写真でもある程度は確認できますが、実際に見てみると写真よりも砂塵はすごいと感じられます。近隣住民からの苦情もあるかもしれません。



4. 項目別提言



図 4.3.4-11 グラウンドの砂塵の様子

音楽施設

音楽施設は利用者、非利用者の両方からの意見がありました。利用者側からは「防音室を備えた音楽練習棟」、「音楽サークル棟を広くして欲しい」と広さに対する不満意見が多く寄せられました。一方で、非利用者からは「うるさい」、「キャンパス外でも聞こえてくる」といった騒音に対する意見が多く挙げられ、近隣からの苦情もあることが考えられます。また、来年度は音楽サークル棟から近い位置に新図書館が建設されるため、静粛な環境を整備する附属図書館の利用者からの不満の声が高まることが予想されます。よって、何らかの対策を検討する必要があると考えられます。

飲食施設

自由記述のうち、飲食施設に関するものも約30%を占めました。ほとんどが飲食施設の増設を望むもので、特にすずかけ台からの訴えが多く寄せられました。

1. 外部の参入

「おいしくない」、「ファミレスが欲しい」という意見が寄せられました。そこで、大学生協以外の業者がサービスを展開することはできないのかどうか調べたところ、民間業者が参入する際には、そのエリアに3000人以上の潜在顧客の存在が目安になっていることが分かりました。大学が提供しているデータから、総合理工学研究科の修士および博士の人数の合計をしらべたところ1600人程度しかおらず、民間業者が参入することは極めて難しいことが分かりました。

2. 営業時間

営業時間に関しては2つの種類の要望があり、1つは「深夜営業」、もう1つは「土日営業」でした。生協に伺ったところ、両方とも採算がとれれば営業してもよいということでしたが、生協が実際に土曜日に営業したところ、利用者は約200人程度で採算に合わず、これも難しいと考えられます。

3. その他

- ・熱湯をもっと簡単に使えるようにしてほしい
 - ・ウォータークーラーを設置してほしい
- といった要望も寄せられました。



その他少数意見

- 体育館、非常に滑りやすく危険。ワックスがけなどの対策を。加えて空調が非常に悪く、夏は大変危険。熱中症で救急車を呼んだ事もある。
- 大岡山石川台間の地下通路のミラーの付け方は異常。凹面鏡らしき金属板から凸面鏡に変えたのはより危険が増すと思うがどうか。

これら2つの意見は寄せられた数は少数ですが、**安全に関する問題ですので早急に対応をお願いします**。また、学勢調査で伝えられた場所以外にも、ミラーや電灯などの設置不備のため危険な場所があるかと考えられます。確認の調査をお願いします。

- 土木・環境工学科用のリフレッシュ・ルーム（何故建築学科にはあって土木にはないのだ？）仕方なしに土木製図室をリフレッシュ・ルーム代わりに使用せざるを得ない土木工学科の現状を何とかしてほしい。
- コンピューター室（情報ネットワーク演習棟並の規模のものを希望する。いちいち緑が丘から情報ネットワーク演習棟まで来るのは面倒臭さすぎる。）
- 緑が丘1号館及び3号館のトイレの洗面台に液体石けんを常備してもらいたい。西8号館や西9号館のトイレの洗面台にあるような液体石けんで良い。石けんのないトイレは使いづらくてしょうがない。
- 緑が丘キャンパスには自動販売機が少なすぎる。もっと自動販売機の数を増やしてほしい。緑が丘1号館2階にある唯一の自動販売機も種類が偏っている。（缶が多すぎてペットボトルが少ない！）ペットボトル中心の自動販売機を2台以上、緑が丘キャンパス内に設置する事を希望する。
- バイク用の駐輪場を増やして欲しい。
- ふらっと立ち寄ってみんなでディスカッションが出来るような空間。通路の一部に少し開けた空間を設け（石川台3号館のような）、そこに椅子と、ホワイトボード or 黒板、できれば机も。研究室の入っているような階には全ての建物必要だと思う。学生同士の活発な議論による切磋琢磨が学生全体、ひいては大学全体のレベルを引き上げることになる。
- 建物の入り口や人通りの多いところに喫煙所を置くのをやめてほしいです。特に西5や西3の前が嫌です。本当にいやです。
- イチョウが臭いので全て切ってください。
- 昔ながらの大学の外観(第二食堂前のようなレンガ造りの建物)は改築して減らないようにしてほしい。むしろ増やすほうが良いと思う。あまり現代的な建物が目立つようになると伝統や威厳が損なわれてしまうように感じる。
- 南6号館前の糞害をどうにかしてほしい。



4. 項目別提言

4.4 大学サービス関係

この節では大学内のサービスに関する提言を、以下の4項目に分けて述べていきます

- ・ 教務課 …… 本学の教務課への提言
- ・ 学生支援課 …… 本学の学生支援課への提言
- ・ 入試課 …… 本学の入試課への提言
- ・ 事務全般 …… 本学事務局の各部署全体への提言
- ・ 評価機構 ……

4.4.1 教務課

提言概要

教務課に関する提言は以下の5点です。

- ・ 職員の接遇態度の向上
- ・ 履修申告・成績確認のオンライン化
- ・ 窓口時間の延長
- ・ メールの活用
- ・ 証明書自動発行機の稼働時間延長

職員の接遇態度の向上

表 4.4.1-1 職員の態度が悪いことに関する自由記述

学生の意見	職員の態度が悪い
具体的内容	・ 教務課の職員の態度が悪い。 ・ 職員によっては横柄な態度をとる。 (同様の意見が約 120 件)

現状分析

今回の調査で大学サービス関連の自由記述データは約 300 件でした。その中で表 4.4.1-1 の様な事務職員の接遇が悪いことに関するデータが約 120 件でした。「人によっては」という意見も多く、全ての職員の接遇が悪いわけではないと思いますが、これだけの数の意見が寄せられている以上、教務課全体で学生への対応の質向上を図る必要があると言えます。

教務課では現在職員全体で学生への対応の意思統一は行っておらず、対応の仕方は各職員に任せられています。また対応を向上させる取り組みも、4年前の学勢調査を受けての対応以外は行っていない、改善のための継続的な取り組みが見受けられません。

具体的提言

- ・ 教務課の職員全体で学生への適切な対応を心がける。
- ・ 適切な対応をするために講習会を定期的に行う。
- ・ 上記の取り組みの有効性を評価する。

前回の学勢調査後に一度接遇講習会を開いているにもかかわらず、今回のような意見が寄せられているため、職員の態度を向上させるための継続的な対策と、それに伴った学生からの評価を行うことが必要であると考えられます。



■ 履修申告・成績確認のオンライン化

表 4.4.1-2 履修申告・成績確認のオンライン化に関する自由記述

学生の意見	履修申告・成績確認のオンライン化
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで履修登録が出来るようにしてほしい。 ・成績書はネット上で閲覧出来るようにしてほしい。毎回発行機に並ぶのは馬鹿らしい。 ・時間割を HP から閲覧出来るようにしてほしい (同様の意見が約 30 件)

現状分析

現在学習申告・履修確認・成績確認のための WEB システムが構築中で、平成 21 年度より稼働します。またそのための説明会が 4 月上旬～中旬に開催されます。

具体的提言

既に解決に向かっていて、特にありません。

しかし、こういった構想の告知は早くから行うべきであると考えます。

■ 窓口時間の延長

表 4.4.1-3 窓口時間の延長に関する自由記述

学生の意見	窓口時間の延長
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・16時半まで講義があるのに、17時までしか開いていないことに疑問を感じないほうがおかしい。 ・事務窓口が昼休みに休憩を取り、5時に閉まってしまうのが不便。 ・講義が終わり30分で閉まるのは早すぎると思う。 ・社会人学生向けに夕刻、土曜日の対応もして頂きたい。 (同様の意見が約 20 件)

現状分析

現在教務課の窓口は 8:30～17:00 です。そして職員の勤務時間は 8:30～17:15 で、昼休みは 11:30～13:00 のうち 1 時間を各職員交代で取っているということです。職員の勤務時間については法律に基づく職務規定があるため、夜間や土曜の対応は困難ですが、19:15 を越えない範囲での勤務時間の移動が出来るなど、窓口時間の延長自体は可能であると考えられます。

具体的提言

具体的に何分延長するべきなのかを裏付けるデータがないので明言できませんが、30分～1時間の延長でも学生の利便性は十分向上すると考えられます。



4. 項目別提言

■ メールの活用

表 4.4.1-4 メールに関する自由記述

学生の意見	休講情報・掲示板
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・休講、講義の変更などの情報を知りたい。・掲示板が多くてどこを見てよいのか困っている。・学内掲示板を電子化してほしい。

現状分析

学生の要望としてはネット上での閲覧というものも含まれますが、講義支援システムなどがうまく稼働していない状況や、休講情報などの即時性が必要なものに関してはメールの活用が有効であると考えられます。

具体的提言

この提言については「2. 学生・大学間のコミュニケーション」を参照してください。

■ 証明書自動発行機の稼働時間延長

学生の意見

本館内にある証明書自動発行機について、稼働時間の延長を望む声が見受けられました。

現状分析

現在発行機の稼働時間は平日の 8:30～18:00 です。設置当初は 24 時間稼働していましたが、発行機ハードの更新、設置場所の湿度の高さによる発行機への影響などが原因で、現在の様な稼働時間に至っています。

具体的提言

休日や夜間、可能であれば 24 時間の稼働を提案します。その際、現在の設置場所に問題がある場合、今春には Tokyo Tech Front、来年には新図書館が大岡山駅近くに建設されますので、そちらへの設置も検討してみてもはいかがでしょうか。

また新年度が始まる 4 月前後には各種証明書が必要になりますので、その時期と重ならないようメンテナンス期間を設けるようお願いします。



4.4.2 学生支援課

提言概要

学生支援課に関する提言は以下の4点です。

- ・ メールの活用
- ・ 窓口時間の延長
- ・ 奨学金申込締切時の仮設窓口の設置
- ・ 職員の対応

■ メールの活用

現状分析

学生支援課のサービスには奨学金、キャリア支援、アルバイト紹介などがありますが、そういった情報の周知が不十分であると言えます（※「2. 学生・大学間のコミュニケーション」を参照のこと）。

具体的提言

この提言については「2. 学生・大学間のコミュニケーション」を参照してください。

■ 窓口時間の延長

現状分析

学生支援課の窓口は8:30～17:15ですが、多くの学生は17:00であると認識しているようです。また15分という時間が利便性の向上に有効かどうかは明確ではないため、今後調査する必要があると考えられます。

具体的提言

- ・ 入口や窓口への窓口時間の掲示
- ・ 教務課と共に窓口時間の延長

■ 奨学金申込締切時の仮設窓口の設置

現状分析

奨学金申し込みの締め切り当日や前日には学生が順番待ちをして列を成している状態です。毎年多くの学生が申し込みに来るのがわかっていることから対策が可能であると考えられます。

具体的提言

- ・ 仮設窓口を設ける。



4. 項目別提言

■ 職員の対応

表 4.4.2-1 職員の対応に関する自由記述

学生の意見	学生支援課職員の対応
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・学生支援課は親切だと思う。・比較的対応が良い。・頭が固い。・丁寧だが、無愛想すぎる。・窓口から呼んでも、人が奥にいて反応してくれない。

現状分析

学生支援課の職員の対応は良いという意見と、無愛想などといった意見がほぼ同数見られました。

具体的提言

- ・ 職員全体で適切な対応を心がける。



4.4.3 入試課

表 4.4.3-1 合格後の手続きに関する自由記述

学生の意見	合格後の手続き
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・入学手続きについてだが、直接というのはどうにかならないのか？。 ・合格手続きが郵送で出来なかったので、1時間もかからない手続きのために往復数万円のお金がかかりました。

提言

入学金や受験料など出費のかさむ時期ということもあり、遠方からの受験者に対しては合格後の各種手続きの郵送での対応が必要かと考えられます。

4.4.4 大学事務全般

提言概要

大学事務全般に関する提言は以下の2点です。

- ・ 担当部署の明瞭化
- ・ 英文書類の充実
- ・ 窓口の時間の延長

■ 担当部署の明瞭化

表 4.4.4-1 担当部署が不明瞭であることに関する自由記述

学生の意見	担当部署
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どこがなにをしているのかわからない。 ・ひとつの手続きを行うのに5つの部署をたらいまわしにされた。 ・事務系の職員にたらいまわしにされることがある。

現状分析

教務課、学生支援課、入試課以外に用事があることは稀かもしれませんが、東工大のサイトにある事務系連絡先所在地一覧(※)を見てもわかるように部署の数は非常に多く、事務職員の方ですらどの部署で何をやっているのか把握できていないようです。

※ <http://www.titech.ac.jp/inquiries/j/naisen-j.html>

具体的提言

総合案内所の設置

多くの学生が、例えば教務課などの各事務部署での業務・サービス内容を把握できていないことから、総合案内所またはそれに当たる場所が必要であると考えられます。また、「2. 学生・大学間のコミュニケーション」も合わせてご参照下さい。



4. 項目別提言

■ 英文書類の充実

表 4.4.4-2 附属図書館オンライン・サービス利用に関する自由記述

学生の意見	英文書類の充実
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・ Please use the materials written in English as much as possible.・ employ more who can speak English.cause some informations can not be read by students from other countries. it is so necessary to rebuild the English version web of this school. thank you very much.・ 書類程度の英語くらい大学院生は読めるのだから、せめて大学院からは全て英語でもよいはず。

現状分析

留学生の受け入れが増えてきているのに対して、英文書類などが充実しておらず、留学生にとって不便な状態になっているようです。また日本の学生からも留学生に対する配慮が足りないという意見が見られます。

具体的提言

- ・ 英文の提出書類の充実
- ・ 手続きやサービスの英文説明の充実

■ 窓口時間の延長

現状分析

各専攻の事務など窓口時間延長の要望があります。教務課、学生支援課などとともに各事務の窓口時間の延長を考慮する必要があると考えられます。

具体的提言

- ・ 窓口時間の延長



4.5 生協関係

本節では **3.1 弁当・食堂関係** で言及したもの以外を、以下の 3 項目に分けて提言を述べていきます。

- ・学生食堂 …… 本学の生協食堂に関して
- ・購買部 …… 本学の生協購買部に関して
- ・その他 …… 上記 2 項目以外に、生協に関連するもの

4.5.1 学生食堂

学生の意見

今回の調査で生協に対する自由記述に寄せられた意見の中で、学生食堂に関するものを表 4.5.1-1 に記載します。

表 4.5.1-1 営業時間に関する自由記述

学生の意見	営業時間の延長
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特に朝食の時間帯 6 時～10 時くらいに学食が利用できないことが痛い。 ・8 時にしまっていますが、すずかけ台の場合、遅くまで残っている人がほとんどです。 <p>(同様の意見が 28 件寄せられました。)</p>

現状分析

すずかけ台キャンパスは近隣にあまり飲食施設がなく、駅まで戻らなければコンビニもないという状態にあります。しかし生協に伺ったところ、土日営業や営業時間の延長を行ったとしても、採算が取れないであろうということが分かりました。たとえ、営業終了時刻を 8 時から 9 時に変えたとしても、その 1 時間による具体的な変化は考えづらく、再び営業時間の延長を望む声が上がることが予想されます。朝の営業についても、同様の理由から厳しいと考えられます。

また、今後土曜の売り上げが伸びるなど、採算が取れるであろう定量的データが取れるのであれば、日曜の営業交渉も可能かもしれません。

具体的提言

以上の理由から、学勢調査としては土日営業や営業時間の延長の声があることを生協・大学側に伝えるに留めさせていただきます。



4. 項目別提言

4.5.2 購買部

学生の意見

今回の調査で、生協に対する自由記述に寄せられた意見の中で、生協購買部に関するものを表 4.5.2-1,2 を取り上げます。

表 4.5.2-1 商品に関する自由記述

学生の意見	書籍類を中心に商品の充実化。
具体的内容	・学習支援に向けて参考書や専門書の紹介を生協等でもっと充実させてほしい。 ・在庫の充実した書店。コンビニよりも、今ある生協を拡充して欲しい（生協を拡充してほしいという意見が 24 件、生協書籍部の拡充または書店の新設をしてほしいという意見が 14 件寄せられました。）

表 4.5.2-2 営業時間に関する自由記述

学生の意見	営業時間の延長について
具体的内容	・生協の営業時間の大幅な改善を求めます。 ・生協が休日やっていないのと、開始時間が遅いのが気になります。（同様の意見が 6 件寄せられました。）

現状分析

大岡山キャンパス周辺には、TSUTAYA がなくなってしまい東工大生の需要を満たしてくれる本屋がありません。購買部書籍部門だけでは理系専門書は不足であり、また一般書の充実も図って欲しいとの意見です。図書館で書籍を借りることもできますが、一般書に関しては人文図書室の認識の低さも問題かと考えられます。

たとえ、書籍販売のために教科書販売のプレハブのようなものを常設しても、以下のどちらの形態でも利便性はあまり高まらないと考えられます。

- ・書籍部門をプレハブと現在位置（本館購買部内）とに二分する。
- ・プレハブを書店専門店にしても、規模も小さいし離れてしまう。

具体的提言

○生協購買部書籍部門の新施設の早期実現

過去にキャンパスの将来計画に合わせて、理工系専門書を中心とした大型書籍販売店を、生協が大学に提案したことがあったということです。この生協購買部書籍部門の新施設は規模で言いますと、理工系関連書籍では日本の大学の中でもっとも大きく、一般のお客様のお問い合わせ・購入も期待出来るということです。また書籍検索機能も導入され、利便性も向上する見込みです。

この生協購買部書籍部門の新施設は、今まで示した学生のニーズを全て取り込めるものであると考えられます。そこで、学勢調査としてはこの生協購買部書籍部門の新施設計画の進展と早期実現を望みます。



4.5.3 その他

学生の意見

今回の調査で、生協に対する自由記述に寄せられた意見の中で、先述の2項目以外のものを表4.5.3-1に示します。

表 4.5.3-1 その他に関する自由記述

学生の意見	その他
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂の携帯電話の電波が入らないのをどうにかしてください。 ・図書館など他の施設に比べて学食の国際化が遅れており、日本語が話せない利用者、宗教上禁忌食のある利用者が利用しにくいと思われる。 ・すずかけでも新幹線の切符が買えるようにしてほしい。

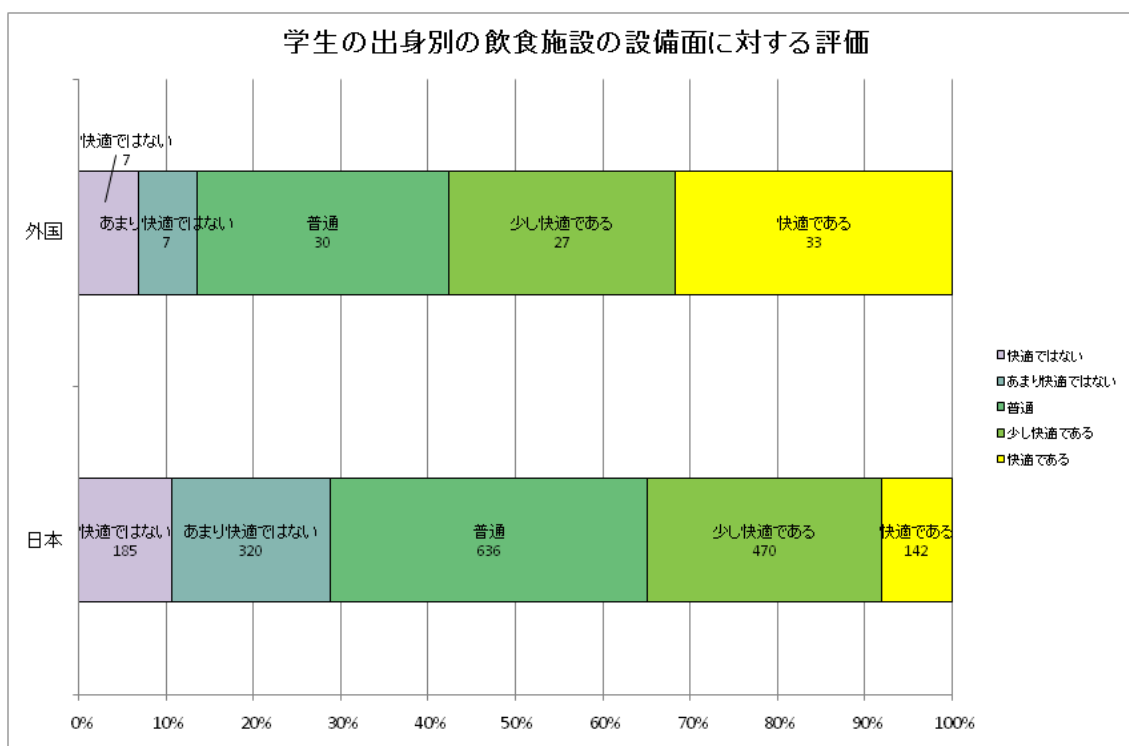


図 4.5.3-1 学生の出身別の飲食施設の設備面に対する評価

現状分析

- 携帯電話の電波に関しては生協側でも事態は把握しています。しかし、回線敷設用の管がすでに他の線により満たされていますので、現状での敷設は難しいです。また、生協から学校側にも問い合わせ頂いています。
- 図4.5.3-1より、特に外国人の人が日本人以上に生協に不満を持っているという数値は出ていませんが、宗教上の理由で食べることが出来ないものがある学生に対しての配慮が必要と考えられます。
- JRの乗車券発券端末は維持費に費用がかさみ、乗車券発券業務のみではとても採算が取れないようです。



4. 項目別提言

具体的提言

○電波の向上

学生から電波向上の声は確かにあるので、学生支援課に協力を要請し、携帯電話用基地局設営の前向きな検討をお願いします。

○食品に関する表示

宗教やアレルギーなどの理由から、食べることが出来ないものに関して、表示などの配慮をお願いします。

4.5.4 共通方針

問題	生協の仕組み等の理由で解決が難しいものについて
具体例	価格の設定・弁当の販売数等々
提言案	現状では完全な解決策がなく、基本的には学生側が妥協せざるを得ない。ただし学生が不満を感じる理由の一つには、実現が難しい理由が学生に十分に周知されていないこともあると考えられ、今回の調査の提言書内や生協のHP・広報活動内で理由の周知に努めて頂くことを提言とします。

問題	施設建設や誘致について
具体例	石川台・緑ヶ丘への生協の新設や弁当の誘致・書店の新設など
提言案	今回の提言書内でも学生からの要望があることを提言しますが、それだけでは具体的にどれほどの潜在的ニーズがあるのかが不明確です。実現を強く望む場合には、今後の学勢調査などで質問数を極端に絞った記名性のアンケートを行ったり、該当箇所ですら活動している学生に対し署名活動を行ったりすることで、説得力のある提言を大学側に伝えることを提案とします。



4.6 学生のモラル・マナー関係

ここでは、提言書作成の過程の中で浮かび上がってきた「学生のモラル・マナーの向上」について、大学側にその促進のために行って頂きたいことを、提言として述べていきます。

提言概要

今回の学勢調査での提言書作成の中で、『学生のモラル・マナー向上の必要性』が浮かび上がってきました。具体的には、以下の様なものが挙げられます。

- ・喫煙に関するマナー
- ・南1号館側通り抜け通路
- ・節電警報時の空調オフの徹底
- ・構内駐輪関係
- ・附属図書館の図書への書き込み・落書き
- ・大学所有物への書き込み・落書き
- ・共用スペースでの会話・騒音

学生の意見と現状分析

○喫煙に関するマナー

喫煙に関する今回の定量的調査の結果は、図 4.6-1,2 の通りです。

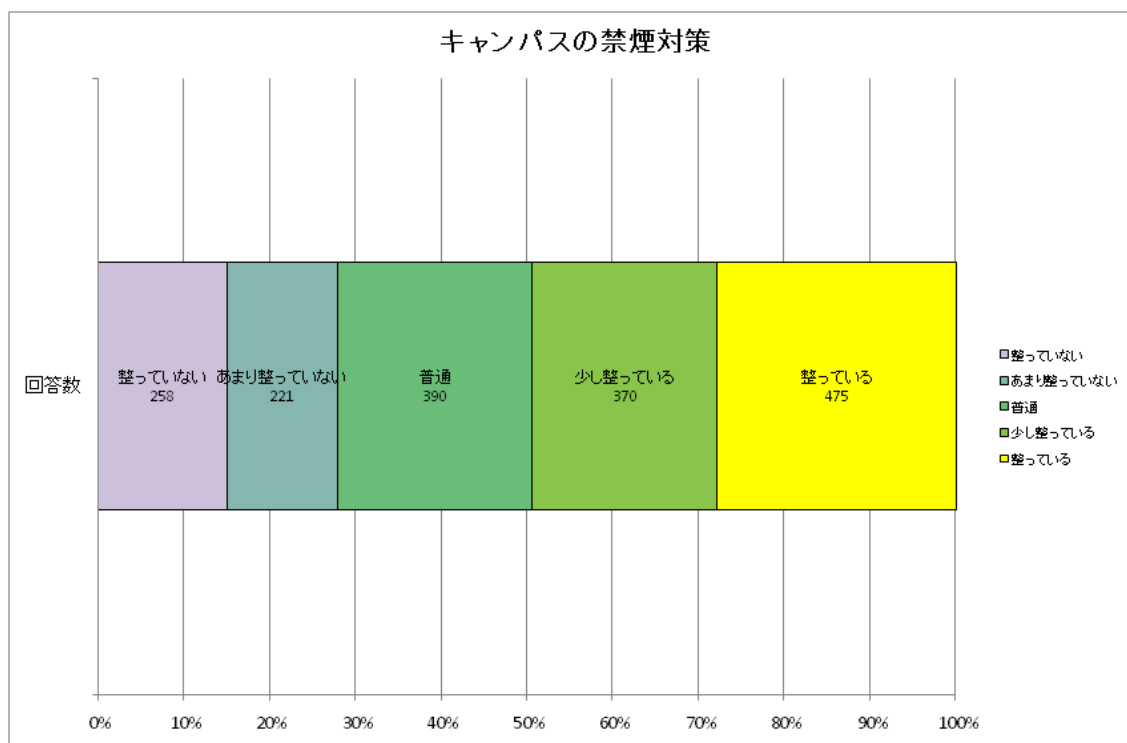


図 4.6-1 キャンパスの禁煙対策への認識



4. 項目別提言

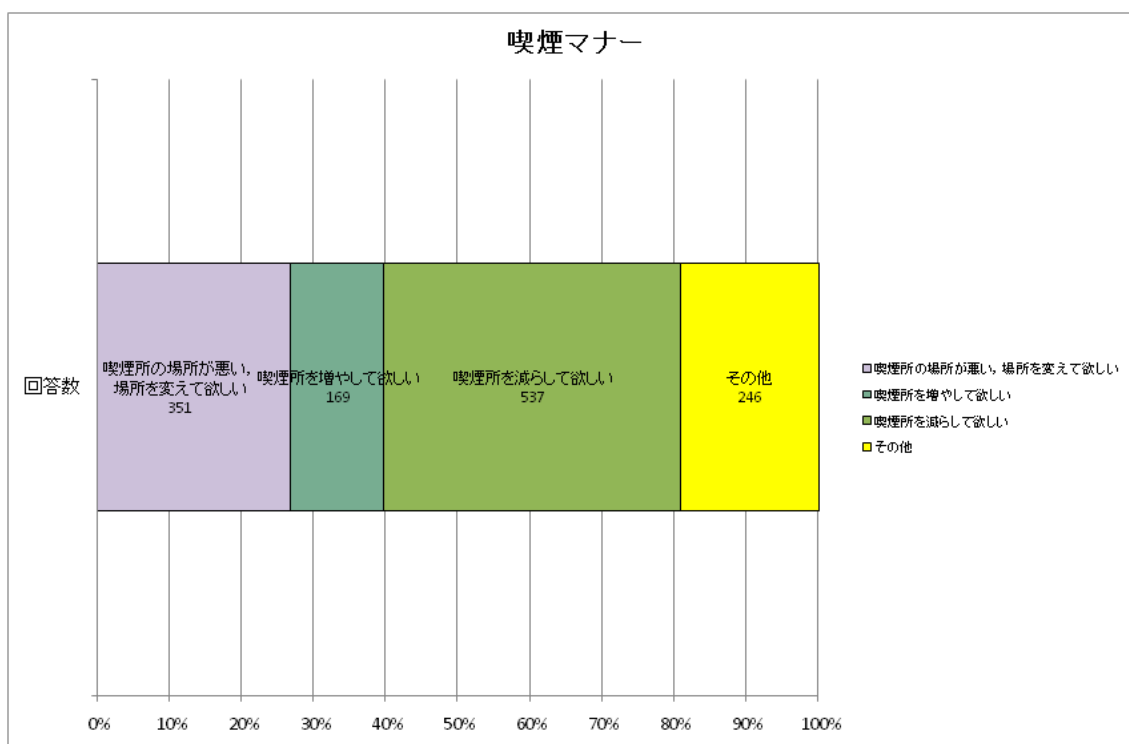


図 4.6-2 喫煙マナーへの認識

キャンパス内の禁煙対策が整っていると考えている方が、多数派となっています。また、社会的な禁煙化の波を受けてか、「喫煙所の場所が悪い、場所を変えてほしい」「喫煙所を減らしてほしい」といった更なる規制の強化を求める声が7割近くを占めています。

具体的にどのような問題があるのかを示すために、喫煙マナーに関して今回寄せられた自由記述の一部を、表 4.6-1 に示します。

表 4.6-1 喫煙マナーに関する自由記述

学生の意見	喫煙マナーに関する自由記述
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行喫煙を取り締まってほしい。 ・ 歩行喫煙を平気で行き、吸い殻をポイ捨てる学生が居る ・ 建物入り口に喫煙所が多く、建物内がタバコのおいが充満するため場所を見直すべき。 ・ 喫煙所の場所を変えて欲しい→入り口近くは歩行者に迷惑。 ・ 喫煙所が設置されているにもかかわらずほかの場所で吸っている。特に西9号館のテニスコートとの間の通路。 ・ 喫煙所以外で深夜によく吸っているのを見かける（緑が丘1号館正面玄関前）。 ・ 学外の人の喫煙マナーがあまり良くない <ul style="list-style-type: none"> ・ some have no smoking places, like S1 Bldg ・ 喫煙者にも喫煙の権利があるのだから、過剰なまでに規制するのはどうかと思う。



喫煙マナーに関して寄せられた自由記述：全201件

以下、内訳。

規制強化：73件 喫煙場所の削減・移動など：16件
 規制緩和：4件 不満なし：105件 その他：3件

これらの自由記述を受けて、最も重要だと考えられるのは、**歩行喫煙への規制**です。これは学生だけでなく、教職員にも見受けられるという意見もいくつか寄せられました。

歩行喫煙は校内だけでなく、キャンパス近辺でもされているという意見も寄せられています。また、本学キャンパス内にはウッドデッキ・芝生スロープなどを訪れる子供連れの近隣住民の方や、構内を通学路として利用している小・中学生も多く、安全面を考慮して規制をかけるべきと考えられます。

また、喫煙所以外で喫煙を行っているといった意見も寄せられました。喫煙者は非喫煙者に迷惑をかけないという義務を負った上で、喫煙する権利を持つと考えられますが、これには喫煙所の設置数だけでなく、どこに喫煙所があるのかが伝わっていないことも原因に考えられます。それに関連して、現在の設置場所の一部を見直してほしいという意見も見受けられます。

○南1号館傍通り抜け通路

学内から学外へと通じている南1号館側の通路について、「開放して欲しい」「なぜ昼休みに警備員が立っているのか分からない」といった意見が寄せられました。この原因としては、学生側に規制の理由が伝わっていないということを「2.1 学生・大学間のコミュニケーション」でも述べました。

○節電警報時の空調オフの徹底

本学では夏期に節電警報が発生した際に、講義室・研究室等の各施設の空調をオフにすることになっていますが、実際には学生室などで徹底してない箇所もあるようです。

原因としては、節電警報の存在理由が学生間に浸透していないといったコミュニケーションの問題があると考えられます。また、誰が空調をオフにするのかといったことが、学生のみが居る学生室などでは決まっておらず、責任の所在が明確になっていないと考えられます。

○構内駐輪関係

学内での駐輪のマナーが悪いという意見が寄せられました。これに対して、駐輪場の整備状況と、自転車利用登録状況を分析します。

まず、図4.6-3から分かるように、本学では3割前後の学生が学内移動に自転車を利用していることが分かります。まず、これを許容するだけの駐輪場のキャパシティを、各地区の学生数に対応して設置したり、昼休み時に学生が集中する生協第一・二食堂付近に十分なスペースを用意したりする必要があります。



4. 項目別提言

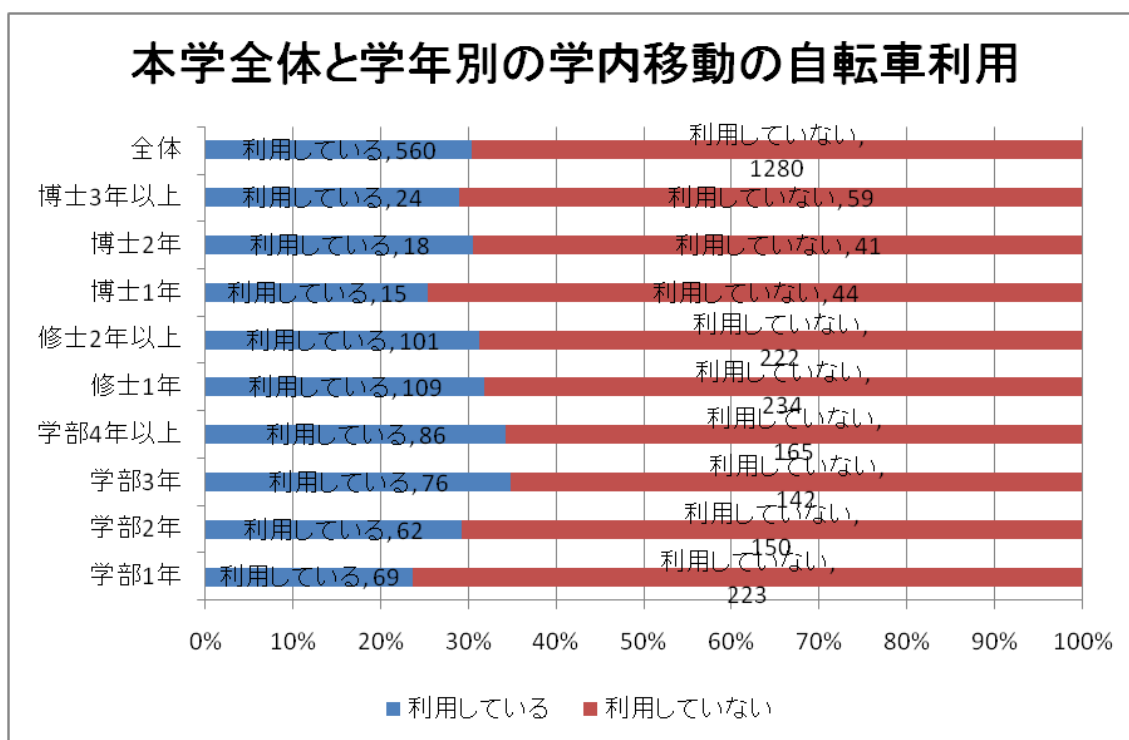


図 4.6-3 本学全体と学年別の学内移動の自転車利用

これに関連して、学生の感じている駐輪施設の充実度を示したのが、図 4.6-4 です。「整っていない」「あまり整っていない」と答えた学生が、5割弱を占めています。

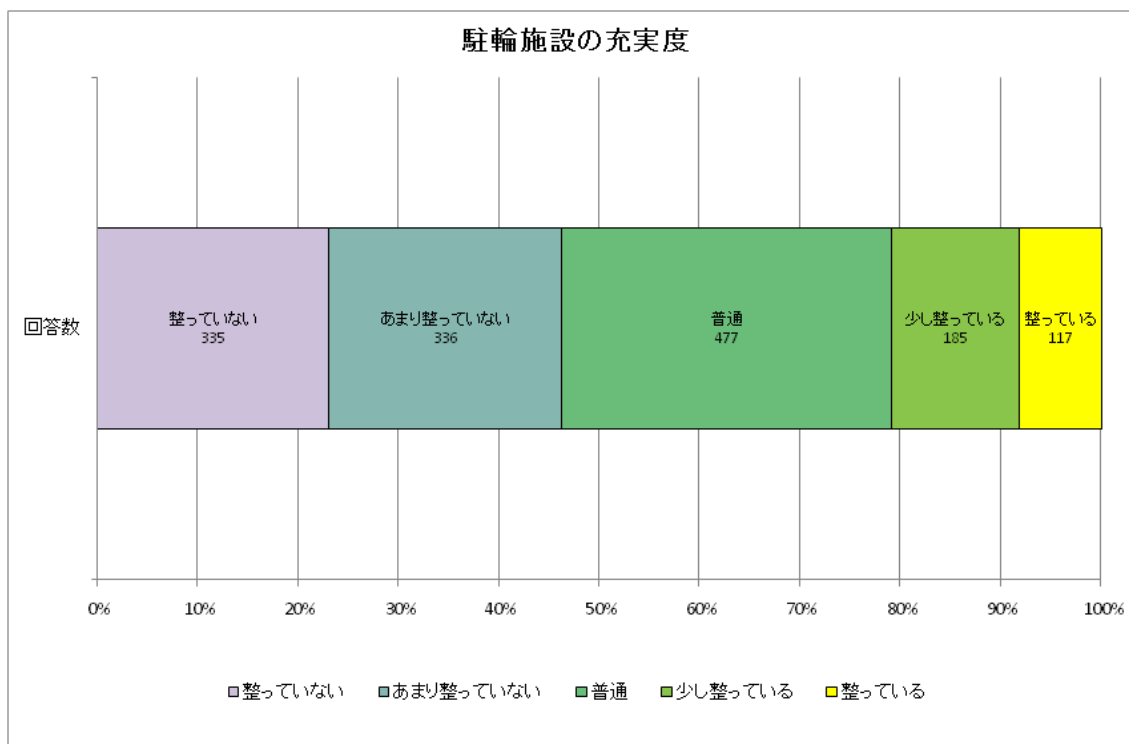


図 4.6-4 駐輪施設の充実度



この原因としては、以下の2つが原因として考えられます。

・駐輪施設のキャパシティが需要を満たしていない

先述した自転車利用者数が、駐輪施設のキャパシティを超えていることが考えられます。また、キャンパス全体のキャパシティが需要を満たしていたとしても、地区・講義棟ごとの学生の集中度に対応していなかったり、昼食時などのピークなどに対処出来るキャパシティがなかったりすることが予想されます。

・駐輪施設のインセンティブが弱く、実質的な充実度が低い

仮にキャパシティが学生の需要を上回っていたとしても、駐輪施設を利用するインセンティブが弱く、実際の利用者が少ないことが考えられます。例えば、今年度新たに設置された石川台地区の駐輪場は各講義棟から距離があり、学生は従来通り駐輪場でない講義棟前に駐輪するため、実際の利用度は低くなっています。

次に、学内における自転車の利用登録状況を分析していきます。図 4.6-3 の項目において「利用している」と答えた方をさらに自転車利用登録に「登録している」と「登録していない」とに分けたのが図 4.6-5 です。ここから分かりますように、学部1年時は高かった登録率が、2年になると同時に7割前後に落ちていることが分かります。この理由としては、学部1年時は入学時のガイダンスにおいて利用をアナウンスされますが、2年時以降は「いつ、どこで、どんな手続きをすればいいのかが分からない」「毎年手続きを行うことが面倒だ」といったことが考えられます。

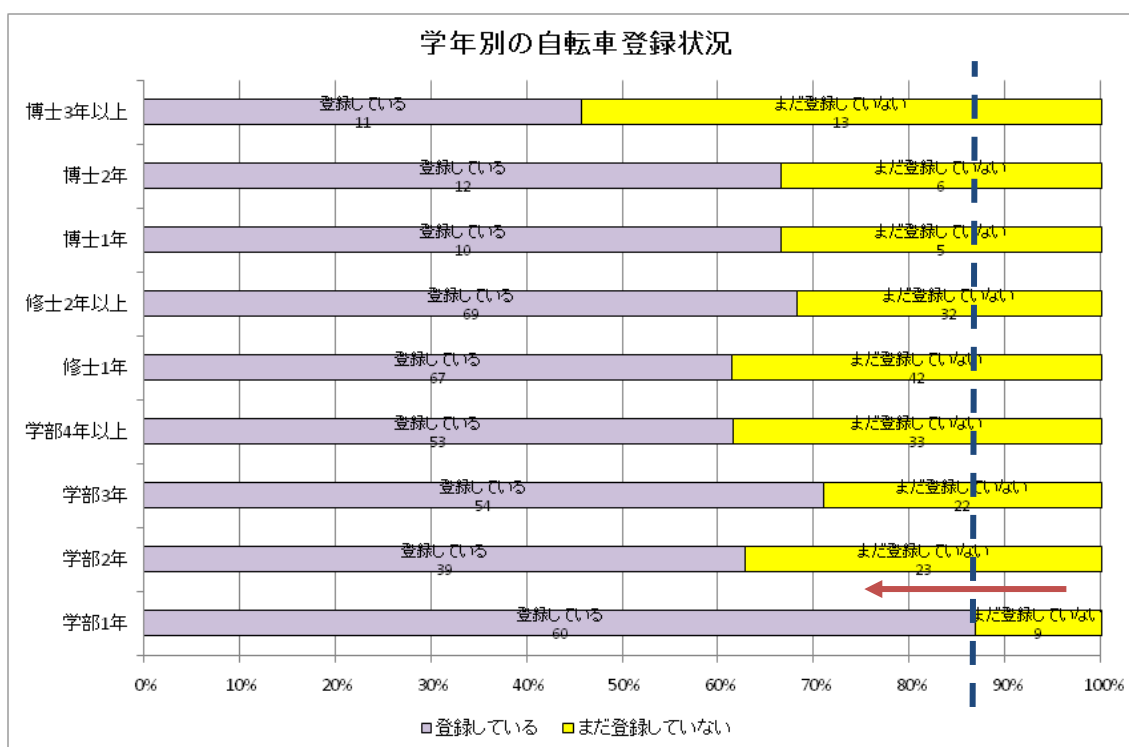


図 4.6-5 学年別の自転車登録状況



4. 項目別提言

○大学所有物への書き込み・落書き

少数の学生とは思いますが、各施設の設備や、附属図書館の図書への書き込み・落書きが存在します。これに対しては個人のモラルの問題が大きく、大学側でも対策を取りにくいものと思われそうですが、度が過ぎたような場合には対策をする必要があると考えられます。

○共用スペースでの会話・騒音

附属図書館内のリフレッシュ・ルームなど、すぐ近くに静粛なスペースがあるにも関わらず、大声で話しているケースが存在します。会話を許されているスペースではありますし、これも個人のマナーの問題が大きいです。頻繁に見られる場合には注意などを行った方が良く考えられます。

具体的提言

まず、冒頭の歩行喫煙に関しては、学内・外者の安全に関わる問題ですので、規制をかけるべきと考えられます。

それ以外に関しては、「学生のマナー・モラルの改善を大学側で促進」を提言します。これらの意見については、もちろん学生側のマナー・モラルの問題が大きいと感じています。ただ、「どうしてそれを守らなければいけないのか、必要性が分からない」「必要性はある程度理解しているが、面倒であったりする」と言ったように、故意にルール・マナーを破っているというよりも、守る必要性が分からないというものもあり、これもまたコミュニケーションの問題と考えられます。以下に、具体例を述べていきます。

○喫煙場所の明記と規制

学外者の中には、どこに喫煙場所があるのか分からない場合もあると考えられます。本学構内は分煙であることと、どこに喫煙所があるのかの明記をした上で、喫煙所以外での喫煙は注意喚起をするのがよいと考えられます。

○規制理由の伝達

南1号館傍の通り抜け通路への規制に関して、学生に不満がある理由の1つには、規制の理由が学生側に伝わっていないことが考えられます。理由が不明確なまま制限をかけられるため、余計に不満が高まるということです。学生へのメール、ホームページでの伝達や、通路付近での表示を行い学生側に周知することで、よい変化が起こる考えられます。

同様に、節電警報時の空調オフについても、その必要性を周知することが必要と考えられます。必要性が伝わっていない現状では、あまり改善は見込めないと予想されます。

○責任の明確化

同じく節電警報について。学生が空調オフしない原因の1つとして、「誰が電源オフにするかが決まっておらず責任の所在が明確でない」ということも考えられます。研究室の学生室などの場合、役割を明確化し、責任の所在を明確化することが、マナー・モラルの改善を促進する1つの方法と考えられます。

○学生の意見の取り入れ

石川台地区の駐輪場は、教職員からの要請があり設置したと学生支援課から伺いました。現状の利用率が低い原因の1つには、「実際に利用する学生側からの意見聴取が不十分であった」ということが考えられます。これを未然に防ぐためには、「ここに設置した場合、利用するか」と言ったことを、学生にヒアリングすることが効果的だと考えられます。



○学生による改善の取り組み

駐輪に関連して、学内の放置自転車も問題の一つと伺っています。これに対して、学生側が取り組む活動が他大学に存在しています。一橋大学などは、エコチャリというプロジェクトを行っています。(参照：<http://ecochari.com/top.html> サイトページ：図 4.6-6) これは、大学構内などの放置自転車を撤去・修理し、貸し出すという活動です。学生のマナー・モラルといった問題に対し、同じ学生が参加する活動によって意識を高めるといった効果が見込めます。

The screenshot shows the EcoChari.com homepage with the following sections:

- Header:** EcoChari.com logo and navigation links: 協賛企業募集 | 学生の方へ | 企業の方へ | 大学関係者へ | 放置自転車でお困りの方へ | よくある質問&返却 | お問い合わせ | HOME
- Main Banner:** "エコチャリ.com" with a bicycle icon and text: "自転車を買うから借りるへ" and "広告を見る". A red banner below says "3/20(金) エコチャリ・相模大野店オープン! 送うご期待下さい."
- Left Column:** "Apply for ECOCHARI" section for graduates and new students, listing various universities like 一橋大学, 横浜国立大学, etc., with a map of Japan.
- Right Column (Top):** "ご利用者の声" (User Voice) section with photos of students and text: "大学のエコチャリ" and "エコチャリご利用者の声".
- Right Column (Middle):** "designQR" section with QR codes and text: "QRコードの新しいカタチ designQR". It lists sponsors like 一橋大学 and 一橋大学生協.
- Right Column (Bottom):** "1円からの借賃" (1 Yen rental fee) section with text: "「デザインQR」で差別化を" and "オリジナルのQRコード「デザインQR」で差別化しませんか?".
- Bottom Section:** "EGOCHARI NEWS RELEASE" and "SPONSORS NEWS" sections.

図 4.6-6 エコチャリのホームページ

こういった「大学の問題に対し、学生が中心となって取り組む」といった対応は、放置自転車だけでなく現在起こっている問題にも応用出来ると考えられ、また大学の問題を学生の手により改善に向かう体制を築き、学生の意識の向上にも繋がると考えられます。

以上の様に、「大学側が促進しつつ、学生のマナー・モラルの改善を目指す」ことを提言します。



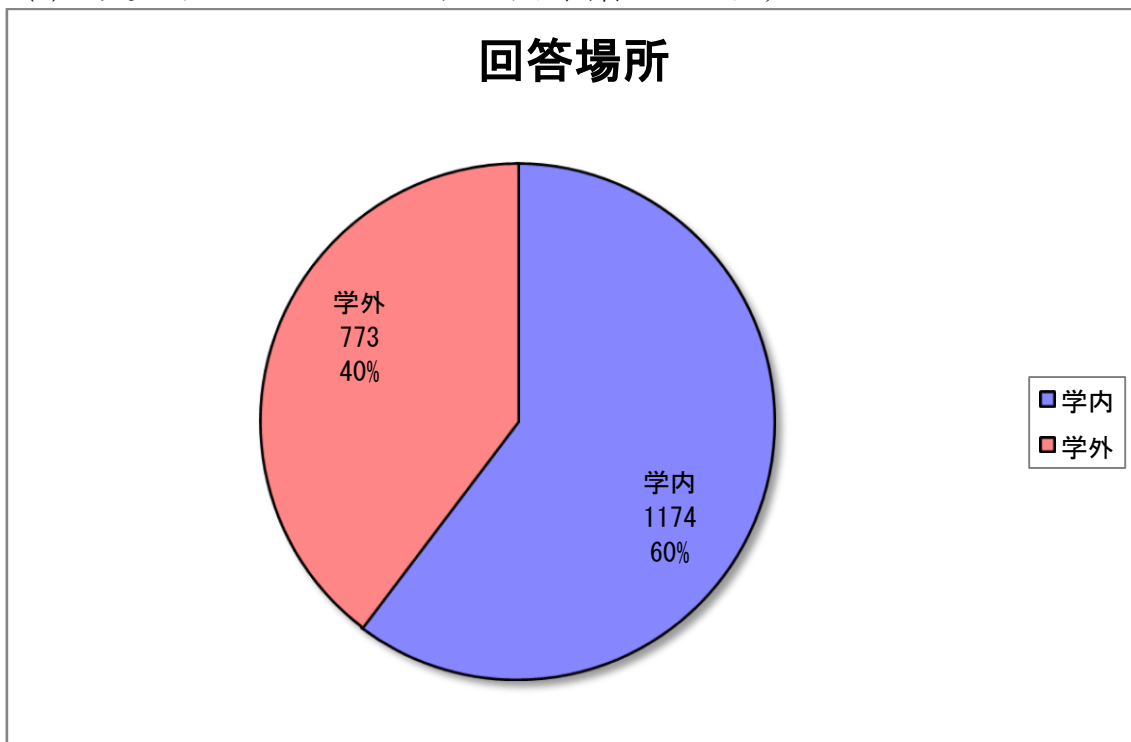
5. 調査資料集

本章では、2008年10月27日から11月21日にかけて行われた学勢調査アンケートの結果を掲載します。

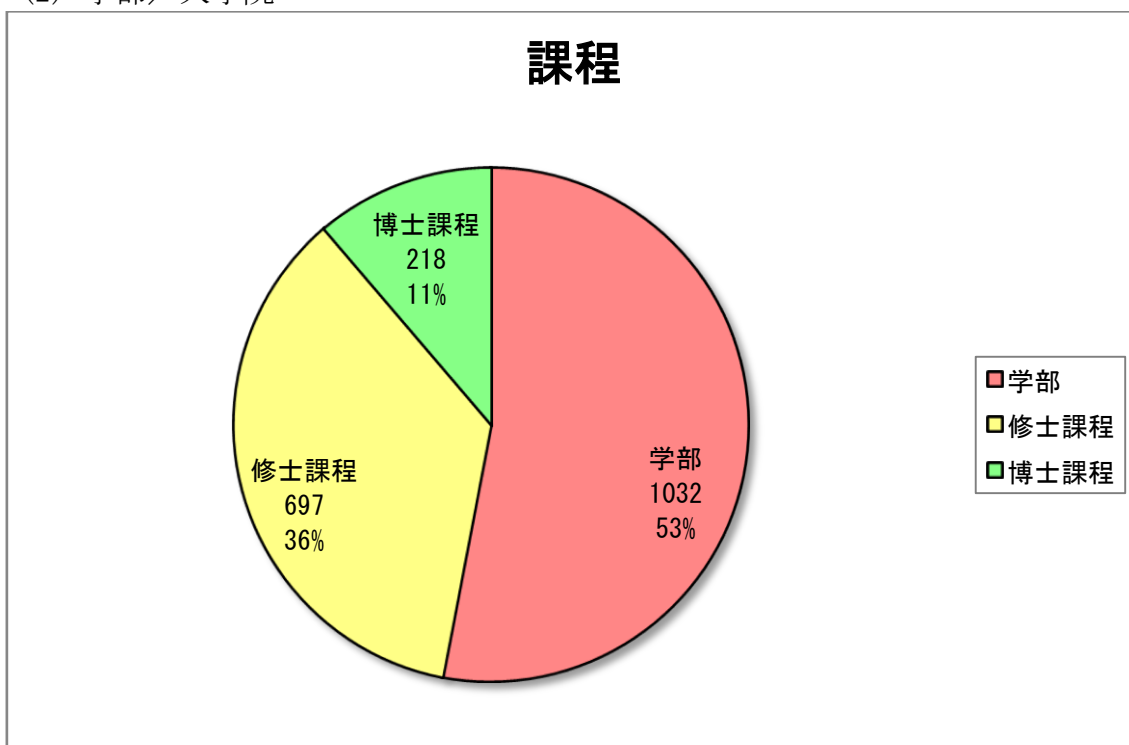
集計対象は自由記述回答の設問以外全てです。集計結果のグラフ・表中の数字は該当選択肢への回答者数です。なお、一部の設問は表記の都合上、実際の設問とは異なっていますが、内容に違いはありません。

5.0 基本情報

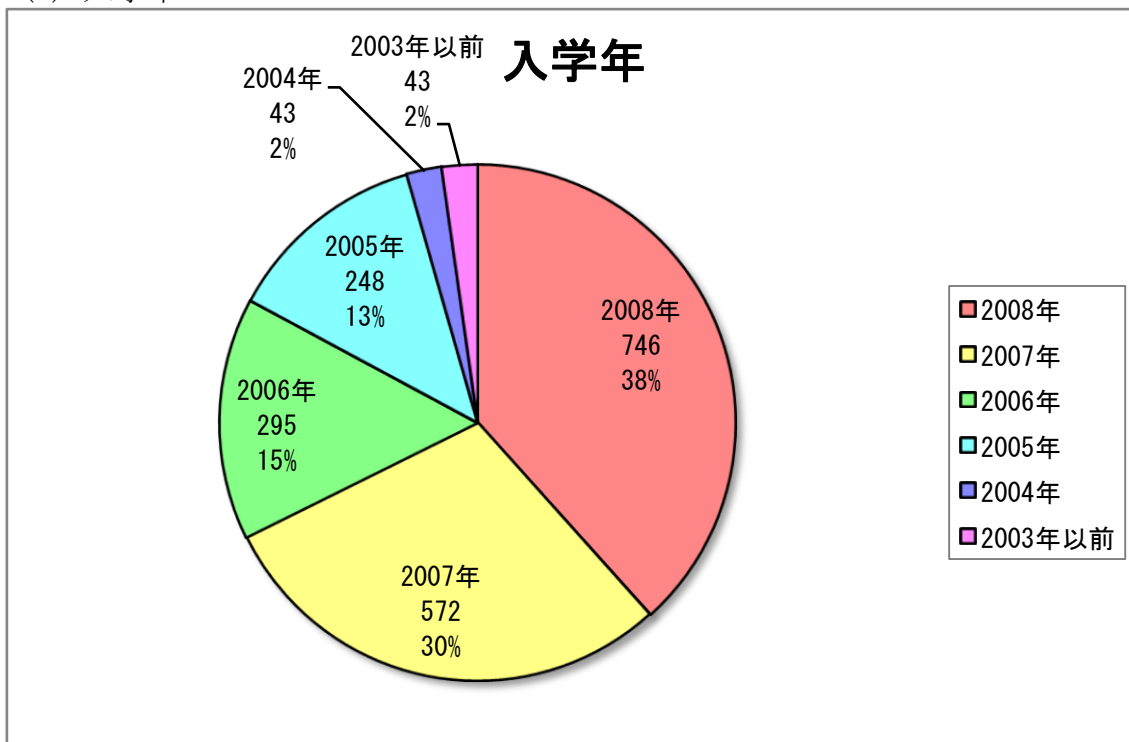
(1) あなたはどこでこのアンケートに回答していますか？



(2) 学部／大学院

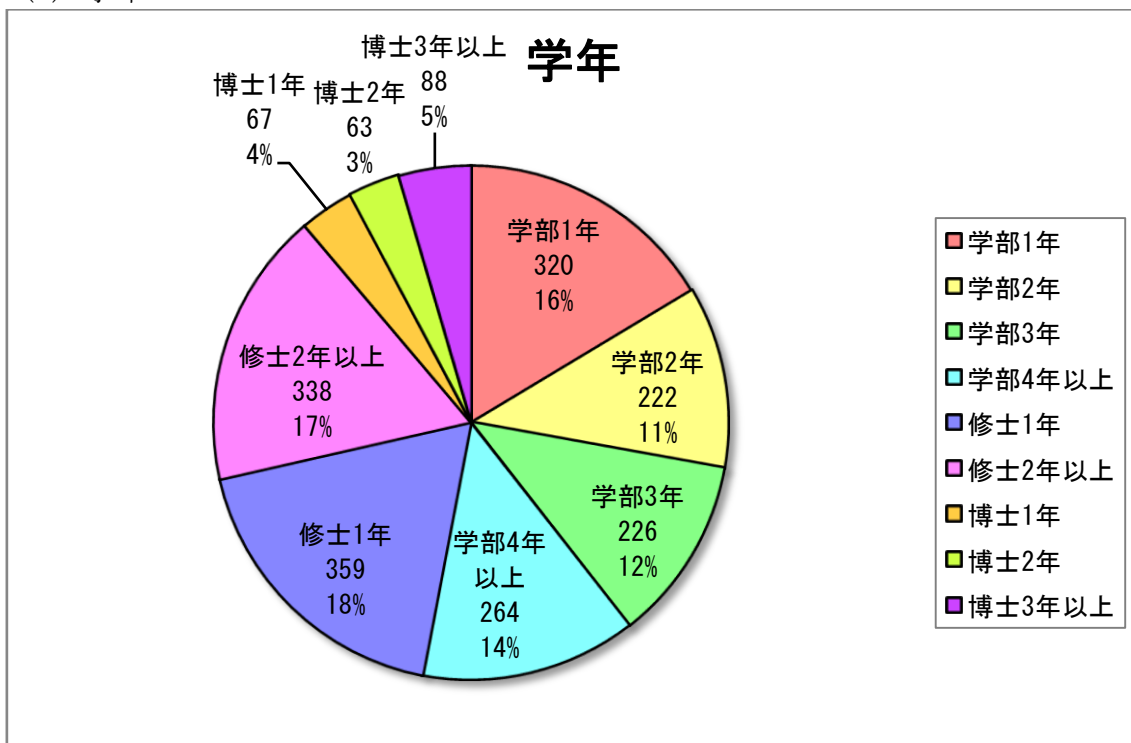


(3) 入学年

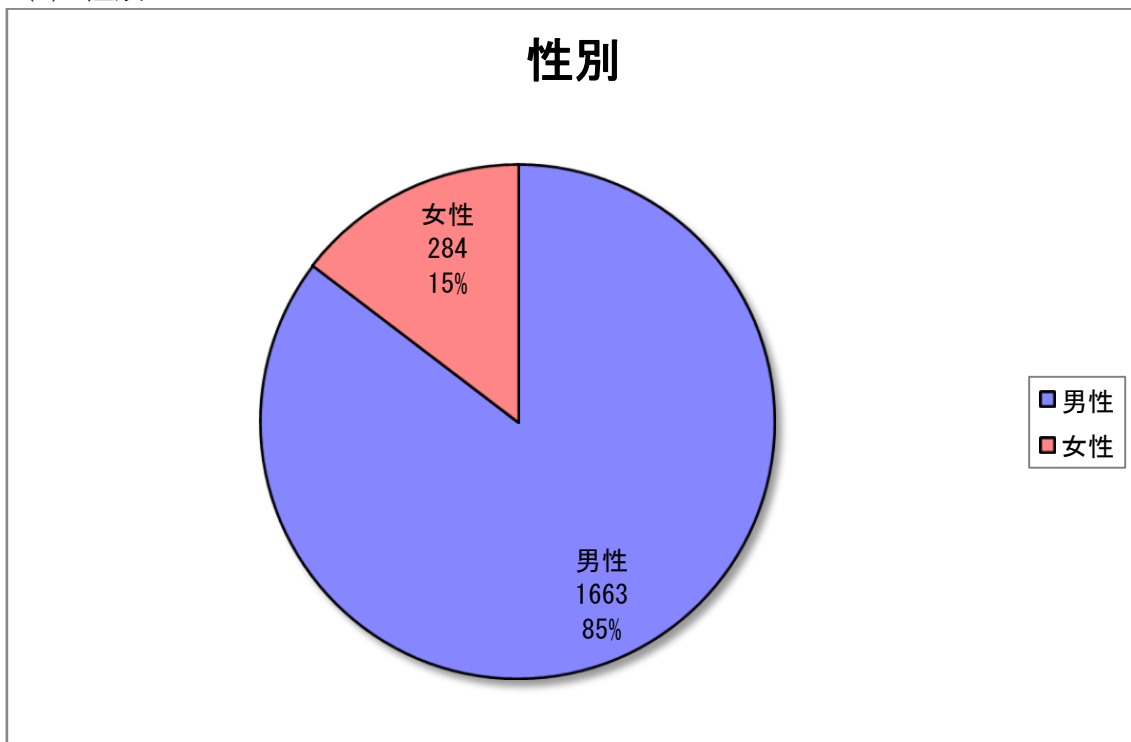


5. 調査資料集

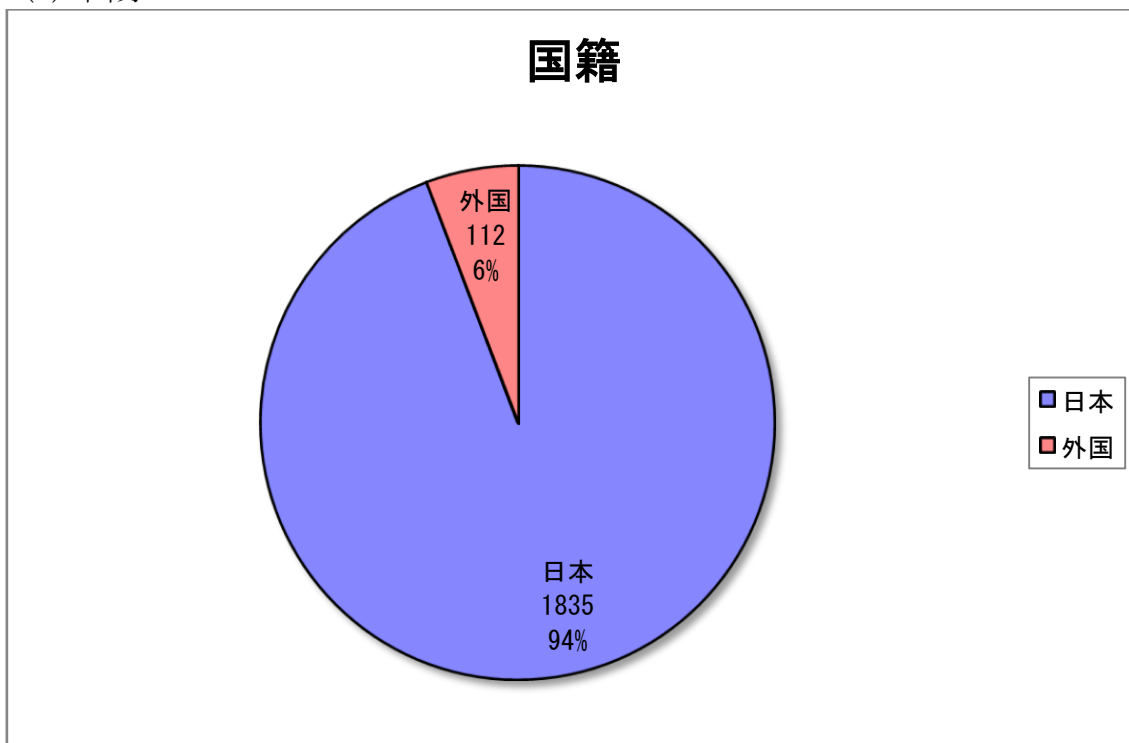
(4) 学年



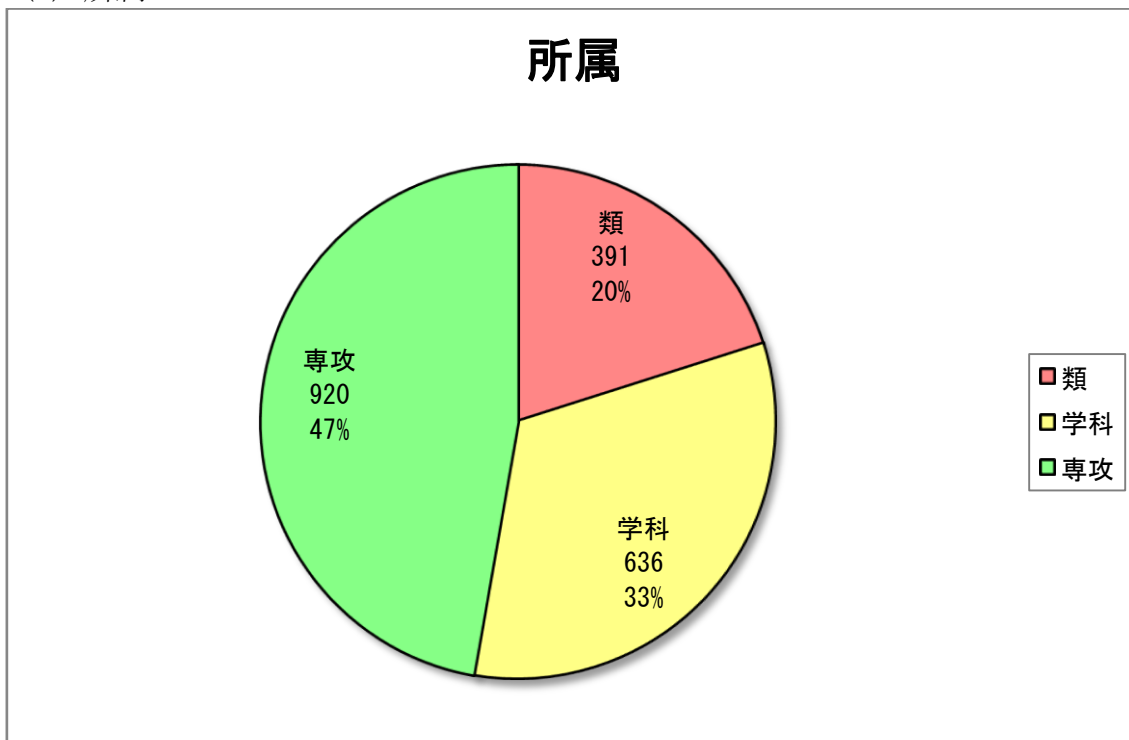
(5) 性別



(6) 出身



(7) 所属



5. 調査資料集

(7a) 所属別回答数

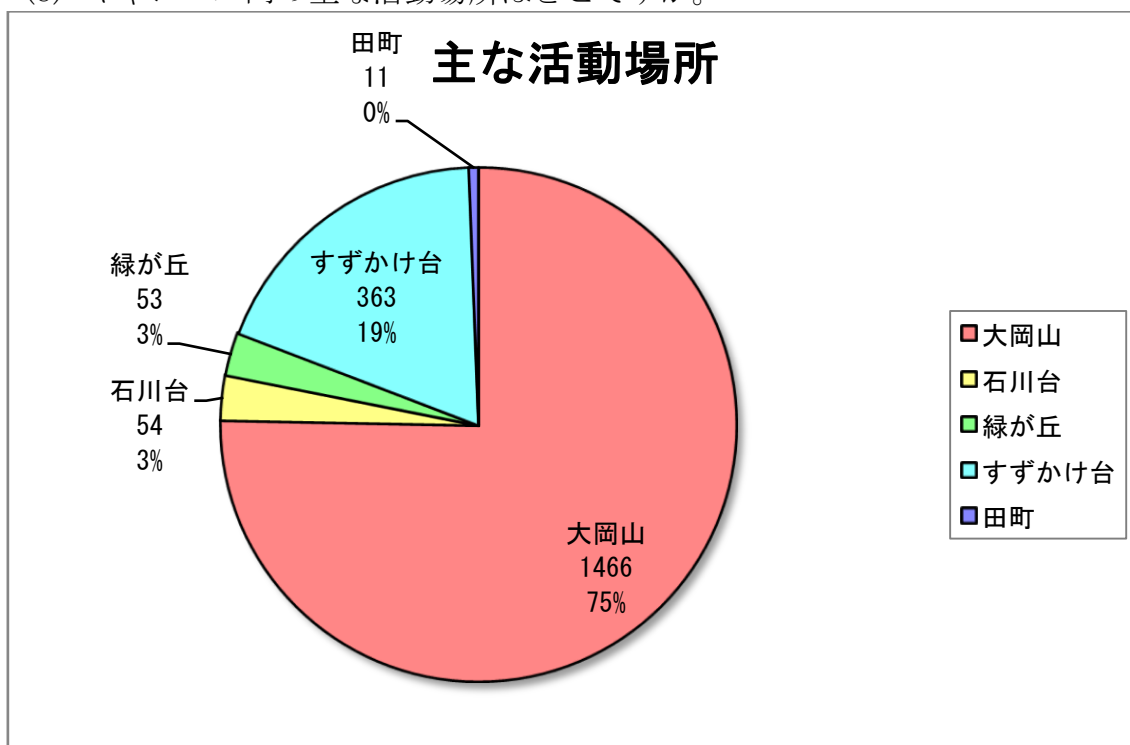
所属/類	
1 類	85
2 類	37
3 類	28
4 類	61
5 類	75
6 類	38
7 類	67

所属/学科			
数学科	13	機械知能システム学科	31
物理学科	31	機械宇宙学科	32
化学科	16	国際開発工学科	20
情報科学科	15	制御システム工学科	25
地球惑星科学科	19	経営システム工学科	17
金属工学科	24	電気電子工学科	53
有機材料工学科	16	情報工学科	68
無機材料工学科	30	土木・環境工学科	18
化学工学コース	21	建築学科	18
応用化学コース	24	社会工学科	33
高分子工学科	23	生命科学科	25
機械科学科	29	生命工学科	35

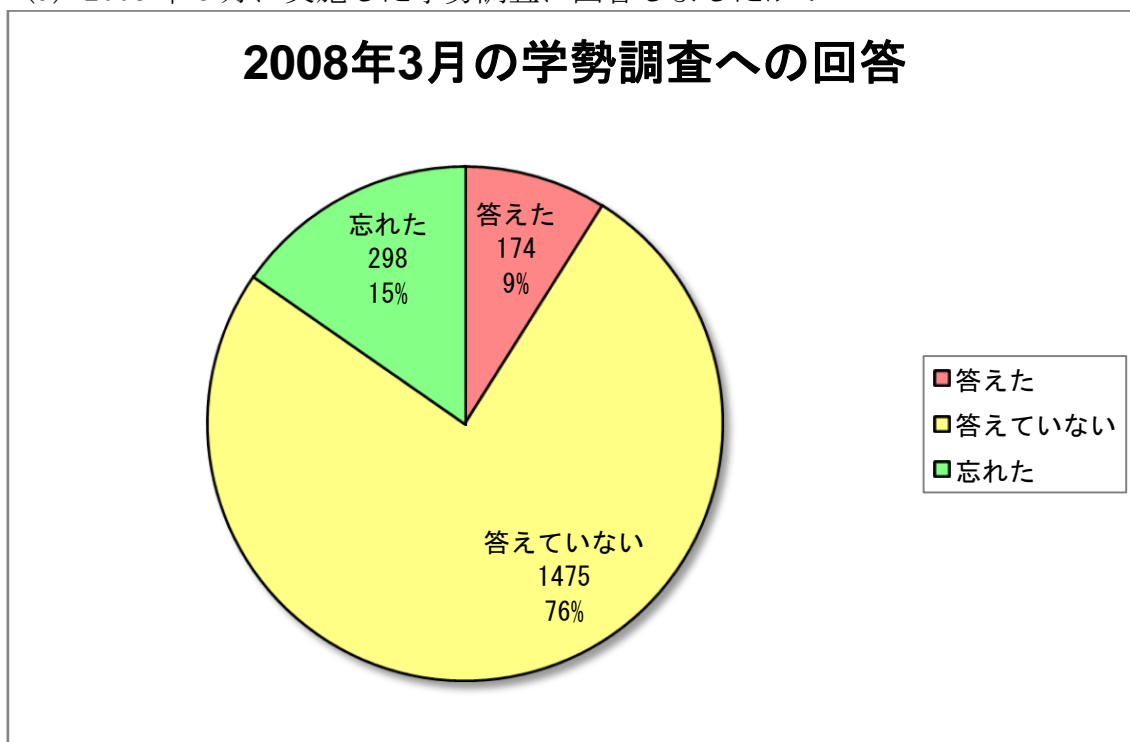
所属/専攻					
数学専攻	13	集積システム専攻	23	創造エネルギー専攻	19
基礎物理学専攻	11	土木工学専攻	18	化学環境学専攻	27
物性物理学専攻	11	建築学専攻	11	物理電子システム 創造専攻	18
化学専攻	14	国際開発工学専攻	17	メカノマイクロ工学専攻	13
地球惑星科学専攻	9	原子核工学専攻	19	知能システム科学専攻	31
物質科学専攻	28	分子生命科学専攻	22	物理情報システム専攻	21
材料工学専攻	32	生体システム専攻	14	数理・計算科学専攻	14
有機・高分子物質専攻	34	生命情報専攻	22	計算工学専攻	37
応用化学専攻	23	生物プロセス専攻	19	情報環境学専攻	30
化学工学専攻	26	生体分子機能 工学専攻	19	人間行動システム専攻	16
機械物理工学専攻	32	物質科学創造専攻	12	価値システム専攻	19
機械制御システム専攻	29	物質電子化学専攻	24	経営工学専攻	26
機械宇宙システム専攻	16	材料物理科学専攻	15	社会工学専攻	21
電気電子工学専攻	31	環境理工学創造専攻	12	技術経営専攻	10
電子物理工学専攻	28	人間環境システム専攻	25	イノベーション専攻	9



(8) キャンパス内の主な活動場所はどこですか。

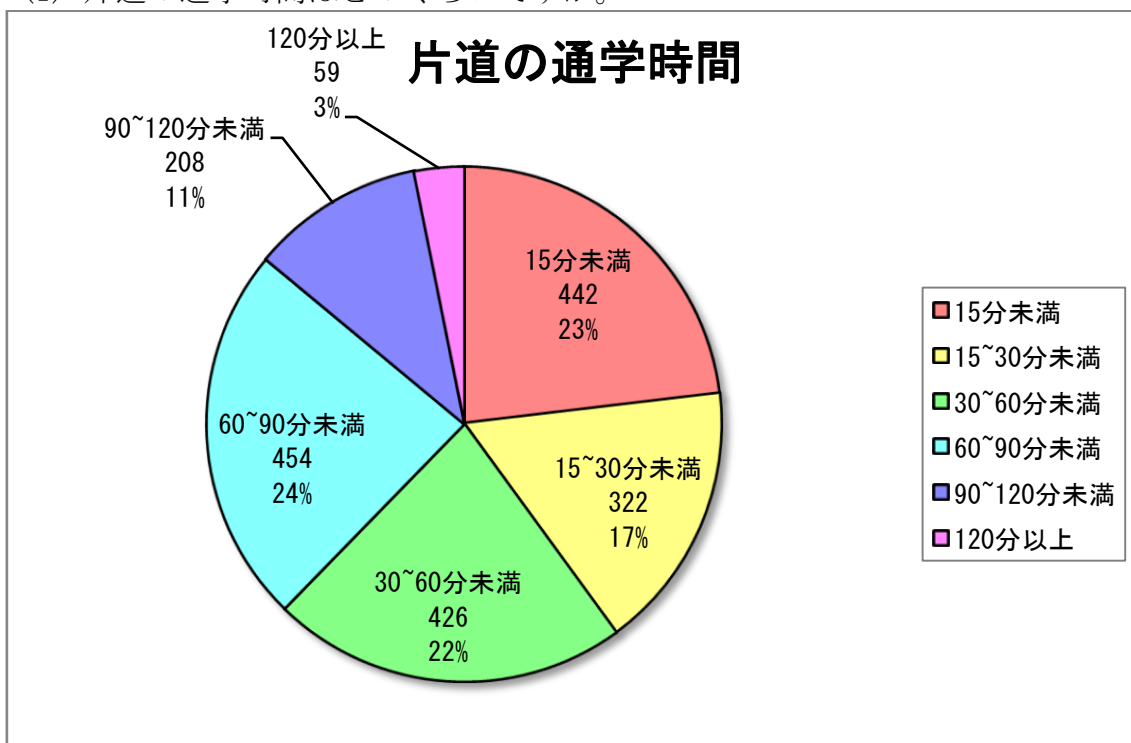


(9) 2008年3月に実施した学勢調査に回答しましたか？

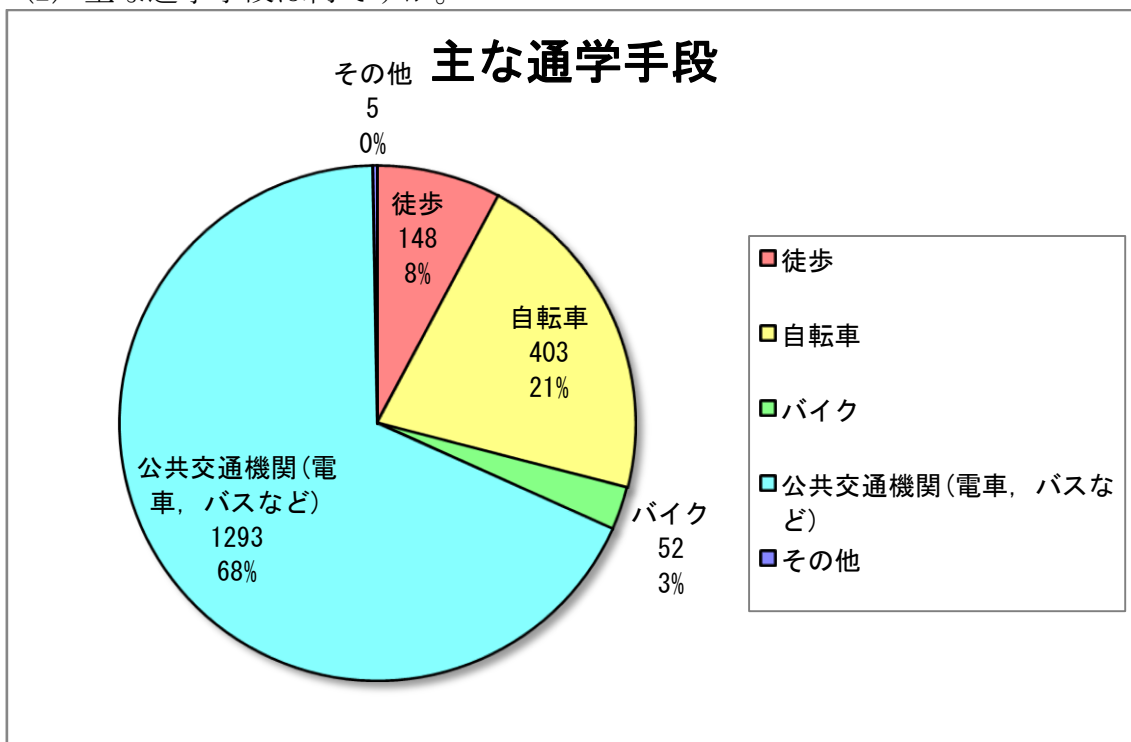


5.1 生活基盤について

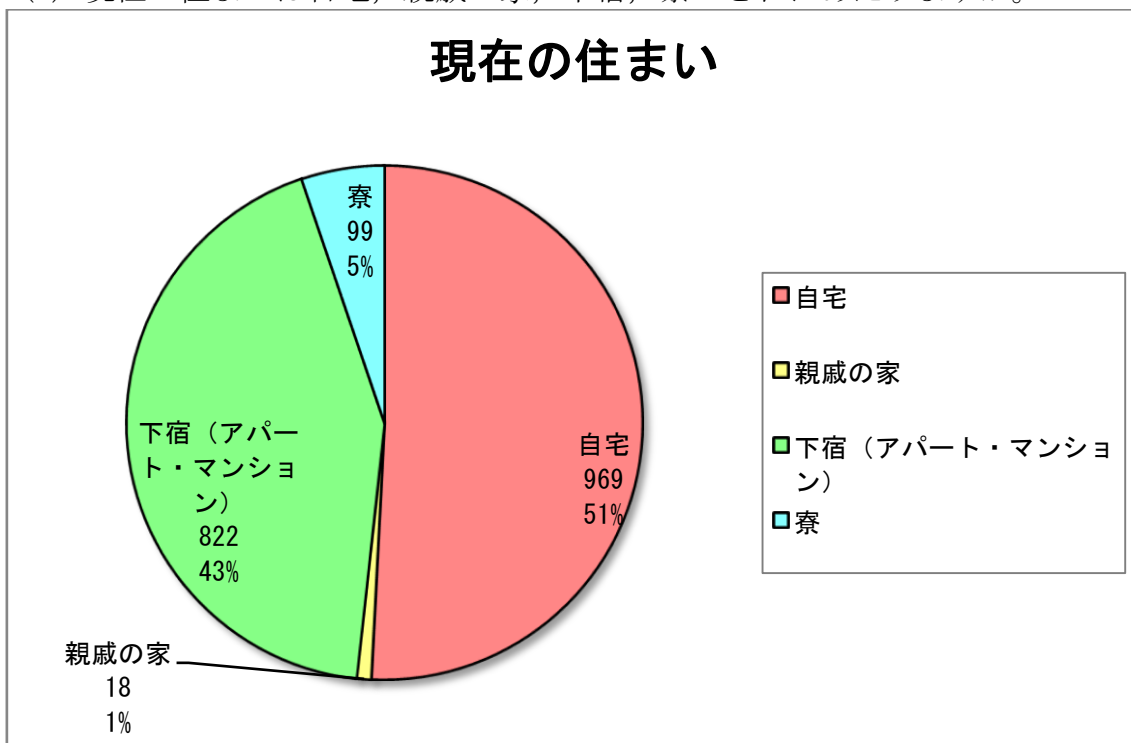
(1) 片道の通学時間はどのくらいですか。



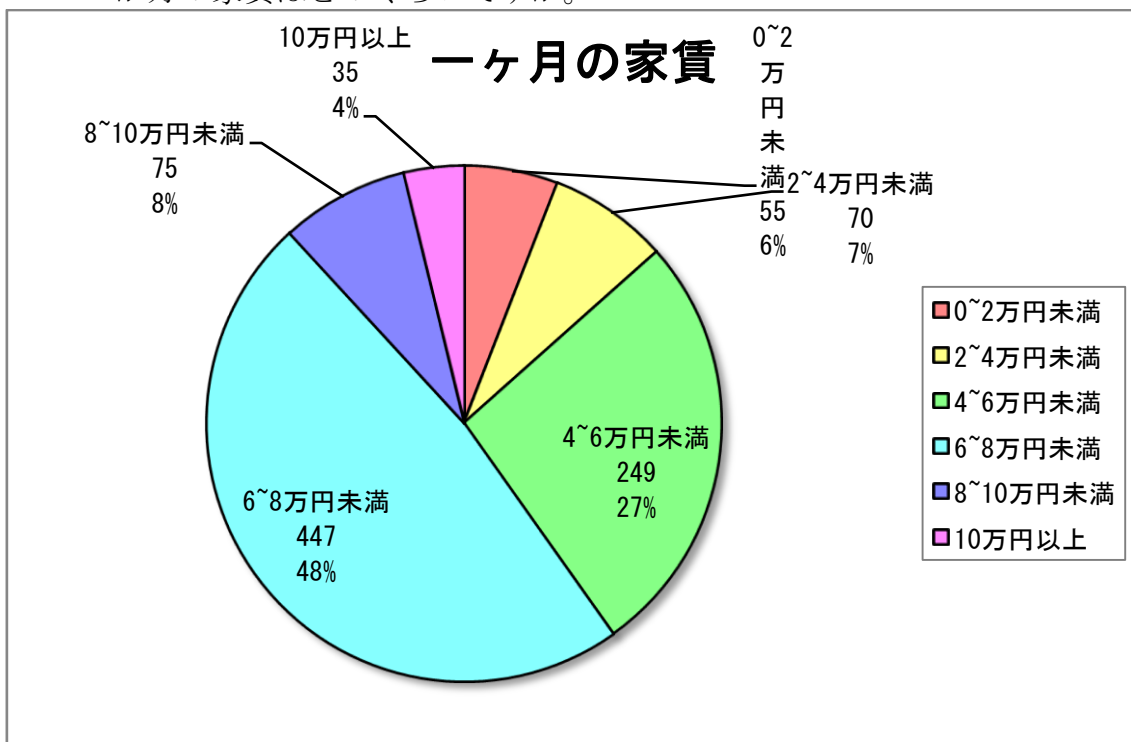
(2) 主な通学手段は何ですか。



(3) 現在の住まいは自宅、親戚の家、下宿、寮のどれにあたりますか。

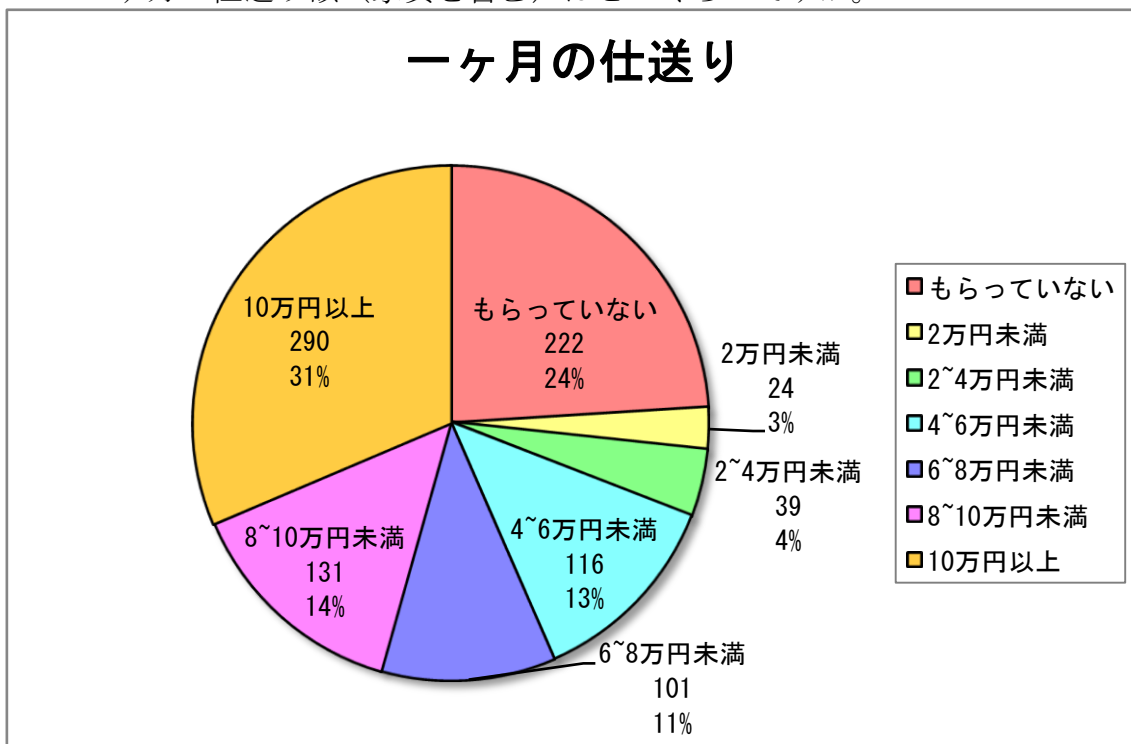


(4) (3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。
一か月の家賃はどのくらいですか。

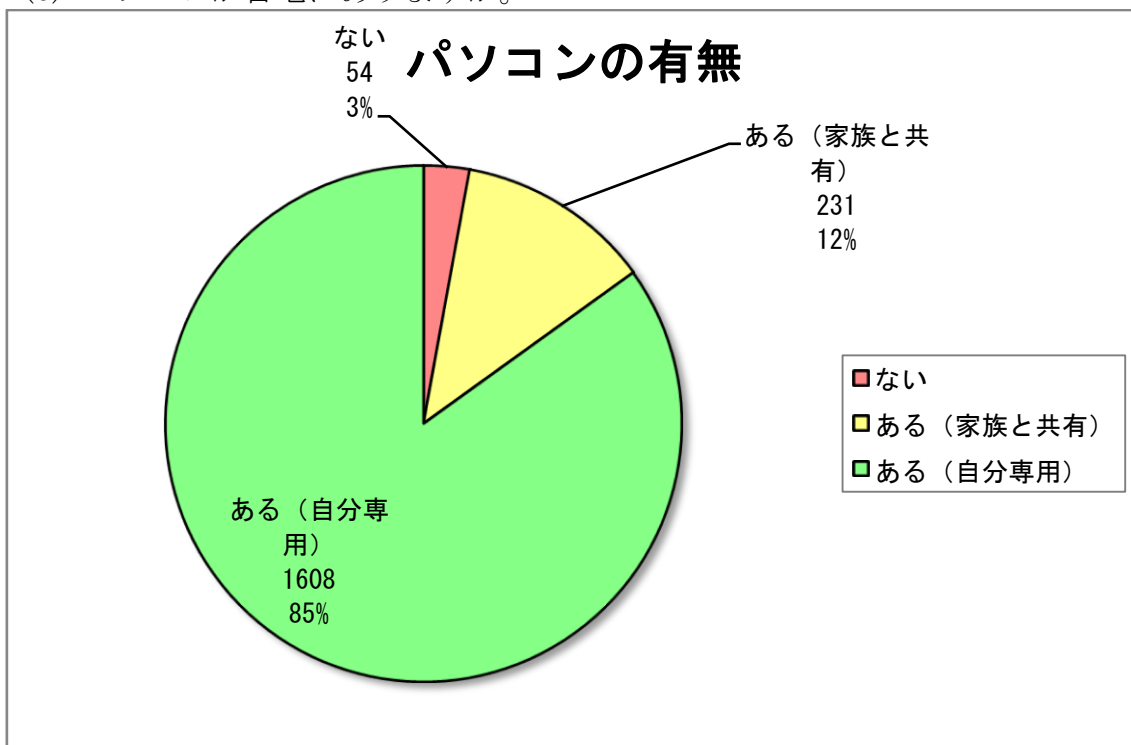


5. 調査資料集

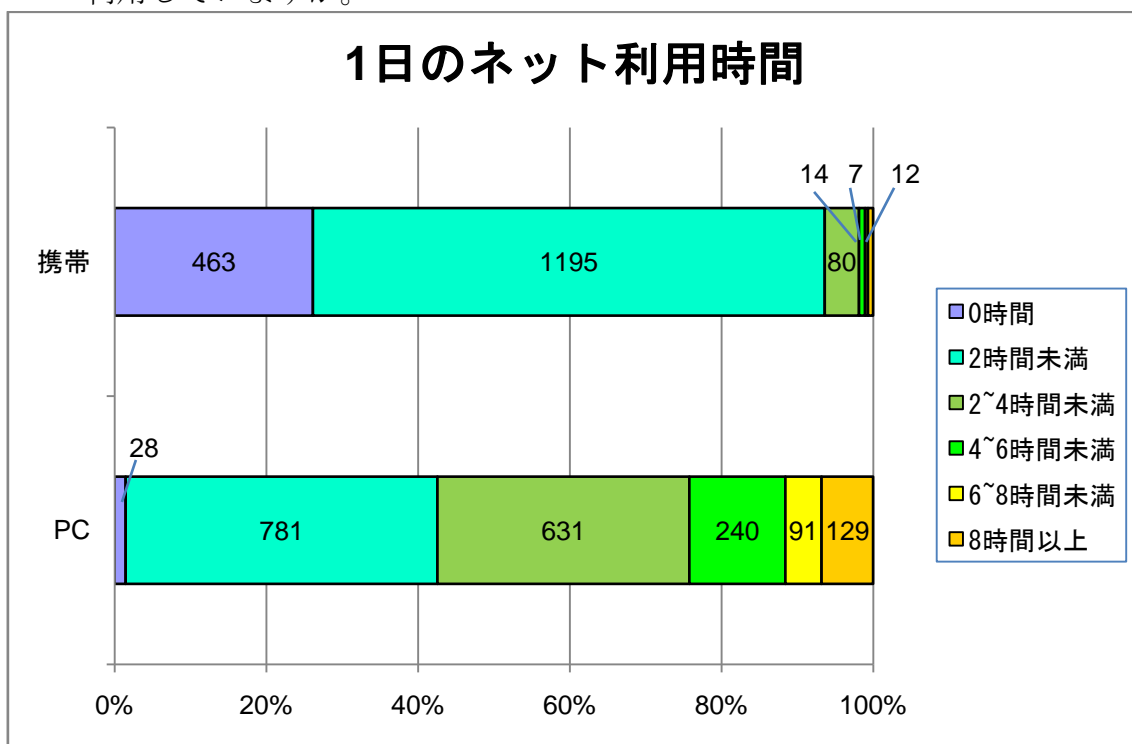
(5) (3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。
 一ヶ月の仕送り額（家賃を含む）はどのくらいですか。



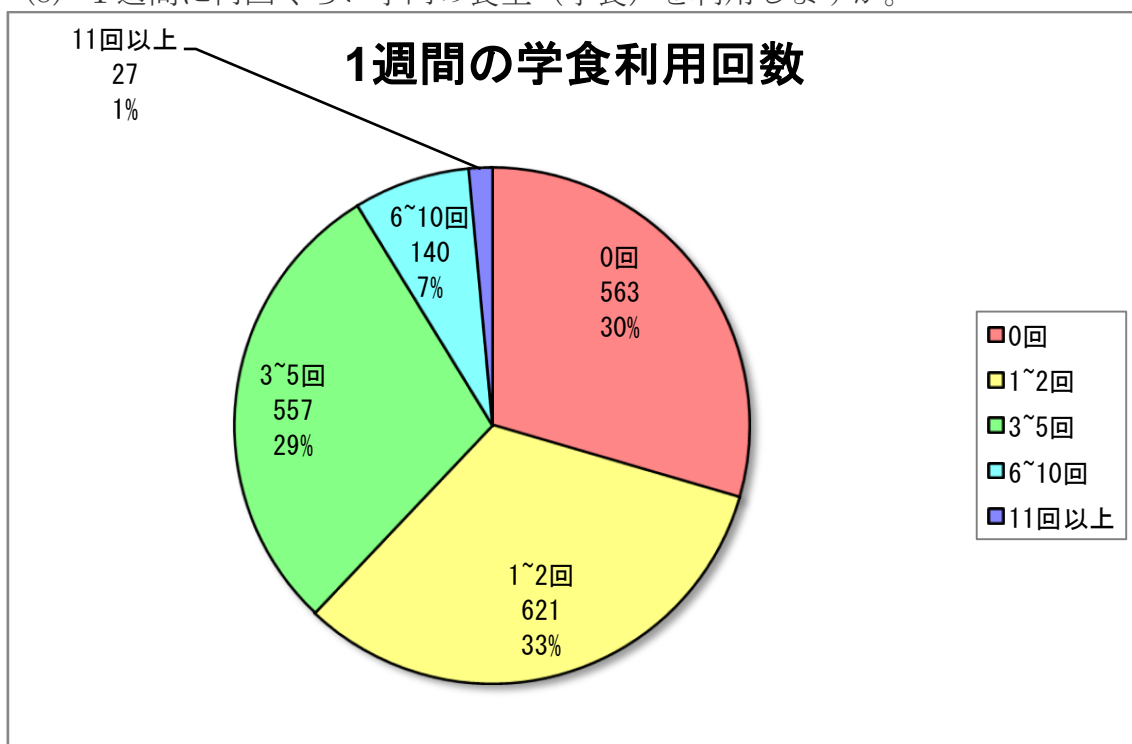
(6) パソコンが自宅にありますか。



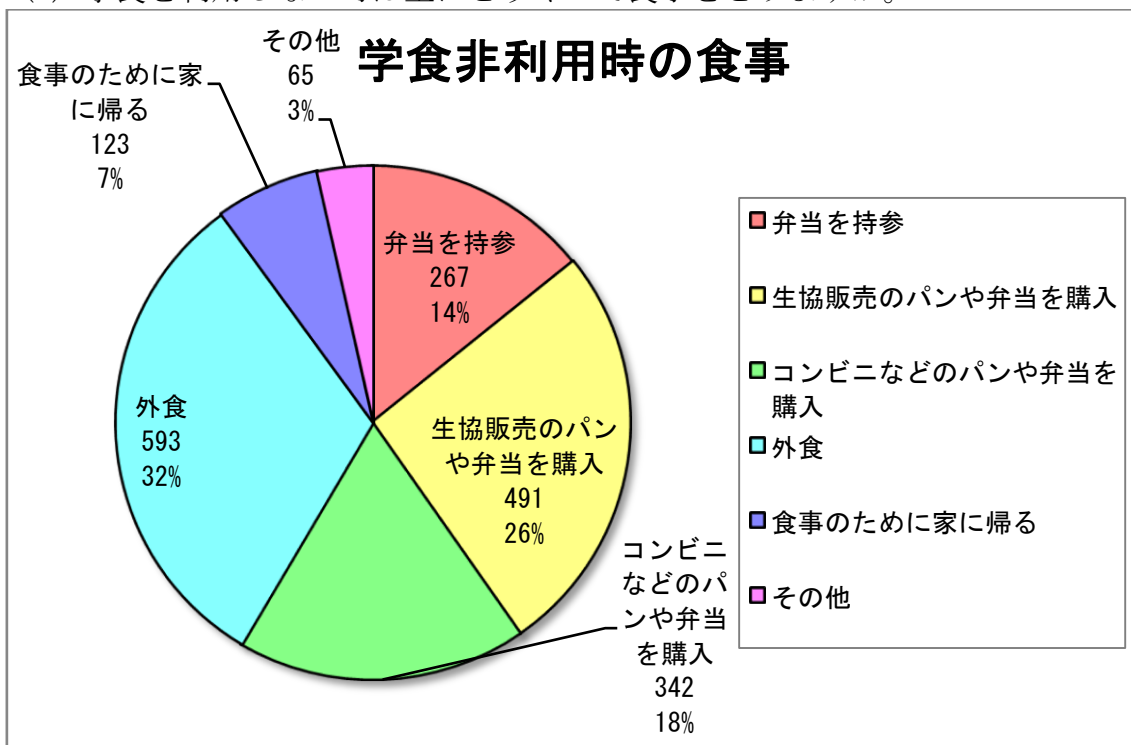
(7) 1日平均、どのくらいインターネット（電子メールを含む）を利用していますか。



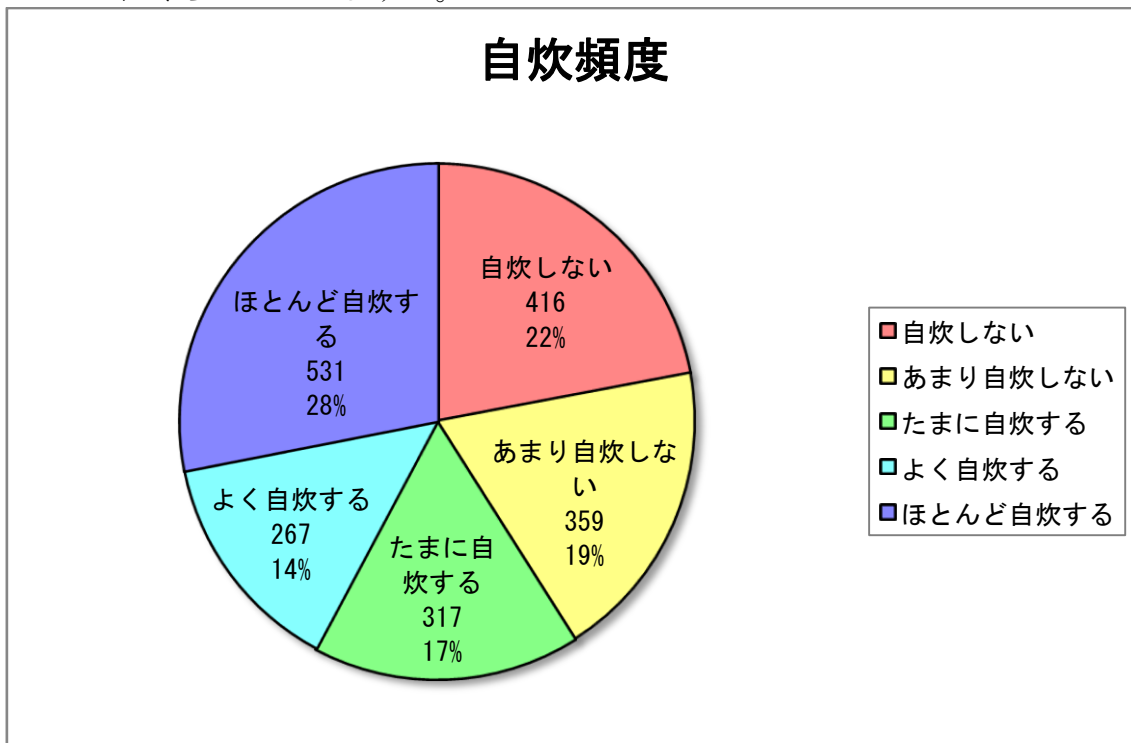
(8) 1週間に何回くらい学内の食堂（学食）を利用しますか。



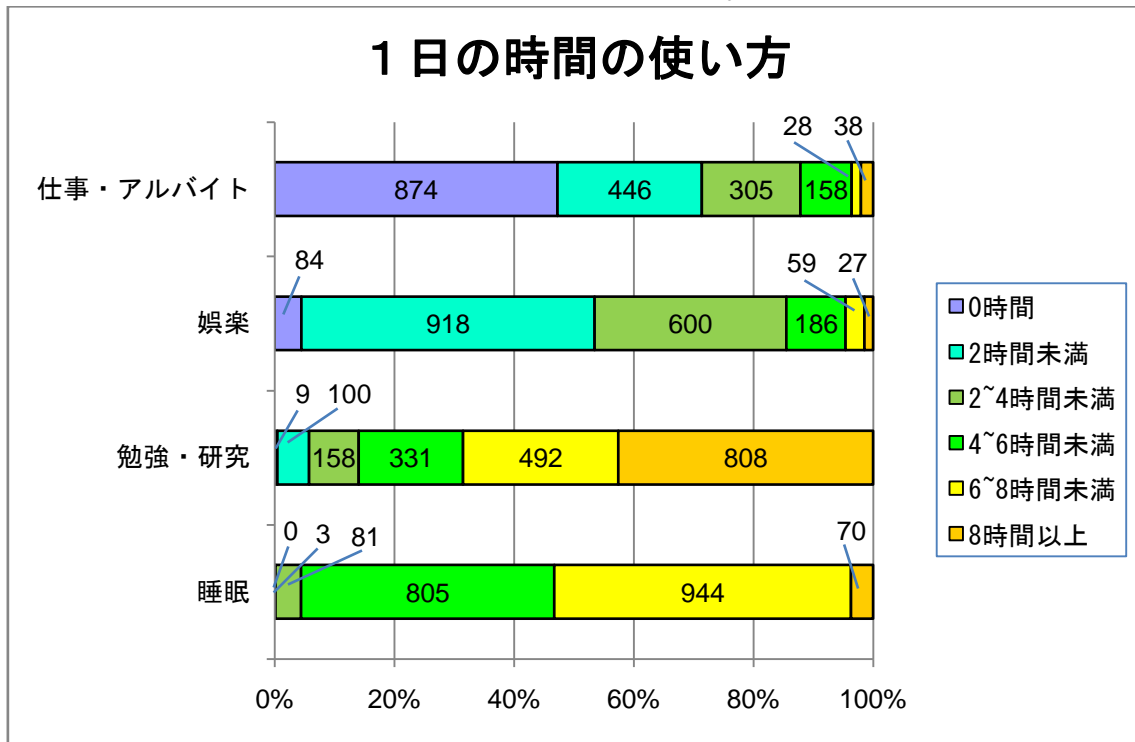
(9) 学食を利用しない時は主にどうやって食事をとりますか。



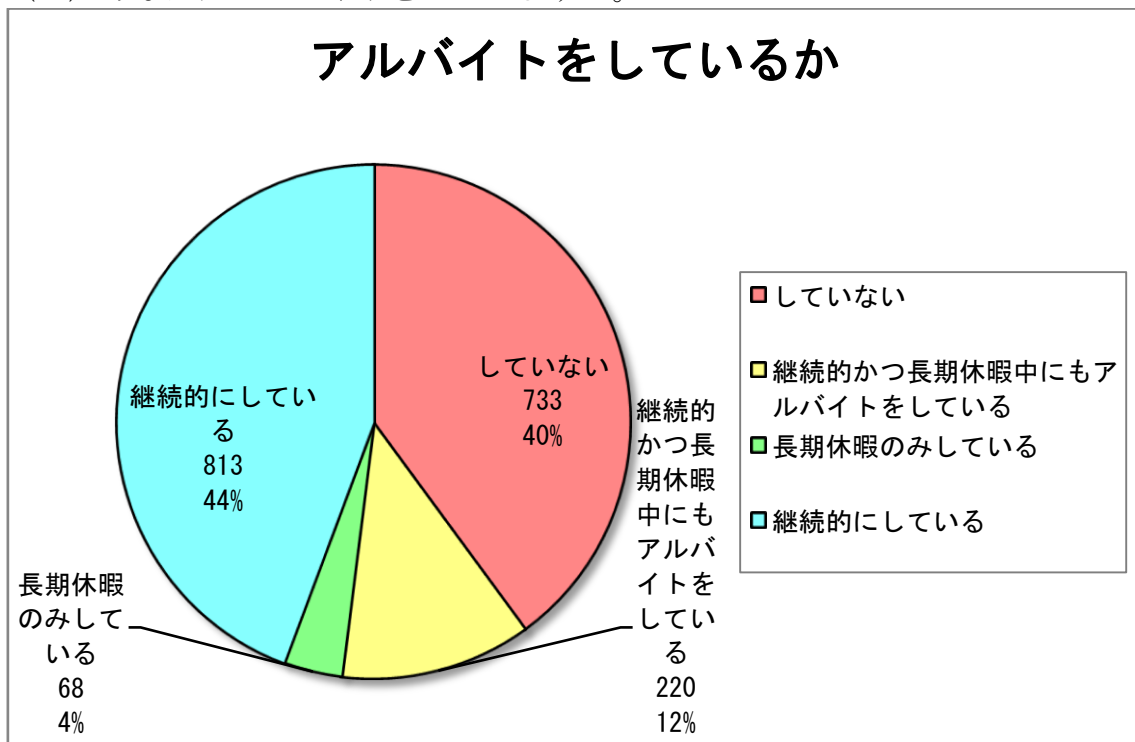
(10) 普段の食事で、自炊（自分もしくは家族が調理した食事をとること）をどれくらいしていますか。



(11) 平日の平均的な時間の使い方を教えてください。

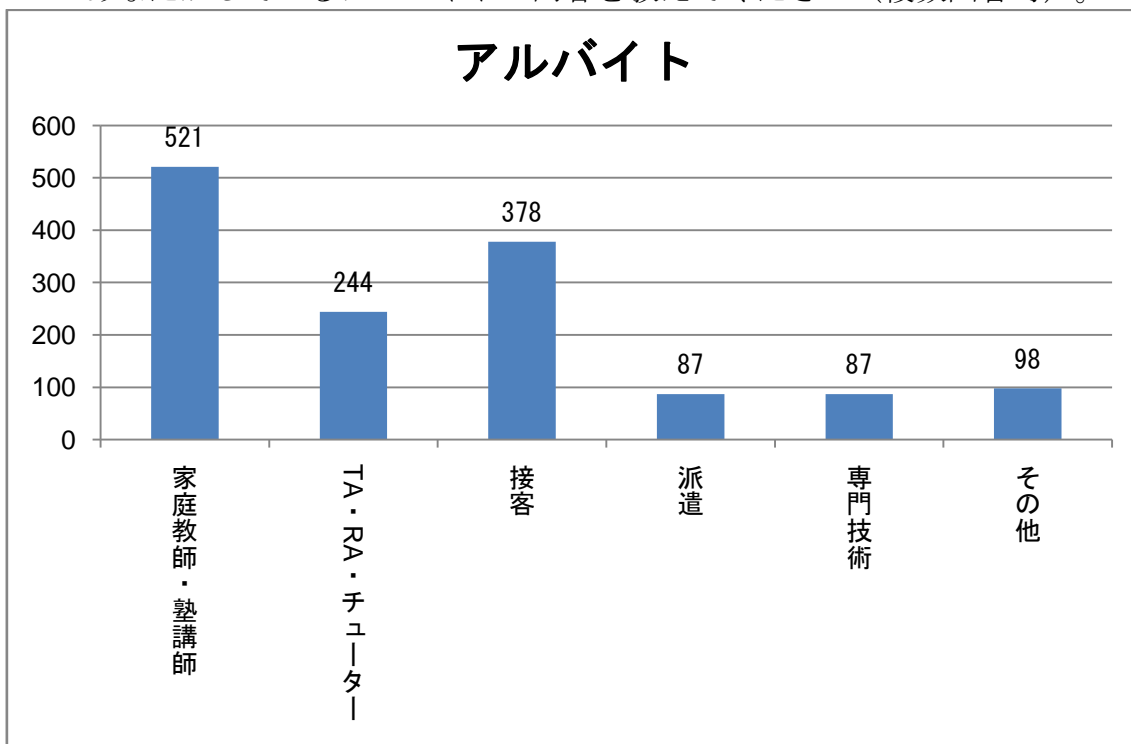


(12) あなたはアルバイトをしていますか。

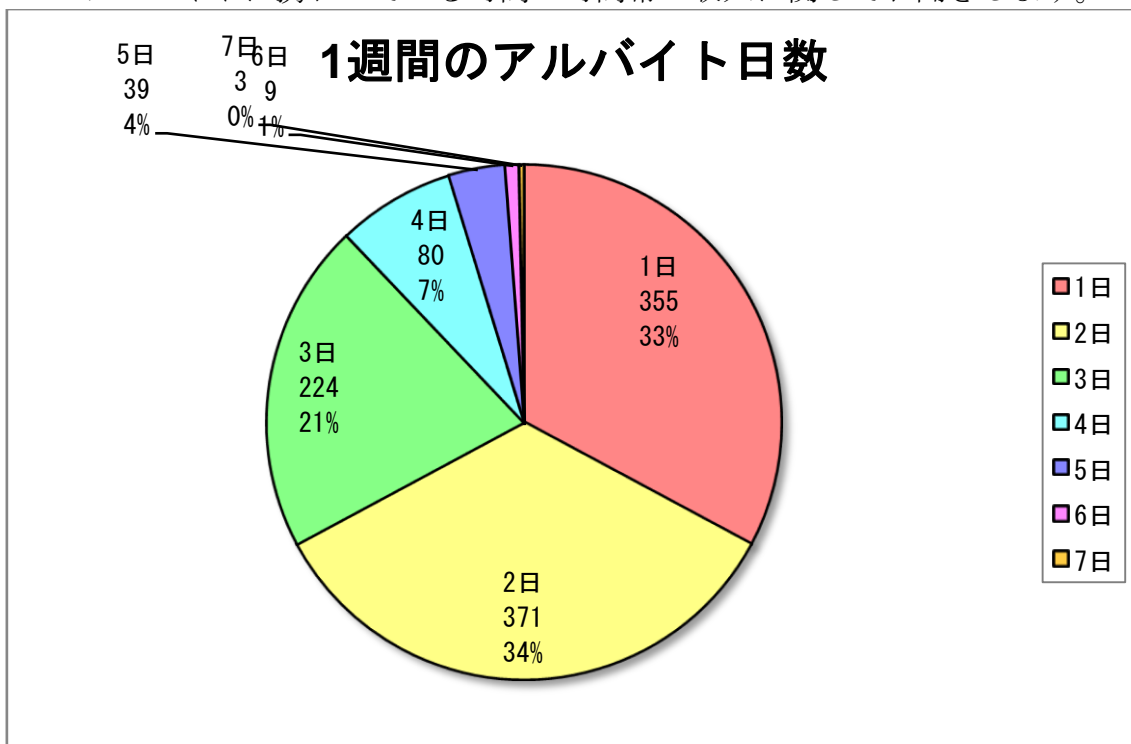


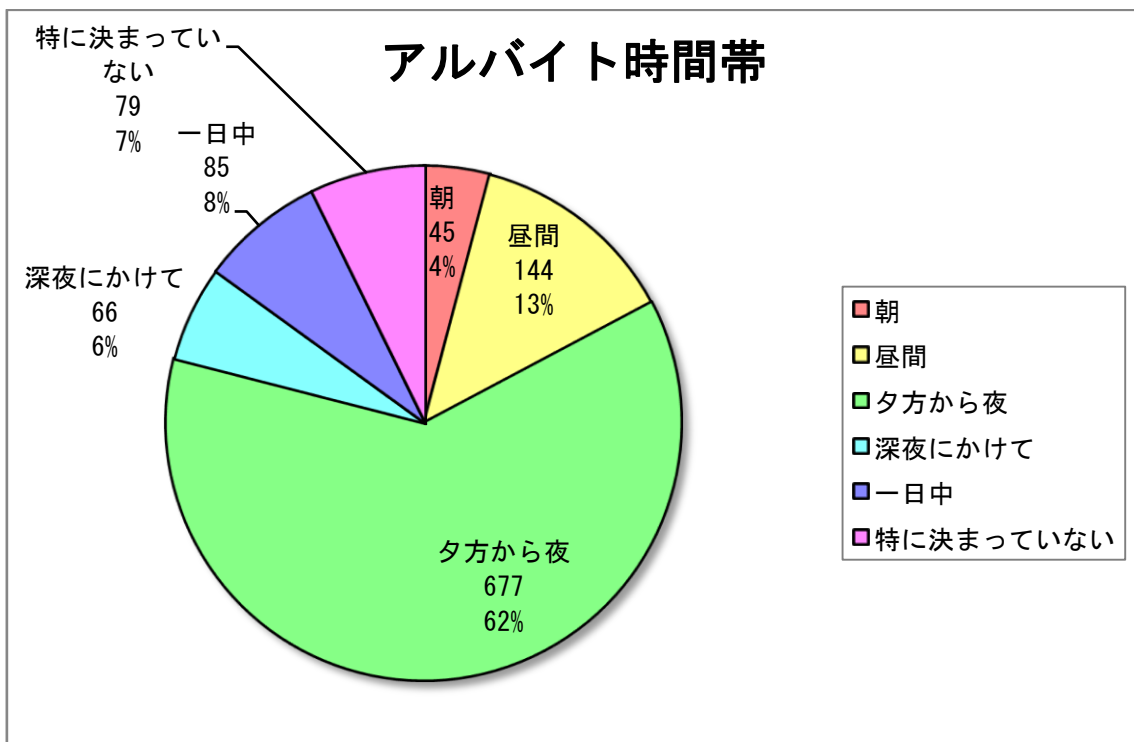
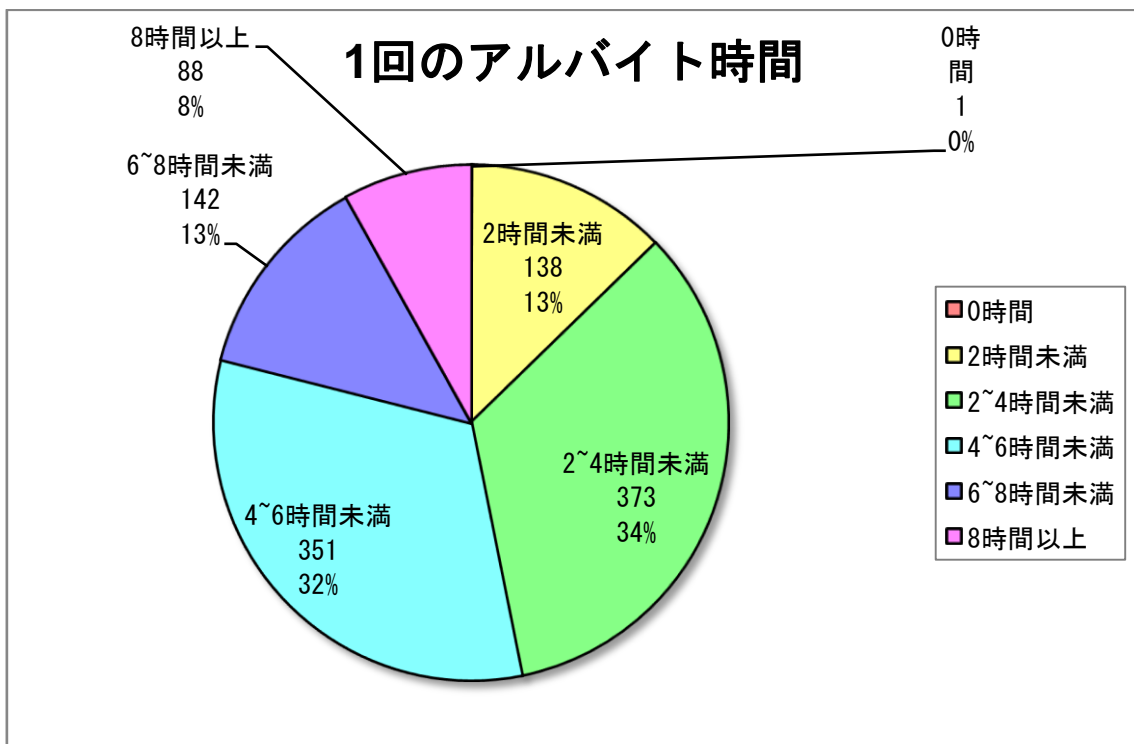
5. 調査資料集

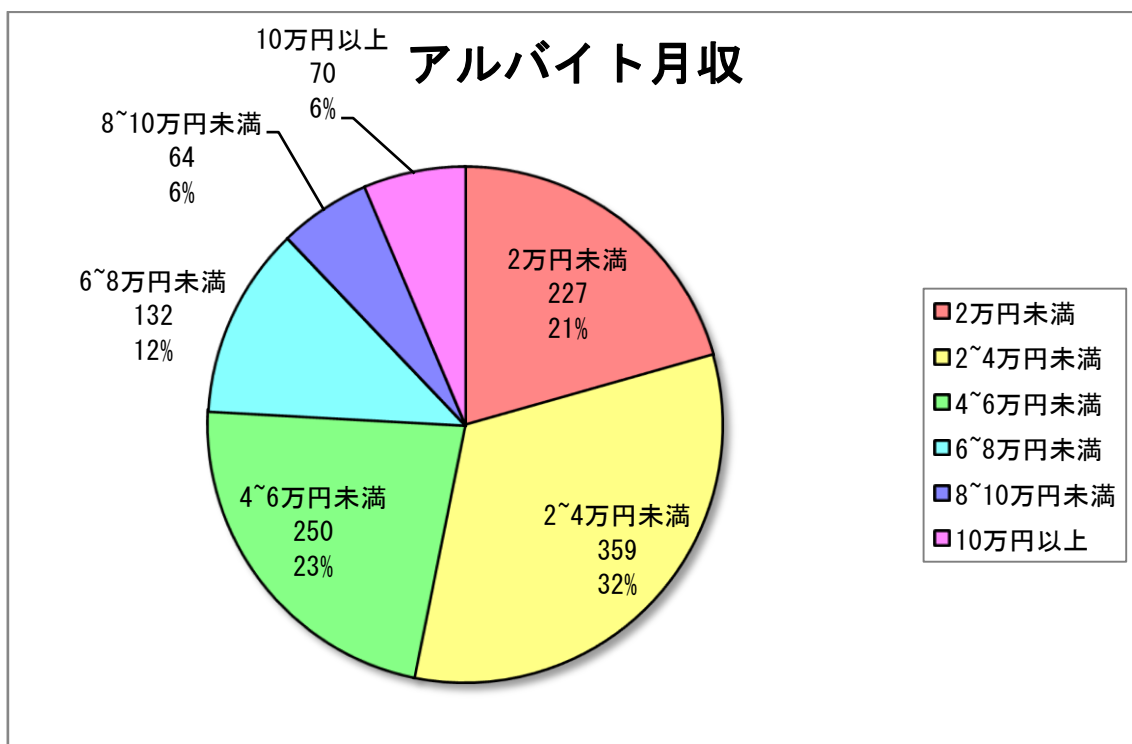
- (13) (12)でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。
あなたがしているアルバイトの内容を教えてください（複数回答可）。



- (14) (12)でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。
アルバイトに携わっている時間・時間帯・収入についてお聞きします。

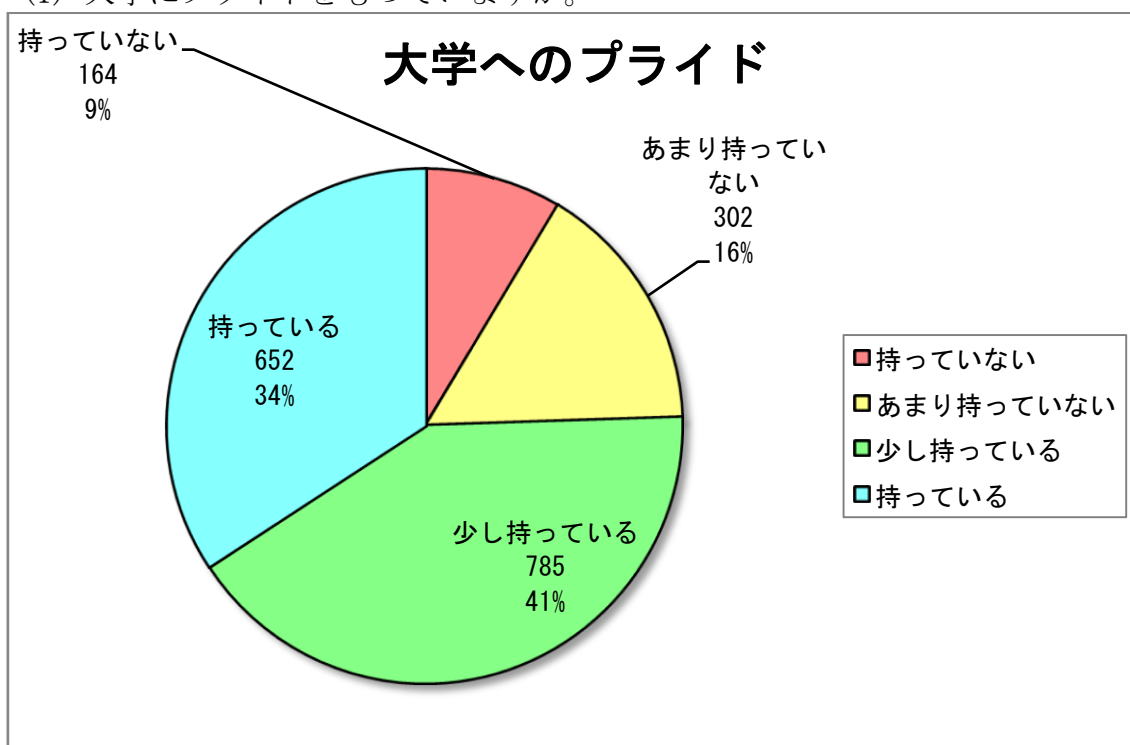




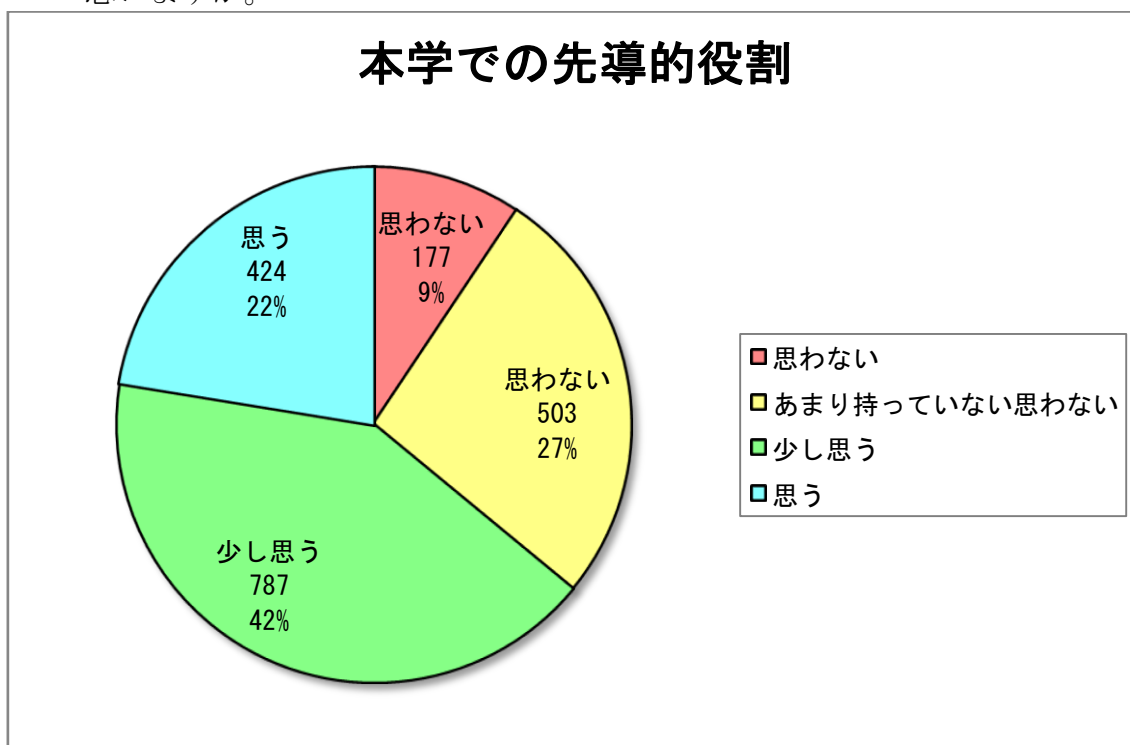


5.2 学習状況について

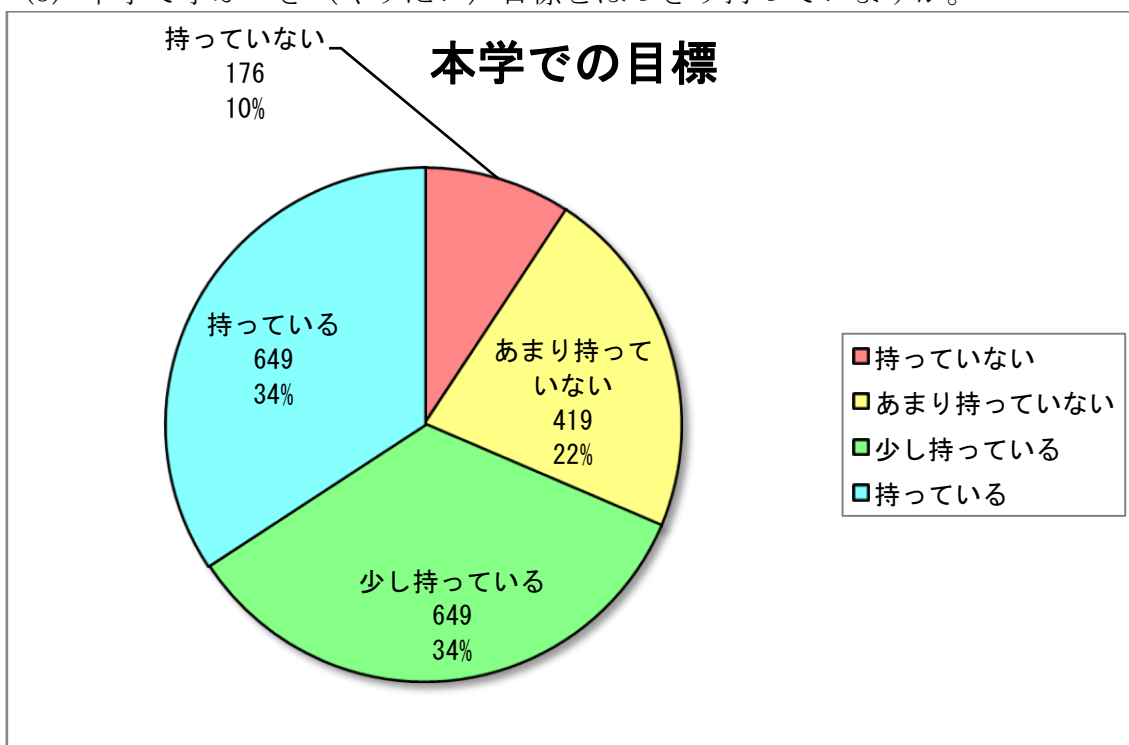
(1) 大学にプライドをもっていますか。



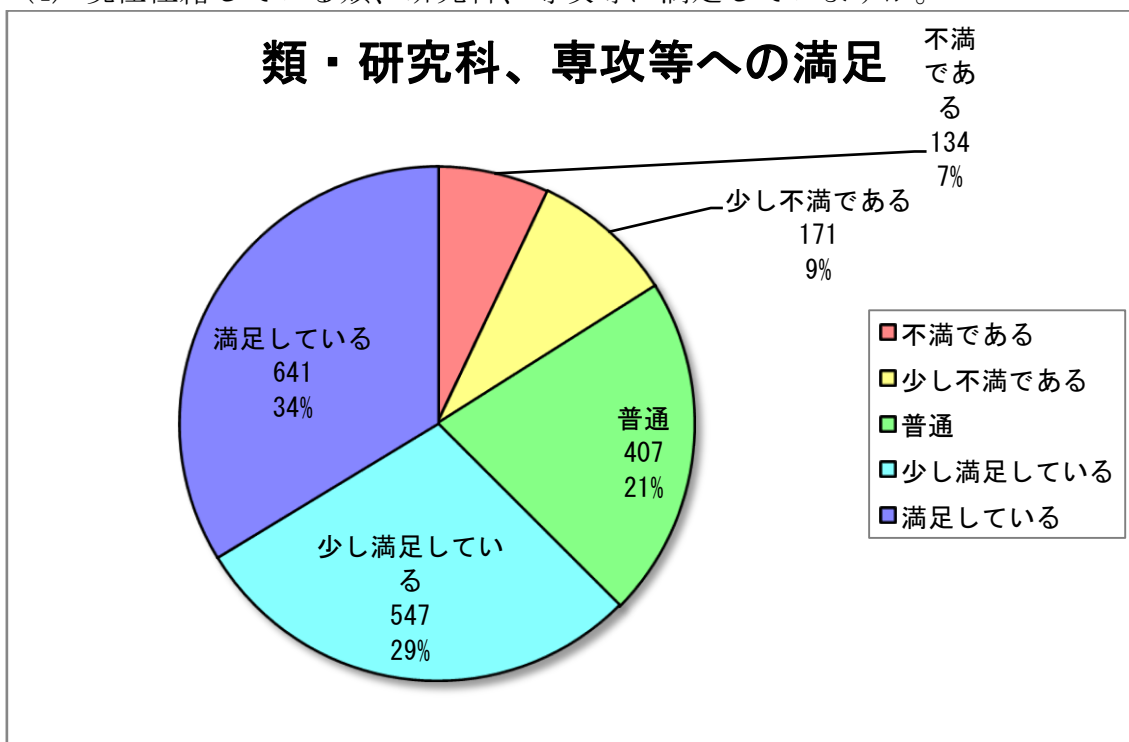
(2) 本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。



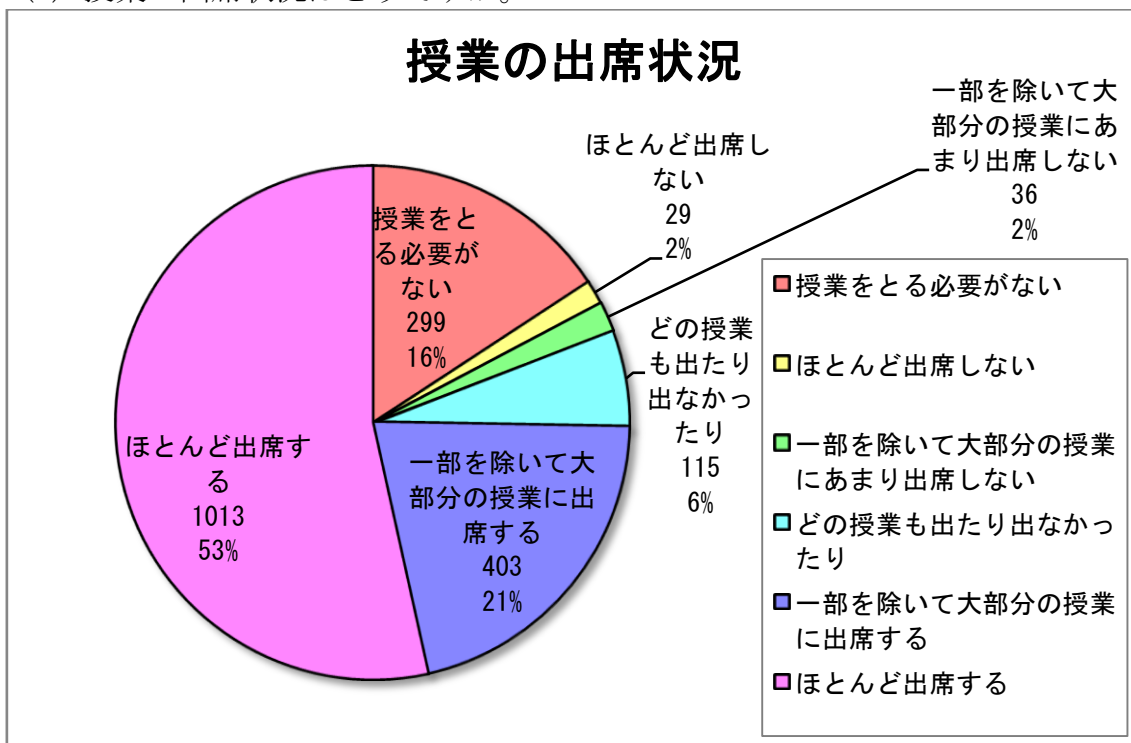
(3) 本学で学ぶべき（やりたい）目標をはっきり持っていますか。



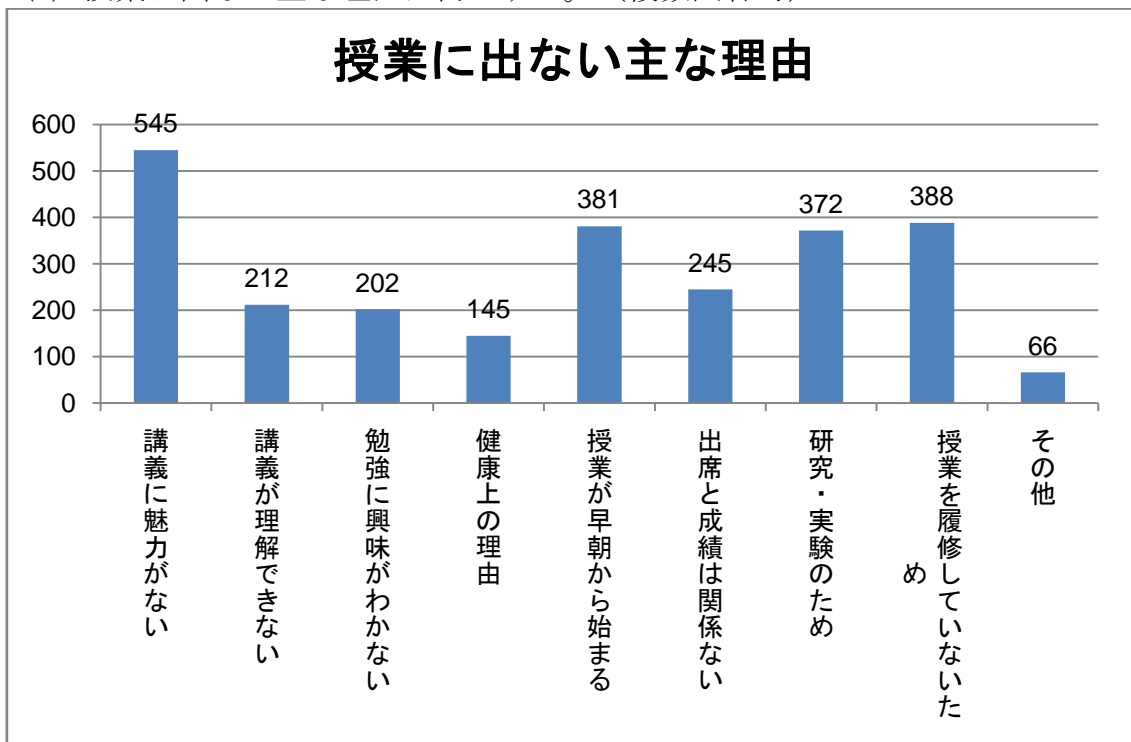
(4) 現在在籍している類、研究科、専攻等に満足していますか。



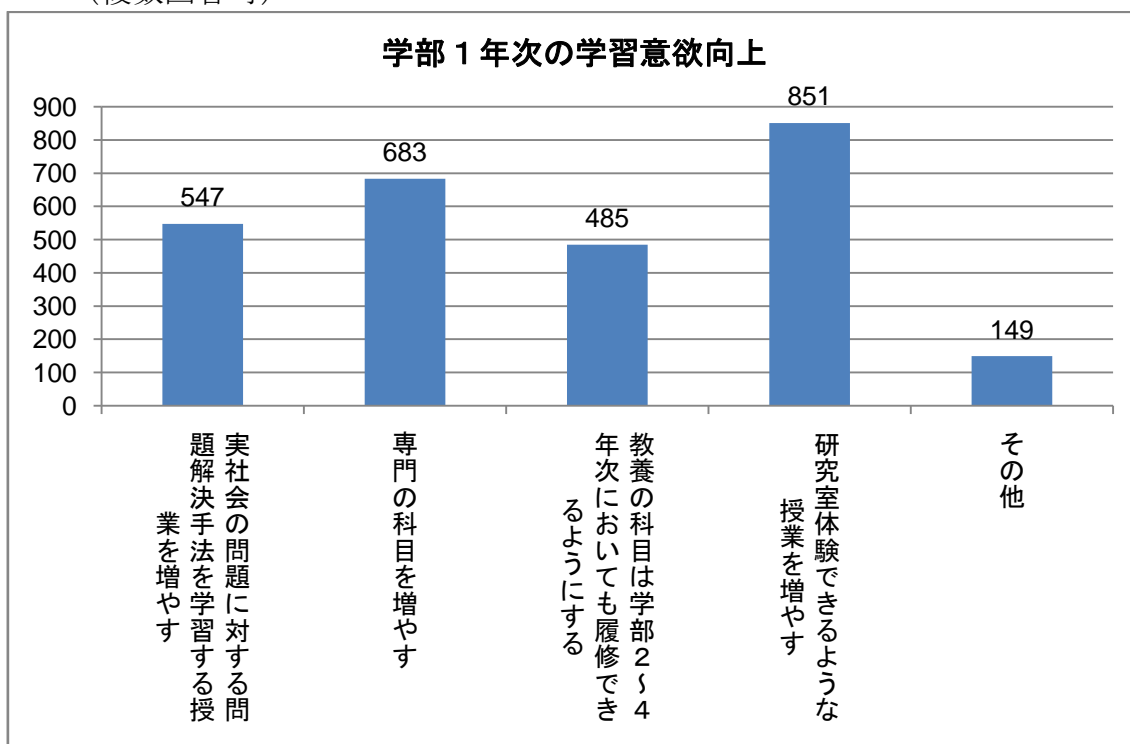
(5) 授業の出席状況はどうか。



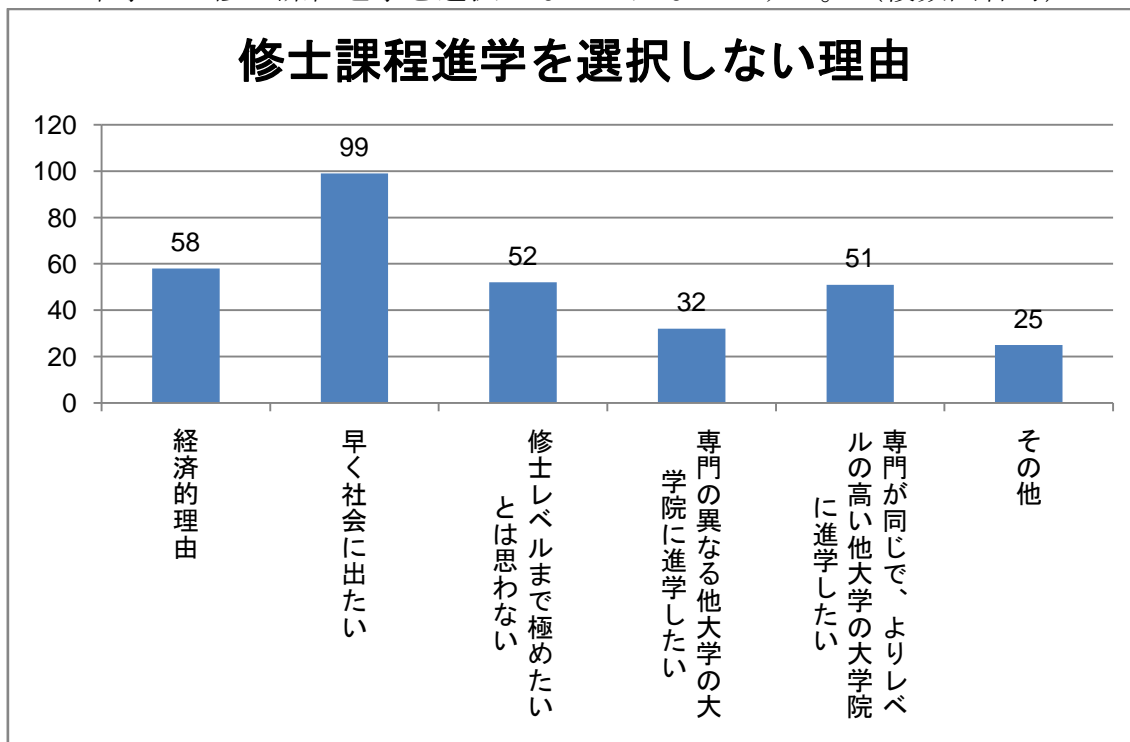
(6) 授業に出ない主な理由は何ですか。（複数回答可）



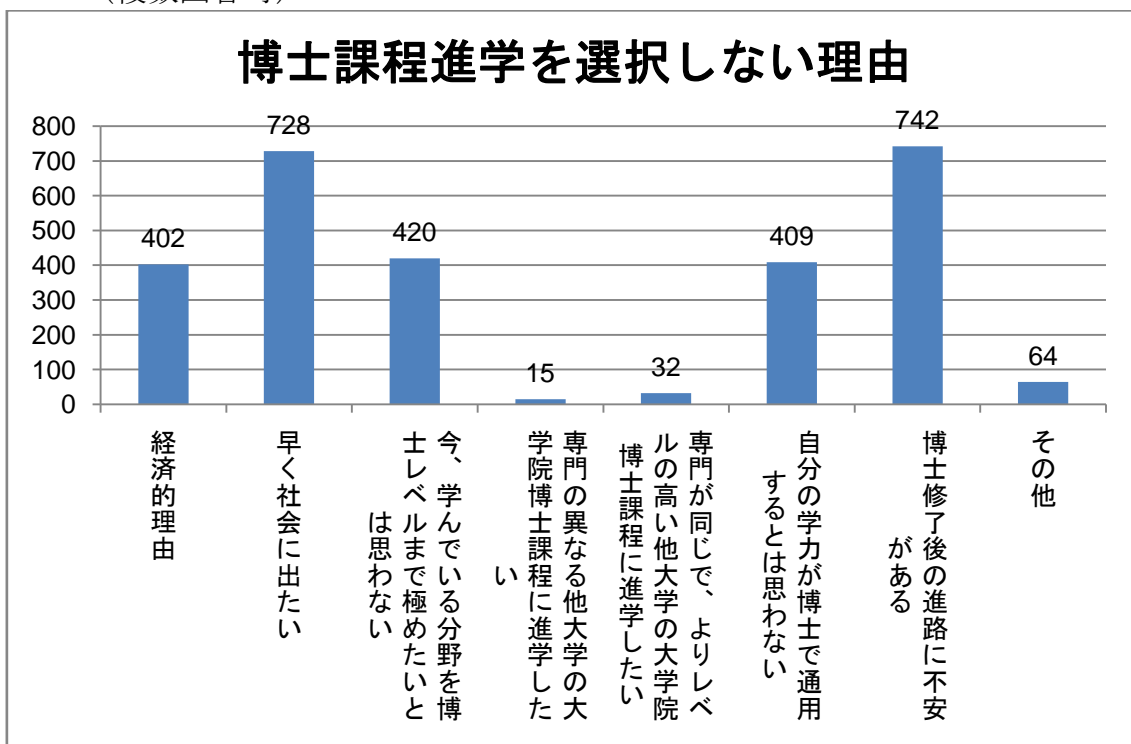
(8) 学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるものは何ですか。
(複数回答可)



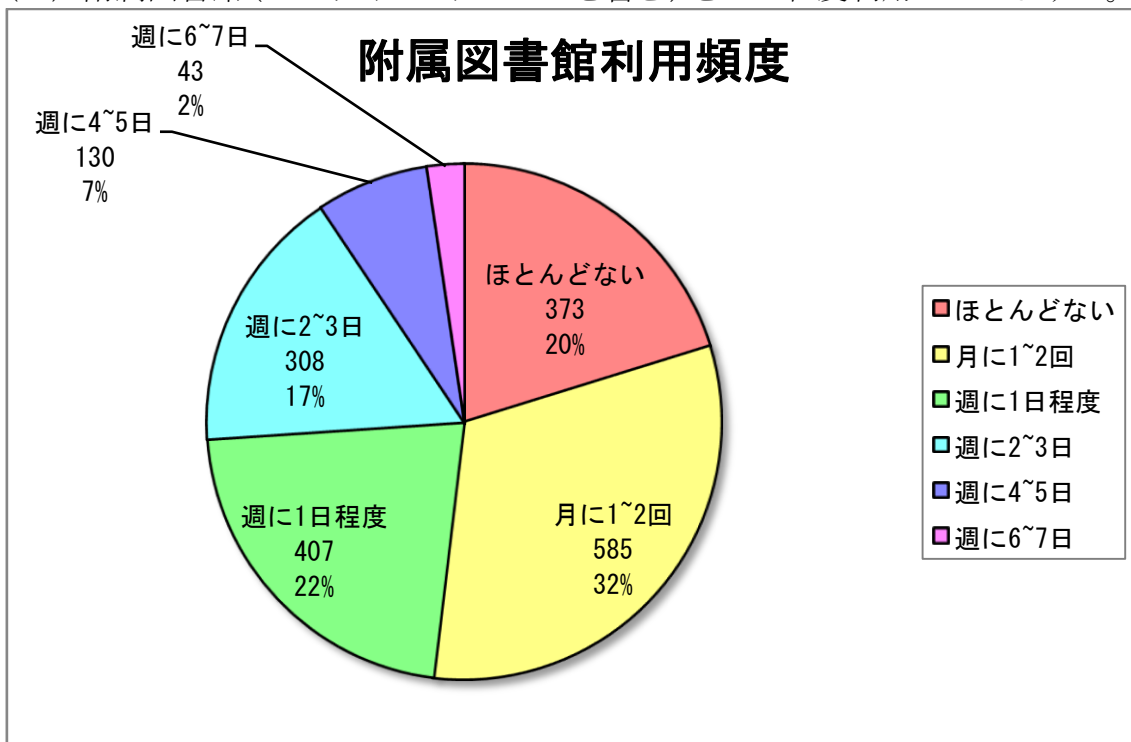
(9) 学部生で本学の修士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。
本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数回答可)



(10) 学部生・大学院修士課程学生で本学の博士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数回答可)

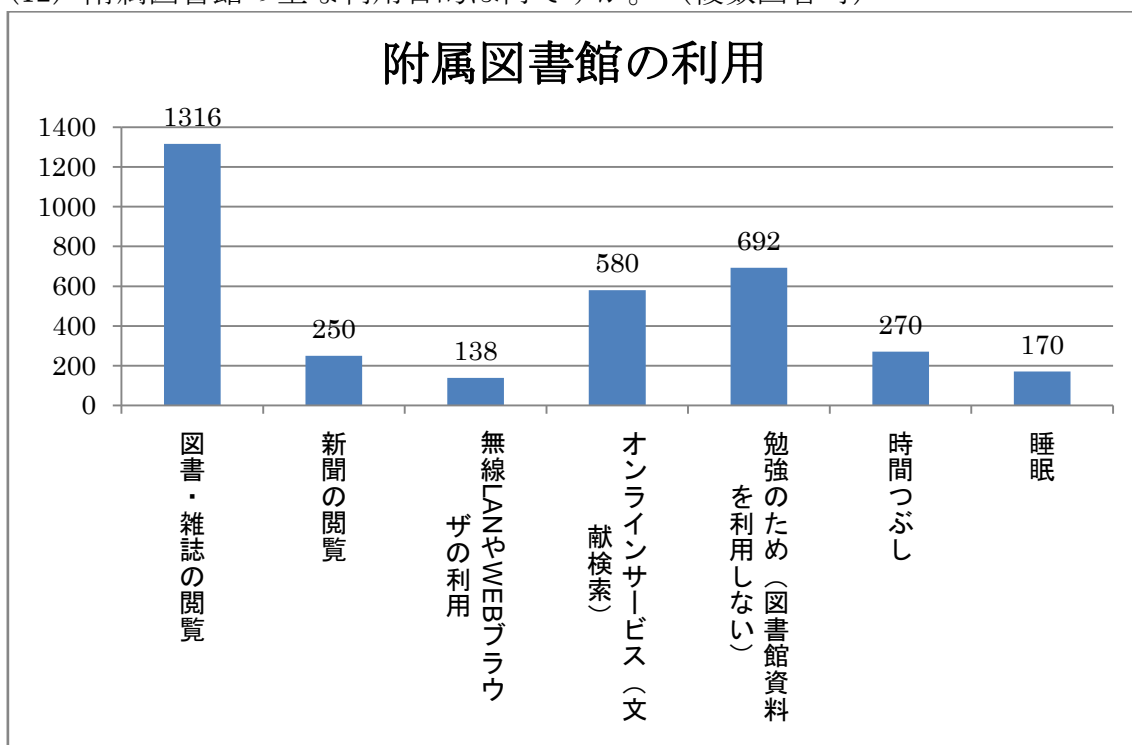


(11) 附属図書館(オンライン・サービスを含む)をどの程度利用していますか。

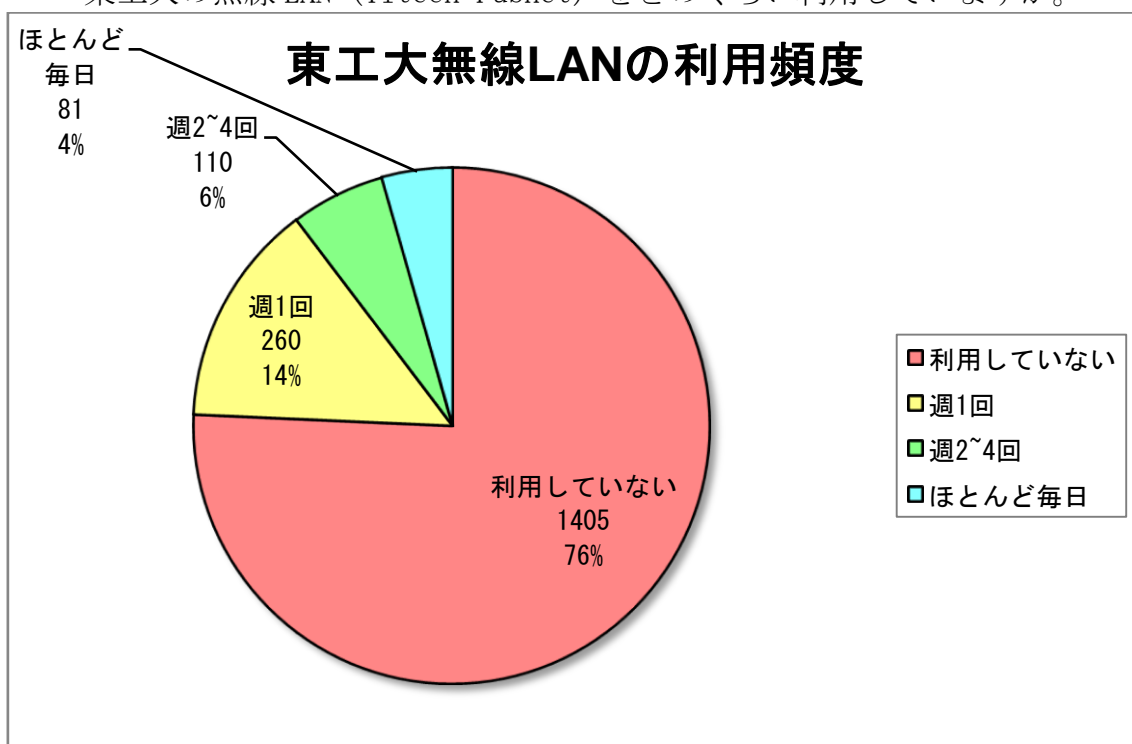


5. 調査資料集

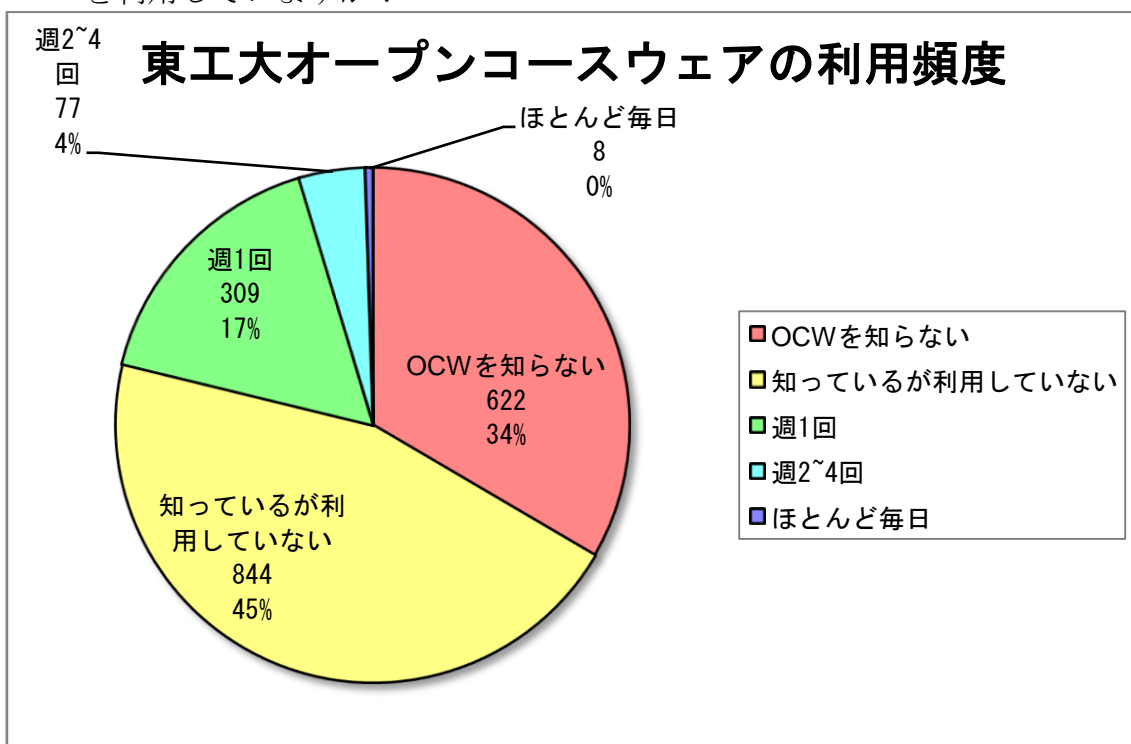
(12) 附属図書館の主な利用目的は何ですか。(複数回答可)



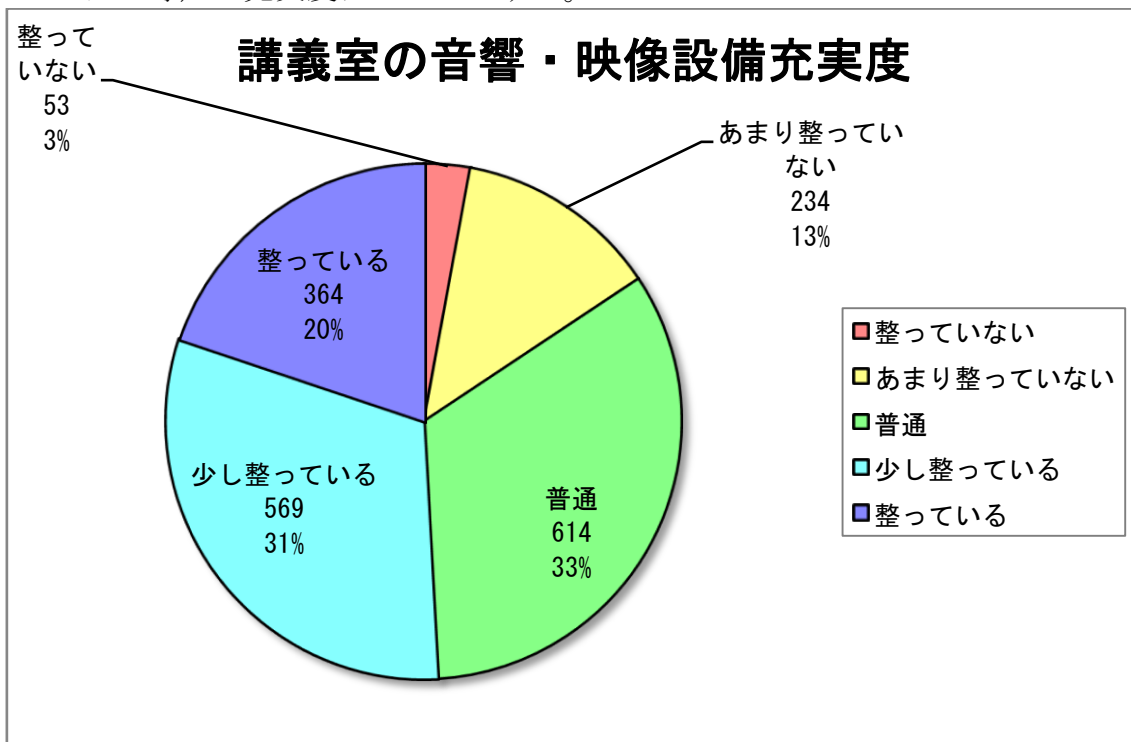
(14) 現在、講義室、図書館、食堂等に無線LANが設置されています。
東工大の無線LAN (Titech-Pubnet) をどのくらい利用していますか。



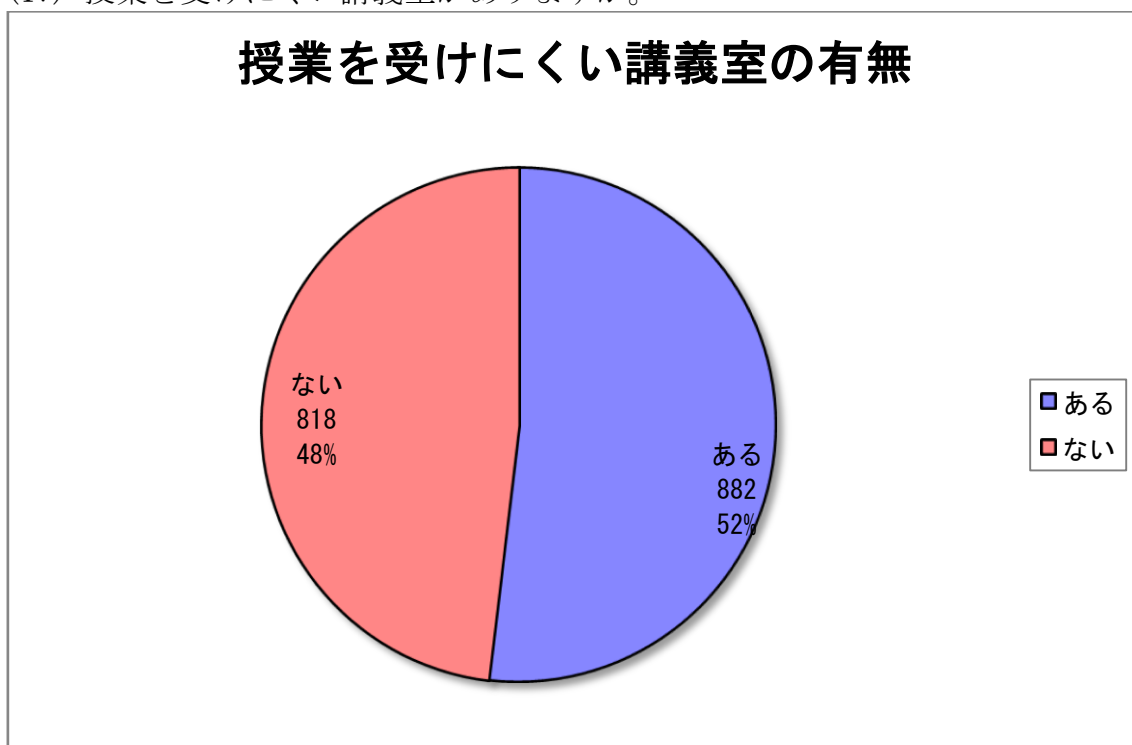
(15) 東京工業大学オープンコースウェア (OpenCourseWare (TOKYO TECH OCW)) を利用していますか？



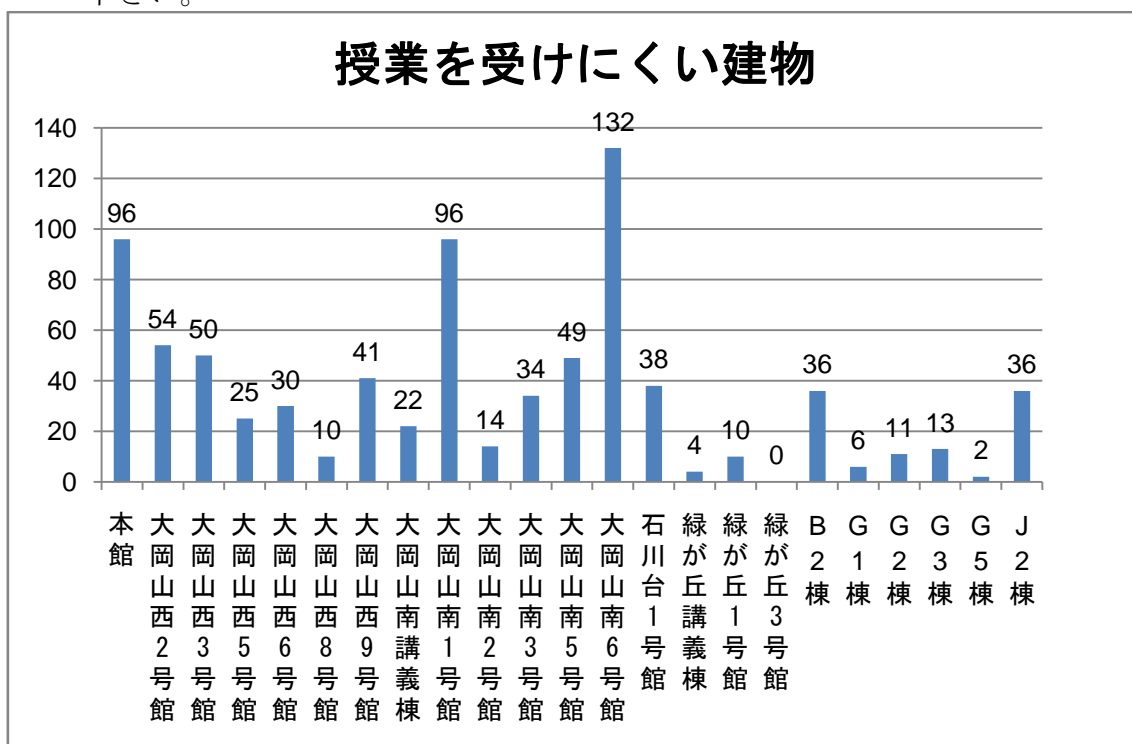
(16) 講義室の音響・映像設備 (マイク、スピーカー、スクリーン、プロジェクター等) の充実度はいかがですか。



(17) 授業を受けにくい講義室がありますか。



(18) 授業を受けにくい講義室がある場合、一番受けにくい講義室を教えてください。

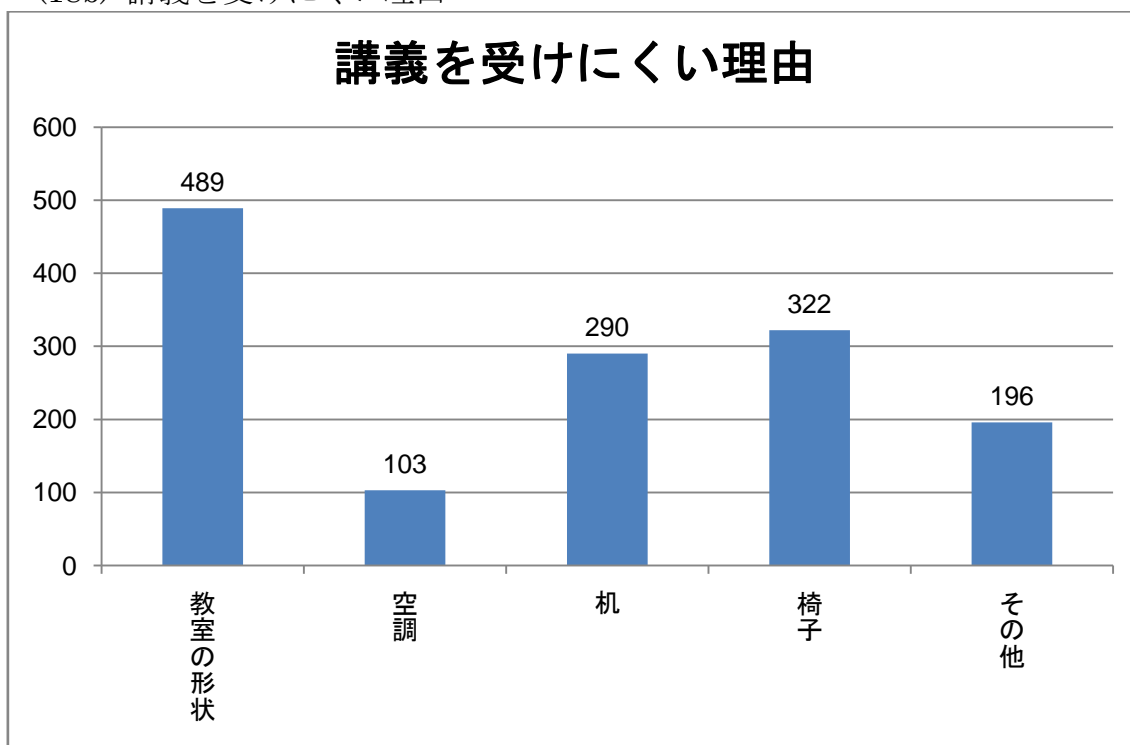


(18a) 講義を受けにくい講義室

授業を受けにくい講義室									
H101	14	W241 (遠隔講義室)	41	S011	17	I121	14	G111	0
]H111	4	W242 (四大学講義室)	10	S125	44	I122	7	G112	0
H112	4	W321	10	S126	8	I123	4	G113	1
H113	5	W322	6	S222	10	I124	4	G114	0
H114A	7	W323	3	S321	7	M011	3	G115	0
H114B	2	W331	3	S322	11	M111	3	G221	3
H115	1	W332	3	S323	9	M112	4	G223	4
H116	7	W351	0	S511	24	M113	1	G224	2
H121	15	W521	4	S512	13	M114	1	G311	0
H135	8	W531	7	S521	4	M321	0	G321	6
H136	4	W541	4	S611	5	B221	7	G323	0
H137	6	W611	9	S612	9	B222	2	G324	2
		W621	7	S621	22	B223	3	G511	2
		W631	5	S622	7	B224	2	G512	0
		W641	1	S631	14	B225	1	J221 (遠隔講義室)	2 6
		W831	3	S632	5	B226	7	J231	2
		W832	2	S633	11			J232	1
		W833	1	S634	5			J233	2
		W834	0	S635	2			J234 (遠隔システム)	1
		W931	6	S636	2				
		W932	1	S637	0				
		W933	13	S638	4				
		W934	3						
		W935	6						
		W936	0						

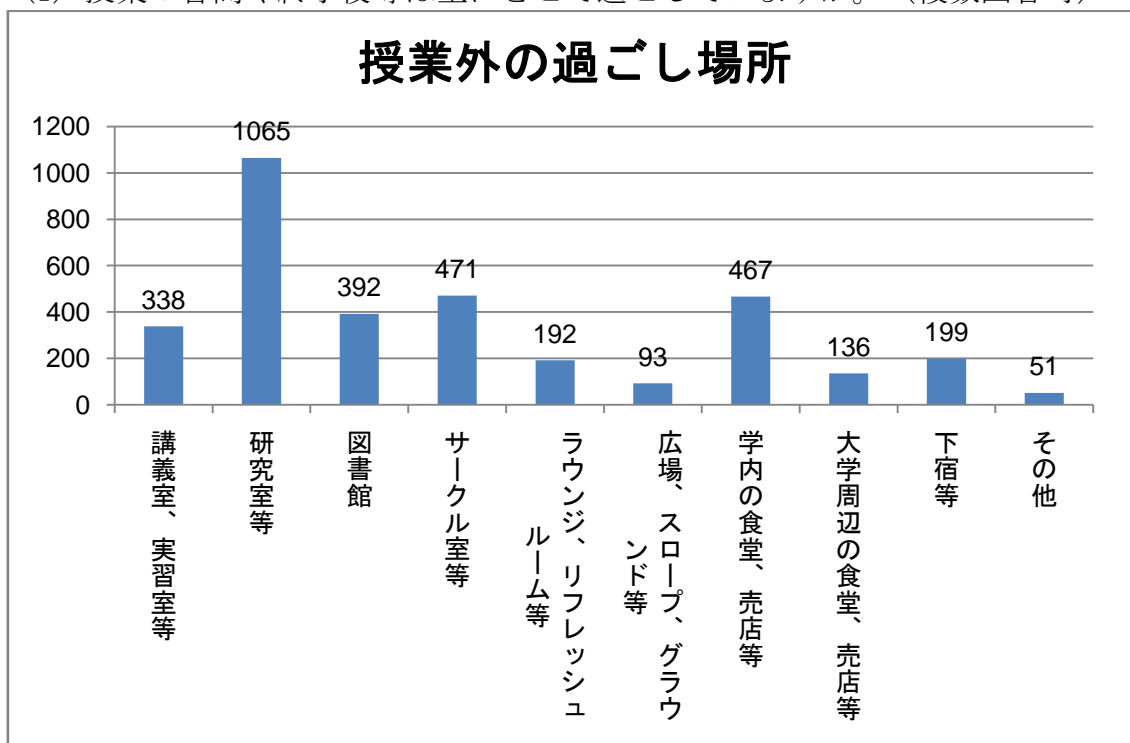


(18b) 講義を受けにくい理由



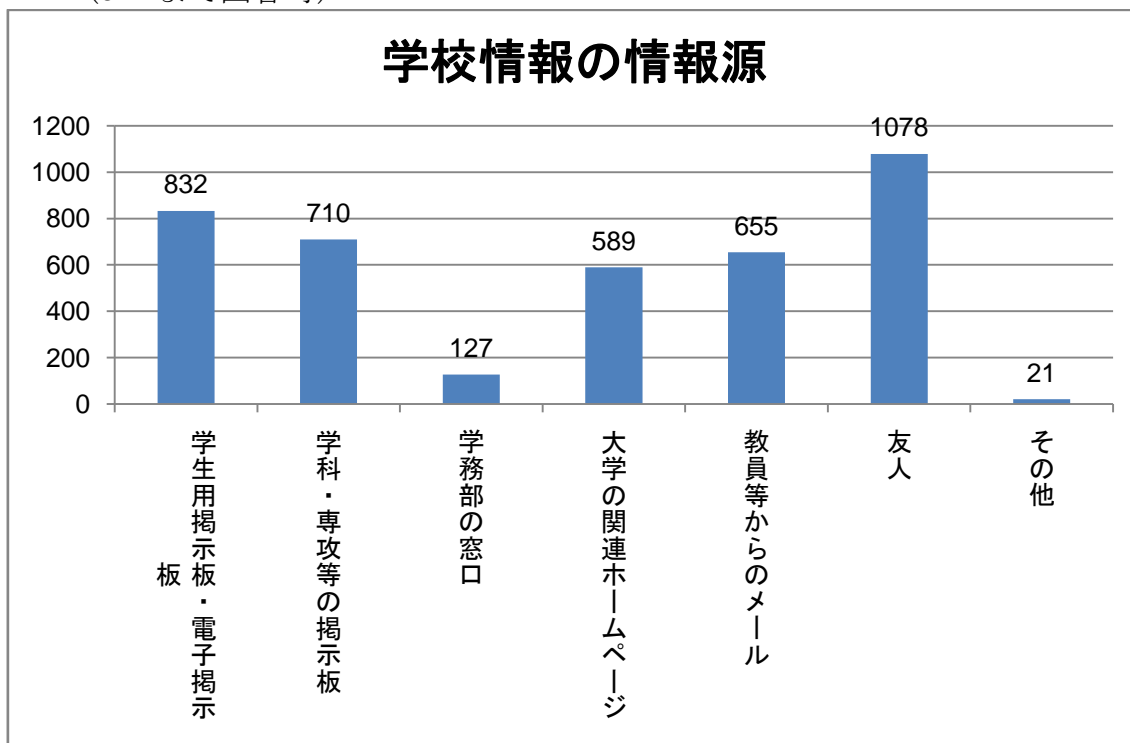
5.3 キャンパスライフについて

(1) 授業の合間や終了後等は主にどこで過ごしていますか。(複数回答可)

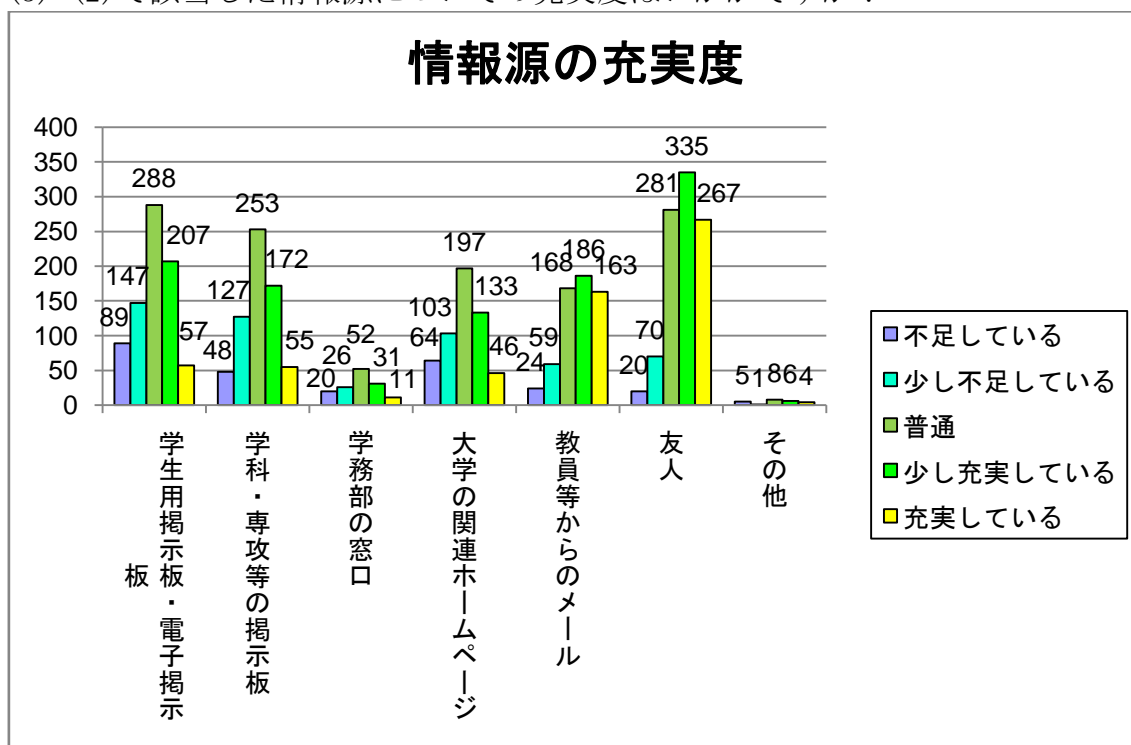


(2) 授業や学内行事などの情報について、主な情報源は何ですか。

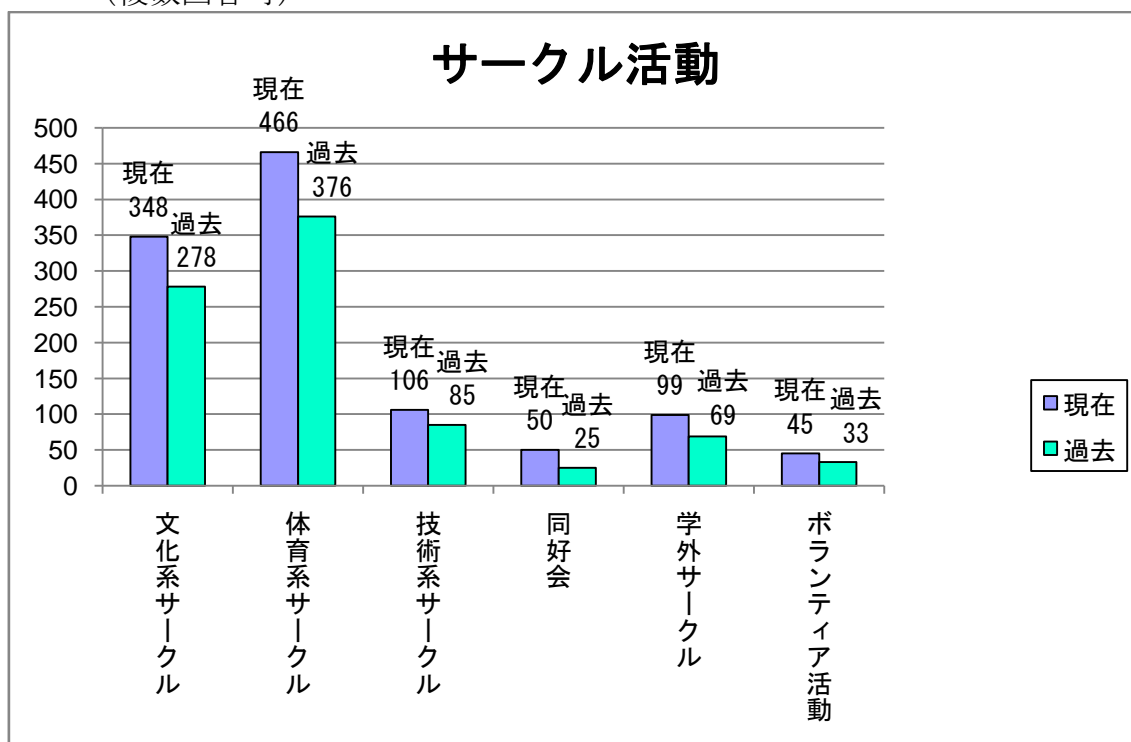
(3つまで回答可)



(3) (2)で該当した情報源についての充実度はいかがですか？



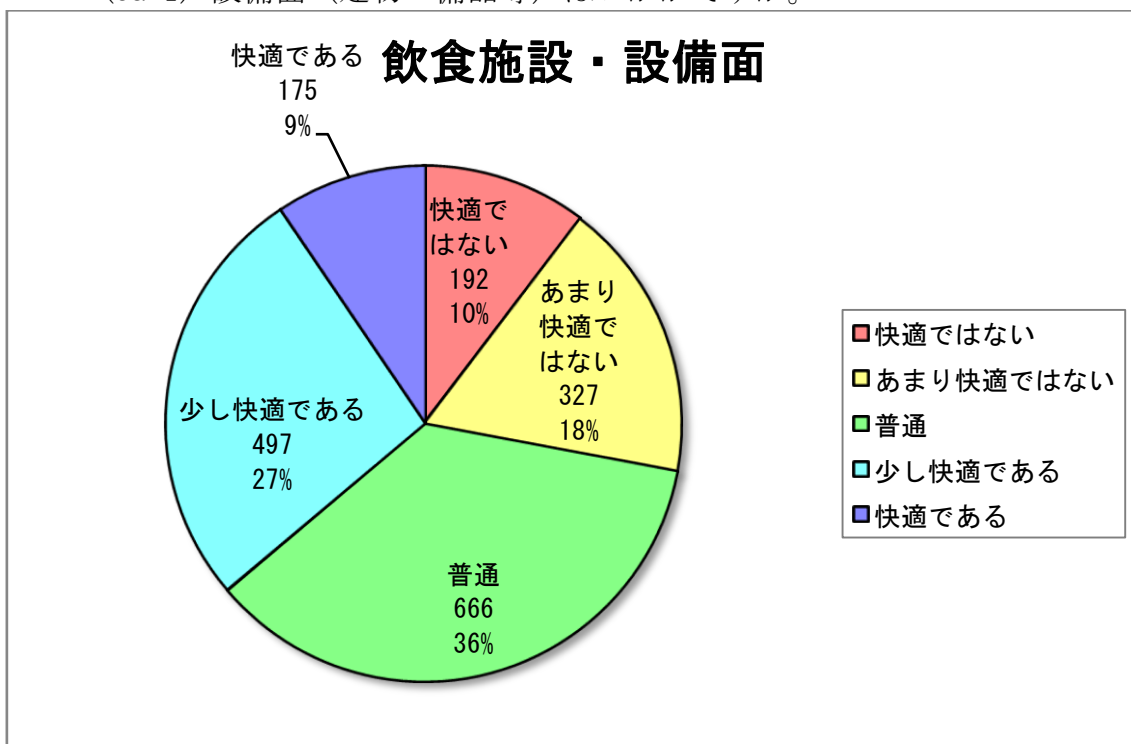
(4) サークル・同好会・ボランティア等の活動経験についてお聞きします。
(複数回答可)



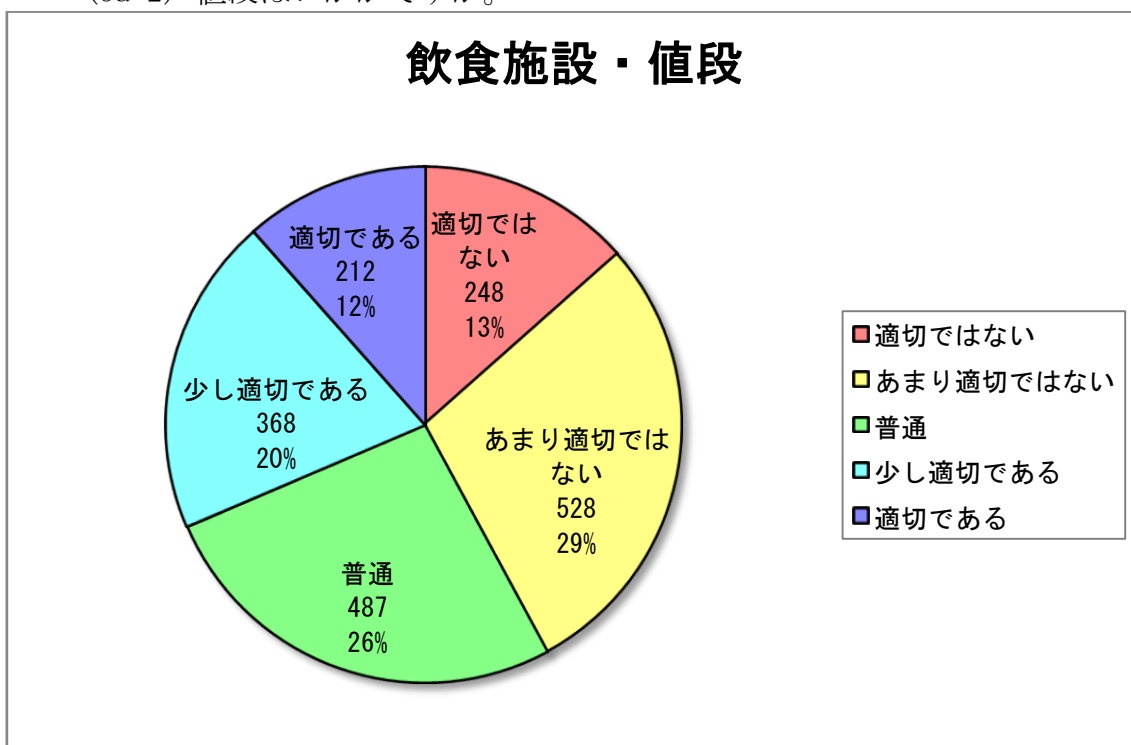
(5) 大学の施設についてお聞きします。

(5a) 学生食堂などの飲食施設について。

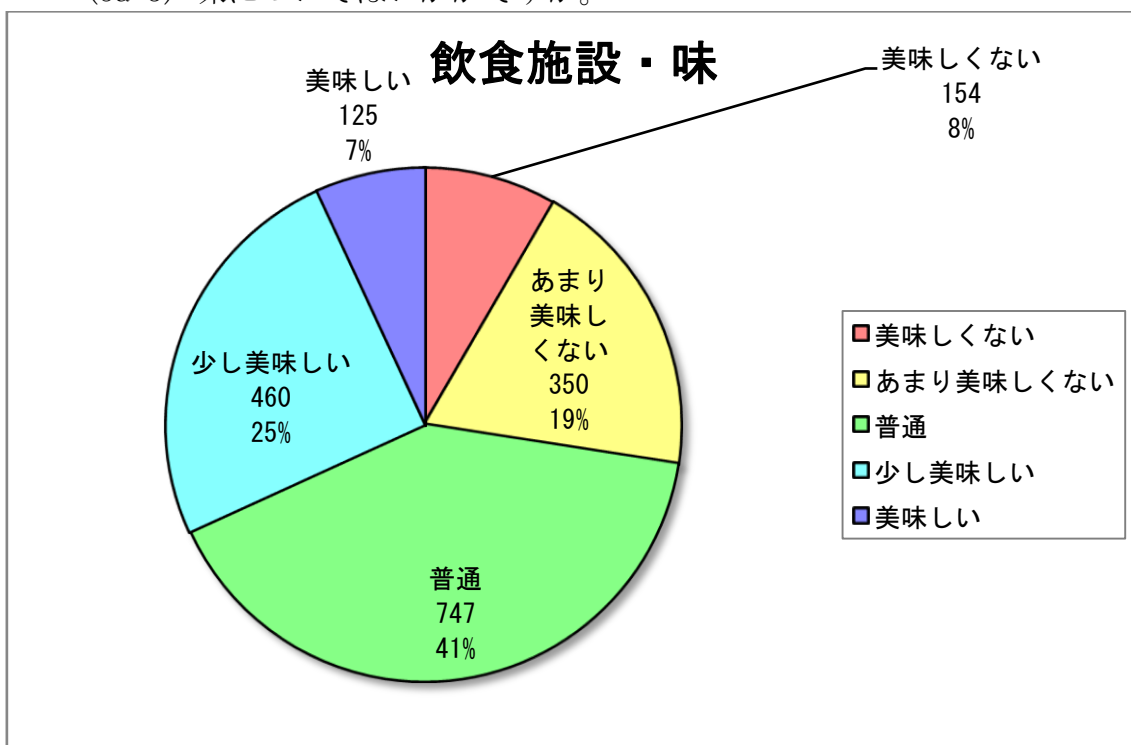
(5a-1) 設備面（建物・備品等）はいかがですか。



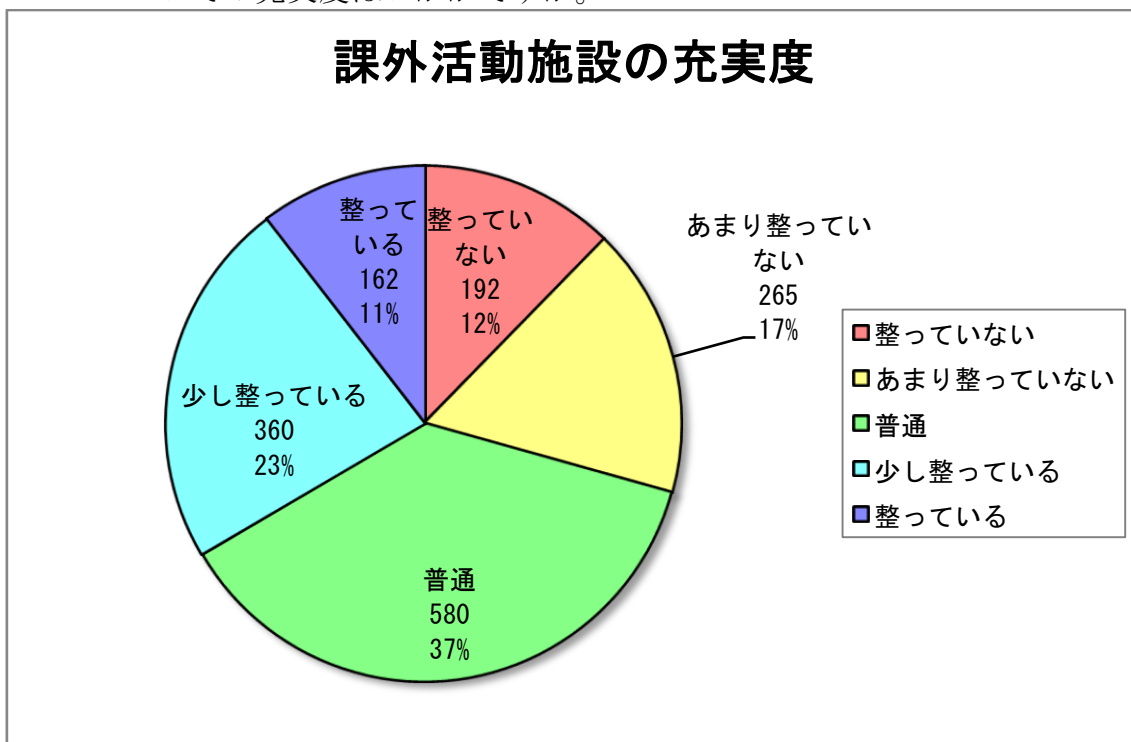
(5a-2) 値段はいかがですか。



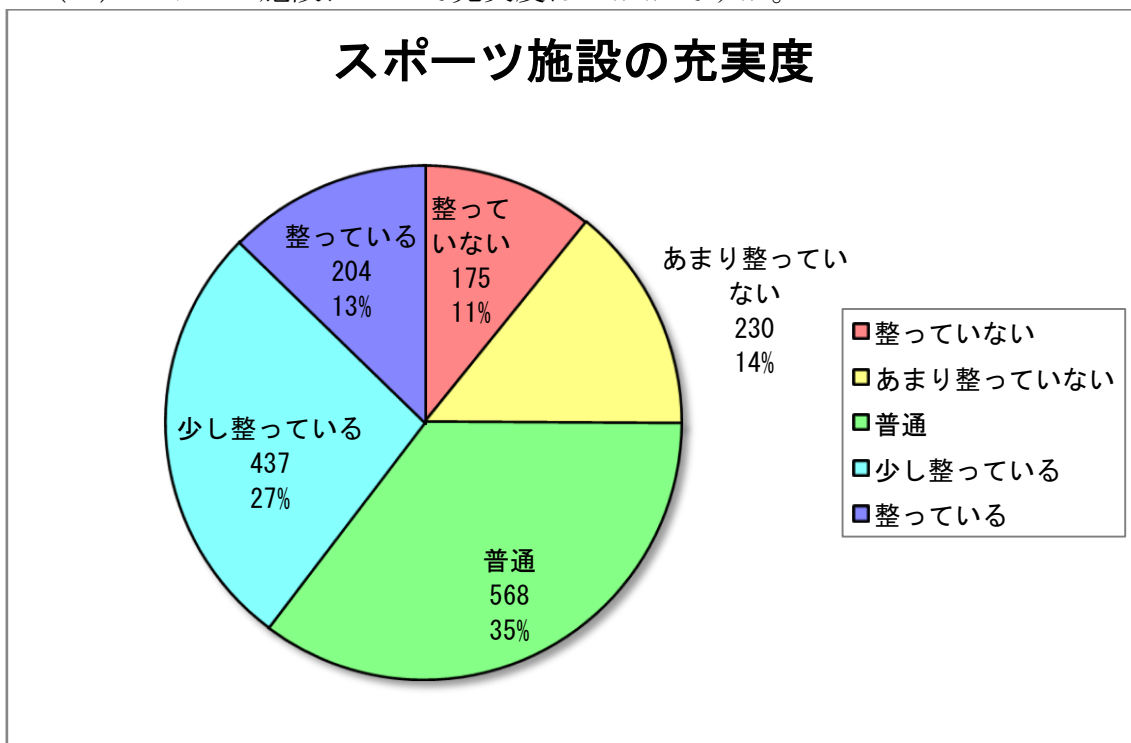
(5a-3) 味についてはいかがですか。



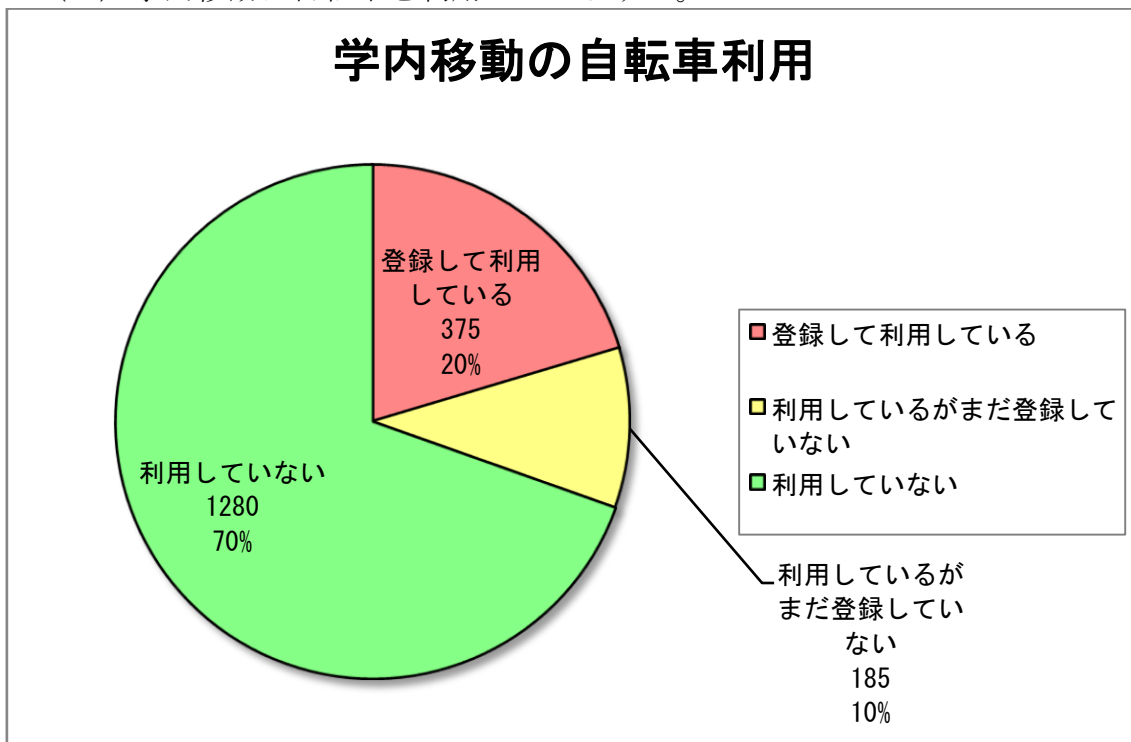
(5b) サークル棟，大学会館（すずかけホール）等，課外活動施設についての充実度はいかがですか。



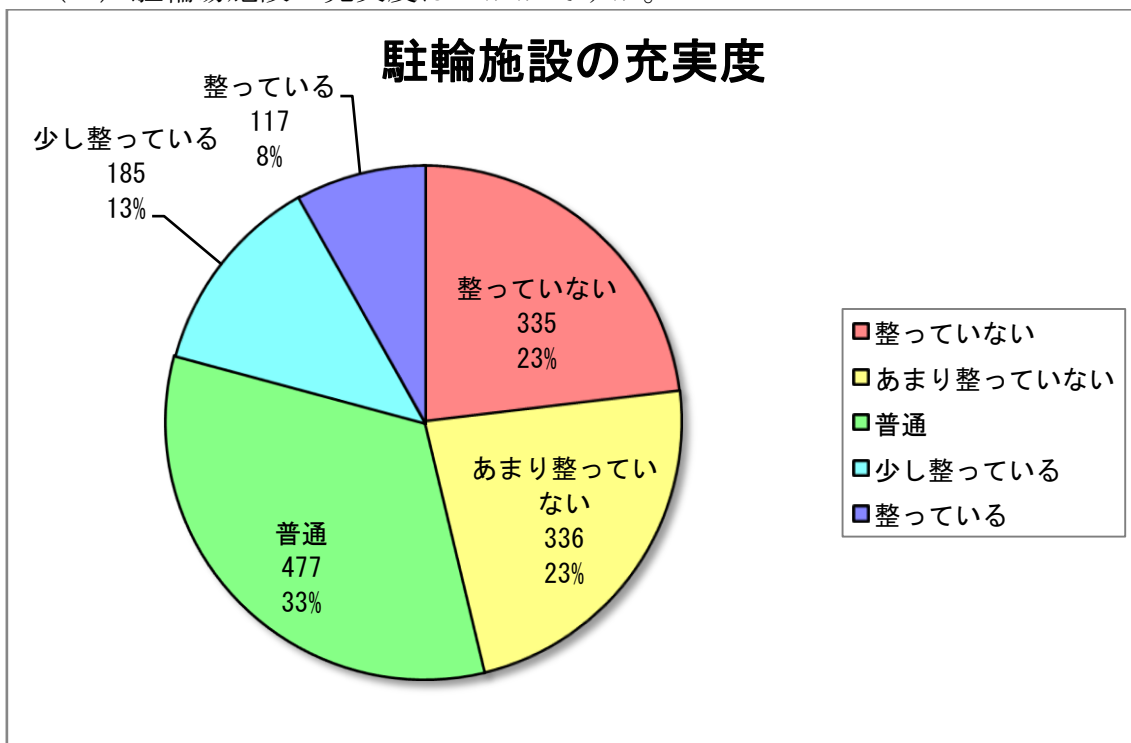
(5c) スポーツ施設について充実度はいかがですか。



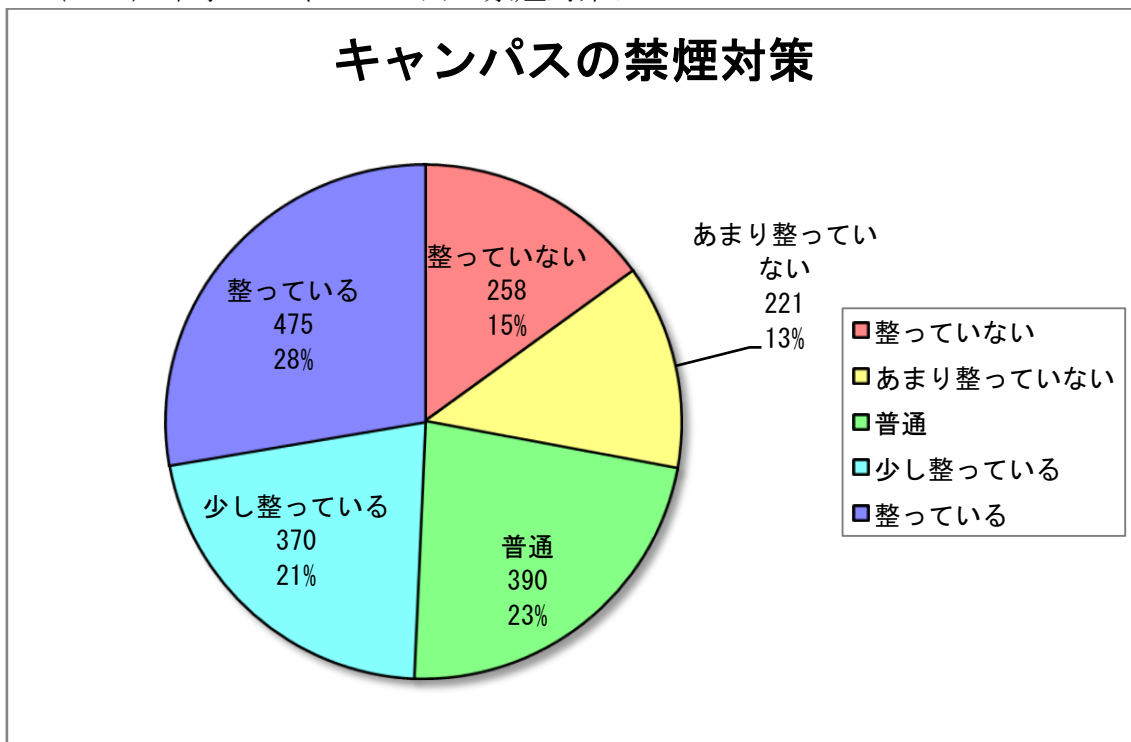
(5d) 学内移動に自転車を利用していますか。



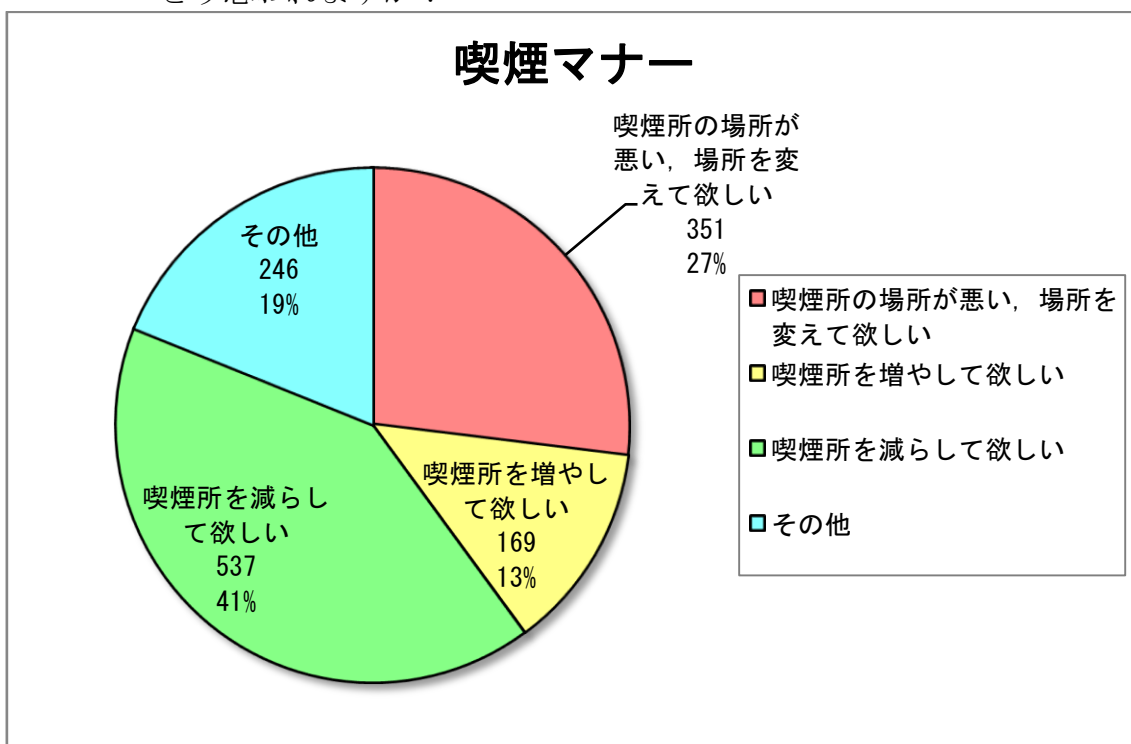
(5e) 駐輪場施設の充実度はいかがですか。



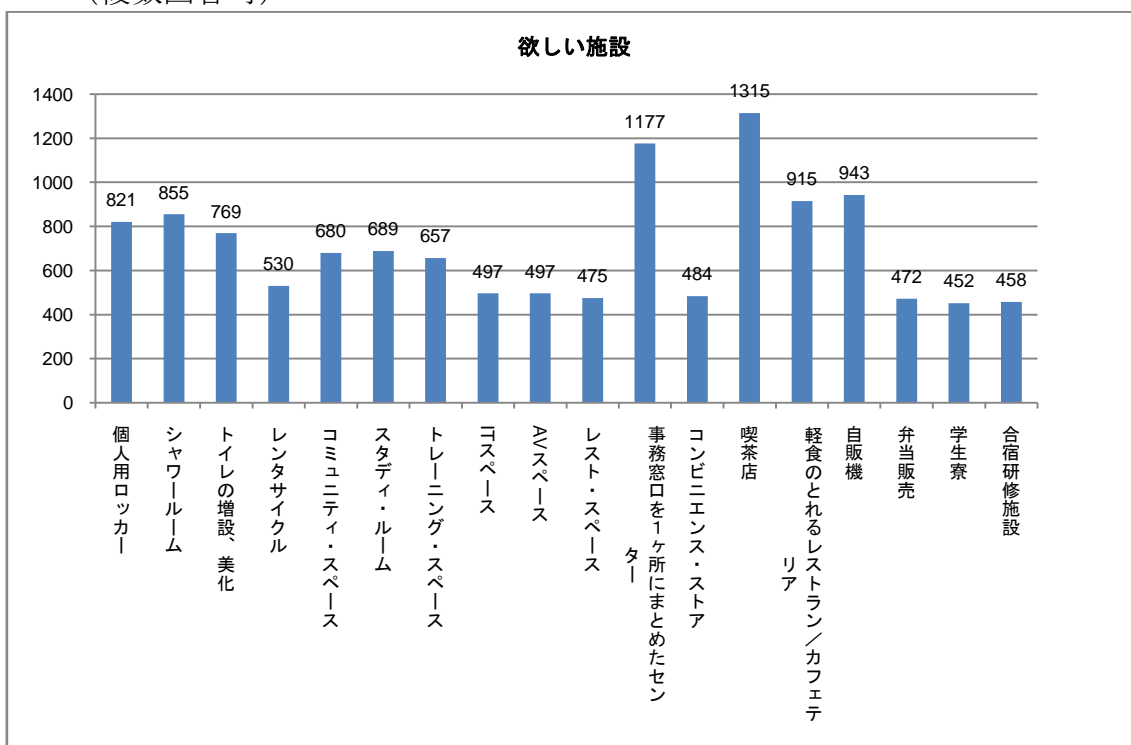
(5f-1) 本学のキャンパス内の禁煙対策について



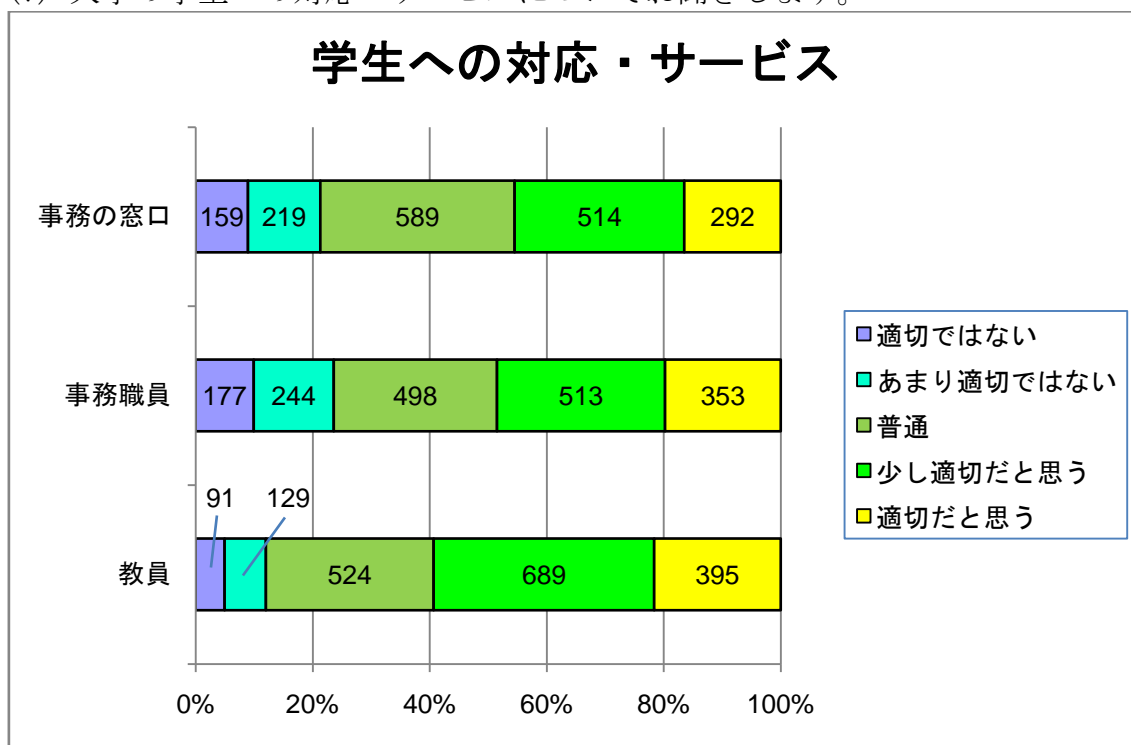
(5f-2) キャンパス内の喫煙所の配置や喫煙マナーなどについて
どう思われますか？



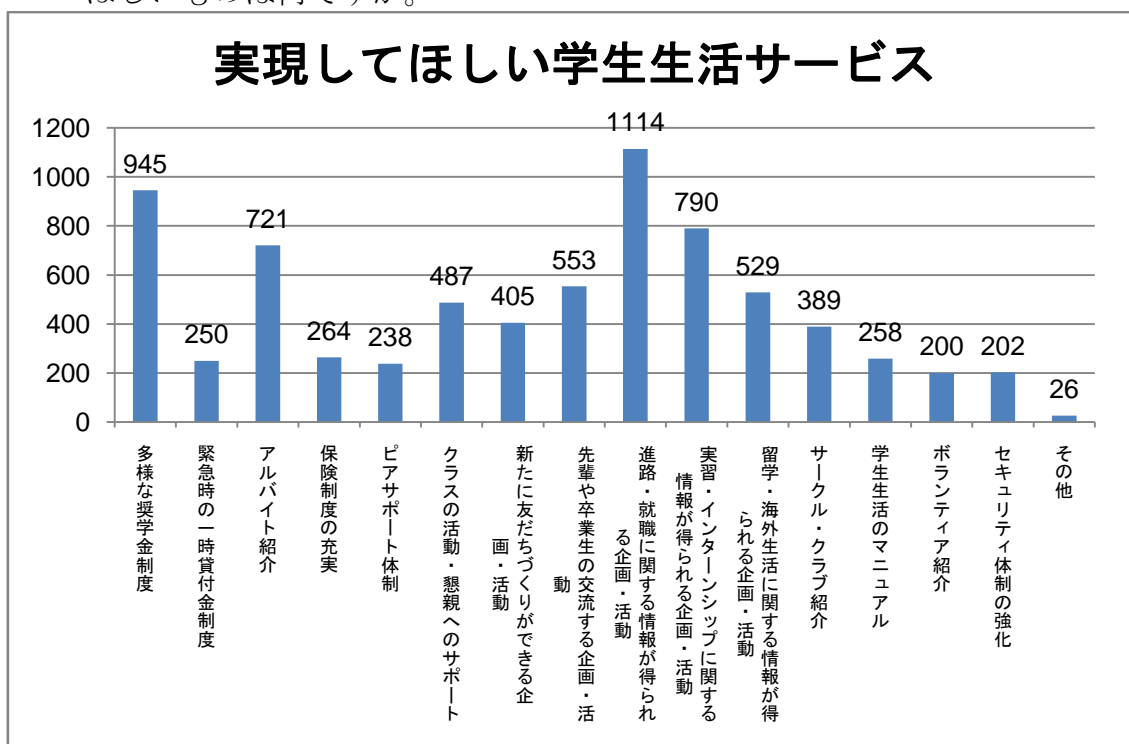
(6) 施設・設備について、キャンパス内に欲しいものは何ですか。
(複数回答可)



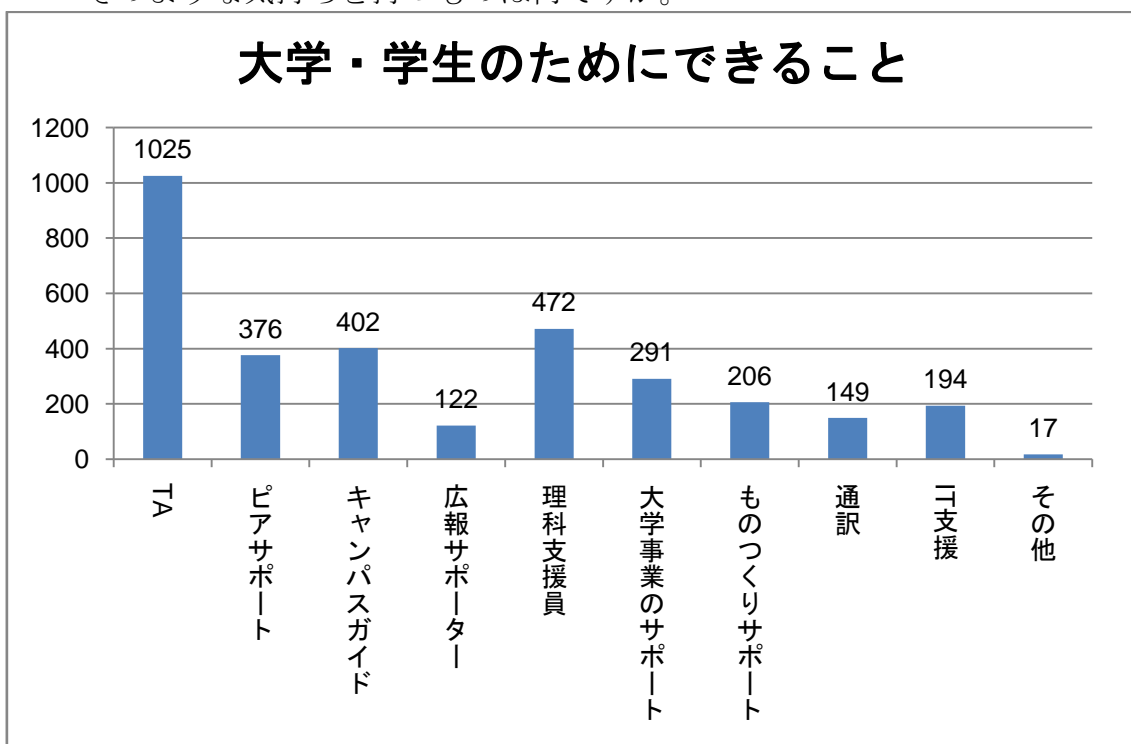
(7) 大学の学生への対応・サービスについてお聞きします。



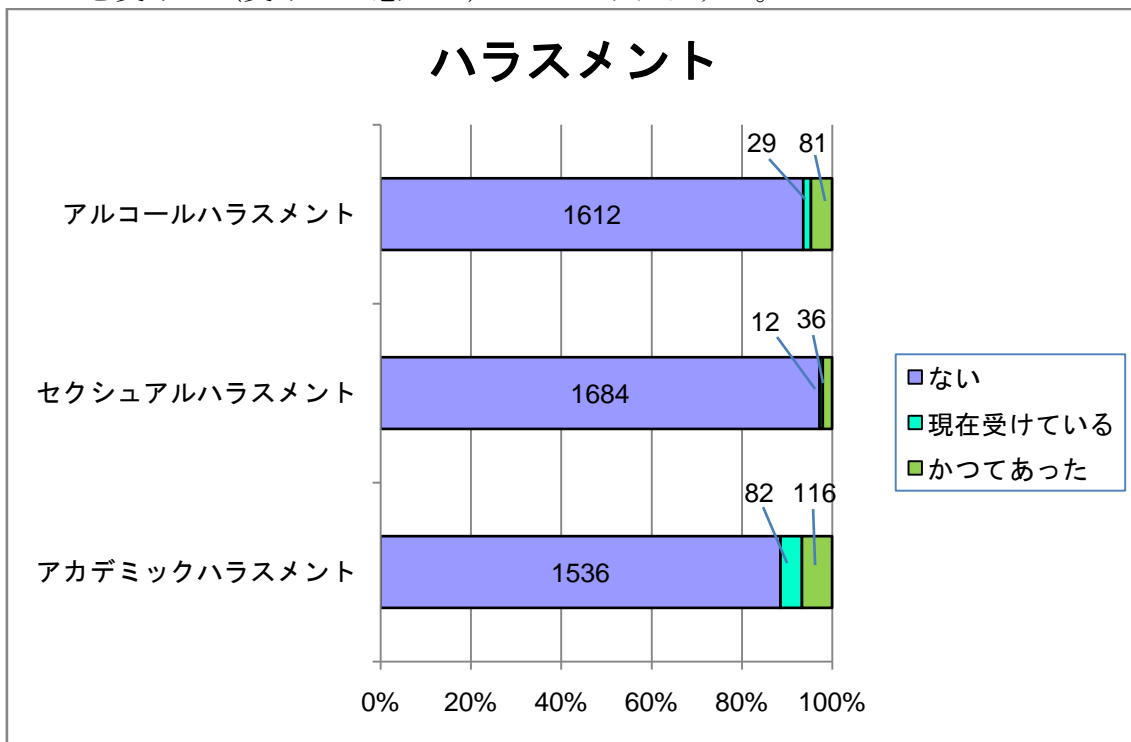
(8) 学生生活サービスについて、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものは何ですか。



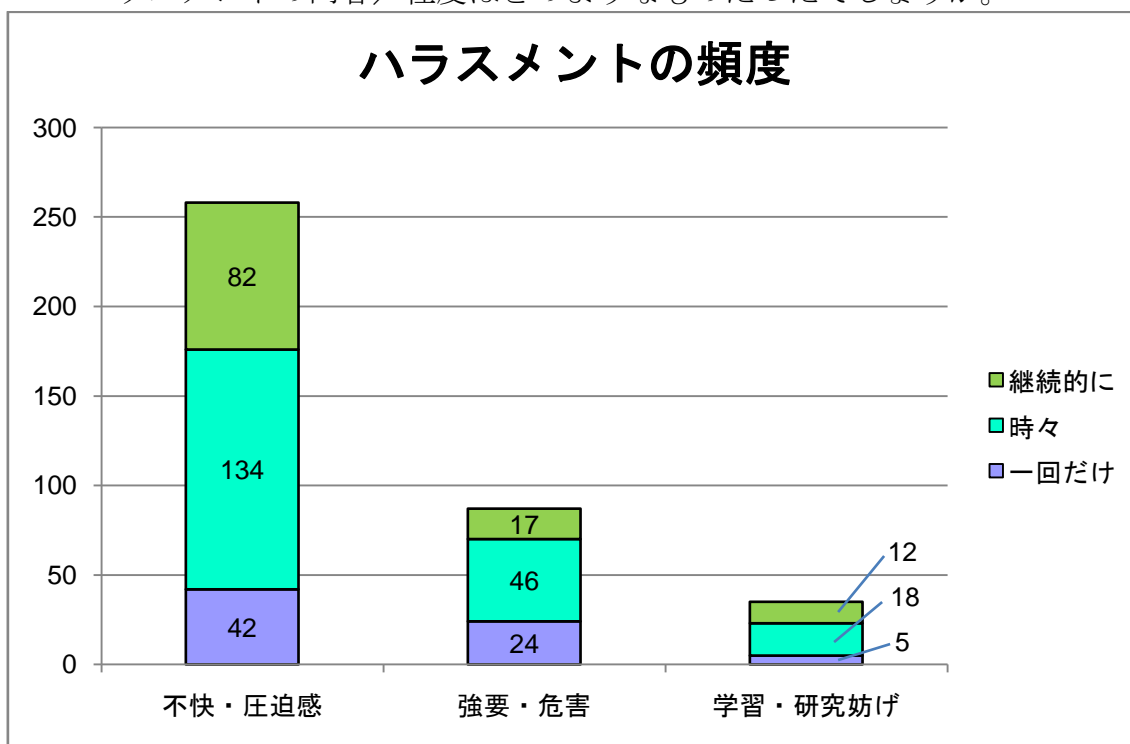
(9) 学生生活に関して、あなたが本学・学生のために出来ること、そのような気持ちを持つものは何ですか。



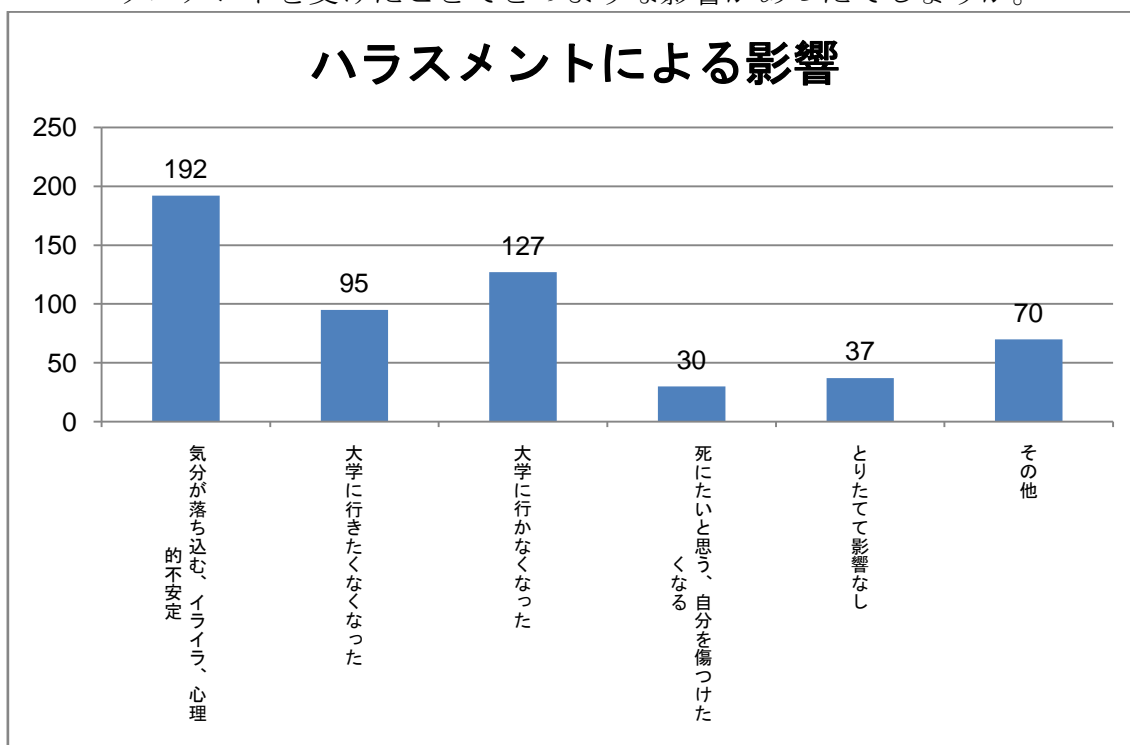
(10) あなたは大学生活においてハラスメント（立場を利用した深刻な嫌がらせ）を受けた（受けたと感じた）ことがありますか。



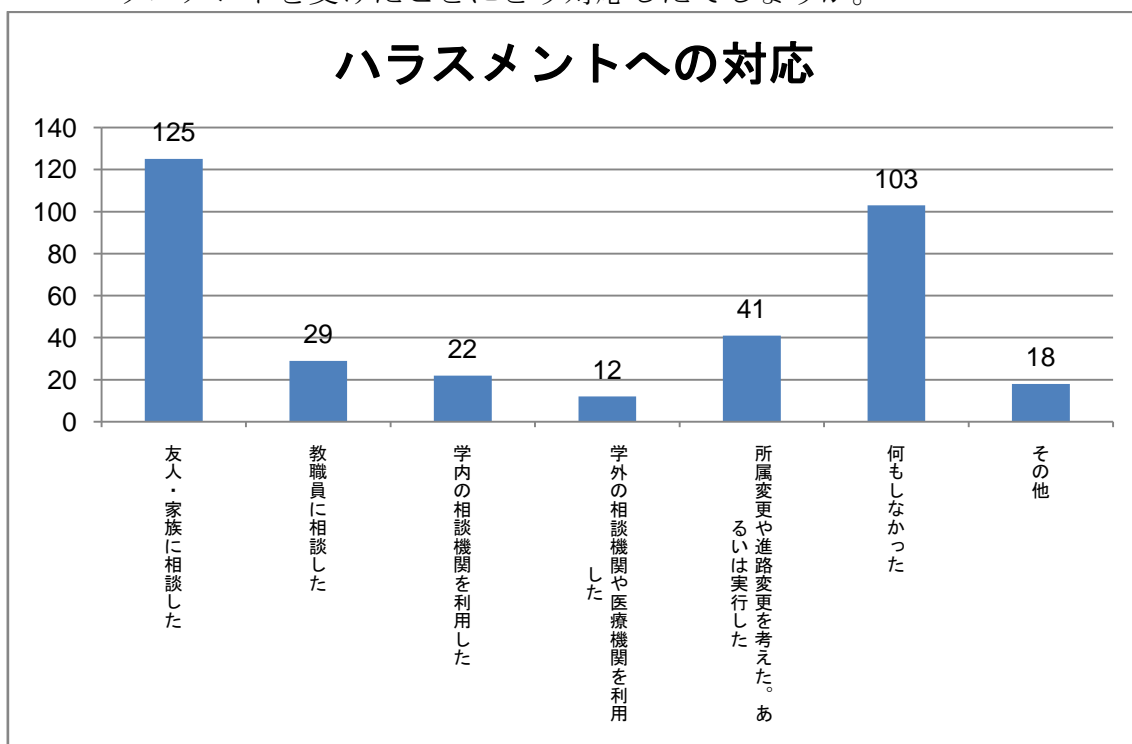
(11) (10)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。
 ハラスメントの内容／程度はどのようなものだったでしょうか。



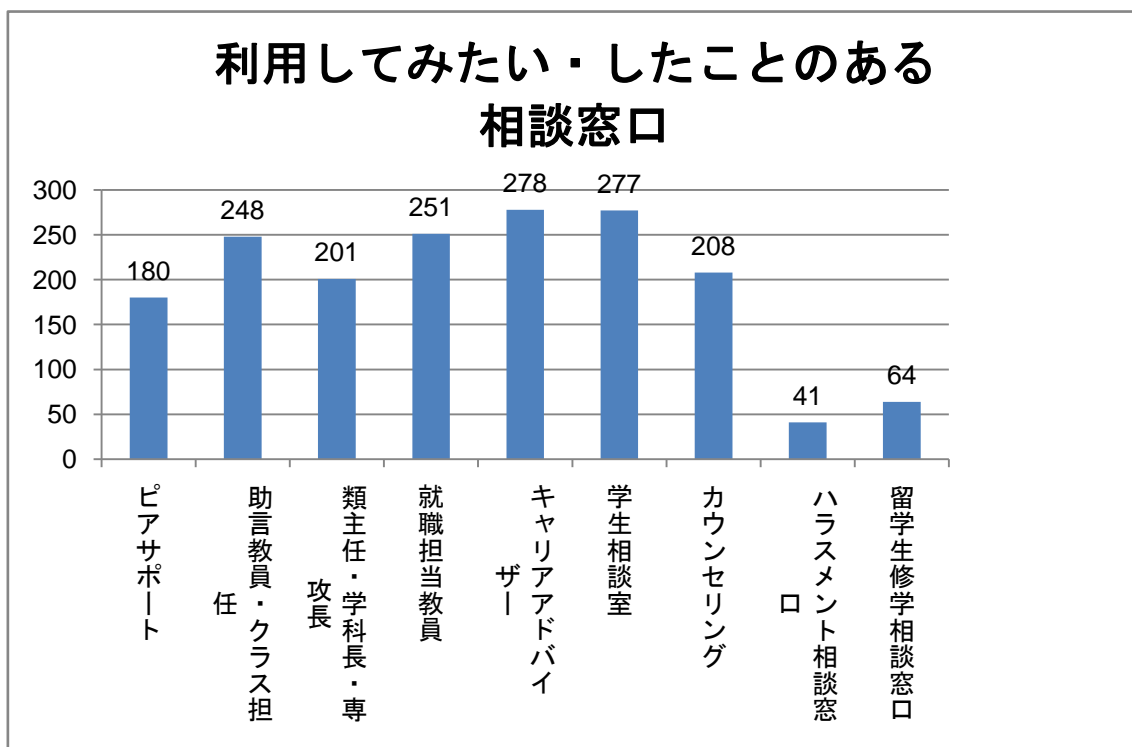
(12) (10)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。
 ハラスメントを受けたことでどのような影響があったでしょうか。



(13) (10)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことにどう対応したでしょうか。



(14) 本学の相談窓口で、利用してみたいものや利用したことがあるものは何ですか。



5.4 2008年度学勢調査設問一覧

〔回答必須項目〕

基本情報

あなたはどこでこのアンケートに回答していますか？

- 学内 学外

学部／大学院：

- 学部 大学院修士課程 大学院博士課程

入学年

- 2008 2007 2006
 2005 2004 2003 以前

性別

- 男 女

出身

- 日本 外国

所属(類、学科名または専攻名)

- 類 学科 専攻

類

- 1類 2類 3類
 4類 5類 6類
 7類

学科

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 数学科 | <input type="checkbox"/> 物理学科 |
| <input type="checkbox"/> 化学科 | <input type="checkbox"/> 情報科学科 |
| <input type="checkbox"/> 地球惑星科学科 | <input type="checkbox"/> 金属工学科 |
| <input type="checkbox"/> 有機材料工学科 | <input type="checkbox"/> 無機材料工学科 |
| <input type="checkbox"/> 化学工学コース | <input type="checkbox"/> 応用化学コース |
| <input type="checkbox"/> 高分子工学科 | <input type="checkbox"/> 機械科学科 |
| <input type="checkbox"/> 機械知能システム学科 | <input type="checkbox"/> 機械宇宙学科 |
| <input type="checkbox"/> 国際開発工学科 | <input type="checkbox"/> 制御システム工学科 |
| <input type="checkbox"/> 経営システム工学科 | <input type="checkbox"/> 電気電子工学科 |
| <input type="checkbox"/> 情報工学科 | <input type="checkbox"/> 土木工学科 |
| <input type="checkbox"/> 土木・環境工学科 | <input type="checkbox"/> 建築学科 |
| <input type="checkbox"/> 社会工学科 | <input type="checkbox"/> 生命科学科 |
| <input type="checkbox"/> 生命工学科 | |

専攻

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 数学専攻 | <input type="checkbox"/> 基礎物理学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 物性物理学専攻 | <input type="checkbox"/> 化学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 地球惑星科学専攻 | <input type="checkbox"/> 物質科学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 材料工学専攻 | <input type="checkbox"/> 有機・高分子物質専攻 |
| <input type="checkbox"/> 応用化学専攻 | <input type="checkbox"/> 化学工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 機械物理工学専攻 | <input type="checkbox"/> 機械制御システム専攻 |
| <input type="checkbox"/> 機械宇宙システム専攻 | <input type="checkbox"/> 電気電子工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 電子物理工学専攻 | <input type="checkbox"/> 集積システム専攻 |
| <input type="checkbox"/> 土木工学専攻 | <input type="checkbox"/> 建築学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 国際開発工学専攻 | <input type="checkbox"/> 原子核工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 分子生命科学専攻 | <input type="checkbox"/> 生体システム専攻 |



- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 生命情報専攻 | <input type="checkbox"/> 生物プロセス専攻 |
| <input type="checkbox"/> 生体分子機能工学専攻 | <input type="checkbox"/> 物質科学創造専攻 |
| <input type="checkbox"/> 物質電子化学専攻 | <input type="checkbox"/> 材料物理科学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 環境理工学創造専攻 | <input type="checkbox"/> 人間環境システム専攻 |
| <input type="checkbox"/> 創造エネルギー専攻 | <input type="checkbox"/> 化学環境学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 物理電子システム創造専攻 | <input type="checkbox"/> メカノマイクロ工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 知能システム科学専攻 | <input type="checkbox"/> 物理情報システム専攻 |
| <input type="checkbox"/> 数理・計算科学専攻 | <input type="checkbox"/> 計算工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 情報環境学専攻 | <input type="checkbox"/> 人間行動システム専攻 |
| <input type="checkbox"/> 価値システム専攻 | <input type="checkbox"/> 経営工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 社会工学専攻 | <input type="checkbox"/> 技術経営専攻 |
| <input type="checkbox"/> イノベーション専攻 | |

キャンパス内の主な活動場所はどこですか。下記から選んで下さい。

学部学生

- | | | |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 大岡山 | <input type="checkbox"/> 石川台 | <input type="checkbox"/> 緑が丘 |
| <input type="checkbox"/> すずかけ台 | | |

大学院学生

- | | | |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 大岡山 | <input type="checkbox"/> 石川台 | <input type="checkbox"/> 緑が丘 |
| <input type="checkbox"/> すずかけ台 | <input type="checkbox"/> 田町 | |

2008年3月に実施した学勢調査に回答しましたか？

- | | | |
|------------------------------|---------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 答えた | <input type="checkbox"/> 答えていない | <input type="checkbox"/> 忘れた |
|------------------------------|---------------------------------|------------------------------|

[以下任意回答]

1. 生活基盤について

(1) 片道の通学時間はどのくらいですか。

- | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 15分未満 | <input type="checkbox"/> 15～30分未満 | <input type="checkbox"/> 30～60分未満 |
| <input type="checkbox"/> 60～90分未満 | <input type="checkbox"/> 90～120分未満 | <input type="checkbox"/> 120分以上 |

(2) 主な通学手段は何ですか。

- | | |
|--------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 徒歩 | <input type="checkbox"/> 自転車 |
| <input type="checkbox"/> バイク | <input type="checkbox"/> 公共交通機関(電車, バスなど) |
| <input type="checkbox"/> その他 具体的に() | |

(3) 現在の住まいは以下のどれにあたりますか。

- | | |
|---|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自宅 | <input type="checkbox"/> 親戚の家 |
| <input type="checkbox"/> 下宿(アパート・マンション) | <input type="checkbox"/> 寮 |

(4) (3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の家賃はどのくらいですか。

- | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 0～2万円未満 | <input type="checkbox"/> 2～4万円未満 | <input type="checkbox"/> 4～6万円未満 |
| <input type="checkbox"/> 6～8万円未満 | <input type="checkbox"/> 8～10万円未満 | <input type="checkbox"/> 10万円以上 |

(5) (3)で自宅以外を回答した方にお尋ねします。一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。

- | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> もらっていない | <input type="checkbox"/> 2万円未満 | <input type="checkbox"/> 2～4万円未満 |
| <input type="checkbox"/> 4～6万円未満 | <input type="checkbox"/> 6～8万円未満 | <input type="checkbox"/> 8～10万円未満 |
| <input type="checkbox"/> 10万円以上 | | |

(6) パソコンが自宅にありますか。

- | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> ある(自分専用) | <input type="checkbox"/> ある(家族と共有) | <input type="checkbox"/> ない |
|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|

(7) 1日平均、どのくらいインターネット(電子メールを含む)を利用していますか

7a [PC]

- | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 0時間 | <input type="checkbox"/> 2時間未満 | <input type="checkbox"/> 2～4時間未満 |
| <input type="checkbox"/> 4～6時間未満 | <input type="checkbox"/> 6～8時間未満 | <input type="checkbox"/> 8時間以上 |



14c アルバイトの時間帯

- 朝 昼間 夕方から夜
 深夜にかけて 一日中 特に決まっていない

14d アルバイトの月収

- 2万円未満 2～4万円未満 4～6万円未満
 6～8万円未満 8～10万円未満 10万円以上

2. 学習状況について

(1) 大学にプライドをもっていますか。

- 4(そう思う) 3 2 1(そう思わない)

(2) 本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。

- 4(そう思う) 3 2 1(そう思わない)

(3) 本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。

- 4(そう思う) 3 2 1(そう思わない)

(4) 現在在籍している類、研究科、専攻等に満足していますか。

- 5(満足している) 4 3 2 1(不満である)

(5) 授業の出席状況はどうですか。

- ほとんど出席する
 一部を除いて大部分の授業に出席する
 どの授業も出たり出なかつたり
 一部を除いて大部分の授業にあまり出席しない
 ほとんど出席しない
 授業をとる必要がない

(6) 授業に出ない主な理由は何ですか。該当するものがあれば幾つでもマークして下さい。

- 講義に魅力がない 講義が理解できない
 勉強に興味がわかない 健康上の理由
 授業が早朝から始まる 出席と成績は関係ない
 研究・実験のため 授業を履修していないため
 その他(具体的に)

(7) 本学の学習カリキュラムについて、ご意見がある場合は記入してください。

(自由記述)

(8) 次の項目の中から学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるものを選択して下さい。該当するものがあれば幾つでもマークして下さい。

- 学部1年次において実社会の問題に対する問題解決手法を学習する授業(problem based learning)を増やす
 学部1年次において専門の科目を増やす
 教養の科目は学部1年次に重きをおかず学部2～4年次においても履修出来るようにする
 学部1年次において研究室体験出来るような授業を増やす
 その他(具体的に)

(9) 学部生で本学の修士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

- 経済的理由
 早く社会に出たいから
 今、学んでいる分野を修士レベルまで極めたいとは思わないから
 専門の異なる他大学の大学院に進学したいから
 専門が同じで、よりレベルの高い他大学の大学院に進学したいから
 その他 自由記述



5. 調査資料集

(10) 学部生・大学院修士課程学生で本学の博士課程への進学を考えていないかたにお尋ねします。本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。(複数選択可)

- 経済的理由
- 早く社会に出たいから
- 今、学んでいる分野を博士レベルまで極めたいとは思わないから
- 専門の異なる他大学の大学院博士課程に進学したいから
- 専門が同じで、よりレベルの高い他大学の大学院博士課程に進学したいから
- 自分の学力が博士で通用するとは思わないから
- 博士修了後の進路に不安があるから
- その他 自由記述

(11) 附属図書館(オンラインサービスを含む)をどの程度利用していますか。

- 週に6~7日
- 週に4~5日
- 週に2~3日
- 週に1日程度
- 月に1~2回
- ほとんどない

(12) 附属図書館の利用の主なものについて選択して下さい。該当するものがあれば幾つでもマークして下さい。

- 図書・雑誌の閲覧
- 新聞の閲覧
- 無線 LAN や WEB ブラウザの利用
- オンラインサービス(文献検索)
- 勉強のため(図書館資料を利用しない)
- 時間つぶし
- 睡眠

(13) 図書館に対する要望を自由に記入してください。(なお大岡山キャンパスの図書館は平成21年に新築工事に着手する予定です。)

(自由記述)

(14) 現在、講義室、図書館、食堂等に無線LANが設置されています。東工大の無線LAN(Titech-Pubnet)をどのくらい利用していますか。

- 4(ほとんど毎日)
- 3(週2~4回)
- 2(週1回)
- 1(利用していない)

(15) 東京工業大学オープンコースウェア(OpenCourseWare (TOKYO TECH OCW))を利用していますか?

- ほとんど毎日
- 週2~4回
- 週1回
- 知っているが利用していない
- OCWを知らない

(16) 講義室の音響・映像設備(マイク、スピーカー、スクリーン、プロジェクター等)の充実度はいかがですか。

- 5(整っている)
- 4
- 3
- 2
- 1(整っていない)

(17) 授業を受けにくい講義室がありますか。

- ある
- ない



(18) 授業を受けにくい講義室がある場合、一番受けにくい講義室を教えてください。

- | 建物名 | 講義室名称 |
|------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 本館 | <input type="checkbox"/> H101 <input type="checkbox"/> H111 <input type="checkbox"/> H112 <input type="checkbox"/> H113 <input type="checkbox"/> H114A
<input type="checkbox"/> H114B <input type="checkbox"/> H115 <input type="checkbox"/> H116 <input type="checkbox"/> H121 <input type="checkbox"/> H135
<input type="checkbox"/> H136 <input type="checkbox"/> H137 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山西 2 号館 | <input type="checkbox"/> W241(遠隔講義室) <input type="checkbox"/> W242(四大学講義室) |
| <input type="checkbox"/> 大岡山西 3 号館 | <input type="checkbox"/> W321 <input type="checkbox"/> W322 <input type="checkbox"/> W323 <input type="checkbox"/> W331 <input type="checkbox"/> W332 <input type="checkbox"/> W351 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山西 5 号館 | <input type="checkbox"/> W521 <input type="checkbox"/> W531 <input type="checkbox"/> W541 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山西 6 号館 | <input type="checkbox"/> W611 <input type="checkbox"/> W621 <input type="checkbox"/> W631 <input type="checkbox"/> W641 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山西 8 号館 | <input type="checkbox"/> W831 <input type="checkbox"/> W832 <input type="checkbox"/> W833 <input type="checkbox"/> W834 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山西 9 号館 | <input type="checkbox"/> W931 <input type="checkbox"/> W932 <input type="checkbox"/> W933 <input type="checkbox"/> W934 <input type="checkbox"/> W935 <input type="checkbox"/> W936 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山南講義等 | <input type="checkbox"/> S011 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山南 1 号館 | <input type="checkbox"/> S125 <input type="checkbox"/> S126 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山南 2 号館 | <input type="checkbox"/> S222 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山南 3 号館 | <input type="checkbox"/> S321 <input type="checkbox"/> S322 <input type="checkbox"/> S323 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山南 5 号館 | <input type="checkbox"/> S511 <input type="checkbox"/> S512 <input type="checkbox"/> S521 |
| <input type="checkbox"/> 大岡山南 6 号館 | <input type="checkbox"/> S611 <input type="checkbox"/> S612 <input type="checkbox"/> S621 <input type="checkbox"/> S622 <input type="checkbox"/> S631 <input type="checkbox"/> S632
<input type="checkbox"/> S633 <input type="checkbox"/> S634 <input type="checkbox"/> S635 <input type="checkbox"/> S636 <input type="checkbox"/> S637 <input type="checkbox"/> S638 |
| <input type="checkbox"/> 石川台 1 号館 | <input type="checkbox"/> I121 <input type="checkbox"/> I122 <input type="checkbox"/> I123 <input type="checkbox"/> I124 |
| <input type="checkbox"/> 緑が丘講義棟 | <input type="checkbox"/> M011 |
| <input type="checkbox"/> 緑が丘 1 号館 | <input type="checkbox"/> M111 <input type="checkbox"/> M112 <input type="checkbox"/> M113 <input type="checkbox"/> M114 |
| <input type="checkbox"/> 緑が丘 3 号館 | <input type="checkbox"/> M321 |
| <input type="checkbox"/> B2 棟 | <input type="checkbox"/> B221 <input type="checkbox"/> B222 <input type="checkbox"/> B223 <input type="checkbox"/> B224 <input type="checkbox"/> B225 <input type="checkbox"/> B226 |
| <input type="checkbox"/> G1 棟 | <input type="checkbox"/> G111 <input type="checkbox"/> G112 <input type="checkbox"/> G113 <input type="checkbox"/> G114 <input type="checkbox"/> G115 |
| <input type="checkbox"/> G2 棟 | <input type="checkbox"/> G221 <input type="checkbox"/> G223 <input type="checkbox"/> G224 |
| <input type="checkbox"/> G3 棟 | <input type="checkbox"/> G311 <input type="checkbox"/> G321 <input type="checkbox"/> G323 <input type="checkbox"/> G324 |
| <input type="checkbox"/> G5 棟 | <input type="checkbox"/> G511 <input type="checkbox"/> G512 |
| <input type="checkbox"/> J2 棟 | <input type="checkbox"/> J221(遠隔講義室) <input type="checkbox"/> J231 <input type="checkbox"/> J232 <input type="checkbox"/> J233
<input type="checkbox"/> J234(遠隔システム) |

講義を受けにくい理由

- | | | |
|--------------------------------|--|----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 教室の形状 | <input type="checkbox"/> 空調 | <input type="checkbox"/> 机 |
| <input type="checkbox"/> 椅子 | <input type="checkbox"/> その他() | |



3. キャンパスライフについて

(1) 授業の合間や終了後等は主にどこで過ごしていますか。該当するものがあればいくつでもマークして下さい。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 講義室、実習室等(授業用の部屋) | <input type="checkbox"/> 研究室等 |
| <input type="checkbox"/> 図書館 | <input type="checkbox"/> サークル室等(課外活動用の部屋) |
| <input type="checkbox"/> ラウンジ、リフレッシュルーム等(建物内の共有スペース) | |
| <input type="checkbox"/> 広場、スロープ、グラウンド等(屋外) | <input type="checkbox"/> 学内の食堂、売店等 |
| <input type="checkbox"/> 大学周辺の食堂、売店等 | <input type="checkbox"/> 下宿等 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に) | |

(2) 授業や学内行事などの情報について、主な情報源は何ですか。該当するものがあれば3つまでマークして下さい。

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 学生用掲示板・電子掲示板 | <input type="checkbox"/> 学科・専攻等の掲示板 |
| <input type="checkbox"/> 学務部(教務課、学生支援課)の窓口 | <input type="checkbox"/> 大学の関連ホームページ |
| <input type="checkbox"/> 教員等からのメール | <input type="checkbox"/> 友人 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に) | |

(3) (2)で該当した情報源についての充実度はいかがですか？

- 5(充実している) 4 3 2 1(不足している)

(4) サークル・同好会・ボランティア等の活動経験についてお聞きます。「現在」及び「過去」の活動経験について、右記の表から該当するところがあればいくつでもマークして下さい。

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 文科系サークル (活動回数(現在): 日/週) (加入期間(過去): 年) |
| <input type="checkbox"/> 体育系サークル (活動回数(現在): 日/週) (加入期間(過去): 年) |
| <input type="checkbox"/> 技術系サークル (活動回数(現在): 日/週) (加入期間(過去): 年) |
| <input type="checkbox"/> 同好会 (活動回数(現在): 日/週) (加入期間(過去): 年) |
| <input type="checkbox"/> 学外のサークル (活動回数(現在): 日/週) (加入期間(過去): 年) |
| <input type="checkbox"/> ボランティア活動 (活動回数(現在): 日/週) (加入期間(過去): 年) |

(5) 大学の施設についてお聞きます。

5a 学生食堂などの飲食施設について。

設備面(建物・備品等)はいかがですか。

- 5(快適である) 4 3 2 1(快適ではない)

値段はいかがですか。

- 5(適切である) 4 3 2 1(適切ではない)

味についてはいかがですか。

- 5(美味しい) 4 3 2 1(美味しくない)

5b サークル棟、学生会館(すずかけホール)等、課外活動施設についての充実度はいかがですか。

- 5(整っている) 4 3 2 1(整っていない)

5c スポーツ施設について充実度はいかがですか。

- 5(整っている) 4 3 2 1(整っていない)

5d. 学内移動に自転車を利用していますか。

- | | |
|-------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 登録して利用している | <input type="checkbox"/> 利用しているがまだ登録していない |
| <input type="checkbox"/> 利用していない | |

5e 駐輪場施設の充実度はいかがですか。

- 5(整っている) 4 3 2 1(整っていない)

5f-1 本学のキャンパス内の禁煙対策について

- 5(整っている) 4 3 2 1(整っていない)

5f-2 キャンパス内の喫煙所の配置や喫煙マナーなどについてどう思われますか？

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 喫煙所の場所が悪い、場所を変えて欲しい | <input type="checkbox"/> 喫煙所を増やして欲しい |
| <input type="checkbox"/> 喫煙所を減らして欲しい | <input type="checkbox"/> その他() |



(6) 施設・設備について、下記のうち、キャンパス内に欲しいものは何ですか。該当するものがあれば幾つでもチェックして下さい。

6a <個別利用スペース／備品>

- 個人用ロッカー
- シャワールーム
- トイレの増設、美化
- レンタサイクル(学内の移動を便利にするフリーサイクル)

6b <共同利用スペース>

- コミュニティ・スペース(友人と談笑出来る空間)
- スタディ・ルーム(静かに勉強出来る自習室)
- トレーニング・スペース(トレーニング・ルーム、プール、体育館、フットサル場)
- IT スペース(インターネットが自由に接続可能な場)
- AV スペース(音楽や映画が鑑賞出来る空間)
- レスト・スペース(安心して仮眠が取れる場)
- 事務窓口を1ヶ所にまとめたセンター(学務部／教務課、学生支援課、入試課)

6c <店舗関係>

- コンビニエンス・ストア
- 喫茶店
- 軽食のとれるレストラン／カフェテリア
- 自販機
- 弁当販売

6d <学外施設>

- 学生寮
- 合宿研修施設

6e <その他>

- 具体的に()

(7) 大学の学生への対応・サービスについてお聞きします。

7a 教員の学生への対応は適切ですか。

- 5(そう思う) 4 3 2 1(そう思わない)

7b 事務職員の学生への対応は適切ですか。

- 5(そう思う) 4 3 2 1(そう思わない)

7c 事務の窓口サービスの内容は適切ですか。

- 5(そう思う) 4 3 2 1(そう思わない)

7d 学生への対応・サービスについて思うところがあれば自由にご記入下さい。

(自由記述)

(8) 学生生活サービスについて、下記のうち、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものは何ですか。いくつでもマークして下さい。

8a <経済的サポート>

- 多様な奨学金制度
- 緊急時の一時貸付金制度
- アルバイト紹介
- 保険制度の充実(学内外を問わず 24 時間をカバー)



5. 調査資料集

8b <交流サポート>

- ピアサポート体制(先輩等に身近な問題を気軽に相談出来る)
- クラス(類・学科・専攻等)の活動・懇親へのサポート
- 新たに友だちづくりが出来る企画・活動
- 先輩や卒業生との交流する企画・活動

8c <キャリアサポート>

- 進路・就職に関する情報が得られる企画・活動
- 実習・インターンシップに関する情報が得られる企画・活動
- 留学・海外生活に関する情報が得られる企画・活動

8d <その他>

- サークル・クラブ紹介
- 学生生活のマニュアル(冊子・レクチャー等)
- ボランティア紹介
- セキュリティ体制の強化(防犯上の心配を除去するために)
- その他(具体的に)

(9) 学生生活に関して、下記のうち、あなたが本学・学生のために出来ること、そのような気持ちを持つものがあれば、いくつでもマークして下さい。

- TA(ティーチングアシスタント/後輩への学習上の相談・指導)
- ピアサポート(後輩への学生生活上の相談)
- キャンパスガイド(見学希望の高校生、保護者等に)
- 広報サポーター(広報誌『てくてく』や Web などを通じて本学の特徴を学外へ発信)
- 理科支援員(近隣小学校への実験等のサポート)
- 大学事業(オリエンテーション、入学式、卒業式等)のサポート
- ものづくりサポート(ものづくり教育研究支援センター等での製作・技術指導)
- 通訳(イベント開催時、海外からの来客)
- IT 支援(ネットワーク管理、ホームページ作成等)
- その他(具体的に)

(10) あなたは大学生生活においてハラスメント(立場を利用した深刻な嫌がらせ)を受けた(受けたと感じた)ことがありますか。

10a アカデミックハラスメント(権力関係にもとづく教職員等の不適切な言動により圧迫を受け、不利益を被ること)

- かつてあった
- 現在受けている
- ない

10b セクシュアルハラスメント(望まない性的な言動により不快感を抱いたり、不利益を被ること)

- かつてあった
- 現在受けている
- ない

10c アルコールハラスメント(飲酒の強要)

- かつてあった
- 現在受けている
- ない

(11) (10)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントの内容/程度はどのようなものだったでしょうか。該当するものがあればいくつでもマークして下さい。

内容

- 言葉、態度や雰囲気によって不快・圧迫を感じた。
- 望まないことを強要されたり、身体に危害を加えられたり、加えられそうになった。
- 装置使用や研究室入室の制限、あるいは捺印の拒否など、学習/研究を続けることを妨げられた。

頻度

- 一回だけ
- 時々
- 継続的に



(12) (10)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことでのどのような影響があったでしょうか。該当するものがあればいくつでもマークして下さい。

- 気分が落ち込んだり、イライラしたり、心理的に不安定になった。
- 体調不良となったり、睡眠や食行動に乱れが生じたりした。
- 大学に行きたくなくなった。
- 大学に行かなくなった。
- 死にたいと思ったり、自分を傷つけたくなくなったりした。
- とりたてて影響はなかった。
- その他(具体的に)

(13) (10)の(a)(b)で「かつてあった」「現在受けている」と回答した方にお尋ねします。ハラスメントを受けたことにどう対応したでしょうか。該当するものがあればいくつでもマークしてください。

- 友人・家族に相談した
- 教職員に相談した。
- 学内の相談機関を利用した。
- 学外の相談機関や医療機関を利用した。
- 所属変更(研究室等)や進路変更(就職、休退学等)を考えた。あるいは実行した。
- 何もしなかった。
- その他(具体的に)

(14)本学には下記のような相談窓口があります。利用してみたいものや利用したことがあるものを選んで下さい。

- ピアサポート(学生支援課)
- 助言教員・クラス担任
- 類主任・学科長・専攻長
- 就職担当教員(各学科・専攻)
- キャリアアドバイザー(学生支援センター)
- 学生相談室
- カウンセリング(保健管理センター)
- ハラスメント相談窓口(学生相談室, 保健管理センター, 留学生センター)
- 留学生修学相談窓口(留学生センター)

4. その他

(4-1) あなたが本学に特に要望する事項があれば、どんなことでもご自由にご記入ください。

(自由記述)

(4-2) 今回の学勢調査についての意見があれば、ご自由にご記入下さい。

(自由記述)



6. 次回調査に向けて

本章では、今回の学勢調査に対して寄せられた意見を元に、今後の調査に対する改善の方針を述べていきます。

○外部からのアクセス時の認証について

今回の調査では学外から調査フォーム・ページへのアクセスに対して、現在提供されているポータルサイトと異なる認証方式を用いました。これに対し、無駄なことをしているという指摘がありましたが、これは調査に協力して頂いた学生の方を学籍番号などにより特定できないようにするための配慮であり、従来の認証は利用出来ないための処置でありました。ただ、そのような配慮をして異なる方式を採用したことに関しては説明責任があると言えます。次回も同様に既存の認証方式と異なる手段を利用する際は、その意図を説明する必要があると考えられます。

○調査内容、設問による回答の誘導

各調査項目に対し、何故あるのか分からない設問や、選択肢によって回答を誘導しているのではないかと指摘がありました。これらの意見を真摯に受け止め、各設問の趣旨を紹介出来る範囲で伝える必要があると感じております。また、回答についても自由記述による回答欄を十分に設けるなど回答の多様性を担保する必要があると考えられます。

○学勢調査実施に関する情報の周知

今回は垂れ幕やポスター、告知電子メールの送付により調査の認知上昇につながりました。しかし、学生の全体数を考慮すると十分ではないと言えます。垂れ幕やポスターの効果は、自由記述欄でそれらに言及している学生がいることから、一定の効果があったと考えられます。ただし、提言書の中でも取り上げていますが、大学側から学生へ向けた情報伝達がうまく機能していない現状があり、この調査もその例にもれないと考えられます。そこで、全学生に割り振られている電子メールアドレスを活用するなど、各学生が必要とする、或いは知ってもらいたい情報を包括的に提供する手段を用意する必要があると感じております。

○学勢調査の結果、成果の周知

上記の学勢調査実施の周知とほぼ同様のことが言えます。調査の結果、学勢調査の意見がくみ取られ実現した成果に関しては、前回実施分についてどうだったか分からなかった、調査が大学運営に反映しているのか等の意見が目立ちました。これらの情報を周知徹底することは、調査へ参加する学生の意欲を高めることにつながり、今後の調査への学生の協力を得る上で重要な役目を果たすと考えられるため、特に徹底する必要があると考えております。

○学勢調査の周期

隔年ではなく、毎年実施してもらいたいとの意見が散見されました。中には修士課程のみ東工大に在学する学生にとって、隔年は意見を言うチャンスとして不十分だと感じているといった意見もありました。隔年であることが認知度の低さの一因であることも考えると、予算が確保出来るのであれば、毎年実施することは検討に値します。また、各年、隔年どちらの頻度であっても、例えば後期授業の履修申告時期（1年生が大学生活にある程度なれて調査に協力出来る、また、学業の観点からどの学年にも負担がかかりにくい）など定期的に行うことにより、認知の向上、参加者の増加を目指す必要があると考えられます。



○学勢調査に対する学生の前向きな評価

まだまだ課題のある学勢調査ではありますが、自由記述において、この取り組みに対して肯定的な意見が数多く寄せられました。大きな期待を寄せている学生も多いと考えられますので、期待に添えるよう調査結果の反映、調査内容の充実が今後も大切であると深く感じております。



謝辞

今回の提言書作成にあたり、ご協力頂いた以下の方々に、感謝の言葉を申し上げます。

学勢調査 2008 に回答して頂いた、1947 名の東工大生の皆様

総務部 評価・広報課 御中

学務部 教務課 御中

学生支援課 御中

外国語研究教育センター 御中

東京工業大学附属図書館 御中

東京工業大学生生活協同組合 御中

学勢調査 2008 学生スタッフ

代表	工学部	制御システム工学科	学部3年	五十嵐 暁仁
副代表	理工学研究科	機械制御システム専攻	修士1年	浅野 雅夫

データ班

班長	情報理工学研究科	計算工学専攻	修士1年	原 聡
	工学部	情報工学科	学部3年	入谷 優
	生命理工学部	生命科学科	学部4年	中山 隆人
	工学部	情報工学科	学部4年	濱中 智仁

生活班

班長	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	修士2年	竹内 彩乃
	工学部	情報工学科	学部4年	吉川 正祥
	情報理工学研究科	情報環境学専攻	修士1年	田原 荘平

学習班

班長	工学部	化学工学科	学部4年	設楽 昌史
	工学部	開発システム工学科	学部3年	何 平
	生命理工学部	生命工学科	学部4年	李 徳安
	生命理工学研究科	生物プロセス専攻	修士1年	篠田 薫

図書館班

班長	工学部	制御システム工学科	学部3年	五十嵐 暁仁
	生命理工学部	7類	学部1年	箕輪 愛子
	工学部	機械宇宙学科	学部3年	神宮 健
	工学部	機械知能システム学科	学部4年	塚本 隆史
	理工学研究科	電子物理工学専攻	修士1年	長浜 陽平
	情報理工学研究科	情報環境学専攻	修士1年	田原 荘平

施設班

工学部	2類	学部1年	杉浦 聡
工学部	3類	学部1年	稲垣 雄亮
工学部	7類	学部1年	松本 翔平
工学部	有機材料工学科	学部3年	高橋 沢斗
工学部	機械科学科	学部3年	中村 翔太
理学部	地球惑星科学科	学部4年	小野寺 祐貴

サービス班

班長	理工学研究科	材料工学専攻	修士1年	伊藤 隆文
	工学部	5類	学部1年	石黒 けい
	工学部	5類	学部1年	竹内 広一

生協班

班長	理工学研究科	電気電子工学専攻	修士1年	小沢 浩二
	理学部	1類	学部1年	中室 誠亮
	工学部	5類	学部1年	松谷 有里子
	理学部	1類	学部2年	桂 悠哉

その他班

班長	理工学研究科	機械制御システム専攻	修士1年	浅野 雅夫
	工学部	4類	学部1年	武田 真理
	理学部	1類	学部2年	桂 悠哉

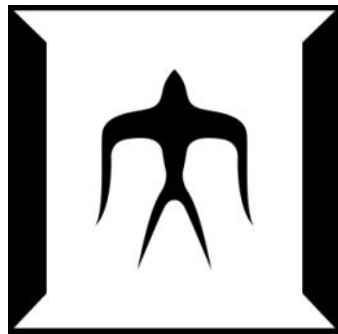
表紙デザイン

	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	修士2年	竹内 彩乃
--	----------	-----------	------	-------

(公開を希望しないスタッフの所属・氏名に関しましては、公開を控えさせて頂きました。)

学勢調査WG 教員メンバー

齋藤 憲司	(保健管理センター)
篠崎 和夫	(材料工学専攻)
山田 恵美子	(学生支援 GP)
山室 恭子	(社会工学専攻・主査)



学勢調査 2008 提言書

2009 年 3 月
学勢調査スタッフ一同